

宮久保遺跡・中遺跡

宮久保遺跡
中遺跡

(一) 安中富岡線(西毛広域幹線道路安中富岡工区)
社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

(一) 安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)社会資本
総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二四

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



2024

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

宮久保遺跡 中遺跡

(一) 安中富岡線(西毛広域幹線道路安中富岡工区)
社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群馬県安中土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



宮久保遺跡出土の黒曜石製石器



中遺跡出土の黒曜石製石器

口絵 2



宮久保遺跡 F 区の地すべりローム下から出土した土師器



中遺跡 1 区 3 号竪穴建物出土土器

序

西毛広域幹線道路整備事業は、群馬県前橋市千代田町と富岡市富岡を結び、災害時にも機能する強靱な道路ネットワーク構築を目的としています。

発掘調査を実施しました安中市上間仁田地区は、碓氷川によって形成された台地上に位置しています。この地域には、豊富な石製模造品が出土した経塚古墳があり、市内で最も古い5世紀前半に築造された古墳であることが知られています。

本書で報告します宮久保遺跡・中遺跡は令和2年度と令和4年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した遺跡です。発掘調査では縄文時代の遺物、弥生時代後期の竪穴建物や古墳時代前期の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴建物などが確認され、弥生時代から古墳時代にかけての集落の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまでには、群馬県県土整備部、群馬県富岡土木事務所、群馬県安中土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、安中市教育委員会、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が安中市上間仁田地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和6年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例 言

- 1 本書は、(一)安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う宮久保遺跡および中遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 所在地 宮久保遺跡：群馬県安中市上間仁田 276-3、276-4、280-2、288-3、288-4、289-3、289-4、290-2、290-3、290-4、291-2、291-3、292-2、320-3、320-4(令和2年度)
299-2、301、300-1、300-2、305、306-1、307-1(B)、307-1(C)、
355-1、356-1(B)、356-1(C)、357、362-2(令和4年度)
中遺跡：群馬県安中市上間仁田 760-1、760-3、762-1(B)、762-1(C)、762-(D)、763-1、764-1、
774-1、776-1(B)、776-1(C)、778-1(B)、778-1(C)(令和4年度)
- 3 事業主体 群馬県安中土木事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査期間および体制は以下のとおりである。

令和2年度

事業名 令和元年度社会資本総合整備(活力・重点)(一)安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)

履行期間 令和2年3月31日～令和2年8月31日

調査期間 令和2年4月1日～令和2年6月30日

調査担当 川口 亮(専門員(主任)) 太田 心(調査研究員) 間庭 稔(専門調査役)

調査面積 4,353.29㎡(宮久保遺跡)

遺跡掘削請負工事 株式会社測研

遺構地上測量 アコン測量株式会社

空中写真撮影 技研コンサル株式会社

令和4年度

事業名 令和3年度(一)安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業

履行期間 令和4年5月1日～令和5年3月31日

調査期間 令和4年6月1日～令和5年1月31日

調査担当 唐沢友之(主任調査研究員) 麻生敏隆(専門調査役)

調査面積 8,738.13㎡(宮久保遺跡 3,846.05㎡、中遺跡 4,892.08㎡)

遺跡掘削請負工事 有限会社毛野考古学研究所

遺構地上測量 アコン測量株式会社

空中写真撮影 技研コンサル株式会社

テフラ分析 古環境研究所

- 6 整理事業期間および体制は以下のとおりである。

事業名 令和4年度(一)安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業

履行期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

整理期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

デジタル編集・本文執筆 齊田智彦(主任調査研究員) 第6章第1節 多田宏太(専門員)

遺物実測・観察表 石器 関口博幸(上席調査研究員・資料統括)

縄文・弥生土器 橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)

土師器・須恵器 多田宏太 神谷佳明(専門調査役) 陶磁器 大西雅広(専門調査役)

金属・木製品 板垣泰之(専門員(主任))










遺物写真撮影 石器 関口博幸 陶磁器 大西雅広 金属・木製品 板垣泰之

その他 齊田智彦

黒曜石産地同定 株式会社パレオ・ラボ

- 7 発掘調査諸資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 8 発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関よりご指導・ご教示を頂いた。
群馬県地域創生部文化財保護課、安中市教育委員会

凡 例

- 1 報告書に用いた座標・方位は、すべて平面直角座標IX系(測地成果2011)を使用した。北方位はすべて座標北で、真北方向角は西偏7.5°である。
- 2 遺構・遺物の縮尺は、原則として以下の通りとし、それぞれスケールを明示した。
遺構 竪穴建物 1:60、1:30 土坑・ピット 1:40 溝 1:80、1:40 水田 1:100、1:50
遺物 土器・陶磁器 1:3 石器・石製品 1:1、1:2、1:3、1:4 金属製品 1:1 1:2
木材 1:2
- 3 遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合はN-○°-E、西に傾いた場合はN-○°-Wというように表記した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し()で表した。
- 4 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
- 5 本書で使用したテフラの呼称は以下の通りである。
浅間A軽石 As-A(天明3(1783)年) 浅間B軽石 As-B(天仁元(1108)年)
浅間C軽石 As-C(3世紀後半) 浅間板鼻黄色軽石 As-YP(約1.5~1.65万年前)
浅間大窪沢2 As-OK2(約1.9~2.0万年前) 浅間大窪沢1 As-OK1(約2.0~2.1万年前)
浅間板鼻褐色(群) As-BP Group(約2.4~2.9万年前) 始良Tn AT(約2.8~3.0万年前)
- 6 土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 7 本書で使用した地図は以下の通りである。
国土地理院発行 20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」平成10年 2万5千分の1電子地形図「松井田」「富岡」平成30年
安中市都市計画図 2千5百分の1昭和60年
- 8 本書で使用したトーン等は以下のとおりである。
遺物図 燻  赤色塗彩  黒色  磨耗痕  敲打痕 
遺構図 縄文土器断面図中の・は胎土に繊維を含んでいることを示す。
また弥生土器実測図中の矢印はミガキの方向を示す。
焼土  炭  粘土  攪乱 

目次

口絵

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

文中写真

写真目次

第1章 調査の経過	1	第4章 中遺跡の遺構と遺物	79
第1節 発掘調査に至る経緯	1	第1節 調査の概要	79
第2節 発掘調査の方法	2	第2節 検出された遺構と遺物	85
第3節 発掘調査の経過	6	(1) 竪穴建物	85
第4節 整理作業の経過	6	(2) 竪穴状遺構	99
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	7	(3) 方形周溝墓	100
第1節 遺跡の地形と立地	7	(4) 水田	102
第2節 周辺遺跡の分布	8	(5) 溝	107
第3節 基本土層	11	(6) 石列・焼土	113
第3章 宮久保遺跡の遺構と遺物	14	(7) 土坑	118
第1節 調査の概要	14	(8) ピット	145
第2節 検出された遺構と遺物	25	(9) 遺構外出土遺物	153
(1) 竪穴建物	25	(10) 旧石器確認調査	158
(2) 井戸	26	第5章 自然科学分析	166
(3) 土坑群・復旧坑	27	第1節 分析の目的	166
(4) ピット	39	第2節 自然科学分析	166
(5) 溝	42	第3節 宮久保遺跡・中遺跡出土黒曜石製石器の 原産地推定	173
(6) 埋甕・焼土	48	第6章 調査のまとめ	176
(7) 遺物集中	49	第1節 古墳時代の遺構の時期	176
(8) 遺構外出土遺物	62	第2節 総括	179
(9) 旧石器確認調査	64	写真図版	
		抄録	

挿図目次

第1図	宮久保遺跡・中遺跡と群馬県の地勢	1
第2図	宮久保遺跡と中遺跡の位置	2
第3図	路線図と各遺跡の位置	3
第4図	宮久保遺跡調査区と国家座標	4
第5図	調査区と国家座標(宮久保遺跡G区と中遺跡)	5
第6図	遺跡周辺の陰影図	7
第7図	周辺の遺跡	9
第8図	宮久保遺跡 基本土層図	12
第9図	中遺跡 基本土層図	13

〈宮久保遺跡〉

第10図	宮久保遺跡 A区～D区遺構全体図とポイント位置図	15
第11図	宮久保遺跡 A区、B区、D区深堀トレンチ土層断面図	16
第12図	宮久保遺跡 E区遺構全体図とポイント位置図	17
第13図	宮久保遺跡 E区トレンチ土層断面図(1)	18
第14図	宮久保遺跡 E区トレンチ土層断面図(2)	19
第15図	宮久保遺跡 F-1区1面～3面遺構全体図とポイント位置図	20
第16図	宮久保遺跡 F-1区トレンチ土層断面図	21
第17図	宮久保遺跡 F-1区 4面遺構全体図	22
第18図	宮久保遺跡 F-1区 5面遺構全体図	22
第19図	宮久保遺跡 F-2区2面・G区遺構全体図	23
第20図	宮久保遺跡 F-2区・G区土層断面図	24
第21図	宮久保遺跡 F-2区3面全体図	24
第22図	F区1号竪穴建物と出土遺物(1)	25
第23図	F区1号竪穴建物出土遺物(2)	26
第24図	G区1号井戸	26
第25図	A区土坑群1全体図とA区3号土坑出土遺物	27
第26図	A区土坑群1(1)	28
第27図	A区土坑群1(2)	29
第28図	A区土坑群2全体図	30
第29図	A区土坑群2	31
第30図	A区土坑群3	32
第31図	A区8号復旧坑、A区12号復旧坑～14号復旧坑	33
第32図	D区1号土坑～3号土坑	34
第33図	D区4号土坑、5号土坑、7号土坑	35
第34図	D区6号土坑、8号土坑～10号土坑	36
第35図	D区11号土坑～14号土坑	37
第36図	D区15号土坑、16号土坑	38
第37図	F区1号土坑、2号土坑	39
第38図	E区1号ピット～3号ピット	39
第39図	F区1号ピット～16号ピット	40
第40図	F区17号ピット～24号ピット	41
第41図	A区1号溝	42
第42図	D区1号溝、2号溝	43
第43図	D区3号溝	44
第44図	D区4号溝、5号溝	45
第45図	F区1号溝、2号溝、4号溝	46
第46図	F区3号溝、G区1号溝	47
第47図	F区1号埋甕	48
第48図	F区1号埋甕、F区1号焼土出土遺物	48
第49図	F区1号焼土、2号焼土	49
第50図	F区1号遺物集中出土遺物	49
第51図	F区2号遺物集中	50
第52図	F区2号遺物集中出土遺物(1)	51
第53図	F区2号遺物集中出土遺物(2)	52
第54図	F区2号遺物集中出土遺物(3)	53
第55図	F区2号遺物集中出土遺物(4)	54
第56図	F区2号遺物集中出土遺物(5)	55
第57図	F区2号遺物集中出土遺物(6)	56
第58図	F区2号遺物集中出土遺物(7)	57
第59図	F区2号遺物集中出土遺物(8)	58
第60図	F区2号遺物集中出土遺物(9)	59

第61図	F区2号遺物集中出土遺物(10)	60
第62図	F区2号遺物集中出土遺物(11)	61
第63図	遺構外出土遺物(1)	62
第64図	遺構外出土遺物(2)	63
第65図	A区～C区旧石器調査坑位置図とA区土層断面図	64
第66図	B区・C区旧石器調査坑土層断面図	65
第67図	E区旧石器調査坑位置図と土層断面図	66
第68図	F区旧石器調査坑位置図	67

〈中遺跡〉

第69図	中遺跡 遺構全体図	79
第70図	中遺跡 1区遺構全体図	80
第71図	中遺跡 1区1号トレンチ土層断面図	81
第72図	中遺跡 2区遺構全体図・土層断面図	81
第73図	中遺跡 3区遺構全体図	82
第74図	中遺跡 3区、4区土層断面図	83
第75図	中遺跡 4区遺構全体図	84
第76図	1区1号竪穴建物	85
第77図	1区1号竪穴建物 掘方・カマド	86
第78図	1区1号竪穴建物出土遺物	87
第79図	1区2号竪穴建物	88
第80図	1区2号竪穴建物 掘方と出土遺物(1)	89
第81図	1区2号竪穴建物 カマドと出土遺物(2)	90
第82図	1区3号竪穴建物	91
第83図	1区3号竪穴建物 掘方・カマド	92
第84図	1区3号竪穴建物 カマド掘方と出土遺物(1)	93
第85図	1区3号竪穴建物出土遺物(2)	94
第86図	1区4号竪穴建物	95
第87図	1区5号竪穴建物	96
第88図	1区5号竪穴建物出土遺物	97
第89図	2区1号竪穴建物	98
第90図	1区1号竪穴状遺構、2号竪穴状遺構	99
第91図	1区1号方形周溝墓(1)と出土遺物	100
第92図	1区1号方形周溝墓(2)	101
第93図	3区水田(1)	102
第94図	3区水田(2)	103
第95図	3区水田(3)	104
第96図	3区水田(4)	105
第97図	3区 杭	106
第98図	1区1号溝	107
第99図	1区2号溝、1区3号溝	108
第100図	2区1号溝	109
第101図	3区1号溝(1)～3区5号溝	110
第102図	3区1号溝(2)	111
第103図	3区1号溝出土遺物、3区3号溝～5号溝と出土遺物	112
第104図	1区1号石列(1)	113
第105図	1区1号石列(2)	114
第106図	1区1号石列(3)と出土遺物	115
第107図	3区1号石列(1)	116
第108図	3区1号石列(2)と出土遺物	117
第109図	1区1号焼土	117
第110図	1区1号土坑～4号土坑	118
第111図	1区5号土坑～7号土坑	119
第112図	1区8号土坑～11号土坑	120
第113図	1区13号土坑、14号土坑	121
第114図	1区15号土坑～17号土坑と出土遺物、19号土坑、20号土坑	122
第115図	1区21・25号土坑と出土遺物、22号土坑、23号土坑	123
第116図	1区24号土坑、26号土坑、27号土坑、29号土坑	124
第117図	1区28号土坑、30号土坑	125
第118図	1区31号土坑～33号土坑	126
第119図	1区34号土坑、35号土坑	127

第120図	1区36号土坑と出土遺物、 37号土坑、39号土坑～41号土坑	128
第121図	1区42号土坑～44号土坑	129
第122図	1区45号土坑～48号土坑	130
第123図	1区49号土坑～51号土坑	131
第124図	1区52号土坑と出土遺物及び53号土坑	132
第125図	1区54号土坑～57号土坑	133
第126図	1区58号土坑～62号土坑	134
第127図	1区63号土坑、65号土坑、66号土坑	135
第128図	2区1号土坑～4号土坑	136
第129図	2区5号土坑～8号土坑	137
第130図	2区9号土坑～11号土坑、13号土坑	138
第131図	2区12号土坑、14号土坑	139
第132図	2区15号土坑、17号土坑	140
第133図	2区16号土坑と出土遺物	141
第134図	2区18号土坑～20号土坑	142
第135図	2区21号土坑～24号土坑	143
第136図	4区1号土坑～4号土坑	144
第137図	1区46・66・63・57号ピット(1)	145
第138図	1区46・66・63・57号ピット(2)、 1区1～8号ピット	146

第139図	1区9号ピット～21号ピット	147
第140図	1区22号ピット～33号ピット	148
第141図	1区34号ピット～44号ピット、45・48・49号ピット	149
第142図	1区47、50～56、58～62・64・65号ピット	150
第143図	1区67号ピット～74号ピット、 2区1号ピット～4号ピット	151
第144図	遺構外出土遺物(1)	153
第145図	遺構外出土遺物(2)	154
第146図	遺構外出土遺物(3)	155
第147図	遺構外出土遺物(4)	156
第148図	遺構外出土遺物(5)	157
第149図	旧石器調査坑位置図と2号旧石器調査坑土層断面図	158
第150図	宮久保遺跡 G区1号トレンチ土層柱状図	170
第151図	中遺跡 ローム層深掘2号トレンチ土層柱状図	171
第152図	黒曜石産地分布図(東日本)	174
第153図	黒曜石製石器の産地推定判別図(1)	175
第154図	黒曜石製石器の産地推定判別図(2)	175
第155図	杯・高杯の分類	177
第156図	周辺遺跡の地すべり・地割れ・断層	179
第157図	縄文土器の時期別出土状況	180
第158図	古墳時代土師器の時期別出土状況	180

表 目 次

第1表	宮久保遺跡・中遺跡の周辺遺跡	10
第2表	宮久保遺跡 ピット一覧表	41
第3表	宮久保遺跡 出土遺物観察表	68
第4表	石器集計表(掲載点数、写真のみ掲載を含む)	75
第5表	石器集計表(遺構別)	76
第6表	器種別・石材別点数(剥片石器・玉類)	76
第7表	器種別・石材別点数(礫石器・礫類)	77
第8表	器種別・石材別重量(剥片石器・玉類)	77
第9表	器種別・石材別重量(礫石器・礫類)	78
第10表	黒曜石産地分析集計表	78
第11表	黒曜石産地分析一覧	78
第12表	中遺跡 ピット一覧表	151

第13表	中遺跡 出土遺物観察表	159
第14表	石器集計表(掲載点数)	163
第15表	石器集計表(遺構別点数)	164
第16表	器種別・石材別集計表(点数)	164
第17表	器種別・石材別集計表(重量)	165
第18表	黒曜石産地分析結果(1)	165
第19表	黒曜石産地分析結果(2)	165
第20表	テフラ検出分析結果	170
第21表	分析対象となる黒曜石	173
第22表	東日本黒曜石産地の判別群	173
第23表	測定値および産地推定結果	174
第24表	遺跡、器種別の産地	175

文中写真

テフラ分析写真図版

写真1	宮久保遺跡 試料4(Mk-1:純度不良)	172
写真2	宮久保遺跡 試料6(Mk-2)	172
写真3	宮久保遺跡 試料8(As-Kk下部)	172
写真4	中遺跡 資料1(As-0k Group)	172
写真5	中遺跡 資料6(MP最下部)	172
写真6	中遺跡 資料7(AT)	172

野外調査写真図版

写真7	作業前風景	172
写真8	As-Bの層相	172
写真9	As-B、As-Kk、Mk-1の層相(下位より)	172
写真10	Mk-2の層相(刃先の左方)	172
写真11	試料採取前の状況	172
写真12	試料採取後の状況	172

写真目次

P.L. 1	1 宮久保遺跡 A区からD区全景①(東より)	
	2 宮久保遺跡 A区からD区全景②(西より)	
P.L. 2	1 F区1号竪穴建物全景(北西より)	
	2 F区1号竪穴建物土層断面A-A'(南より)	
	3 F区1号竪穴建物遺物出土状況(南西より)	
	4 F区1号竪穴建物掘方全景(南西より)	
	5 F区1号竪穴建物貯蔵穴全景(西より)	
P.L. 3	1 G区1号井戸土層断面(南東より)	
	2 G区1号井戸全景(南東より)	
	3 A区土坑群1 1号土坑土層断面A(南西より)	
	4 A区土坑群1 3号土坑土層断面B(南西より)	
	5 A区土坑群1 3号土坑全景(南西より)	
	6 A区土坑群1 10号土坑土層断面C(北東より)	
	7 A区土坑群1 13号土坑全景(南西より)	
P.L. 4	1 A区土坑群1 10号土坑全景(南西より)	
	2 A区土坑群1 2号土坑土層断面E(北東より)	
	3 A区土坑群1 2号土坑全景(北東より)	

	4 A区土坑群1 14号土坑土層断面F(南西より)	
	5 A区土坑群1 14号土坑全景(南西より)	
	6 A区土坑群1 12号土坑全景(南西より)	
P.L. 5	1 A区土坑群1 12号土坑土層断面G(南西より)	
	2 A区土坑群1 11号土坑土層断面H(南西より)	
	3 A区土坑群1 11号土坑全景(南西より)	
	4 A区土坑群1 15号土坑土層断面I(南西より)	
	5 A区土坑群1 15号土坑全景(南西より)	
	6 A区土坑群1 4号復旧坑全景(北東より)	
	7 A区土坑群1 1号復旧坑土層断面K(北東より)	
P.L. 6	1 A区土坑群1 1号復旧坑全景(北東より)	
	2 A区土坑群1 5号復旧坑全景(北東より)	
	3 A区土坑群1 6号復旧坑土層断面N(北東より)	
	4 A区土坑群1 6号復旧坑全景(北東より)	
	5 A区土坑群1 3号復旧坑全景(南西より)	
	6 A区土坑群1 2号復旧坑全景(南西より)	
P.L. 7	1 A区土坑群1 7号復旧坑土層断面P(北東より)	

- 2 A区土坑群 1 7号復旧坑全景(北東より)
- 3 A区土坑群 2 10号復旧坑土層断面A(南西より)
- 4 A区土坑群 2 11号復旧坑土層断面B(北東より)
- 5 A区土坑群 2 10号復旧坑全景(北東より)
- 6 A区土坑群 2 11号復旧坑全景(北東より)
- P L. 8 1 A区土坑群 2 4号土坑土層断面C(北東より)
- 2 A区土坑群 2 5号土坑土層断面D(北東より)
- 3 A区土坑群 2 4号土坑(奥)、5号土坑全景(南東より)
- 4 A区土坑群 2 6号土坑土層断面E(北東より)
- 5 A区土坑群 2 6号土坑全景(南東より)
- 6 A区土坑群 2 7号土坑(左)・8号土坑土層断面F(南西より)
- 7 A区土坑群 2 7号土坑(奥)・8号土坑全景(南東より)
- 8 A区土坑群 2 9号土坑土層断面G(南西より)
- P L. 9 1 A区土坑群 2 9号土坑全景(北東より)
- 2 A区土坑群 3 9号復旧坑土層断面A(北東より)
- 3 A区土坑群 3 9号復旧坑全景(北東より)
- 4 A区土坑群 3 16号土坑土層断面B(北東より)
- 5 A区土坑群 3 16号土坑全景(北東より)
- 6 A区土坑群 8号復旧坑土層断面(北西より)
- 7 A区土坑群 8号復旧坑全景(北西より)
- P L. 10 1 A区土坑群 14号復旧坑土層断面(西より)
- 2 A区土坑群 13号復旧坑土層断面(東より)
- 3 A区土坑群 14号復旧坑全景(西より)
- 4 A区土坑群 13号復旧坑全景(東より)
- 5 A区土坑群 12号復旧坑土層断面(北東より)
- 6 A区土坑群 12号復旧坑全景(北東より)
- P L. 11 1 D区1号土坑土層断面(南より)
- 2 D区2号土坑土層断面(南東より)
- 3 D区2号土坑全景(北東より)
- 4 D区3号土坑土層断面(西より)
- 5 D区3号土坑全景(西より)
- 6 D区4号土坑土層断面(西より)
- 7 D区4号土坑全景(西より)
- P L. 12 1 D区5号土坑土層断面(北より)
- 2 D区5号土坑全景(北より)
- 3 D区6号土坑土層断面(北西より)
- 4 D区6号土坑全景(北西より)
- 5 D区7号土坑土層断面(南東より)
- 6 D区7号土坑全景(北より)
- 7 D区8号土坑土層断面(西より)
- 8 D区8号土坑全景(西より)
- P L. 13 1 D区9号土坑土層断面(西より)
- 2 D区9号土坑全景(西より)
- 3 D区10号土坑土層断面(西より)
- 4 D区10号土坑全景(西より)
- 5 D区11号土坑土層断面(東より)
- 6 D区11号土坑全景(西より)
- 7 D区12号土坑土層断面(北東より)
- 8 D区12号土坑全景(南西より)
- P L. 14 1 D区13号土坑土層断面(北東より)
- 2 D区13号土坑全景(西より)
- 3 D区14号土坑土層断面(東より)
- 4 D区14号土坑全景(西より)
- 5 D区15号土坑土層断面(北西より)
- 6 D区15号土坑全景(北東より)
- 7 D区16号土坑土層断面(北より)
- 8 D区16号土坑全景(北より)
- P L. 15 1 F区1号土坑土層断面(南西より)
- 2 F区1号土坑全景(西より)
- 3 F区2号土坑土層断面(南西より)
- 4 F区2号土坑全景(南東より)
- 5 E区1号ピット土層断面(南より)
- 6 E区1号ピット全景(南より)
- 7 E区2号ピット土層断面(南東より)
- 8 E区2号ピット全景(南東より)
- P L. 16 1 E区3号ピット土層断面(南西より)
- 2 E区3号ピット全景(西より)
- 3 F区2号ピット土層断面(南西より)
- 4 F区10号ピット土層断面(南西より)
- 5 F区13号ピット土層断面(南西より)
- 6 F区17号ピット土層断面(南西より)
- 7 F区22号ピット全景(南より)
- 8 F区ピット群全景(北より)
- P L. 17 1 A区1号溝全景(北東より)
- 2 A区1号溝土層断面(南西より)
- 3 D区1号溝全景(北東より)
- 4 D区2号溝土層断面(南より)
- 5 D区2号溝全景(南より)
- 6 D区3号溝全景(東より)
- P L. 18 1 D区4号溝全景(南東より)
- 2 D区5号溝土層断面(西より)
- 3 F区1号溝土層断面(南東より)
- 4 F区1号溝全景(南東より)
- 5 F区2号溝土層断面(南東より)
- 6 F区2号溝全景(北東より)
- 7 F区3号溝土層断面(北西より)
- 8 F区3号溝全景(西より)
- P L. 19 1 F区4号溝全景(南西より)
- 2 G区1号溝全景(西より)
- 3 F区1号埋甕全景(西より)
- 4 F区1号焼土土層断面(南西より)
- 5 F区2号焼土検出状況(東より)
- 6 F区1号遺物集中全景(西より)
- 7 F区2号遺物集中全景①(東より)
- 8 F区2号遺物集中全景②(北より)
- P L. 20 1 F区2号遺物集中全景③(南より)
- 2 F区2号遺物集中遺物出土状況①(西より)
- 3 F区2号遺物集中遺物出土状況②(西より)
- 4 F区2号遺物集中遺物出土状況③(南より)
- 5 F区2号遺物集中遺物出土状況④(北東より)
- P L. 21 1 A区1号旧石器調査坑土層断面A-A'(南西より)
- 2 A区2号旧石器調査坑土層断面B-B'(南より)
- 3 A区3号旧石器調査坑土層断面C-C'(西より)
- 4 A区4号旧石器調査坑土層断面D-D'(南より)
- 5 B区旧石器調査坑土層断面A-A'(東より)
- 6 C区旧石器調査坑土層断面B-B'(西より)
- 7 E区1号旧石器調査坑土層断面B-B'(東より)
- 8 E区2号旧石器調査坑土層断面D-D'(西より)
- P L. 22 1 E区3号旧石器調査坑土層断面E-E'(北より)
- 2 F区1号旧石器調査坑土層断面(北より)
- 3 F区2号旧石器調査坑土層断面(北より)
- 4 F区3号旧石器調査坑土層断面(北より)
- 5 F区4号旧石器調査坑土層断面①(南より)
- 6 F区4号旧石器調査坑土層断面②(南より)
- 7 F区5号旧石器調査坑土層断面(北より)
- 8 F区6号旧石器調査坑土層断面と地すべり下の黒色土(北より)
- P L. 23 F区1号竪穴建物・土坑・埋甕・焼土・1号遺物集中出土遺物
- P L. 24 F区2号遺物集中出土遺物①
- P L. 25 F区2号遺物集中出土遺物②
- P L. 26 F区2号遺物集中出土遺物③
- P L. 27 F区2号遺物集中出土遺物④
- P L. 28 F区2号遺物集中出土遺物⑤
- P L. 29 F区2号遺物集中出土遺物⑥
- P L. 30 F区2号遺物集中出土遺物⑦
- P L. 31 F区2号遺物集中出土遺物⑧
- P L. 32 F区2号遺物集中出土遺物⑨
- P L. 33 F区2号遺物集中出土遺物⑩
- P L. 34 遺構外出土遺物
- P L. 35 1 中遺跡1区全景(東より)
- 2 中遺跡1区全景(北より)奥に連なる宮久保遺跡
- P L. 36 1 1区1号竪穴建物掘方全景(東より)

	2	1区1号竪穴建物土層断面A-A' (南より)		6	1区2号溝土層断面(南東より)
	3	1区1号竪穴建物土層断面B-B' (東より)	P L. 47	1	1区3号溝土層断面(北より)
	4	1区1号竪穴建物使用面全景(南より)		2	1区3号溝全景(南より)
	5	1区1号竪穴建物カマド全景(西より)		3	1区1号石列土層断面C-C' (東より)
P L. 37	1	1区1号竪穴建物カマド土層断面C-C' (北より)		4	1区1号石列と1区2号溝全景(東より)
	2	1区1号竪穴建物カマド土層断面D-D' (西より)		5	1区1号石列全景(北より)
	3	1区1号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(南より)	P L. 48	1	2区1号溝土層断面(東より)
	4	1区1号竪穴建物全景(調査範囲拡張前後)(東より)		2	2区1号溝全景(東より)
	5	1区1号竪穴建物掘方土層断面B-B' (調査範囲拡張前後)(東より)		3	3区1号溝～5号溝全景(北より)
	6	1区1号竪穴建物P1土層断面F-F' (東より)		4	3区1号溝～4号溝土層断面E-E' (南より)
	7	1区1号竪穴建物2号床下土坑全景(東より)	P L. 49	1	3区1号溝全景(南より)
	8	1区1号竪穴建物調査風景(東より)		2	3区1号溝流水出土状況(西より)
P L. 38	1	1区2号竪穴建物使用面全景(西より)		3	3区1号溝出土杭B-B' (北西より)
	2	1区2号竪穴建物土層断面A-A' (南より)		4	3区3号溝(右)、4号溝全景(南より)
	3	1区2号竪穴建物土層断面B-B' (西より)		5	3区1号石列南側全景(東より)
	4	1区2号竪穴建物P1土層断面G-G' (南より)		6	3区1号石列北側全景(南西より)
	5	1区2号竪穴建物P1全景(西より)	P L. 50	1	1区1号焼土確認状況(南より)
P L. 39	1	1区2号竪穴建物P2土層断面G-G' (南より)		2	1区1号焼土土層断面(南西より)
	2	1区2号竪穴建物P2全景(西より)		3	4区全景(南西より)
	3	1区2号竪穴建物P3土層断面F-F' (南より)	P L. 51	1	1区1号土坑土層断面(北西より)
	4	1区2号竪穴建物P3全景(西より)		2	1区1号土坑全景(南より)
	5	1区2号竪穴建物P4土層断面F-F' (南より)		3	1区2号土坑土層断面(南東より)
	6	1区2号竪穴建物P4全景(西より)		4	1区2号土坑全景(南東より)
	7	1区2号竪穴建物カマド南炭化物確認状況(西より)		5	1区3号土坑土層断面(南より)
	8	1区2号竪穴建物貯蔵穴全景(南より)		6	1区3号土坑(右)、4号土坑全景(北より)
P L. 40	1	1区2号竪穴建物カマド土層断面D-D' (西より)		7	1区4号土坑土層断面(北より)
	2	1区2号竪穴建物カマド全景(西より)		8	1区4号土坑(右)、3号土坑全景(南より)
	3	1区2号竪穴建物掘方土層断面A-A' (南より)	P L. 52	1	1区5号土坑土層断面(南より)
	4	1区2号竪穴建物掘方全景(西より)		2	1区5号土坑全景(西より)
	5	1区3号竪穴建物使用面全景(西より)		3	1区6号土坑土層断面(南東より)
	6	1区3号竪穴建物土層断面A-A'・B-B' (北西より)		4	1区6号土坑全景(南東より)
	7	1区3号竪穴建物P1土層断面G-G' (南より)		5	1区7号土坑土層断面(南より)
	8	1区3号竪穴建物P2土層断面G-G' (南より)		6	1区7号土坑全景(南より)
P L. 41	1	1区3号竪穴建物P3土層断面J-J' (南より)		7	1区8号土坑土層断面(東より)
	2	1区3号竪穴建物P4土層断面K-K' (北より)		8	1区9号土坑土層断面(南東より)
	3	1区3号竪穴建物貯蔵穴全景(西より)	P L. 53	1	1区9号土坑(手前)、10号土坑全景(南西より)
	4	1区3号竪穴建物掘方全景(西より)		2	1区10号土坑土層断面(南東より)
	5	1区4号竪穴建物使用面全景(南東より)		3	1区10号土坑(右)、9号土坑全景(南東より)
	6	1区4号竪穴建物土層断面A-A' (南より)		4	1区11号土坑土層断面(東より)
	7	1区4号竪穴建物土層断面B-B' (西より)		5	1区11号土坑全景(北より)
	8	1区4号竪穴建物1号床下土坑全景(南より)		6	1区13号土坑土層断面(南より)
P L. 42	1	1区5号竪穴建物遺物出土状況(南西より)		7	1区13号土坑全景(南より)
	2	1区5号竪穴建物土層断面A-A' (北西より)		8	1区14号土坑土層断面(西より)
	3	1区5号竪穴建物使用面全景(北東より)	P L. 54	1	1区14号土坑全景(西より)
	4	1区5号竪穴建物掘方全景(北東より)		2	1区15号土坑土層断面(西より)
	5	1区5号竪穴建物P1全景(北東より)		3	1区15号土坑全景(西より)
P L. 43	1	2区1号竪穴建物使用面全景(南西より)		4	1区16号土坑土層断面(南より)
	2	2区1号竪穴建物土層断面A-A' (南東より)		5	1区16号土坑全景(東より)
	3	2区1号竪穴建物土層断面B-B' (南西より)		6	1区17号土坑土層断面(北西より)
	4	2区1号竪穴建物調査風景(南西より)		7	1区17号土坑全景(北東より)
	5	1区1号竪穴状遺構全景(西より)		8	1区19号土坑土層断面(南東より)
	6	1区1号竪穴状遺構・2号竪穴状遺構土層断面A-A' (西より)	P L. 55	1	1区19号土坑全景(東より)
	7	1区2号竪穴状遺構全景(西より)		2	1区20号土坑土層断面(東より)
	8	1区1号竪穴状遺構・2号竪穴状遺構調査風景(西より)		3	1区20号土坑全景(南より)
P L. 44	1	1区1号方形周溝墓全景(東より)		4	1区21号土坑全景(南より)
	2	1区1号方形周溝墓土層断面A-A' (西より)		5	1区22号土坑土層断面(西より)
	3	1区1号方形周溝墓土層断面B-B' (西より)		6	1区22号土坑全景(南より)
	4	1区1号方形周溝墓土層断面C-C' (北より)		7	1区23号土坑土層断面(南西より)
	5	1区1号方形周溝墓遺物出土状況(南より)		8	1区23号土坑全景(東より)
P L. 45	1	3区調査区全景(北より)	P L. 56	1	1区25号土坑土層断面(北東より)
	2	3区調査区南側①(北より)		2	1区25号土坑全景(南より)
P L. 46	1	3区調査区南側②(北より)		3	1区26号土坑土層断面(西より)
	2	3区東壁土層断面A-A' (北より)		4	1区26号土坑全景(西より)
	3	3区東壁土層断面A-A' (西より)		5	1区27号土坑土層断面(南西より)
	4	1区1号溝土層断面(東より)		6	1区26号土坑(手前)、27号土坑全景(南より)
	5	1区1号溝全景(東より)		7	1区28号土坑土層断面(北東より)

	8	1区28号土坑全景(西より)		2	1区63号土坑全景(西より)
P L. 57	1	1区29号土坑土層断面(西より)		3	1区65号土坑土層断面(北より)
	2	1区29号土坑全景(西より)		4	1区65号土坑全景(北より)
	3	1区30号土坑土層断面(西より)		5	1区66号土坑土層断面(西より)
	4	1区30号土坑全景(西より)		6	1区66号土坑全景(西より)
	5	1区31号土坑土層断面(南より)		7	2区1号土坑土層断面(東より)
	6	1区31号土坑全景(南より)		8	2区1号土坑全景(東より)
	7	1区32号土坑土層断面(北西より)	P L. 66	1	2区2号土坑土層断面(北より)
	8	1区32号土坑全景(北西より)		2	2区3号土坑土層断面(北より)
P L. 58	1	1区33号土坑土層断面(東より)		3	2区4号土坑土層断面(東より)
	2	1区33号土坑全景(西より)		4	2区5号土坑土層断面(南東より)
	3	1区34号土坑土層断面(北より)		5	2区5号土坑全景(北西より)
	4	1区34号土坑全景(西より)		6	2区6号土坑土層断面(北より)
	5	1区35号土坑土層断面(西より)		7	2区7号土坑全景(西より)
	6	1区35号土坑全景(北より)		8	2区8号土坑土層断面(西より)
	7	1区36号土坑土層断面(北西より)	P L. 67	1	2区8号土坑全景(北より)
	8	1区36号土坑全景(西より)		2	2区9号土坑土層断面(北より)
P L. 59	1	1区37号土坑土層断面(南西より)		3	2区9号土坑(奥)、10号土坑全景(東より)
	2	1区37号土坑全景(南西より)		4	2区10号土坑土層断面(南より)
	3	1区39号土坑土層断面(東より)		5	2区11号土坑土層断面(東より)
	4	1区39号土坑全景(南より)		6	2区12号土坑土層断面(東より)
	5	1区40号土坑土層断面(南西より)		7	2区12号土坑全景(東より)
	6	1区40号土坑全景(南西より)		8	2区13号土坑土層断面(南西より)
	7	1区41号土坑土層断面(南より)	P L. 68	1	2区13号土坑全景(南より)
	8	1区41号土坑全景(南より)		2	2区14号土坑全景(南より)
P L. 60	1	1区42号土坑土層断面(南西より)		3	2区15号土坑・2号ピット土層断面(南より)
	2	1区42号土坑全景(西より)		4	2区15号土坑・2号ピット全景(南より)
	3	1区43号土坑土層断面(西より)		5	2区16号土坑土層断面A-A'(東より)
	4	1区43号土坑全景(西より)		6	2区16号土坑土層断面A-A'・B-B'(北東より)
	5	1区44号土坑土層断面(西より)		7	2区16号土坑全景(北より)
	6	1区44号土坑全景(西より)		8	2区17号土坑土層断面B-B'(北より)
	7	1区45号土坑土層断面(北西より)	P L. 69	1	2区17号土坑全景(北より)
	8	1区45号土坑全景(西より)		2	2区18号土坑・21号土坑土層断面A-A'(北より)
P L. 61	1	1区46号土坑土層断面(南東より)		3	2区18号土坑(手前)・21号土坑全景(西より)
	2	1区46号土坑全景(南西より)		4	2区19号土坑土層断面(東より)
	3	1区47号土坑土層断面(北西より)		5	2区19号土坑全景(北より)
	4	1区47号土坑全景(南西より)		6	2区20号土坑土層断面(東より)
	5	1区48号土坑土層断面(南東より)		7	2区20号土坑全景(北より)
	6	1区48号土坑全景(南西より)		8	2区21号土坑土層断面B-B'(西より)
	7	1区49号土坑土層断面(南東より)	P L. 70	1	2区22号土坑土層断面(北西より)
	8	1区49号土坑全景(北より)		2	2区22号土坑全景(東より)
P L. 62	1	1区50号土坑土層断面(西より)		3	2区23号土坑土層断面(北西より)
	2	1区50号土坑全景(西より)		4	2区22号土坑(左)・23号土坑全景(北西より)
	3	1区51号土坑土層断面(東より)		5	2区24号土坑土層断面(南西より)
	4	1区51号土坑全景(東より)		6	2区24号土坑全景(南東より)
	5	1区52号土坑土層断面(北東より)		7	4区1号土坑土層断面(南より)
	6	1区52号土坑全景(東より)		8	4区1号土坑全景(東より)
	7	1区52号土坑遺物出土状態①(東より)	P L. 71	1	4区2号土坑土層断面(南西より)
	8	1区52号土坑遺物出土状態②(北より)		2	4区2号土坑全景(東より)
P L. 63	1	1区53号土坑土層断面及び全景(西より)		3	4区3号土坑土層断面(東より)
	2	1区54号土坑全景(南より)		4	4区3号土坑全景(西より)
	3	1区55号土坑土層断面(北西より)		5	4区4号土坑土層断面(南より)
	4	1区55号土坑全景(西より)		6	4区4号土坑全景(東より)
	5	1区56号土坑土層断面(北西より)		7	1区1号ピット土層断面(南東より)
	6	1区56号土坑全景(西より)		8	1区1号ピット全景(南より)
	7	1区57号土坑土層断面(南より)	P L. 72	1	1区17号ピット土層断面(南東より)
	8	1区57号土坑全景(南より)		2	1区18号ピット土層断面(南より)
P L. 64	1	1区58号土坑・60号土坑土層断面(西より)		3	1区18号ピット全景(北より)
	2	1区58号土坑・60号土坑全景(西より)		4	1区21号ピット土層断面(西より)
	3	1区59号土坑土層断面(西より)		5	1区21号ピット全景(西より)
	4	1区59号土坑全景(西より)		6	1区22号ピット土層断面(東より)
	5	1区61号土坑土層断面(南西より)		7	1区22号ピット全景(東より)
	6	1区61号土坑全景(南西より)		8	1区23号ピット土層断面(南東より)
	7	1区62号土坑土層断面(東より)	P L. 73	1	1区23号ピット全景(南より)
	8	1区62号土坑全景(東より)		2	1区24号ピット土層断面(南より)
P L. 65	1	1区63号土坑土層断面(西より)		3	1区24号ピット全景(南より)

- | | | | | | |
|---------|---|--------------------|---------|---|------------------------------------|
| | 4 | 1区25号ピット土層断面(南より) | P L. 76 | 1 | 1区1号旧石器調査坑土層断面A-A' (南より) |
| | 5 | 1区25号ピット全景(南より) | | 2 | 1区2号旧石器調査坑土層断面B-B' (西より) |
| | 6 | 1区26号ピット土層断面(南より) | | 3 | 1区3号旧石器調査坑土層断面C-C' (東より) |
| | 7 | 1区26号ピット全景(南より) | | 4 | 1区4号旧石器調査坑土層断面D-D' (北より) |
| | 8 | 1区34号ピット土層断面(南より) | | 5 | 1区5号旧石器調査坑土層断面E-E' (西より) |
| P L. 74 | 1 | 1区35号ピット土層断面(南より) | | 6 | 1区7号旧石器調査坑土層断面F-F' (西より) |
| | 2 | 1区35号ピット全景(南より) | | 7 | 1区8号旧石器調査坑土層断面G-G' (西より) |
| | 3 | 1区46号ピット土層断面(南東より) | | 8 | 1区10号旧石器調査坑土層断面H-H' (西より) |
| | 4 | 1区46号ピット全景(南より) | P L. 77 | 1 | 1区11号旧石器調査坑土層断面I-I' (西より) |
| | 5 | 1区57号ピット土層断面(南より) | | 2 | 1区12号旧石器調査坑土層断面J-J' (南より) |
| | 6 | 1区57号ピット全景(北より) | | 3 | 1区7号旧石器調査坑調査風景(南西より) |
| | 7 | 1区63号ピット土層断面(南より) | | 4 | 1区11号旧石器調査坑調査風景(南より) |
| | 8 | 1区63号ピット全景(北より) | | 5 | 遺跡周辺にある経塚古墳(安中市) (南より) |
| P L. 75 | 1 | 1区66号ピット土層断面(南より) | P L. 78 | 1 | 1区1号竪穴建物出土遺物・2号竪穴建物出土遺物 |
| | 2 | 1区66号ピット全景(北より) | P L. 79 | 1 | 1区3号竪穴建物出土遺物① |
| | 3 | 1区69号ピット土層断面(南より) | P L. 80 | 1 | 1区3号竪穴建物出土遺物②・1区5号竪穴建物出土遺物① |
| | 4 | 1区69号ピット全景(北より) | P L. 81 | 1 | 1区5号竪穴建物出土遺物②・1区1号方形竪穴溝墓・3区1号溝出土遺物 |
| | 5 | 1区70号ピット土層断面(北より) | P L. 82 | 1 | 1区1号石列・3区1号石列・1区土坑出土遺物 |
| | 6 | 1区70号ピット全景(北より) | P L. 83 | 1 | 遺構外出土遺物① |
| | 7 | 1区71号ピット土層断面(南より) | P L. 84 | 1 | 遺構外出土遺物② |
| | 8 | 1区71号ピット全景(北より) | P L. 85 | 1 | 遺構外出土遺物③ |

第1章 調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

宮久保遺跡・中遺跡は、群馬県南西部の安中市上間仁田に所在する。遺跡の西約2kmに縄文時代を中心とした中野谷遺跡群、南へ300mに5世紀前半の経塚古墳が存在する。

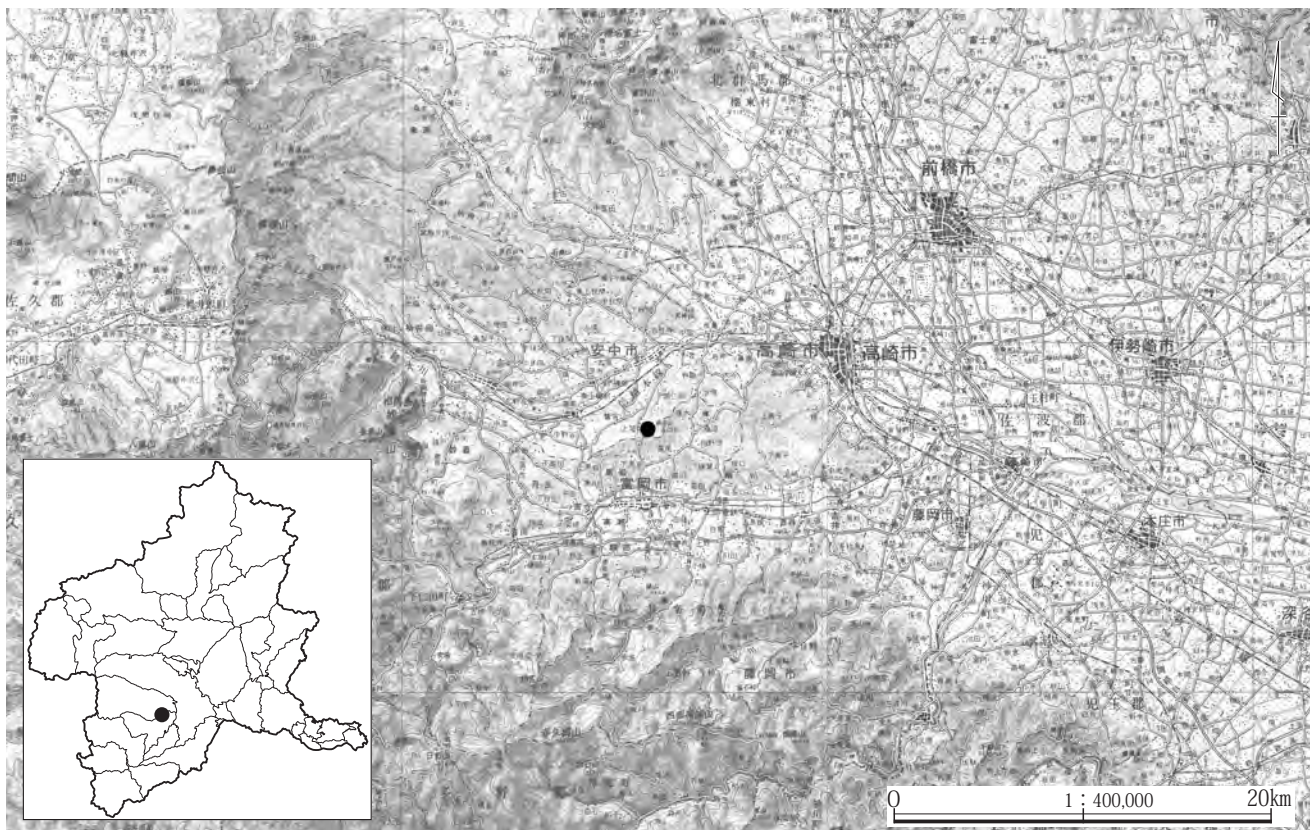
一般県道安中富岡線(西毛広域幹線道路安中富岡工区)は、前橋市千代田町を起点とし富岡市富岡をつなぐ全長27.8kmの西毛広域幹線道路の一部である。西毛広域幹線道路は、群馬県が定めている県土整備分野の最上位の計画である「ぐんま・県土整備プラン2020」の中で、「政策1 災害レジエンスNo.1の実現 施策3：防災インフラの整備(中長期レジエンス戦略)」、および「政策3 多様な移動手段の確保 施策2：自動車交通網の整備」に位置付けられている。

西毛広域幹線道路が開通すると、富岡～安中間の所要時間は26分から14分に、安中～前橋間は51分から36分に

短縮される。これにより、大規模な災害の発生時には、広域的な救命救助や被災地への支援物資輸送、経済活動の継続性が確保でき、県民の安全な暮らしや、企業などの安定した経済活動の支援が可能になる。さらに移動時間の短縮による物流の効率化や観光地の周遊性の向上による観光振興が期待されている。

一般県道安中富岡線は、安中市安中と富岡市上高尾戸とを結ぶ延長6.3kmの道路である。「ぐんま・県土整備プラン2020」政策1－施策3のうち災害時にも機能する強靱な道路ネットワークを構築するため、令和11年度に完成予定である。防災拠点や物流が集積する前橋エリアと高崎・安中エリア、甘楽富岡エリアを結ぶ道路ネットワークの整備により、広域的な救命救助や被災地への支援物資輸送、経済活動の継続性が確保されることとなる。

令和2年度調査 安中市遺跡番号No.456は、周知の遺跡として安中市の遺跡台帳に登録されている。群馬県富岡土木事務所から安中市上間仁田地内における埋蔵文化財について試掘依頼が提出された。これを受け、群馬県教



第1図 宮久保遺跡・中遺跡と群馬県の地勢(40万分の1地勢図「長野」「宇都宮」図幅を加工)

育委員会文化財保護課(現、地域創生部文化財保護課、以下、文化財保護課と略す)は、令和元年11月に重機を用いた試掘調査を実施した。その結果、遺構が確認されたため、当該地は発掘調査の対象となった。そして、富岡土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約が締結され、令和2年4月1日から6月30日までの期間で宮久保遺跡として発掘調査が実施されることとなった。

令和4年度調査 令和2年度に調査された宮久保遺跡の北側に隣接する事業地と安中市遺跡No.438は、周知の遺跡として安中市の遺跡台帳に登録されている。群馬県安中土木事務所から試掘依頼が提出されたことを受け、文化財保護課は令和4年10月と11月に試掘調査を実施した結果、遺構が確認され当該地は調査の対象となった。そして、安中土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約が締結され、令和4年6月1日から令和5年1月31日までの期間で宮久保遺跡、中遺跡(安中市遺跡No.438)として発掘調査が実施されることとなった。

第2節 発掘調査の方法

座標・調査区の設定と調査の方法

発掘調査に用いた測量用の座標は、平面直角座標系(測地成果2011)IX系を使用し、座標値の下3桁で呼称した。例えば、X軸=32,950とY軸=-84,460の交点をそれぞれ950、-460と略し950-460と表した。

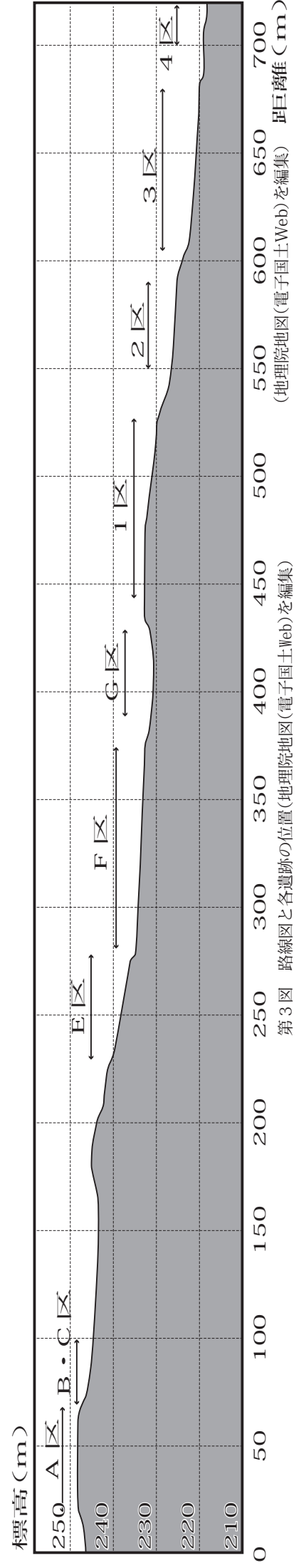
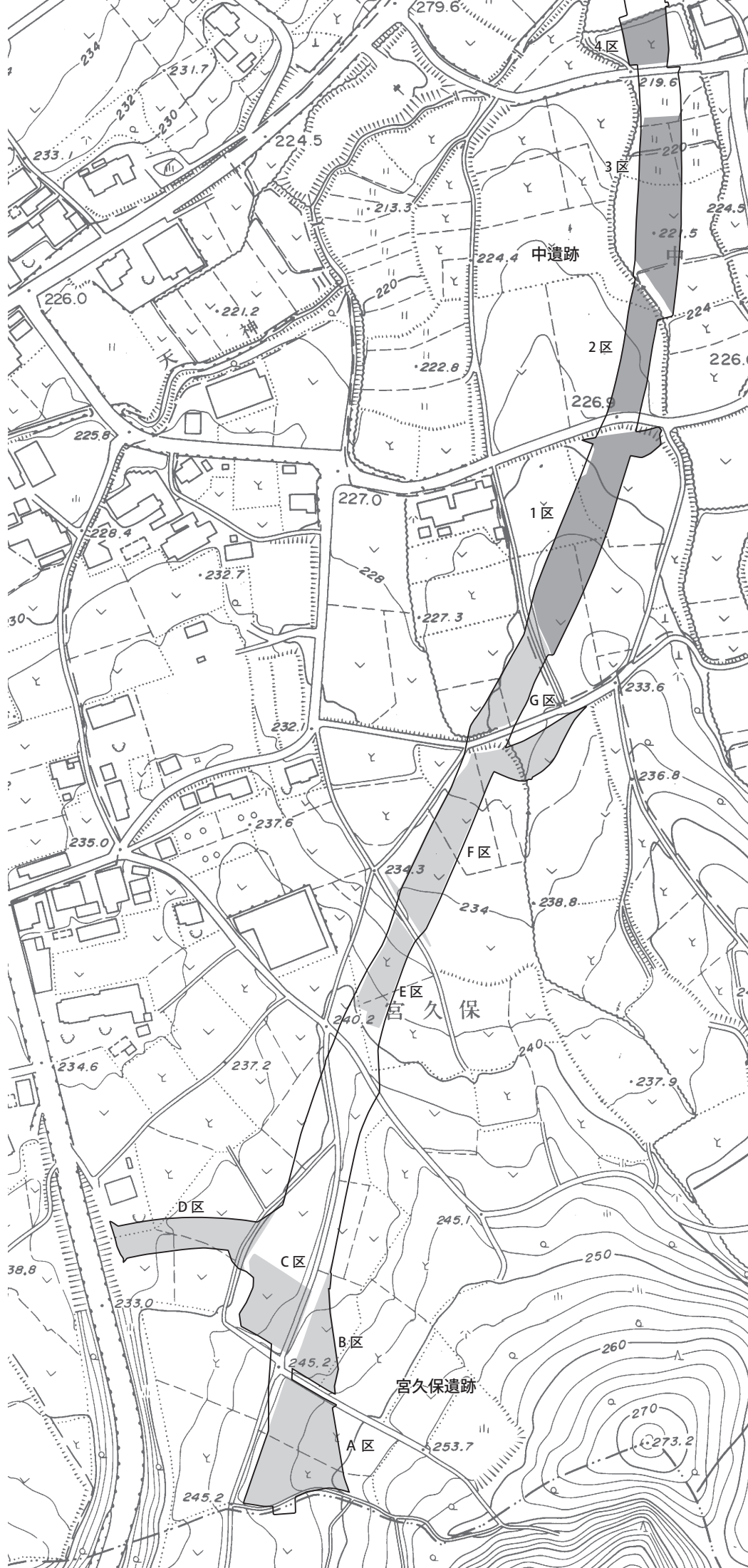
令和2年度宮久保遺跡の調査は、富岡市と接する事業地の南から北西にかけ順にA区・B区・C区・D区とした。範囲は、世界測地系X=32,494~32,631、Y=-84,568~-84,679に収まる。

令和4年度宮久保遺跡の調査は、試掘により遺構が確認されたC区の北約80mの地点をE区とし、北に向かってF区・G区と呼称した。ただし、F区は調査工程の都合上F-1区とF-2区に分割して調査を進めた。範囲はX=32,716~32,899、Y=-84,459~-84,564である。

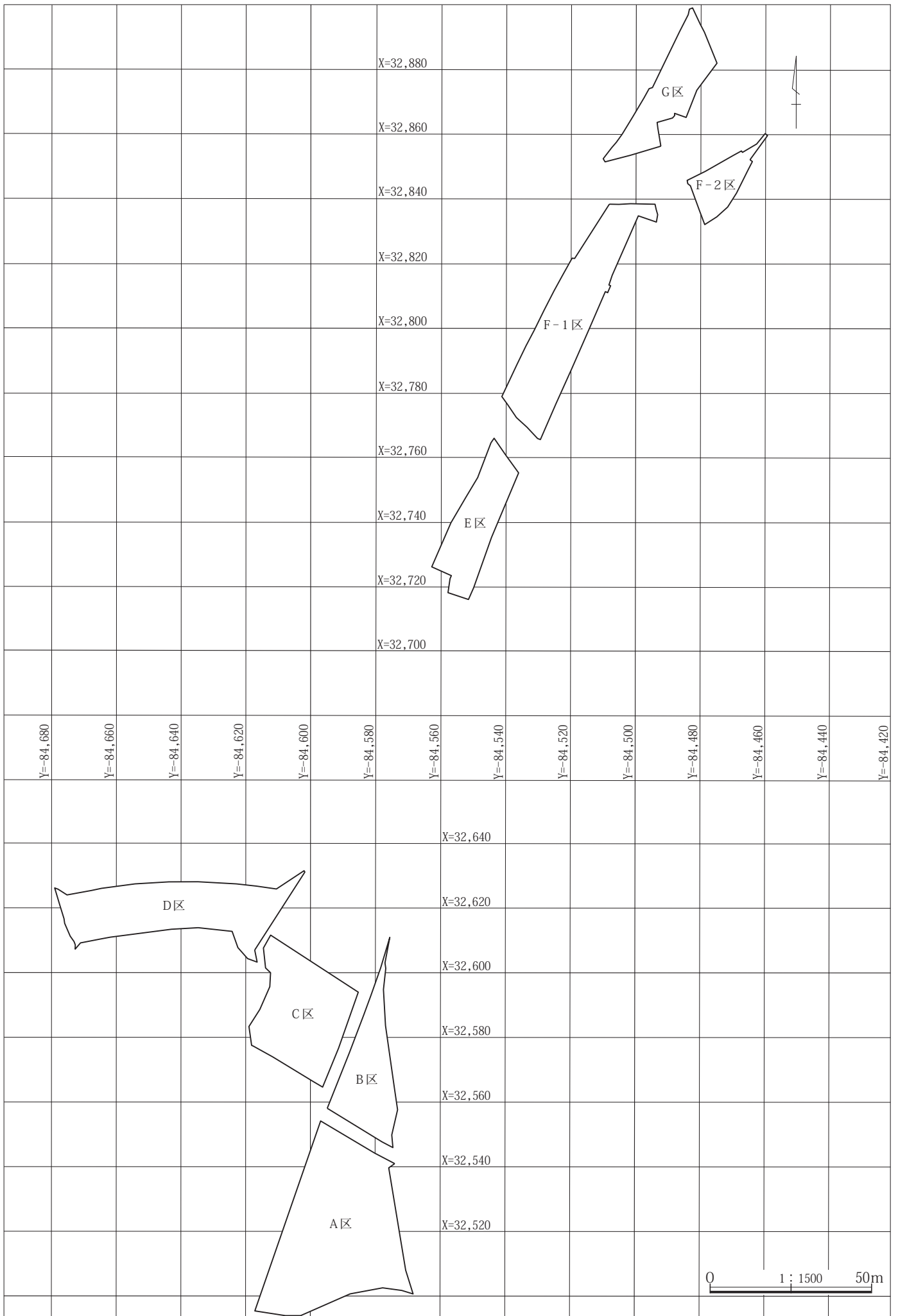
中遺跡の調査区は、宮久保遺跡のG区の北に隣接する事業地から北へ向かって1区・2区・3区・4区を設定した。範囲はX=32,888~33,184、Y=-84,410~



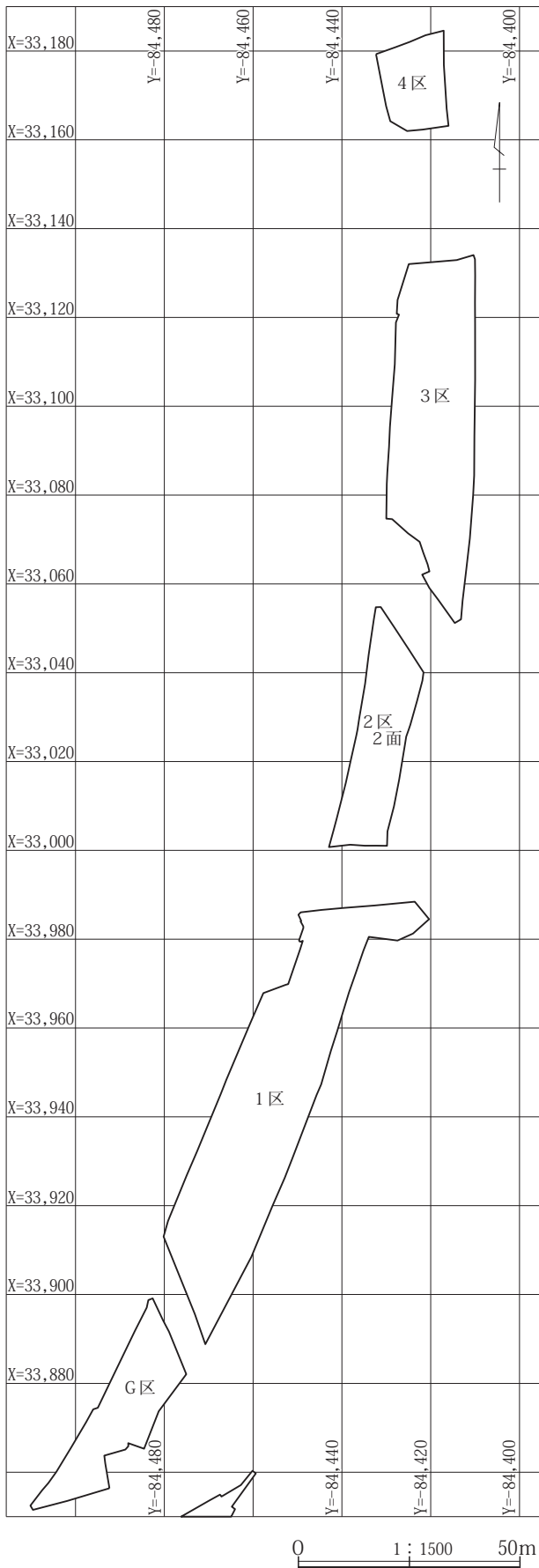
第2図 宮久保遺跡と中遺跡の位置(国土地理院2万5千分の1地形図「高崎」を加工)



第3図 路線図と各遺跡の位置(電子国土Web)を編集 (地理院地図(電子国土Web)を編集) 距離 (m)



第4図 宮久保遺跡調査区と国家座標



-84,480に収まる。

調査前には、調査区に単管パイプと安全ロープを巡らし、危険箇所・立入禁止等の看板を設置して安全対策には十分留意した。

発掘調査は、バックホーで表土を除去したのちに、鋤簾を用いて遺構面を精査し、遺構確認を行った。その後、スコップや移植ゴテを用いて個別の遺構の掘削を行い、必要に応じてベルト設定や半截による土層観察を行った。

遺構名称と遺構番号は、宮久保遺跡・中遺跡ともに各調査区ごとに遺構番号を付している。

遺構の記録は、デジタル測量による測図を原則とし、平面図は1/40縮尺図、断面図は1/20縮尺図、全体図は1/200縮尺図で作図した。なお、遺構図の作成は測量会社に委託し、CDに保存された。データおよび打ち出しの図面を成果品として受領した。

また、遺物が出土した場合には、原位置の記録の後に取り上げ、ラベルに出土位置の記録等を付して収納した。その後、洗浄および出土地点等の注記作業を業者委託し、発掘調査員が点検を行った後に整理作業に備えて収納した。

遺構写真の撮影は35mmフルサイズデジタルカメラでの記録を基本とし、必要に応じてブローニー版による銀塩写真を併用して発掘調査担当者が行った。

第5図 調査区と国家座標(宮久保遺跡G区と中遺跡)

第3節 発掘調査の経過

調査経過の概略は以下のとおりである。

日誌抄

令和2年度

- 4月2日 現地確認。
- 3日 調査事務所設置。
- 6日 A区調査開始、重機による表土掘削。
- 7日 鋤簾による遺構確認。
- 10日 D区調査開始、遺構確認。
- 15日 A区復旧坑群調査、写真撮影。
B区調査開始、表土掘削開始。
- 16日 A区測量開始。
- 21日 A区2面掘削開始、遺構確認。
B区遺構確認。
- 24日 A区旧石器確認調査。
D区調査開始、表土掘削。
- 27日 D区遺構確認。
- 28日 A区、D区写真撮影。
- 30日 B区写真撮影。
- 5月1日 B区旧石器確認調査、遺構測量。
D区遺構測量、写真撮影。
- 7日 C区調査開始、表土掘削。
- 11日 C区遺構確認。
- 12日 空中写真撮影実施。
- 15日 D区As-C混土下遺構確認。
- 18日 C区旧石器確認調査、遺構測量。
- 6月1日 旧石器確認調査継続。
- 5日 D区遺構測量。
- 18日 A区遺構測量。
- 30日 調査終了。

令和4年度

- 6月1日 現地確認。
- 7日 2区調査開始、表土掘削。
- 9日 2区遺構確認。
H区表土掘削開始、遺構確認。
- 13日 2区遺構測量。
- 17日 H区遺構測量。
- 20日 2区2面遺構確認。
- 23日 2区全景写真撮影。埋め戻し開始。
E区・F-1区調査開始。表土掘削。
- 24日 1区調査開始、表土掘削。
- 27日 1区遺構確認。
- 7月5日 1区遺構測量。
G区遺構確認。E区重機による掘削。
- 8日 G区写真撮影。F-1区写真撮影、遺構測量。
- 11日 1区旧石器確認調査。
E区遺構確認。
- 11日 1区旧石器確認調査。
- 26日 1区・F-1区・G区空中写真撮影。
1区旧石器調査坑、4地点追加。
- 8月1日 E区遺構測量。
- 4日 G区埋め戻し。
- 5日 E区・F-1区旧石器確認調査。
- 9日 F-2区掘削開始、遺構確認。
- 4日 G区埋め戻し。
- 9月1日 F-2区埋め戻し。
- 10月3日 3区調査開始、重機による掘削、遺構確認。
- 4日 G区As-B下調査開始。
- 17日 F-1区黒色土上面まで重機による掘削。
- 18日 G区全景写真。
- 24日 1区埋め戻し。
- 11月2日 F-1区包含層調査。

- 11月9日 3区木材取り上げ。
- 10日 包含層遺物取り上げ開始。
- 16日 F-1区・3区全景写真撮影。
- 21日 3区南部表土掘削開始。
- 12月6日 F-1区埋め戻し。
- 13日 3区埋め戻し。
- 16日 4区調査開始、表土掘削。
- 1月5日 4区遺構確認。
- 12日 4区全景写真。
- 17日 4区埋め戻し。
- 31日 調査終了。

※調査区名がアルファベット表記は宮久保遺跡、アラビア数字表記は中遺跡の調査を示す。

第4節 整理作業の経過

整理事業については、文化財保護課の調整を受け、群馬県安中土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、令和5年4月1日に、事業の委託契約が交わされた。そして、令和5年4月1日より同事業団本部にて整理作業を開始した。

すでに洗浄・注記を済ませ、収納してあった遺物を分類したのち、遺構ごとに接合作業を行った。その後、凶化する個体を選定後、復元・写真撮影、実測・採拓、観察作業を行った。

実測は三次元計測器や長焦点の実測用写真を併用しながら行った。縄文土器と石器・石製品はロットリングによるトレース後、スキャニングによりデジタル化したものである。その他の遺物と石器の一部は、アドビ社のフォトショップまたはイラストレーターを併用してデジタルトレースした。遺物写真は35mmフルサイズのデジタルカメラにより撮影後、色調等を調整した。

遺構図は、調査段階でデジタルデータ化しており、これを編集して完成図面とした。また、遺構写真は、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、色調等の調整後デジタル入稿用データを作成した。

これらの作業と並行して本文および観察表と原稿を執筆し、デジタルデータ化した遺構図・遺物図とあわせてアドビ社のインデザインを使用してデジタル入稿データを編集した。

令和6年2月に編集作業を完了し、出土遺物・図面・写真類の収納作業を終了した。そして令和6年3月に発掘調査報告書「宮久保遺跡・中遺跡」を刊行した。

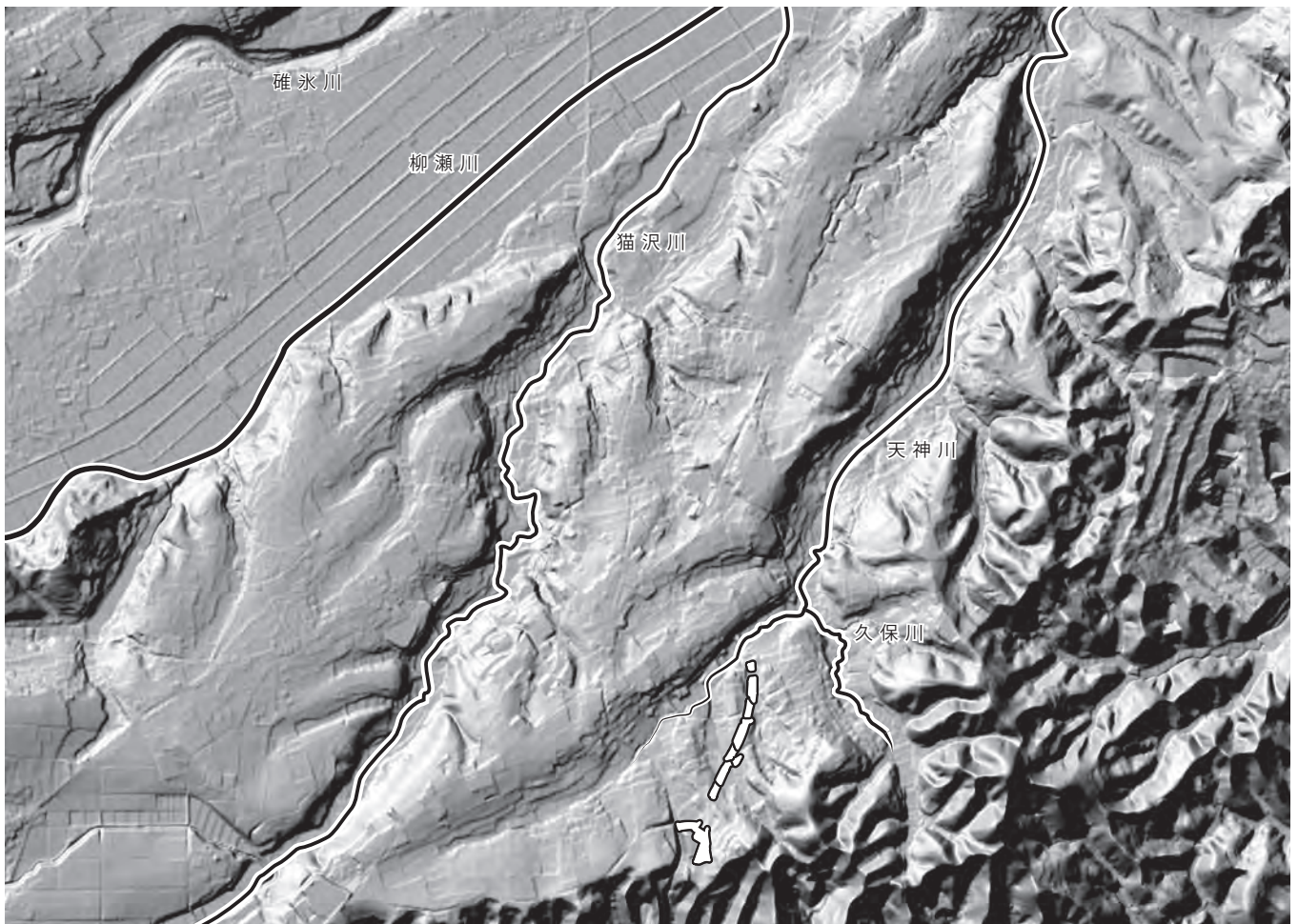
第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の地形と立地

宮久保遺跡・中遺跡は、群馬県安中市上間仁田に所在する。JR信越線磯部駅より東南東に3.8kmの距離にある。安中市は群馬県の西部に位置し、西に高く東に低い地形で、市全体の約3分の2が丘陵地帯である。丘陵は、秋間丘陵、後閑丘陵、岩野谷丘陵、松井田丘陵からなる。本遺跡のある岩野谷丘陵を構成するのは板鼻層と呼ばれる地層で、約800万年前に海岸に堆積した砂や礫からなる。そのほか、植物化石から形成された亜炭層、火山灰地層なども見受けられる。間仁田地域のローム層には断層や地割れ、地すべり、流動化現象などがみられ、数回にわたる地震活動がローム堆積以降に発生したと推定されている。宮久保遺跡・中遺跡でも地すべりや地割れが確認されており、当該地域に大きな自然災害が発生した

ことを裏付けるものである。なお、遺跡地の西約2kmには活断層の礫部断層が確認されている。

秋間丘陵と岩野谷丘陵の間には碓氷川と九十九川が東流し、流域には河岸段丘や河川低地が発達し、段丘は下位段丘、中位段丘、上位段丘が存在する。下位段丘は、河床から5～10mの比高で、碓氷川流域では礫部面が最も広く、その形成は1万5千年前頃と考えられている。中位段丘は、河床から20～40mの比高で、碓氷川左岸から九十九川南方にかけて発達している。この段丘の形成は15万年前頃と推定され、基盤層の第三紀層には砂礫層、粘土層、ローム層が堆積している。上位段丘は、河床から40～70mの比高で、松井田町行田から下間仁田にかけて広がっている。形成は25万年前頃と考えられており、基盤層を砂礫層、粘土層、ローム層の順に覆っている。上位段丘の縁辺部には多くの湧水点が確認されている。本遺跡地は上位段丘に位置している。



第6図 遺跡周辺の陰影図(電子国土web陰影起伏図を加工)

第2節 周辺遺跡の分布

本遺跡の調査によって確認された遺構は、縄文時代から古墳時代、中・近世が主である。本節では、周辺に広がる遺跡について概観する。

旧石器時代 注連引原Ⅱ遺跡(H)の濠から槍先形尖頭器、三本木Ⅱ遺跡(b)の表面採取遺物としてナイフ形石器、落合遺跡(a)から荒屋型彫器、中野台地上の中野松原遺跡(第7図範囲外)のAT下位の黒色帯からナイフ形石器及び石核が出土している。

縄文時代 中原遺跡(g)では早期押型文段階の遺物と前期前半の竪穴建物16棟・土坑30基などが検出された。大下原遺跡(J)からは前期(関山～諸磯b期)の竪穴建物16棟が、吉田原遺跡(L)では前期中葉(関山・神ノ木～黒浜・有尾期)の竪穴建物5棟・土坑11基・集石土坑2基などが調査された。山峰遺跡(A)からは前期中葉の竪穴建物1棟・前期後半(諸磯b期)の集石土坑・土坑などが、荒神平遺跡(V)からは中期の竪穴建物2棟、吹上遺跡(V)からは中期の竪穴建物4棟・配石墓1基・埋甕5基などが調査されている。上ノ久保遺跡(W)から竪穴建物3棟・土坑31基・埋設土器1基など、三本木Ⅱ遺跡(b)では前期前葉から後葉と中期初頭・後葉の竪穴建物52棟を中心とする集落跡、道前久保Ⅱ遺跡(Q)では前期から後期初頭にかけての竪穴建物15棟が検出された。大上遺跡(F)から中期の竪穴建物1棟と配石遺構1基、下原・賽神Ⅱ遺跡(M)で中期前半の竪穴建物1棟などが報告されている。

弥生時代 注連引原遺跡(G)では前期の竪穴建物1棟、注連引原Ⅱ遺跡(H)では前期から中期の竪穴建物2棟・掘立柱建物など、荒神平遺跡(V)からは後期の竪穴建物11棟が確認されている。吹上遺跡(V)では後期の竪穴建物21棟、諏訪ノ木遺跡(O)では樽式と吉ヶ谷系の土器が出土する集落から竪穴建物14棟、中原遺跡から中期前半の土坑が検出された。大下原遺跡(J)からは弥生後期(樽式期)の竪穴建物3棟、上ノ久保遺跡(W)から後期の竪穴建物2棟、下原・賽神遺跡(N)から後期の竪穴建物5

棟が確認されている。下原・賽神Ⅱ遺跡(M)から後期の竪穴建物1棟、下原遺跡(K)から弥生時代中期の遺物、山峰遺跡(A)から弥生時代後期の竪穴建物1棟、大上遺跡(F)から中期の竪穴建物4棟が確認又は調査されている。

古墳時代 荒神平遺跡(V)から竪穴建物20棟(うち前期3棟)、吹上遺跡(V)からは前期から後期までの竪穴建物48棟、上ノ久保遺跡(W)からは後期から終末期の竪穴建物21棟が検出された。野毛良遺跡(B)からは4世紀から7世紀までの竪穴建物7棟、諏訪ノ木遺跡(O)からは前期の竪穴建物14棟・中期後葉から後期の竪穴建物17棟と掘立柱建物1棟、田中田・久保田遺跡(第7図範囲外、JR磯部駅南2.5km)では9.4m×7.1mの方形周溝遺構1基、落合遺跡(a)からは終末期の古墳の一部が調査された。遺跡の南0.3kmにある経塚古墳(R)は5世紀前半の築造とされる円墳で、石製模造品が出土している。平塚遺跡(d)では終末期の古墳5基、古墳時代初頭の円形周溝遺構2基、下原・賽神遺跡(N)では中期から後期の竪穴建物7棟、下原・賽神Ⅱ遺跡(M)からは中期から後期の竪穴建物4棟が調査された。蔵畑遺跡(D)では前期の竪穴建物3棟・中期から後期の竪穴建物3棟、日向後原遺跡(P)では古墳1基が確認されている。

奈良・平安時代 大下原遺跡(J)からは、8世紀末から9世紀初頭の竪穴建物と掘立柱建物が1棟ずつ、道前久保Ⅱ遺跡(Q)からは竪穴建物14棟が検出された。荒神平遺跡(V)からは、竪穴建物7棟、吹上遺跡(V)からは、竪穴建物10棟・掘立柱建物3棟、三本木Ⅱ遺跡(b)では、竪穴建物2棟・掘立柱建物1棟・7世紀後半から8世紀初頭と推定される道路状遺構が、三本木Ⅲ遺跡(c)では8世紀から9世紀の竪穴建物21棟・掘立柱建物8棟が報告されている。日影遺跡(E)と大上遺跡(F)で東西方向に伸びる溝、注連引原Ⅱ遺跡(H)では大溝、下原・賽神遺跡(N)から竪穴建物4棟、下原・賽神Ⅱ遺跡(M)から竪穴建物5棟が検出されている。蔵畑Ⅱ遺跡(C)から9世紀後半から10世紀にかけての竪穴建物7棟、日向後原遺跡(P)から9世紀後半の竪穴建物1棟、桜林遺跡(X)から竪穴建物3棟と大溝1条が調査された。五ヶ遺跡(Y)から竪穴建物2棟、注連引原Ⅱ遺跡(H)から溝11

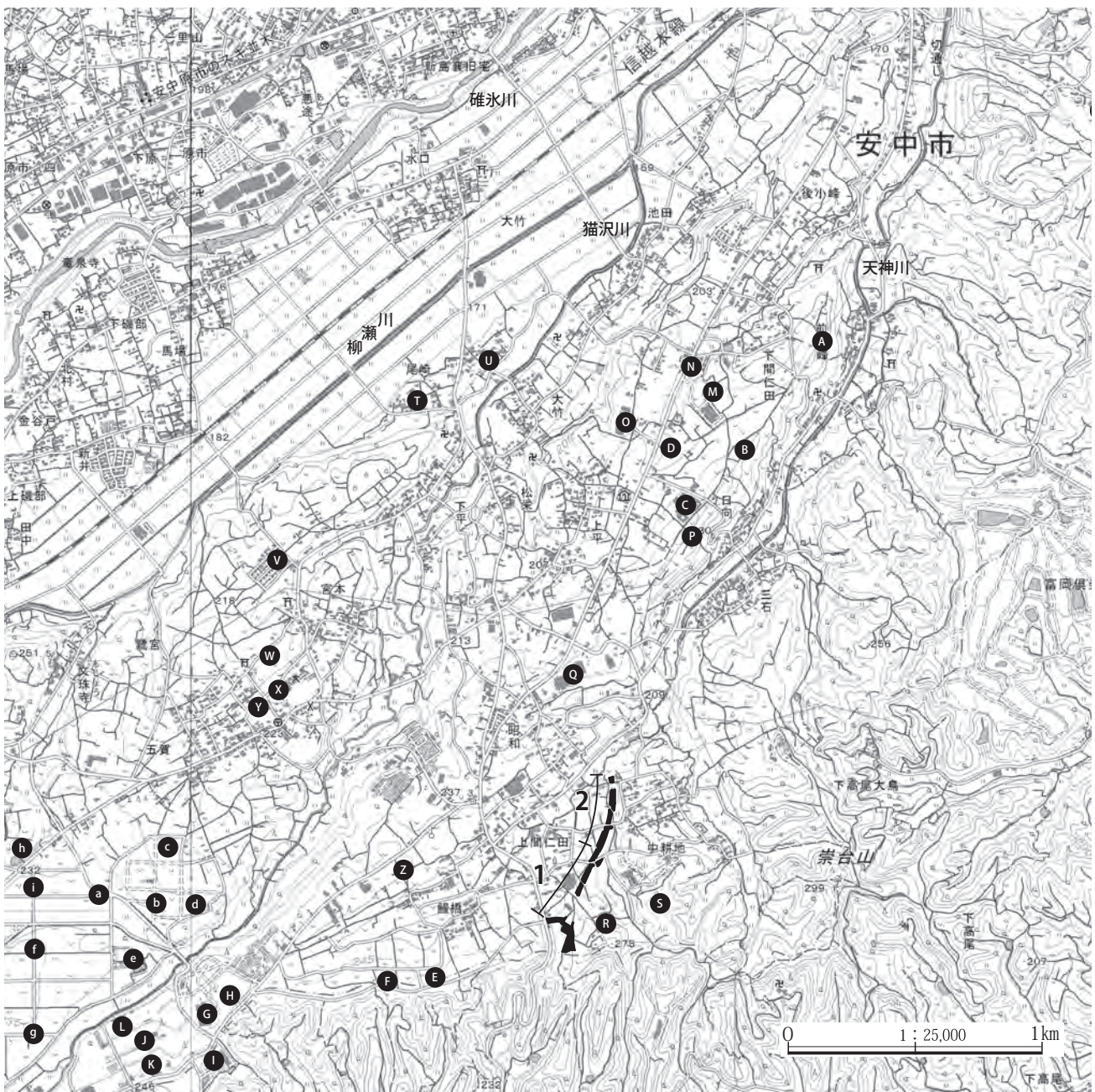
条とピット、上ノ久保遺跡(W)から8世紀後半から11世紀にかけての竪穴建物14棟、諏訪ノ木遺跡(O)のトレンチから内外面に「東」と書かれた墨書土器の出土などがある。また、横野台地一帯では古代の牧の存在が確認されている。

中・近世

古代には東山道、近世には中山道が通っていたため、安中市は関東と長野県を結ぶ交通の要衝であった。西原遺跡(Z)では中世の区画溝1条、桜林遺跡(X)では中・

近世の溝1条、上ノ久保遺跡(W)では100m間隔で平行する溝2条が検出された。上ノ久保遺跡の溝からは松鶴鏡が出土していることから中世の館と推定されている。本遺跡の東には永禄年間に築城された天王山城(S)が存在し、座光寺館址(T)や尾崎館址(U)には土居・二重堀が残っている。

三本木Ⅲ遺跡(c)ではAs-A直下の畑が、平塚遺跡(d)でもAs-A直下の畑が検出され、イネ(陸稲)が栽培されていたと考えられている。両遺跡からはAs-Aの復旧坑や灰掻き山も確認されている。



第7図 周辺の遺跡(国土地理院2万5千分の1地形図「高崎」を加工)

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1表 宮久保遺跡・中遺跡の周辺遺跡

※ △は遺物のみ

	遺跡名	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献
1	宮久保遺跡	○		○			○	○	本報告
2	中遺跡	○	○	○			○	○	本報告
A	山峰遺跡	○	○						安中市埋蔵文化財発掘調査団 1998『日向後原遺跡・野毛良遺跡・山峰遺跡』
B	野毛良遺跡	△		○					安中市埋蔵文化財発掘調査団 1998『日向後原遺跡・野毛良遺跡・山峰遺跡』
C	蔵畑Ⅱ遺跡					○			安中市埋蔵文化財発掘調査団 2006『蔵畑Ⅱ遺跡』
D	蔵畑遺跡			○					安中市埋蔵文化財発掘調査団 2005『蔵畑遺跡』
E	日影遺跡					○		○	安中市教育委員会 2003『大上原地区遺跡群』
F	大上遺跡	○	○	△		○			安中市教育委員会 2003『大上原地区遺跡群』
G	注連引原遺跡	○	○						安中市教育委員会 1987『注連引原遺跡』
H	注連引原Ⅱ遺跡	○	○	○	○	○			安中市教育委員会 2003『大上原地区遺跡群』
I	注連引原南遺跡		△						安中市 2001『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』
J	大下原遺跡	○	○		○	○			安中市教育委員会 1993『大下原遺跡・吉田原遺跡』
K	下原遺跡		△						
L	吉田原遺跡	○							安中市教育委員会 1993『大下原遺跡・吉田原遺跡』
M	下原・賽神Ⅱ遺跡	○	○	○		○			安中市埋蔵文化財発掘調査団 2011『下原・賽神遺跡Ⅱ』
N	下原・賽神遺跡		○	○		○			安中市埋蔵文化財発掘調査団 2005『下原・賽神遺跡』
O	諏訪ノ木遺跡		○	○		△			安中市埋蔵文化財発掘調査団 2005『諏訪ノ木遺跡』
P	日向後原遺跡	○		○		○			安中市埋蔵文化財発掘調査団 1998『日向後原遺跡・野毛良遺跡・山峰遺跡』
Q	道前久保・同Ⅱ遺跡	○			○	○			安中市埋蔵文化財発掘調査団 2009『道前久保Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
R	経塚古墳			○					安中市 2001『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』
S	天王山城						○		
T	座光寺館址						○		安中市 2001『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』
U	尾崎館址						○		安中市 2001『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』
V	荒神平・吹上遺跡	○	○	○	○	○			安中市教育委員会 1995『荒神平・吹上遺跡』
W	上ノ久保遺跡	○	○	○	○	○	○		安中市教育委員会 1998『上ノ久保遺跡 桜林遺跡・五ヶ遺跡』
X	桜林遺跡					○	○	○	安中市教育委員会 1998『上ノ久保遺跡 桜林遺跡・五ヶ遺跡』
Y	五ヶ遺跡					○			安中市教育委員会 1998『上ノ久保遺跡 桜林遺跡・五ヶ遺跡』
Z	西原遺跡	○					○		安中市教育委員会 2010『西原遺跡』
a	落合遺跡	△	△	○	○	○			安中市教育委員会 安中市建設部 1990『三本木遺跡・落合遺跡』
b	三本木Ⅱ遺跡	○			○	○	○		安中市教育委員会 1996 落合Ⅱ遺跡・平塚遺跡 三本木Ⅱ遺跡・三本木Ⅲ遺跡 2016 『落合Ⅱ遺跡2・平塚遺跡2 三本木Ⅱ遺跡2・三本木Ⅲ遺跡2』
c	三本木Ⅲ遺跡	△			○	○	○	○	安中市教育委員会 1996 落合Ⅱ遺跡・平塚遺跡 三本木Ⅱ遺跡・三本木Ⅲ遺跡 2016 『落合Ⅱ遺跡2・平塚遺跡2 三本木Ⅱ遺跡2・三本木Ⅲ遺跡2』
d	平塚遺跡	△		○	○		○		安中市教育委員会 1996 落合Ⅱ遺跡・平塚遺跡 三本木Ⅱ遺跡・三本木Ⅲ遺跡 2016 『落合Ⅱ遺跡2・平塚遺跡2 三本木Ⅱ遺跡2・三本木Ⅲ遺跡2』
e	落合原遺跡	○							安中市教育委員会 1990『中野谷地区遺跡群発掘調査概報1』
f	北下原遺跡	○			○	○			安中市教育委員会 1990『中野谷地区遺跡群発掘調査概報1』
g	中原遺跡	○	△	○	○	○	○		安中市教育委員会 1994『中野谷地区遺跡群』
h	北東・堤下遺跡	○		○	○				安中市教育委員会 1993『中野谷地区遺跡群発掘調査概報4』
i	下塚田遺跡	○		○	○	○			安中市教育委員会 1990『中野谷地区遺跡群発掘調査概報1』

第3節 基本土層

宮久保遺跡 A 区南端から中遺跡 4 区北端までの距離は約730m、比高は約30mある。途中には地すべり跡や谷が含まれるため、遺跡全体の基本土層を一つにまとめて扱うことは困難である。よって、各調査区の代表的な土層と遺構確認面を記すこととするが、As-Bが良好に堆積している層には網掛をして表した。

(1) 宮久保遺跡の土層(第8図)

A区 I層はAs-Aを中量含む現耕作土である。部分的にはAs-Bの2次堆積(II層)が認められる。III層上面とIV層のローム漸移層上面で遺構確認をおこなった。漸移層以下には、ロームが約3m堆積している。A区では山崩れ跡は確認されていない。

B区 調査区北壁では、表土下のII・III層にはAs-Aが含まれ、IV層はAs-Bの2次堆積層である。As-Cを微量に含むV層と、VI層のにぶい黄橙色土は地すべりによる起因の可能性がある。その下位には、VII層の暗赤灰色土、さらに自然堆積のロームを確認した。遺構確認は原則としてVI層下面で行った。

C区 I層はAs-Aを中量含む現耕作土である。II層はAs-Bを少量含む灰黄褐色土、III層はロームで地すべりによる堆積の可能性がある。IV層は黒褐色土で、V層ローム漸移層上面で遺構確認を行った。VI層は褐鉄沈着層と間層が縞状に堆積し、VII・VIII層は粘土である。

D区 I層とII層はAs-Aを、III層とIV層はAs-Bを含んでいる。V層はAs-Bの純層で桃色の火山灰層を含んでいる。VI層とVII層は、ロームが堆積しているが、地すべりによるものと考えられる。VIII層はAs-Cを含む黒色土、IX層は黒褐色の粘質土、X層・XI層は、褐鉄粒を含む褐色土、黒色土が堆積している。XII層は明黄褐色のロームである。遺構確認はII層およびV層下面で行った。

E区 I層は耕作土、II・III層にはAs-Aが含まれている。III層は褐色の砂質土、IV層は黒褐色土の砂質土でIII層上

面が遺構確認面である。

F区 I層は表土で調査区南側では比較的厚く堆積している。この層の下面を第1面として調査した。II層は地すべりによるロームで、層序を保ちながらすべってきた様子がうかがえる。III層は黒褐色土、IV層は暗褐色土であり、それぞれの上面を3面、4面として遺構を確認した。V層は暗褐色土、VI層は暗黄褐色土でそれぞれにAs-YPを含んでいる。VII層は自然堆積のロームである。

G区 I層の褐灰色土と、II層の暗褐色土にはAs-Aを含んでいる。III層は鉄分を帯びた砂質土で、この層の上面を第1面として調査した。IV層はAs-Kk、V層はAs-B、VI層は黒褐色土で、VI層上面を第2面とした。

(2) 中遺跡の土層(第9図)

1区 I層は表土、II層のAs-Aは、調査区全域ではなく、部分的に残っている。III層は黒褐色土、IV層はロームでこの層の上面を第1面として調査した。

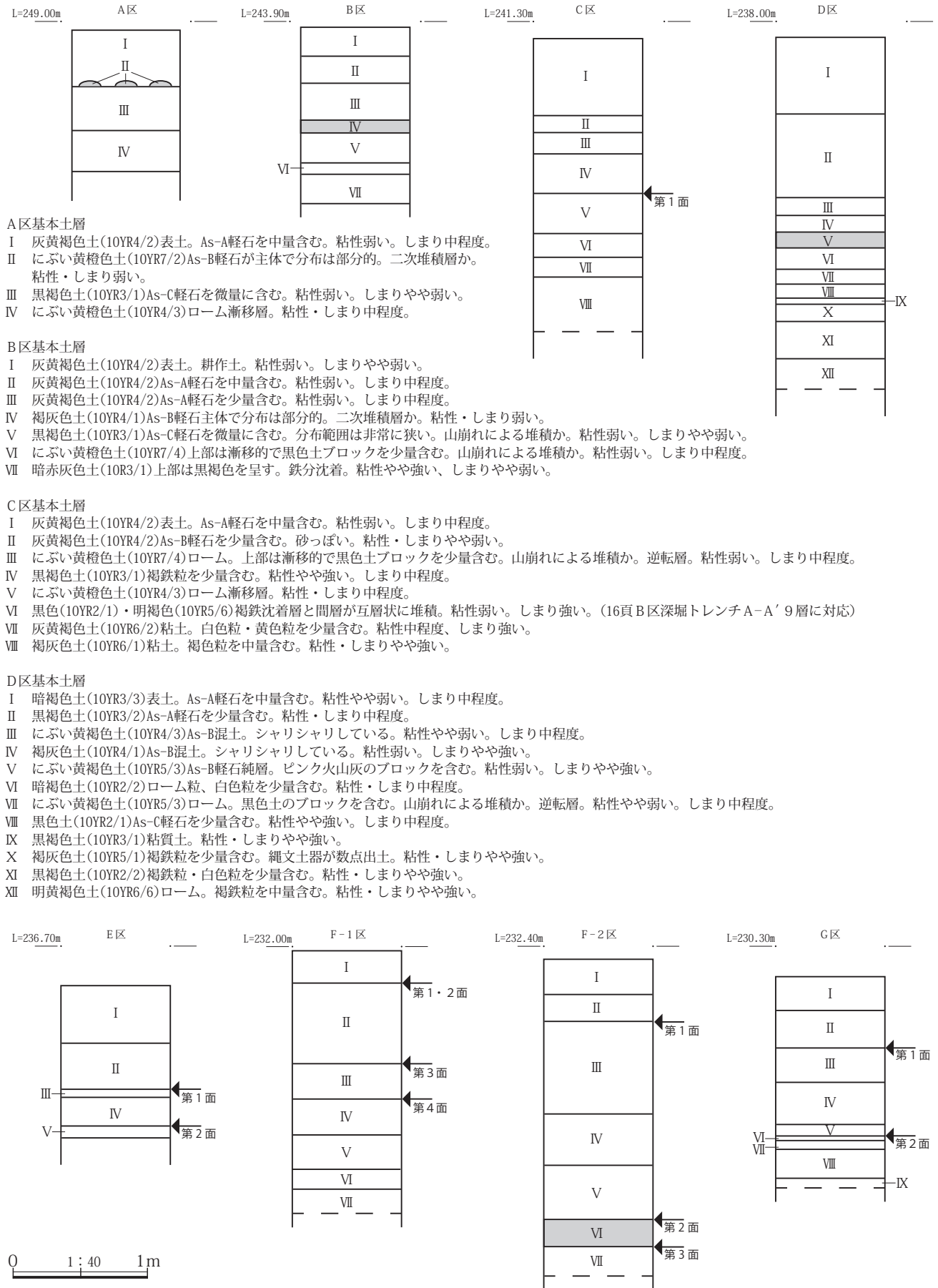
2区 I層は表土でAs-Aが混入している。II層は明褐色土、III層は黒褐色土、IV層は褐色土でこの層の下を第1面とした。V層は黒褐色土、VI層に地すべりと考えられるロームが堆積している。VII層は黒褐色土、VIII層はロームである。

3区 I層は表土、II層はAs-Bを含む黒色土、III層はAs-Bである。この下面を第1面とし、水田を想定して調査した。IV層は黒色粘土層、V層は暗褐色粘土層、VI層は礫層である。

4区 I層は表土、II層はAs-Aを含む黒褐色砂質土、III層はAs-Bを含む黒褐色土である。IV層はAs-Bでこの下面を第1面とした。V層は黒色粘質土、VI層は褐色粘質土である。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

宮久保遺跡 基本土層



第8図 宮久保遺跡 基本土層図

E区基本土層

- I 攪乱。
- II As-Aを50%程含む。As-A混土。
- III As-A。
- IV 黒褐色土(2.5Y3/2)天明時の耕作面。砂質。極小粒。粘性なし、しまり強い。
- V 黒褐色土(10YR2/2)砂質。極小粒。粘性弱い。しまりあり。

F-1区基本土層

- I 表土。
- II 山崩れによるローム(BP→MP)。
- III 黒褐色土。
- IV 暗褐色土。
- V 暗褐色土 As-YPを僅かに含む。
- VI 暗黄褐色土 As-YPを少量含む。ローム漸移層。
- VII ローム土。

F-2区基本土層

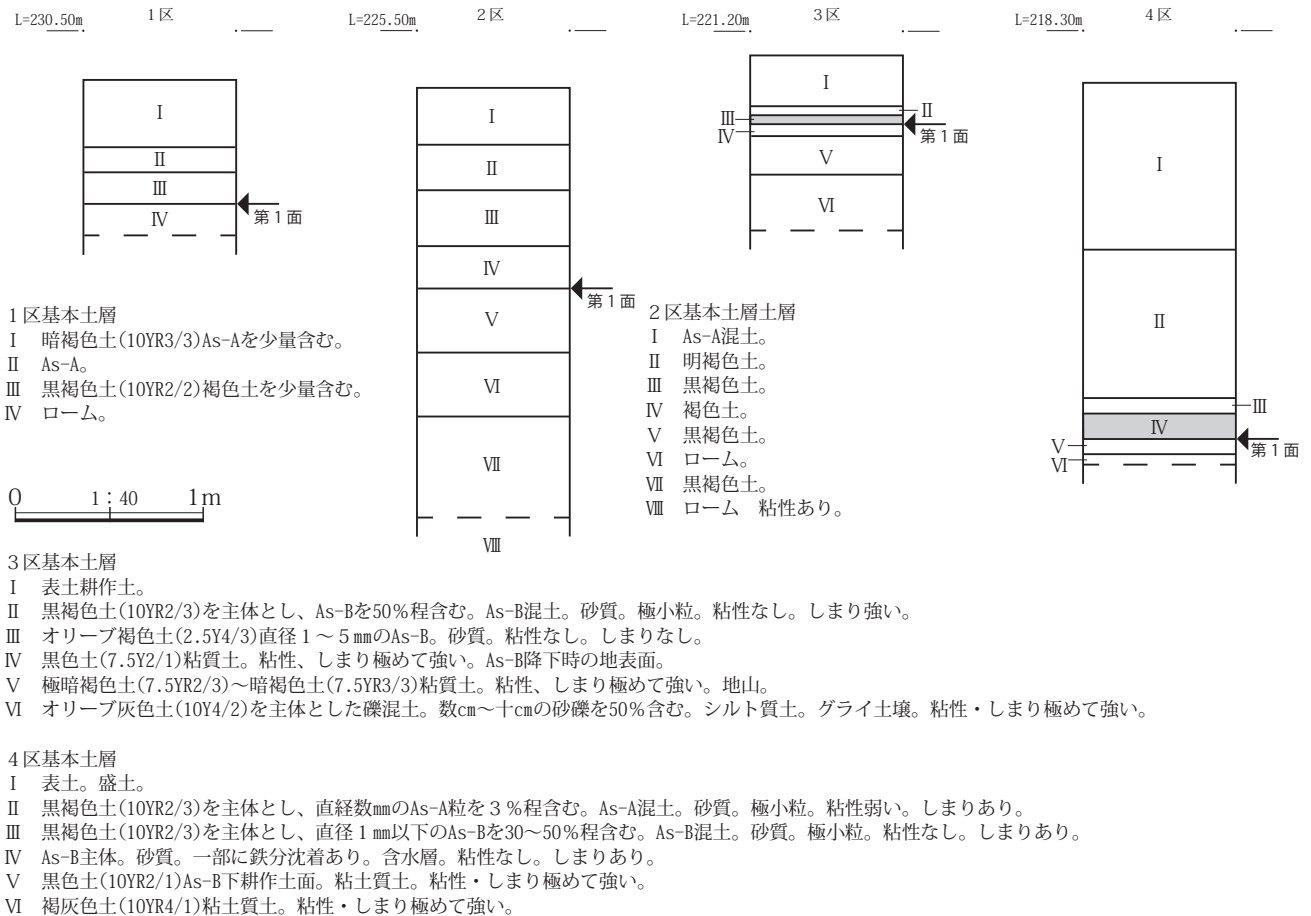
- I 褐灰色土 表土。
- II 黄褐色土 As-Aを多量に含む。
- III 黒褐色土 やや鉄分を帯びる。やや砂質。
- IV 黒褐色土 As-Bを含む。
- V 黒褐色土 As-Bを含む。
- VI As-B。
- VII 黒褐色土。

G区基本土層

- I 褐灰色土(10YR6/1)表土。やや砂質。As-Aを僅かに含む。
- II 暗褐色土(10YR3/3)As-Aを少量含む。
- III 暗褐色土(10YR3/4)やや鉄分を帯びる。やや砂質。
- IV 黒色土 砂質。
- V 黒褐色土(10YR2/2)白色粒子を少量含む。
- VI 宮久保テフラ1 (Mk-2)。
- VII 宮久保テフラ2 (Mk-1)。
- VIII As-Kk。
- IX As-B。

※宮久保テフラについては、第5章第2節を参照。

中遺跡 基本土層



第9図 中遺跡 基本土層図

第3章 宮久保遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要

令和2年度にA～D区を、令和4年度にE～G区の調査を実施した。確認された遺構は、古墳時代の竪穴建物1棟、井戸1基、土坑・復旧坑34基、ピット29基、溝11条、埋甕1基、焼土1か所、遺物集中2か所である。宮久保遺跡の遺構名称は、A区1号土坑のように区名・遺構番号・遺構名称で表記している。各調査区の概要を以下に述べる。

A区の概要

A区は、As-Aを含む表土を掘削し、基本土層Ⅲ上面を第1面、ローム漸移層上面を第2面として実施した。調査区のほぼ中央X=32,500～32,540にかけては谷部となり、その南側と東側は表土が非常に浅くなっている。確認された遺構は、中・近世の土坑・復旧坑30基、溝1条である。調査時に復旧坑と称した遺構について、掘削方向や埋没土について検討をしたところ、土坑である可能性が高いと結論付けた。なお、遺構名称については混乱を避けるために調査時の名称をそのまま使用している。

B区の概要

B区は、山崩れによると考えられる、にぶい黄褐色土下の暗赤灰色土下面を第1面として調査を行った。調査区南側は表土を除去するとロームが露出する状況である。この調査区では、遺構を確認することができなかった。

C区の概要

C区は、山崩れによると考えられる、にぶい黄褐色土下の黒褐色土を除去し、ローム漸移層上面を第1面として調査を行った。山崩れのロームはB区から連続しているものであると考えられる。この調査区でも、遺構を確認することはできなかった。

D区の概要

D区は、基本土層Ⅳ層下を第1面として調査した。調査区西側の低地部ではAs-Bが堆積していたため、これを除去して遺構確認を行った。その結果、中・近世の土坑16基、溝5条を検出した。

その後、調査区中央に幅2.5m～5mのトレンチを設定して遺構確認調査を行った。As-YPやAs-BPを含むローム層の山崩れ(地すべりか)層の下から、As-Cが混入した黒色土層を確認した。この層をさらに掘り下げたが、遺構は確認できなかった。

E区の概要

E区は、調査区の南側と北側の比高が約4mである。そのため、地点によって土層の様相が異なる。As-Aを含む層を除去したⅣ層上面を第1面、Ⅳ層下面を第2面として調査を行った。第1面ではAs-Aがよく残っている部分や耕作痕のような落ち込みも見られたが、遺構と判断するには至らなかった。調査区全体に攪乱が多く、確認した遺構はピット3基である。遺構に伴う遺物は出土していない。

F区の概要

F区は、F-1区とF-2区に分けて調査を行った。F-1区は、地すべりに伴うローム層の上の第1面・第2面と、下の第3面・第4面・包含層の調査を実施した。ローム上にはほとんど遺構がなく、中・近世の焼土1か所、溝2条、地すべりにより出土地点に移動したと考えられる縄文時代の遺物集中1か所である。ローム下からは、古墳時代の竪穴建物1棟、古墳時代以前の土坑2基、ピット24基、焼土1か所、縄文時代の埋甕1基のほか、遺物集中より縄文時代早期から古墳時代中期にかけての遺物が多数出土している。

F-2区は、基本土層Ⅱ層下を第1面、第Ⅴ層下を第2面、As-B下を第3面として調査した。第1面では遺構は確認できなかったが、第2面、第3面では中・近世の溝をそれぞれ1条ずつ検出した。

G区の概要

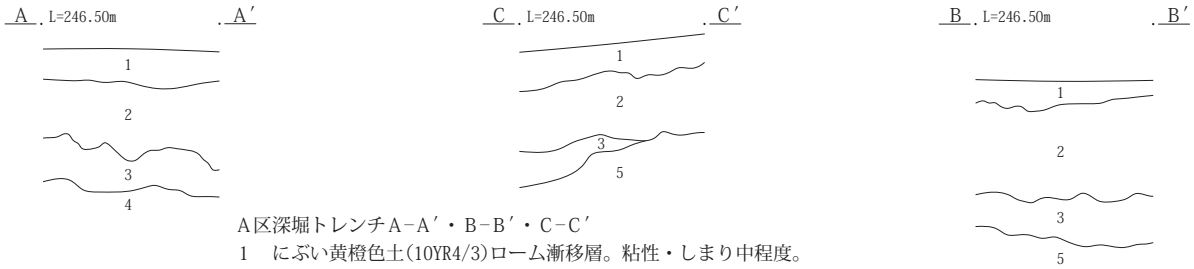
G区は、As-Aを含む基本土層Ⅱ層下面を第1面、As-B下を第2面として調査を行った。第1面で確認した遺構は、中・近世の井戸1基、溝1条である。第2面はAs-Bの堆積を確認したため、水田を想定した調査を行ったが遺構は検出されなかった。



第10図 宮久保遺跡 A区～D区遺構全体図とポイント位置図

第3章 宮久保遺跡の遺構と遺物

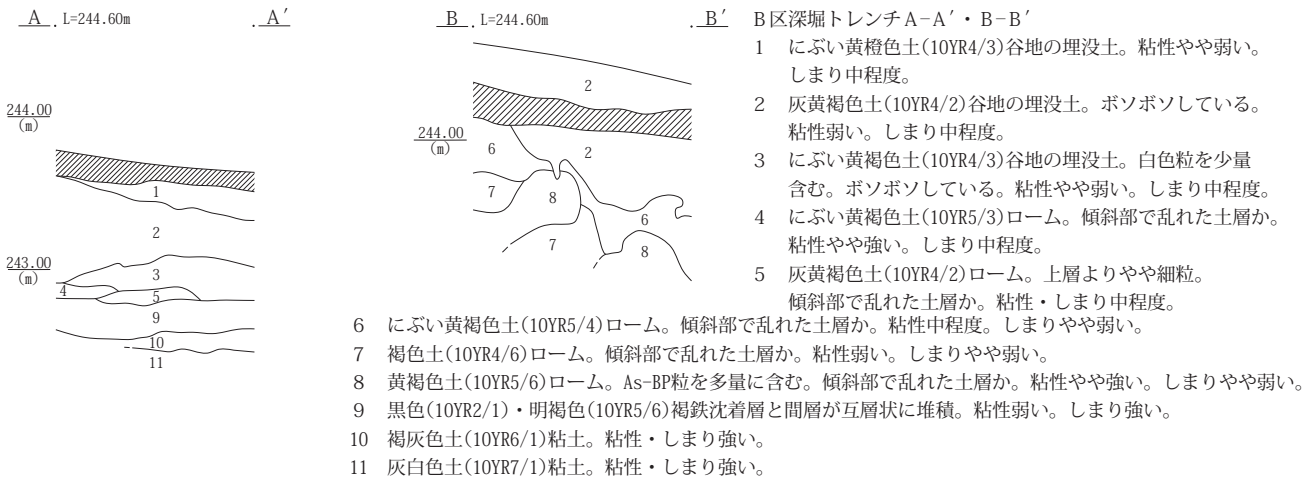
A区 深堀トレンチ



A区深堀トレンチA-A'・B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄橙色土(10YR4/3)ローム漸移層。粘性・しまり中程度。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)As-YP軽石粒を少量含む。谷地の埋没土。粘性・しまり中程度。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)As-YP軽石粒を少量含む。谷地の埋没土。粘性・しまり中程度。
- 4 浅黄橙色土(10YR8/3)As-YP軽石ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 5 にぶい黄橙色土(10YR6/4)ローム。As-OK相当か。粘性やや強い。しまり中程度。

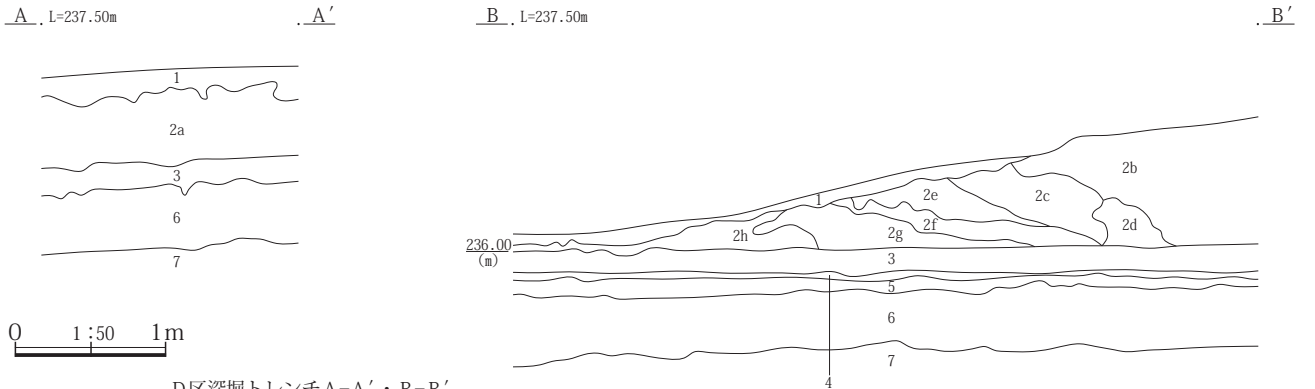
B区 深堀トレンチ



B区深堀トレンチA-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)谷地の埋没土。粘性やや弱い。しまり中程度。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)谷地の埋没土。ボソボソしている。粘性弱い。しまり中程度。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)谷地の埋没土。白色粒を少量含む。ボソボソしている。粘性やや弱い。しまり中程度。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム。傾斜部で乱れた土層か。粘性やや強い。しまり中程度。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム。上層よりやや細粒。傾斜部で乱れた土層か。粘性・しまり中程度。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム。傾斜部で乱れた土層か。粘性中程度。しまりやや弱い。
- 7 褐色土(10YR4/6)ローム。傾斜部で乱れた土層か。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 8 黄褐色土(10YR5/6)ローム。As-BP粒を多量に含む。傾斜部で乱れた土層か。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 9 黒色(10YR2/1)・明褐色(10YR5/6)褐鉄沈着層と間層が互層状に堆積。粘性弱い。しまり強い。
- 10 褐灰色土(10YR6/1)粘土。粘性・しまり強い。
- 11 灰白色土(10YR7/1)粘土。粘性・しまり強い。

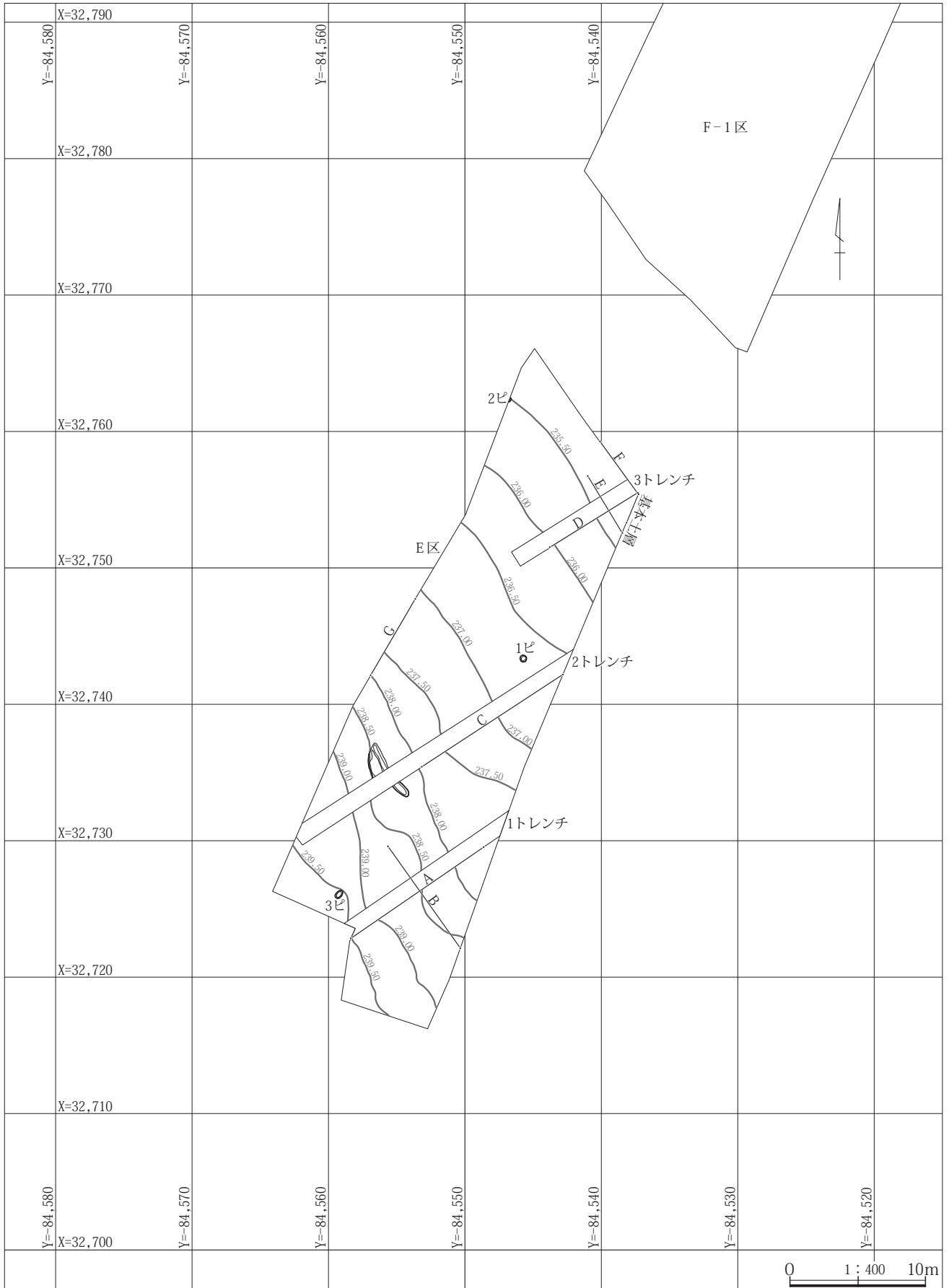
D区 深堀トレンチ



D区深堀トレンチA-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR2/2)ローム粒、白色粒を少量含む。粘性・しまり中程度。
- 2a 明黄褐色土(10YR6/6)ローム。As-YP粒を少量含む。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2b にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム。As-YP粒を多量に含む。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2c 明黄褐色土(10YR6/6)ローム。As-BP粒を少量含む。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2d 明黄褐色土(10YR6/6)ローム。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2e にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2f 明黄褐色土(10YR6/6)ローム。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2g にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性・しまり中程度。
- 2h にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム。黒色土のブロックを含む。山崩れによる堆積か。逆転層。粘性やや弱い。しまり中程度。
- 3 黒色土(10YR2/1)As-C軽石を少量含む。粘性やや強い。しまり中程度。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)粘質土。粘性・しまりやや強い。
- 5 褐灰色土(10YR5/1)褐鉄粒を少量含む。縄文土器が数点出土。粘性・しまりやや強い。
- 6 黒褐色土(10YR2/2)褐鉄粒・白色粒を少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 7 明黄褐色土(10YR6/6)ローム。褐鉄粒を中量含む。粘性・しまりやや強い。

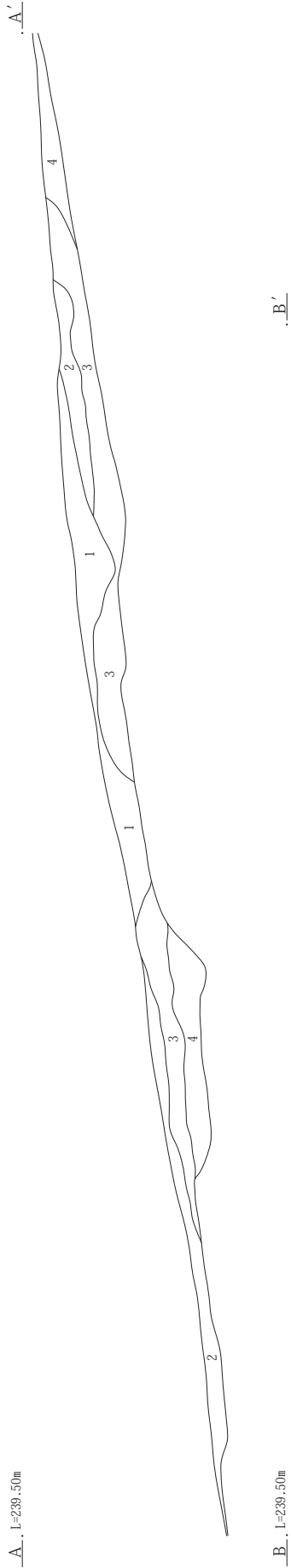
第11図 宮久保遺跡 A区、B区、D区深堀トレンチ土層断面図



第12図 宮久保遺跡 E区遺構全体図とポイント位置図

E区 1号トレンチ

A, L=239, 50m



B, L=239, 50m

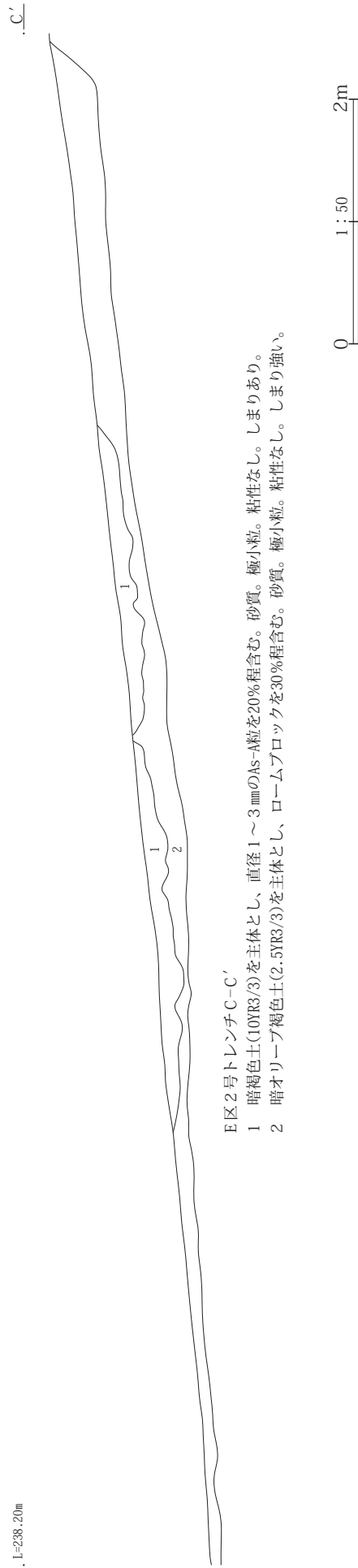


E区1号トレンチA-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)を主体とし、As-Bを50%程含む。As-B混土。砂質。極小粒。
- 2 にぶい褐色土(7.5YR6/4)直径2～4mmの軽石粒を含む。As-B。砂質。極小粒。
- 3 黒色土(10YR2/1)直径5cm程のロームブロックを1%程含む。砂質。極小粒。粘性あり。しまり強い。
- 4 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)を主体とする。砂質。極小粒。

E区 2号トレンチ

C, L=238, 20m

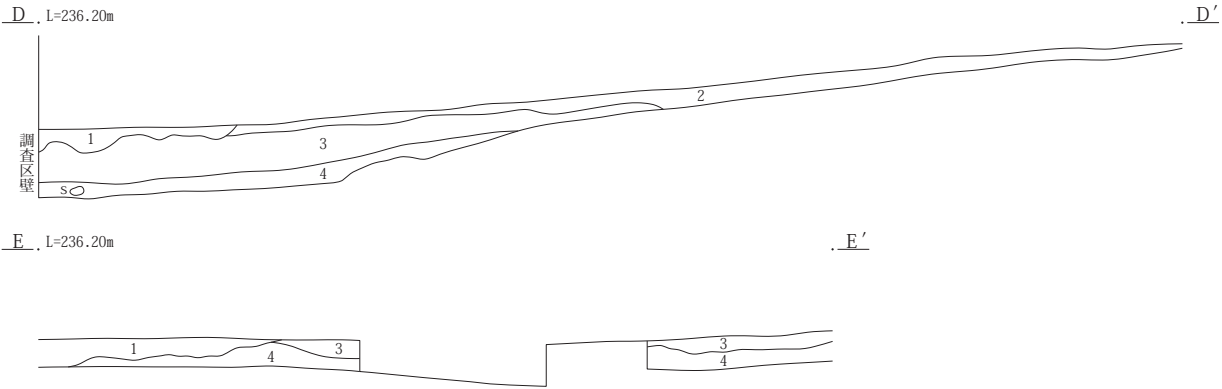


E区2号トレンチC-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)を主体とし、直径1～3mmのAs-A粒を20%程含む。砂質。極小粒。粘性なし。しまりあり。
- 2 暗オリーブ褐色土(2.5YR3/3)を主体とし、ロームブロックを30%程含む。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。

第13図 宮久保遺跡 E区トレンチ土層断面図(1)

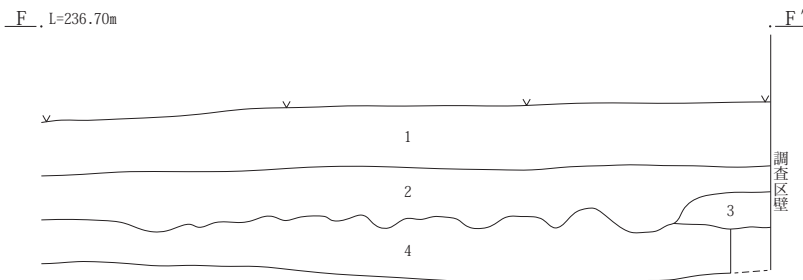
E区 3号トレンチ



E区3号トレンチD-D'・E-E'

- 1 にぶい黄橙色土(10YR7/3)直径3～5mmのAs-A層。砂質。軽石粒。粘性・しまりなし。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)を主体とし直径1～3mmのAs-Aを50%程含む。As-A混土。砂質。極小粒。
- 3 褐色土(10YR4/4)天明3年表土層。砂質。極小粒。粘性なし。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)砂質。極小粒。粘性弱い。しまりあり。

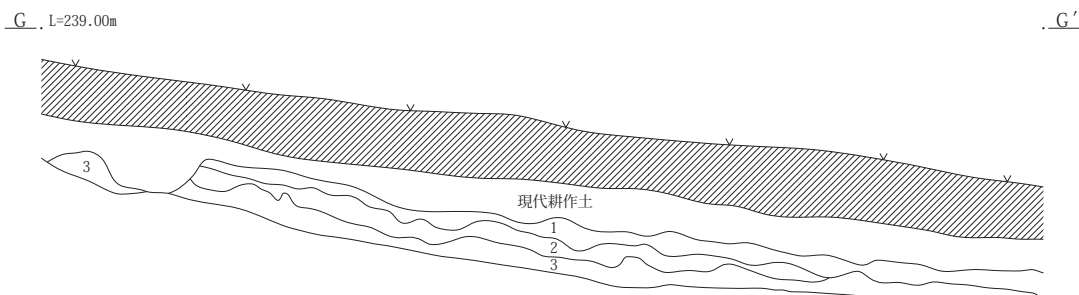
E区 北壁



E区北壁セクションF-F'

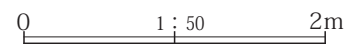
- 1 耕作土。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)を主体とし、As-Aを2%、直径1～数cmのローム粒を5%程含む。As-A混土。砂質。極小粒。粘性なし。しまりあり。
- 3 浅黄橙色土(10YR8/3)直径1～5mmのAs-A。粘性・しまりなし。
- 4 褐色土(10YR4/4)を主体とし、直径1mmの明黄褐色土粒(10YR6/8)を1%含む。地山(天明地表面)。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。

E区 西壁

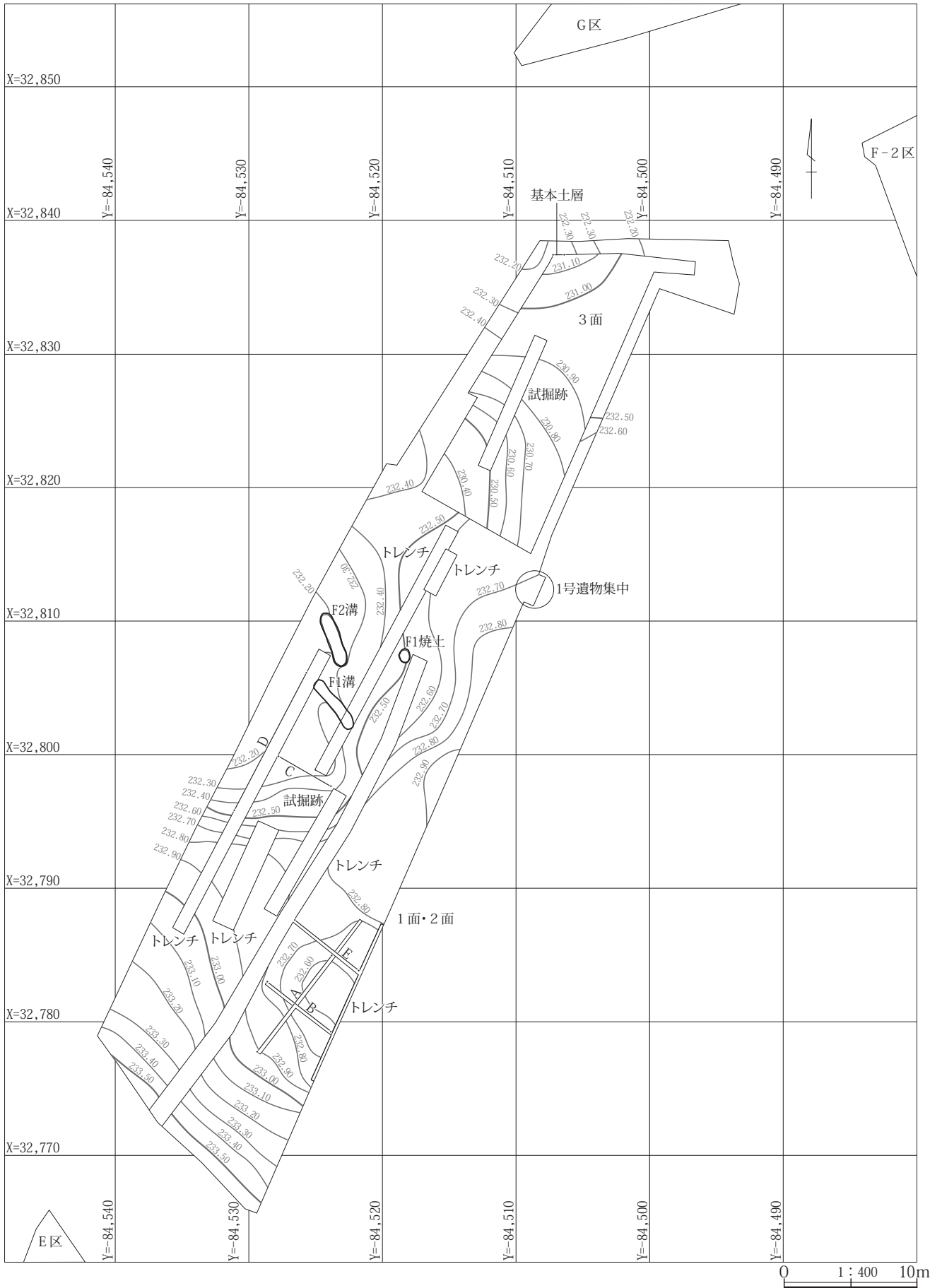


E区西壁セクションG-G'

- 1 暗褐色土(10YR3/4)極小粒を主体とし、直径5mm程のAs-A粒を50%程含む。As-A混土。砂質。粘性なし。しまり強い。
- 2 浅黄橙色土(10YR8/3)直径1～5mmのAs-A。粘性・しまりなし。
- 3 褐色土(10YR4/4)直径1mm程の明黄褐色粒(10YR6/8)を1%ほど含む。(天明表土)。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。

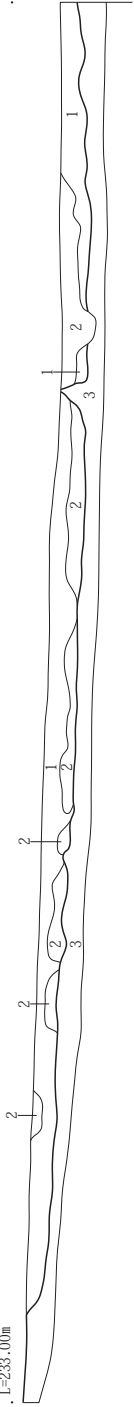


第14図 宮久保遺跡 E区トレンチ土層断面図(2)



第15図 宮久保遺跡 F-1区1面～3面遺構全体図とポイント位置図

A. L=233.00m .A'



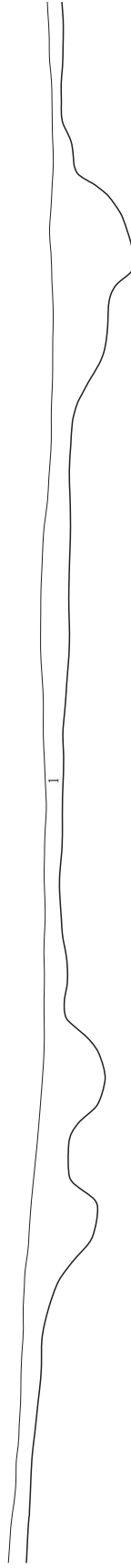
B. L=233.00m .B'



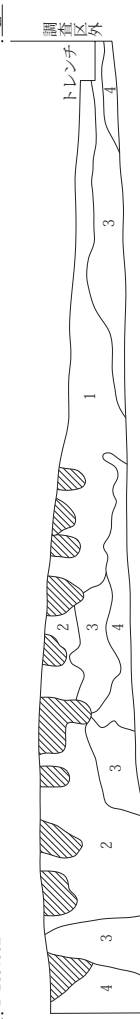
C. L=233.00m .C'



D. L=233.00m .D'



E. L=233.00m .E'



F-1区東トレンチ A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/4)極小粒を主体とし、直径5mm程のAs-Bを50%程含む。As-B混土。砂質。粘性なし。しまりあり。
- 2 明黄褐色土(10YR7/6)直径1~5mmのAs-B。粘性・しまりなし。
- 3 黒褐色土(10YR2/3)砂質。極小粒。粘性あり。しまり強い。

F-1区2面トレンチ C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)を主体とし、As-B粒を10%程含む。As-B混土。砂質。粘性・しまりあり。

F-1区トレンチ E-E'

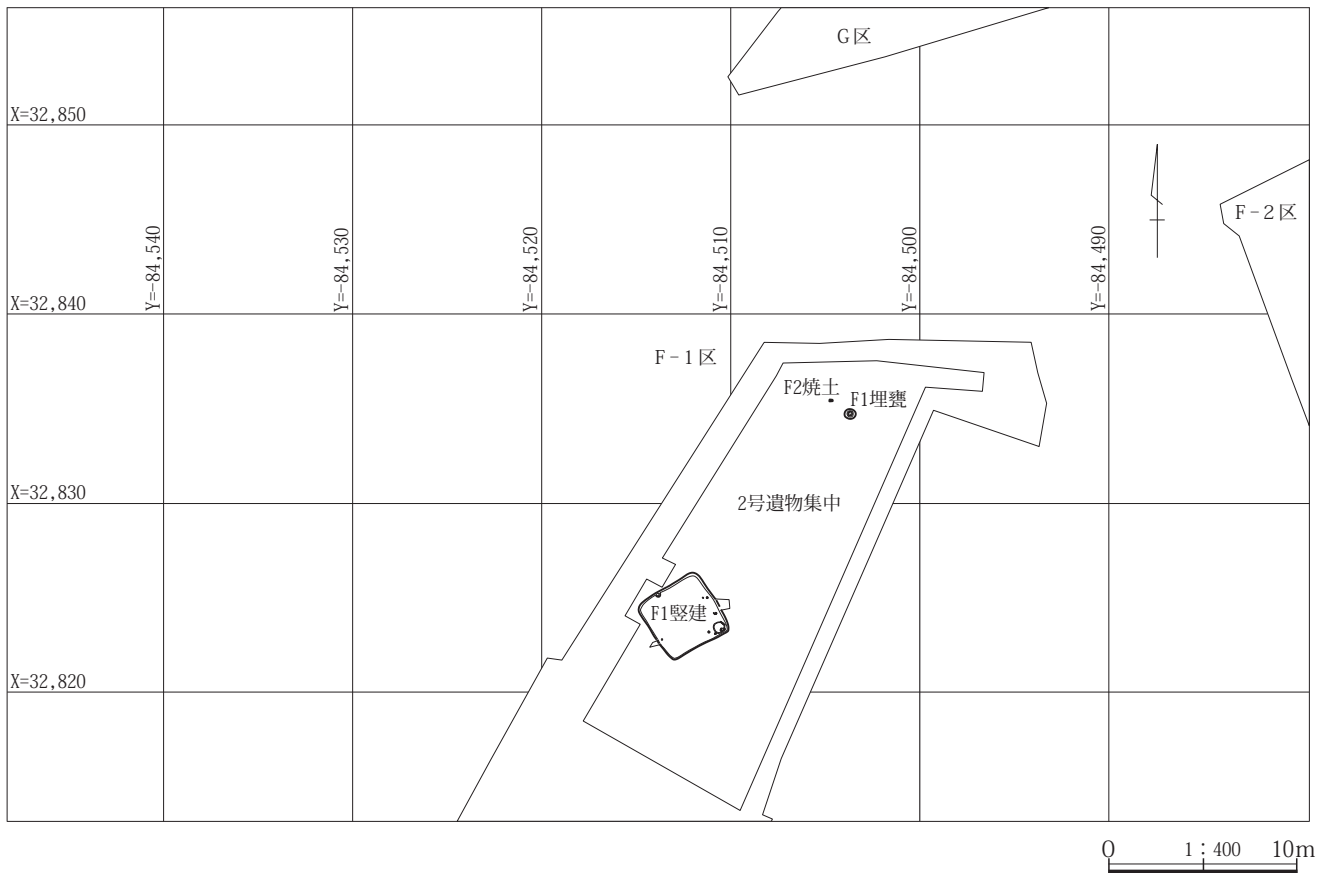
- 1 黒色土(10YR2/1)As-B軽石粒を10%程、直径1~5mm程の明黄褐色粒(10YR6/8)を含む。As-B混土。砂質。極小粒。粘性弱い。しまりあり。
- 2 黒色土(10YR2/1)砂質。極小粒。粘性・しまり強い。
- 3 褐色土(10YR4/4)砂質。極小粒。粘性・しまりあり。
- 4 明黄褐色土(2.5Y7/6)ローム層。シルト質。



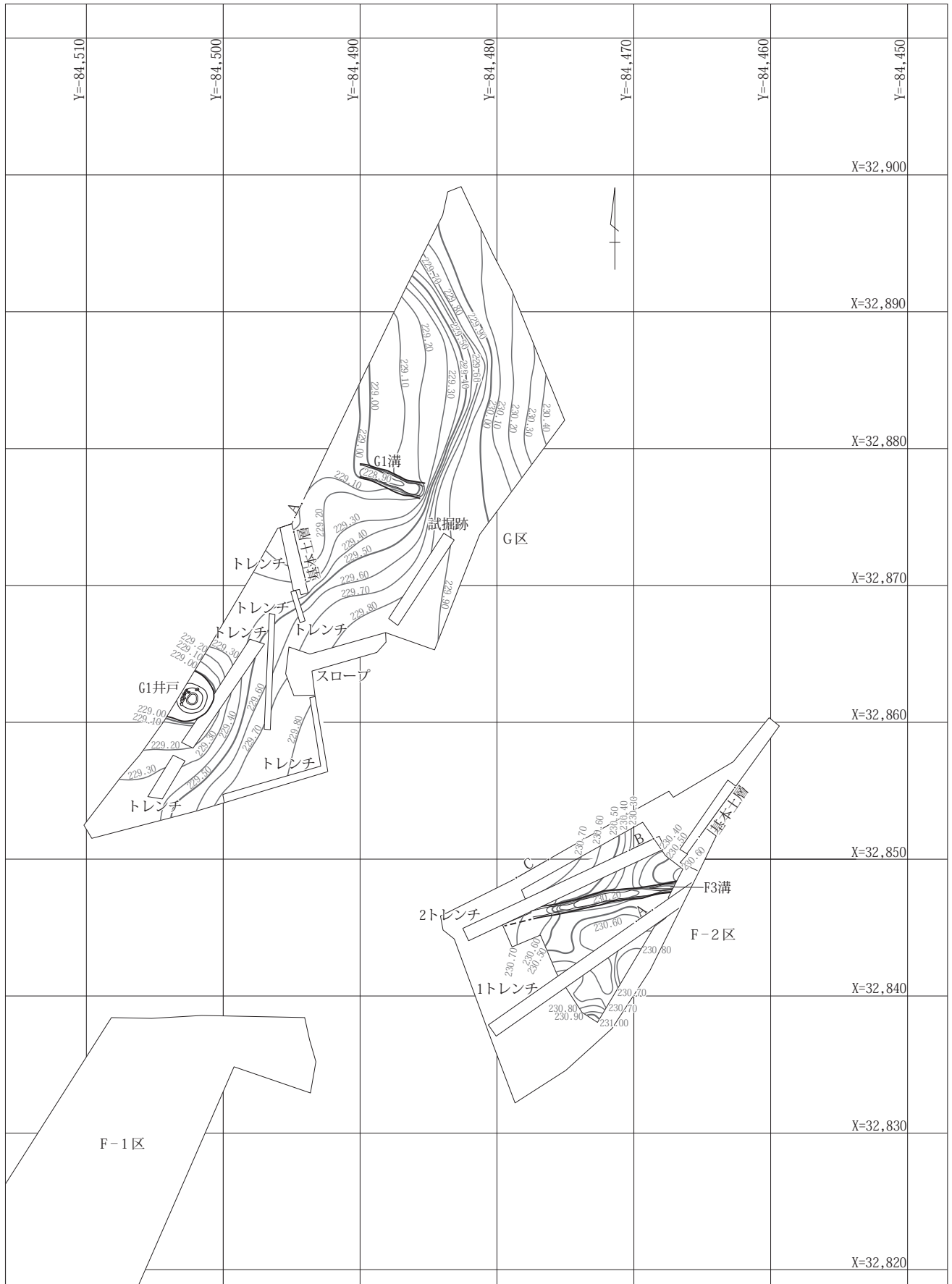
第16図 宮久保遺跡 F-1区トレンチ土層断面図



第17図 宮久保遺跡 F-1区 4面遺構全体図



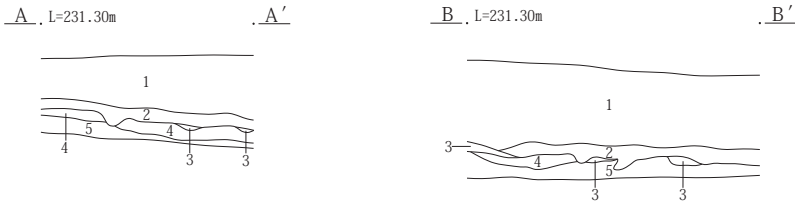
第18図 宮久保遺跡 F-1区 5面遺構全体図



第19図 宮久保遺跡 F-2区2面・G区遺構全体図

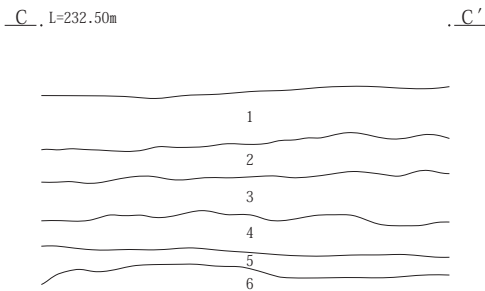
第3章 宮久保遺跡の遺構と遺物

F-2区 1号トレンチ・2号トレンチ



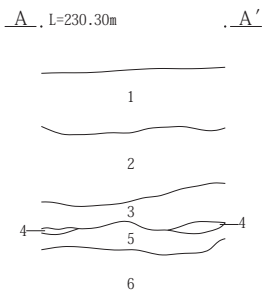
- F-2区1号トレンチA-A'・2号トレンチB-B'
- 1 褐灰色土(10YR4/1)褐色土を少量含む。やや砂質。
 - 2 褐色土(10YR4/4)As-Aを多量に含む。
 - 3 As-A
 - 4 黒褐色土(10YR3/2)白色粒子を僅かに含む。
 - 5 黒色土(10YR2/1)白色粒子を少量含む。

F-2区 北壁

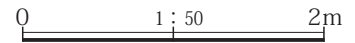


- F-2区北壁C-C'
- 1 褐灰色土 表土(基本土層I層)
 - 2 黄褐色土 As-Aを多量に含む。(基本土層II層)
 - 3 黒褐色土 やや鉄分を帯びる。やや砂質。(基本土層III層)
 - 4 黒褐色土 As-Bを含む。(基本土層IV層)
 - 5 黒褐色土 As-Bを含む。(基本土層V層)
 - 6 As-B(基本土層VI層)

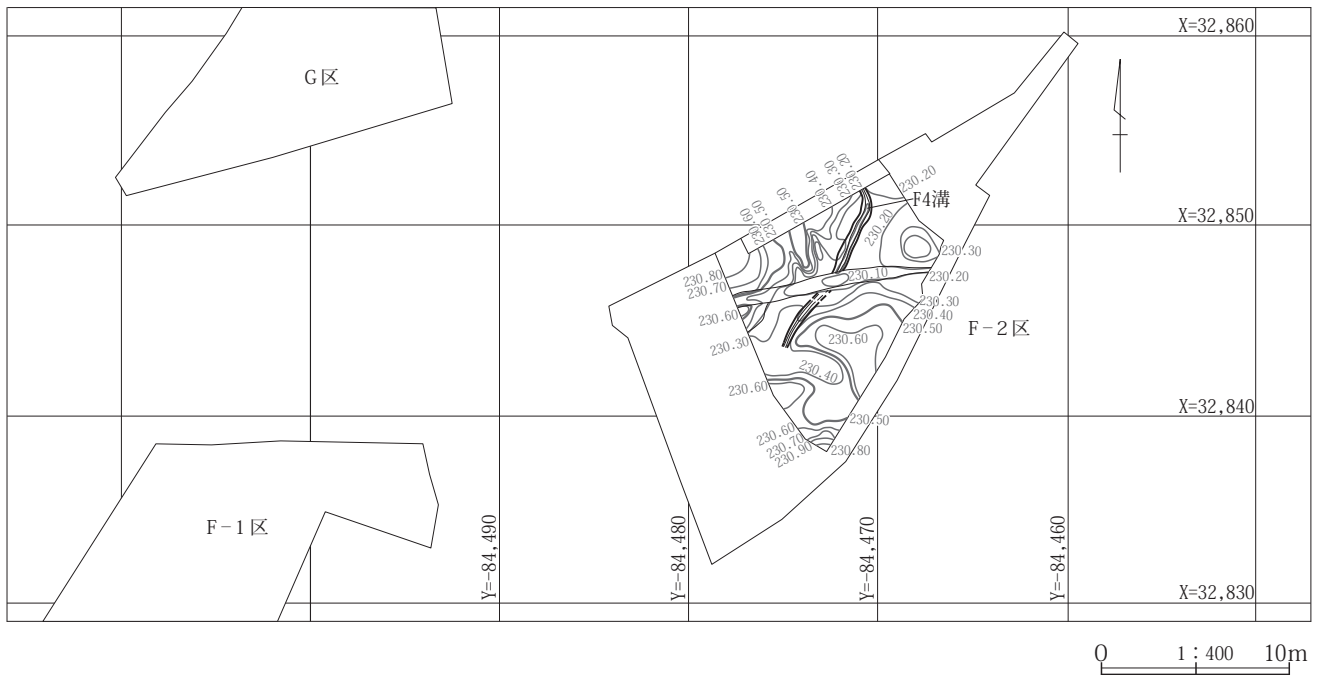
G区 中央北壁



- G区中央北西壁
- 1 褐灰色土(10YR6/1)表土。As-Aを僅かに含む。やや砂質。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Aを少量含む。
 - 3 暗褐色土(10YR3/4)やや鉄分を帯びる。やや砂質。
 - 4 As-Kk。
 - 5 As-B。
 - 6 黒褐色土(10YR2/2)白色粒子を少量含む。



第20図 宮久保遺跡 F-2区・G区土層断面図



第21図 宮久保遺跡 F-2区3面全体図

第2節 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴建物

F区1号竪穴建物(第18・22・23図 PL. 2・23 遺物観察表P.68)

位置 X=32,821~32,826 Y=-84,510~-84,514

重複 なし。

平面形 隅丸方形

規模 長軸3.80m 短軸3.55m 残存壁高0.34m

床面積 11.80㎡

主軸方位 N-59°-E

検出・埋没状況 地すべり層下の黒褐色土を精査したところ、竪穴建物を検出した。埋没土は白色粒を含む黒色土を主体とし、壁際には暗褐色土が自然堆積している。

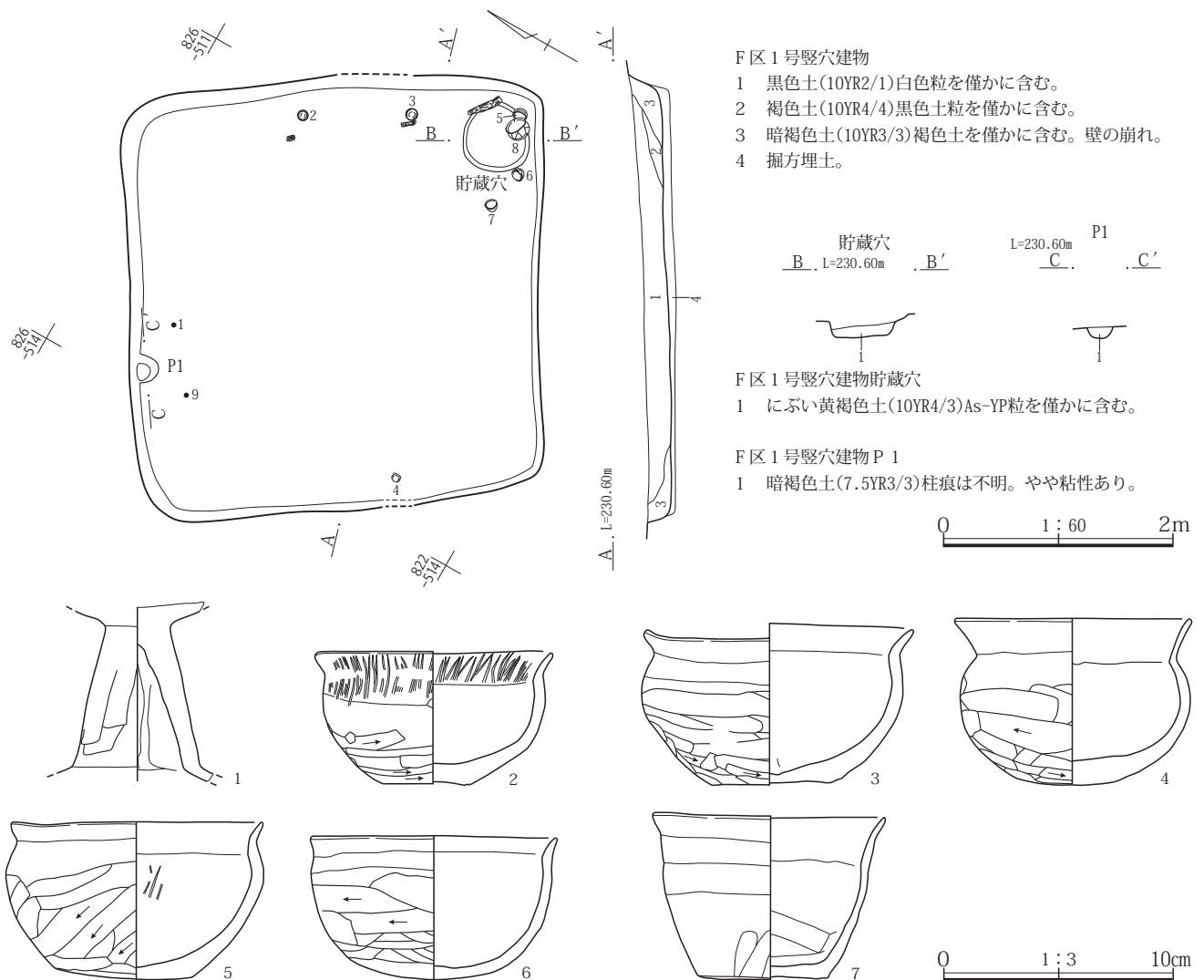
柱穴・炉・壁際溝 確認することはできなかった。

貯蔵穴 南東隅に長軸0.61m、短軸0.57m、深さ0.14mで楕円形を呈する。埋土はAs-YPを含むにぶい黄褐色土である。

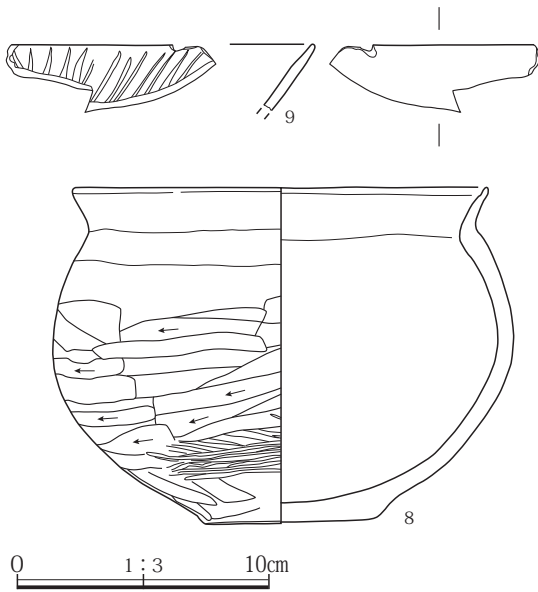
掘方 床面から最大で0.08mほど下位で掘方面を検出した。凹凸はほとんどなく平坦である。

遺物と出土状況 図示できた遺物は土師器9点で、第23図9を除き、床直上からの出土である。高杯脚部1点(第22図1)、ほぼ完形の鉢6点(第22図2~7)、一部欠損の短頸壺1点(第23図8)、直口壺口縁部片1点(第23図9)を掲載した。掲載した遺物のほかに、土師器284.9gが出土した。

調査所見 出土遺物から5世紀第2四半期の竪穴建物と考えられる。



第22図 F区1号竪穴建物と出土遺物(1)



第23図 F区1号竪穴建物出土遺物(2)

(2)井戸

G区1号井戸(第19・24図 PL.3)

位置 X=32,860~32,863 Y=-84,500・-84,504

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-59°-W

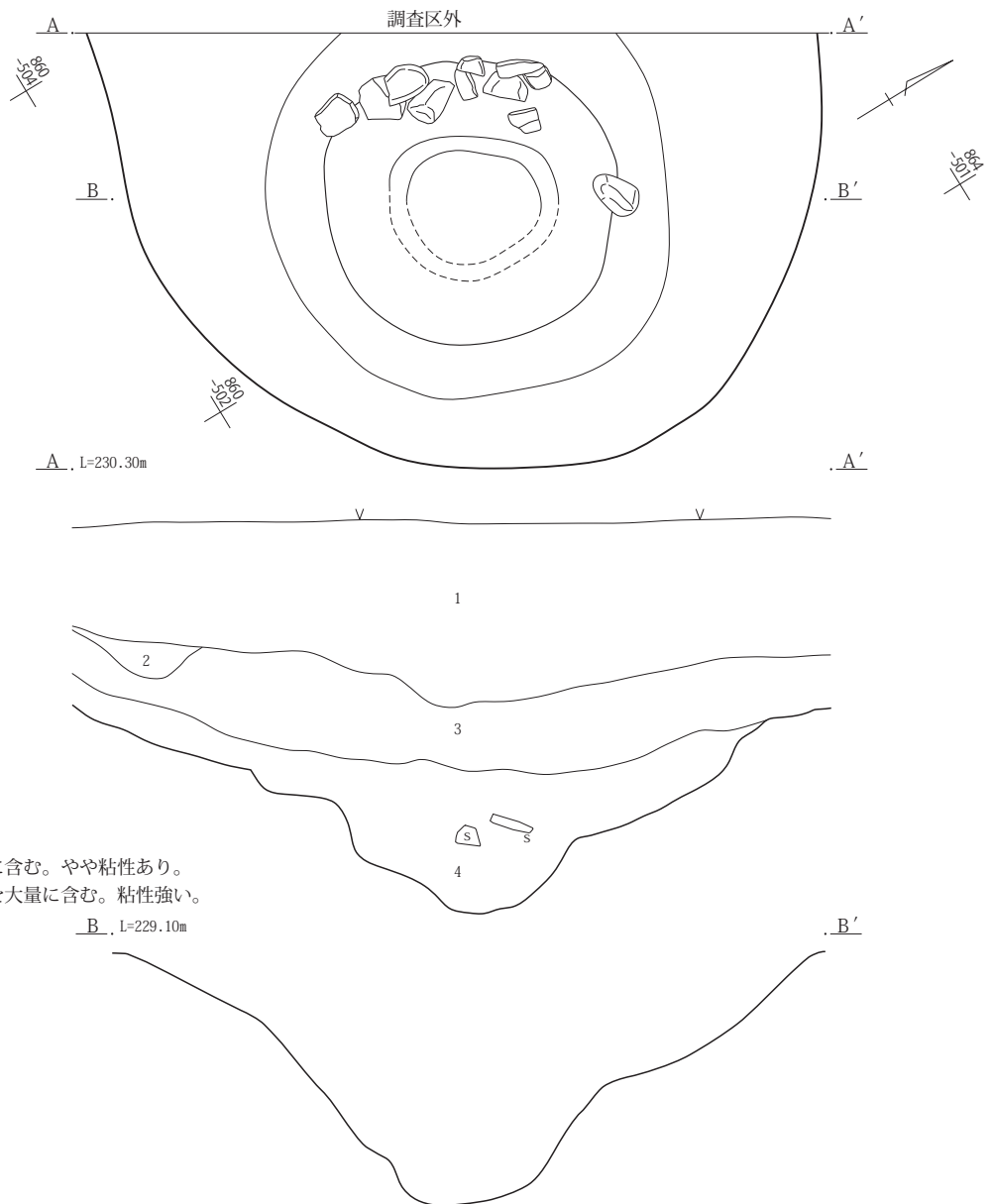
規模 長軸2.33m以上 短軸3.90m 深さ1.40m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含まない黒褐色粘質土で埋め戻されたのち、As-Aを含む暗褐色土で自然埋没したと考えられる。断面形は不整形である。

出土遺物 図示した遺物はないが、4層から大礫が10点ほど出土している。

調査所見 礫は井戸を埋め戻す際に投げ込まれたのであろう。近世以前と考えられる。

G区1号井戸



G区1号井戸

- 1 暗褐色土(10YR3/3)表土。
- 2 灰褐色土(7.5YR6/2)砂層。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)As-Aを僅かに含む。やや粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)黒色粘質土を大量に含む。粘性強い。

第24図 G区1号井戸

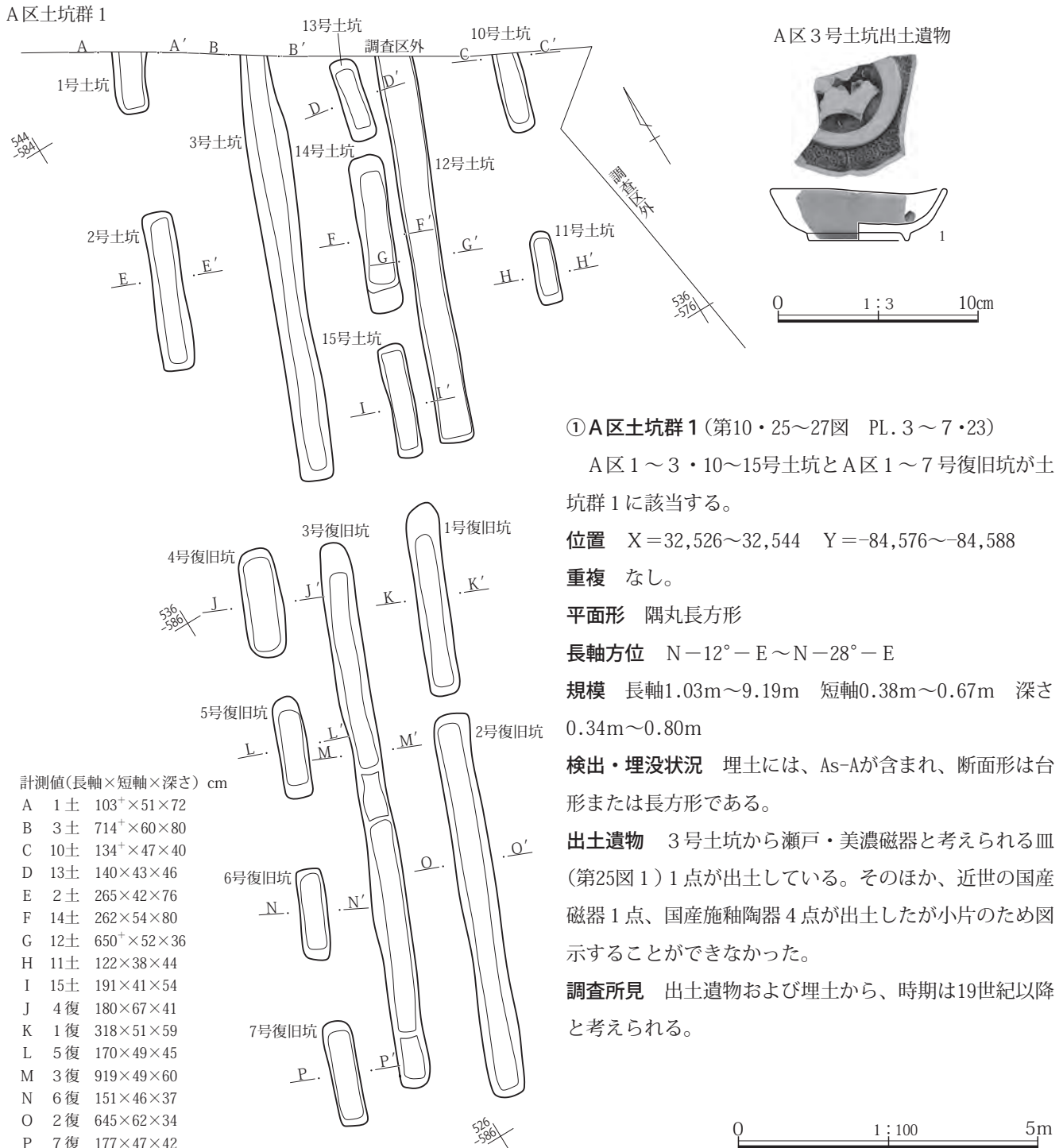
(3)土坑群・復旧坑

A区では土坑16基、復旧坑14基を調査した。調査時は土坑、復旧坑と2種類に分けて記録したが、これらの遺構を検出位置と掘削方位から、土坑群1・土坑群2・土坑群3、およびその他に分類した。各土坑群の埋土に差異はあるが、これは地山の違いによるものと考えられるため、復旧坑と呼称していた遺構も土坑として扱った。

なお、各遺構の名称は混乱を避けるため、発掘調査時のままとしている。ほとんどの土坑・復旧坑は等高線に対して平行に掘削されるが、8号・13号・14号復旧坑は垂直に掘削されていた。

D区は16基の土坑を検出した。1号・2号・15号土坑はA区の土坑と形状が似ているが、残りは円形や楕円形の土坑である。

F区の土坑は2基のみで、形状は長方形と楕円形であった。



第25図 A区土坑群1全体図とA区3号土坑出土遺物

①A区土坑群1(第10・25~27図 PL.3~7・23)

A区1~3・10~15号土坑とA区1~7号復旧坑が土坑群1に該当する。

位置 X=32,526~32,544 Y=-84,576~-84,588

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

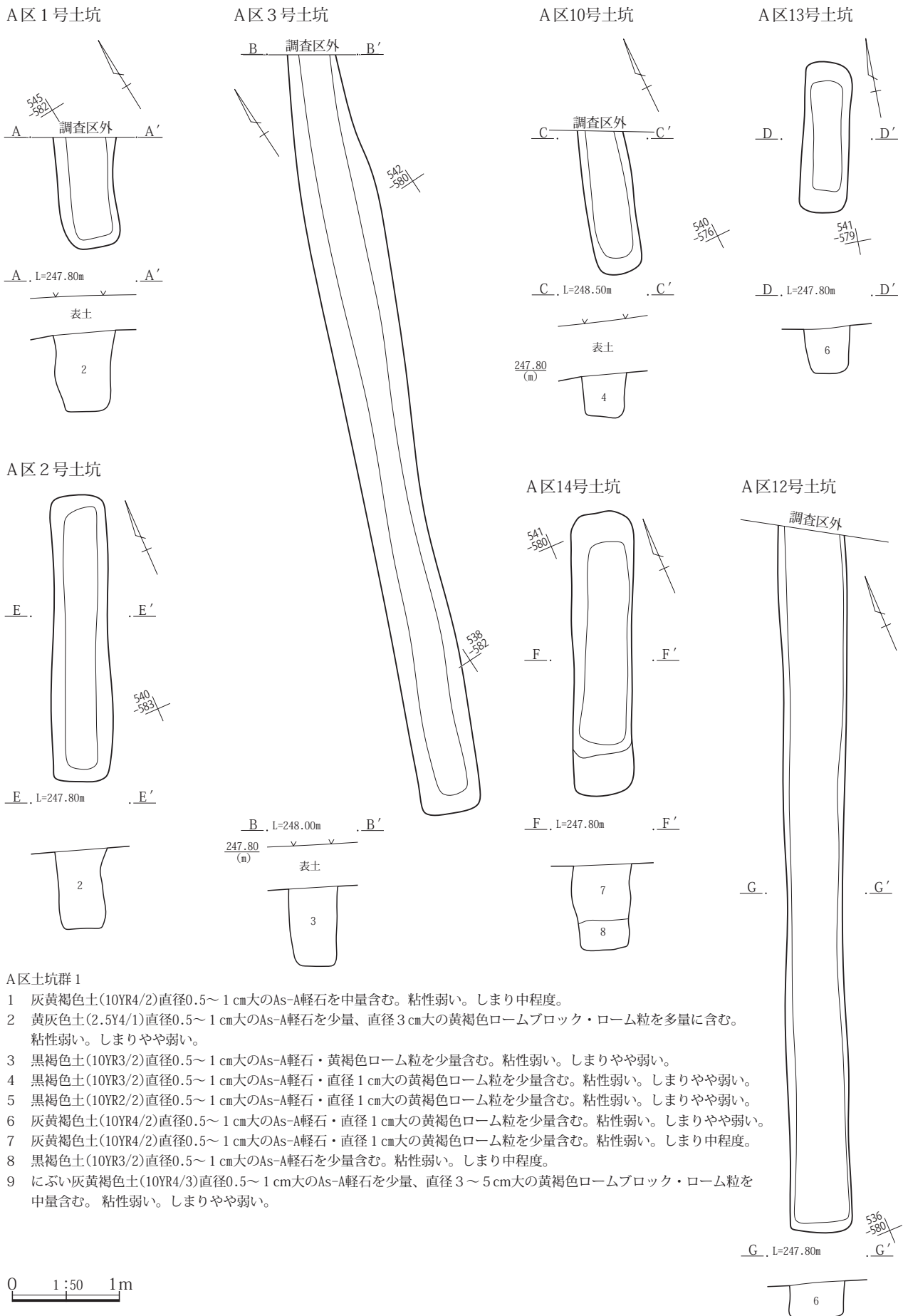
長軸方位 N-12°-E~N-28°-E

規模 長軸1.03m~9.19m 短軸0.38m~0.67m 深さ0.34m~0.80m

検出・埋没状況 埋土には、As-Aが含まれ、断面形は台形または長方形である。

出土遺物 3号土坑から瀬戸・美濃磁器と考えられる皿(第25図1)1点が出土している。そのほか、近世の国産磁器1点、国産施釉陶器4点が出土したが小片のため図示することができなかった。

調査所見 出土遺物および埋土から、時期は19世紀以降と考えられる。

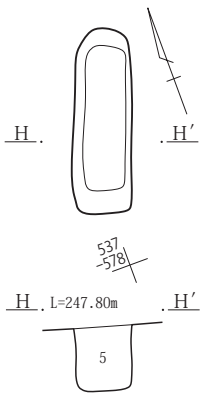


A区土坑群1

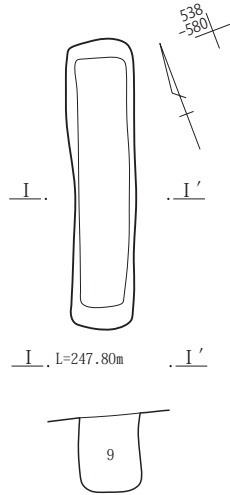
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を中量含む。粘性弱い。しまり中程度。
- 2 黄灰色土(2.5Y4/1)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、直径3cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を多量に含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径1cm大の黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 5 黒褐色土(10YR2/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径1cm大の黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径1cm大の黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径1cm大の黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。
- 8 黒褐色土(10YR3/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。
- 9 にぶい灰黄褐色土(10YR4/3)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、直径3~5cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を中量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。

第26図 A区土坑群1(1)

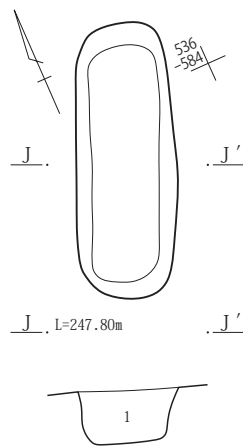
A区11号土坑



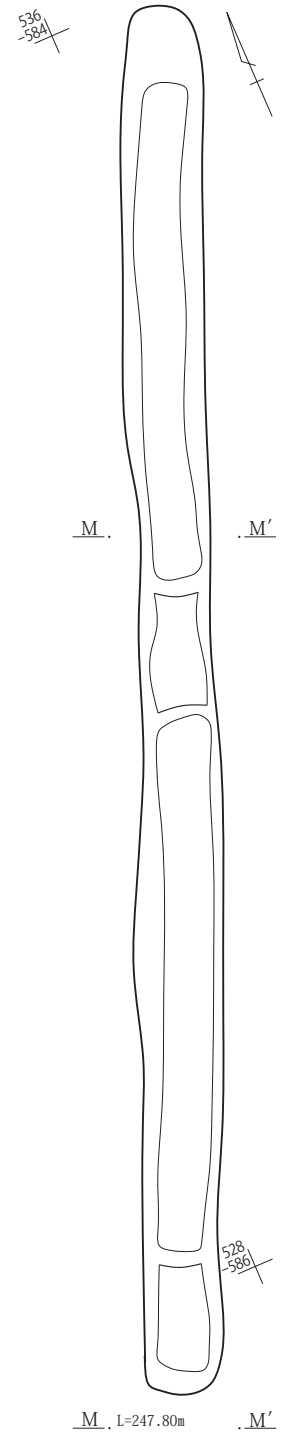
A区15号土坑



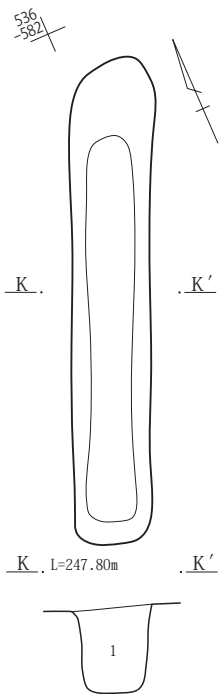
A区4号復旧坑



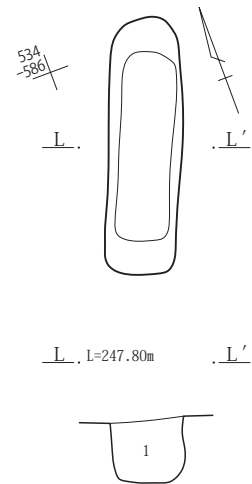
A区3号復旧坑



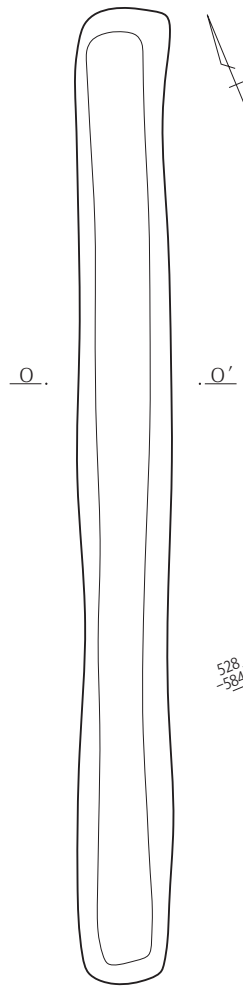
A区1号復旧坑



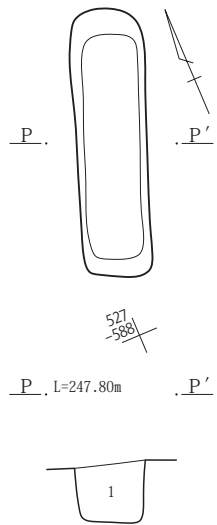
A区5号復旧坑



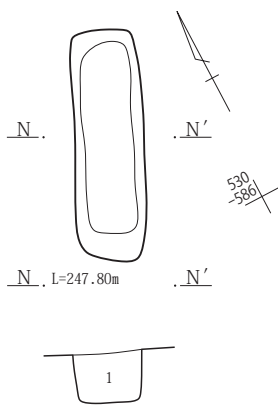
A区2号復旧坑



A区7号復旧坑



A区6号復旧坑



0 1:50 1m

第27図 A区土坑群1(2)

②A区土坑群2(第10・28・29図 PL.7~9)

A区4~9号土坑とA区10・11号復旧坑が土坑群2に該当する。

位置 X=32,502~32,529 Y=-84,602~-84,612

重複 6~8号土坑が重複している。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-16°-E~N-26°-E

規模 長軸2.05m~5.75m 短軸0.48m~0.65m 深さ0.34m~0.72m

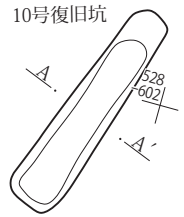
検出・埋没状況 埋土には、As-Aが含まれ、断面形は台形または長方形である。

出土遺物 近世の国産磁器2点、国産施釉陶器2点が出土したが小片のため図示することができなかった。

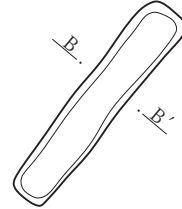
調査所見 出土遺物および埋土から、時期は天明3(1783)年以降と考えられる。

A区土坑群2

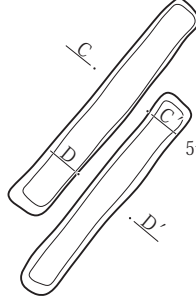
528
-606



11号復旧坑

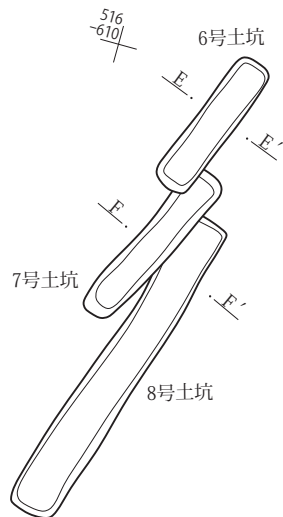


4号土坑



5号土坑

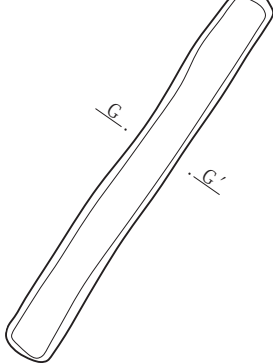
516
-606



計測値(長軸×短軸×深さ) cm

A	10復	304×65×53
B	11復	316×61×49
C	4土	349×53×54
D	5土	321×48×60
E	6土	205×50×72
F	7土	243×49×52
F	8土	458×62×36
G	9土	575×65×34

9号土坑



502
-610

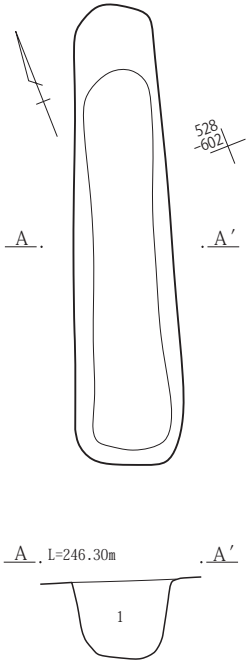
A区土坑群2

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を中量含む。粘性弱い。しまり中程度。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、直径5~10cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を多量、黒褐色土ブロックを中量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径3cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、下部に直径5~10cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を中量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径3~5cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・上部に黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。

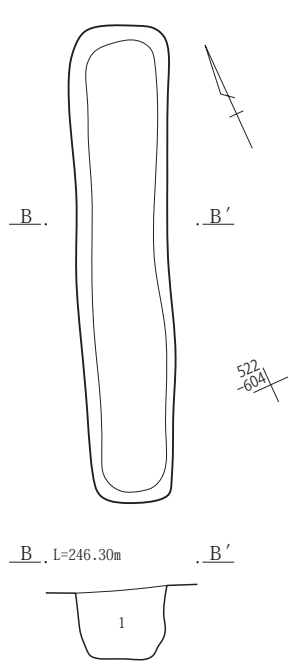
0 1:100 5m

第28図 A区土坑群2全体図

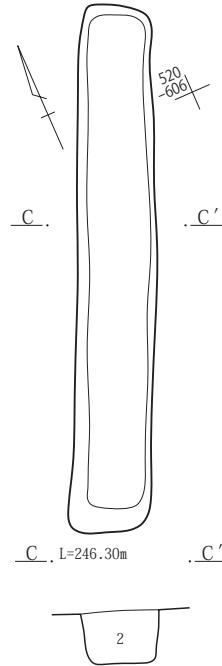
A区10号復旧坑



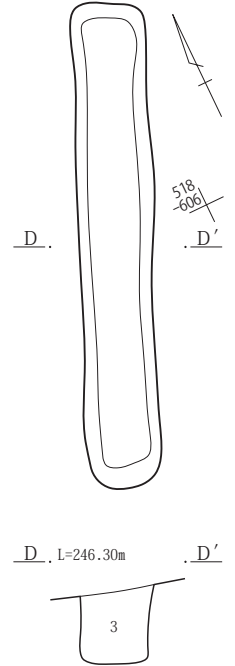
A区11号復旧坑



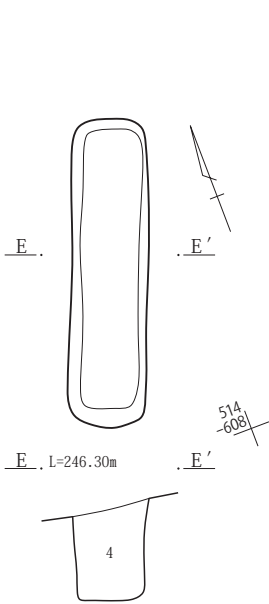
A区4号土坑



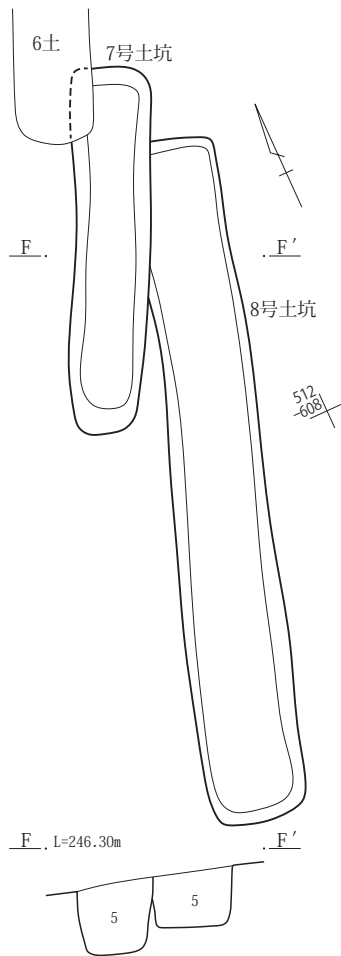
A区5号土坑



A区6号土坑



A区7・8号土坑



A区9号土坑



0 1:50 1m

第29図 A区土坑群2

③A区土坑群3(第10・30図 PL.9)

A区16号土坑とA区9号復旧坑が土坑群3に該当する。

位置 X=32,513~32,521 Y=-84,579~-84,583

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-22°-E~N-23°-E

規模 長軸2.47m~2.77m 短軸0.45m~0.61m 深さ

0.57m~0.60m

検出・埋没状況 埋土には、As-Aが含まれ、断面形は台形または長方形である。

出土遺物 近世の国産施釉陶器1点が出土したが小片のため図示することができなかった。

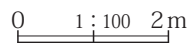
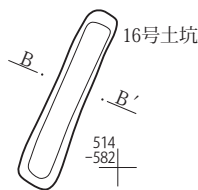
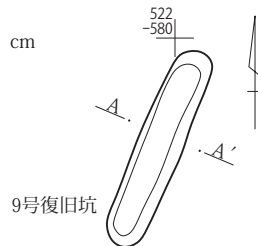
調査所見 出土遺物および埋土から、時期は天明3(1783)年以降と考えられる。

A区土坑群3

計測値(長軸×短軸×深さ) cm

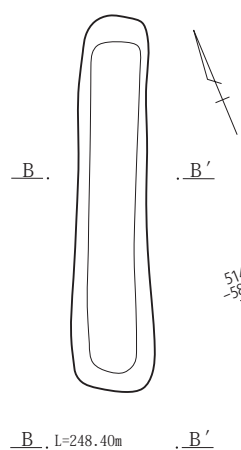
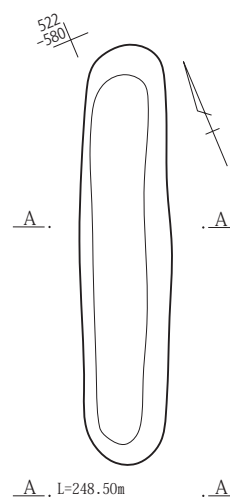
A 9復 277×61×60

B 16土 247×45×57



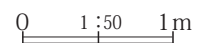
1区9号復旧坑

1区16号土坑



A区土坑群3

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を中量含む。粘性弱い。しまり中程度。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径1cm大の黄褐色ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。



第30図 A区土坑群3

④A区その他の土坑

A区8号復旧坑(第10・31図 PL.9)

位置 X=32,531・32,532 Y=-84,587~-84,589

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-66°-W

規模 長軸1.46m 短軸0.47m 深さ0.55m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 近世の国産施釉陶器1点が出土したが小片のため図示することができなかった。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

A区12号復旧坑(第10・31図 PL.10)

位置 X=32,495・32,496 Y=-84,606

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-17°-E

規模 長軸1.41m 短軸0.38m 深さ0.15m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

A区13号復旧坑(第10・31図 PL.10)

位置 X=32,495~32,497 Y=-84,611~-84,614

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-75°-W

規模 長軸3.70m 短軸0.60m 深さ0.39m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

A区14号復旧坑(第10・31図 PL.10)

位置 X=32,529・32,530 Y=-84,578~-84,580

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-76°-W

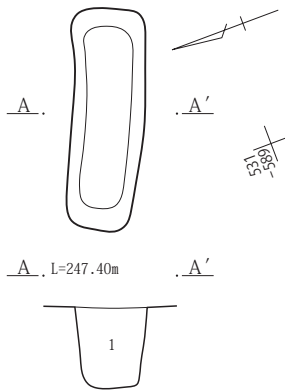
規模 長軸1.18m 短軸0.39m 深さ0.09m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

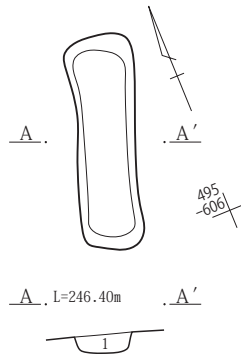
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

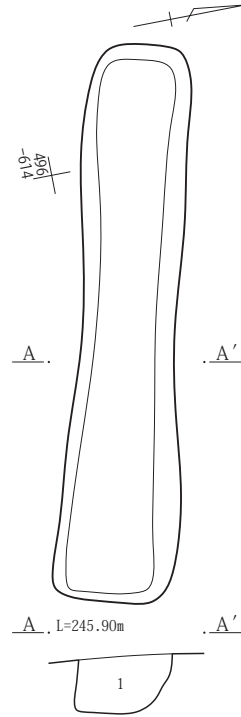
A区8号復旧坑



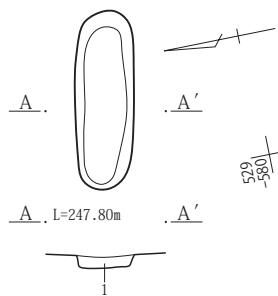
A区12号復旧坑



A区13号復旧坑



A区14号復旧坑



A区8、12、13、14号復旧坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を中量含む。
粘性弱い。しまり中程度。



第31図 A区8号復旧坑、A区12号復旧坑~14号復旧坑

⑤D区の土坑

D区1号土坑(第10・32図 PL.11)

位置 X=32,624・32,625 Y=-84,658・-84,659

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か

長軸方位 N-51°-W

規模 長軸0.81m以上 短軸0.67m 深さ0.58m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区2号土坑(第10・32図 PL.11)

位置 X=32,622~32,624 Y=-84,655~-84,657

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-58°-W

規模 長軸2.93m 短軸0.58m 深さ0.47m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区3号土坑(第10・32図 PL.11)

位置 X=32,622・32,623 Y=-84,647・-84,648

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-4°-E

規模 長軸1.10m 短軸1.04m 深さ0.41m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

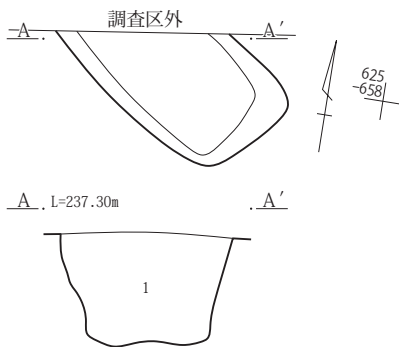
D区4号土坑(第10・33図 PL.11)

位置 X=32,620~32,622 Y=-84,649・-84,650

重複 D区3号溝と同時期。

平面形 楕円形

D区1号土坑



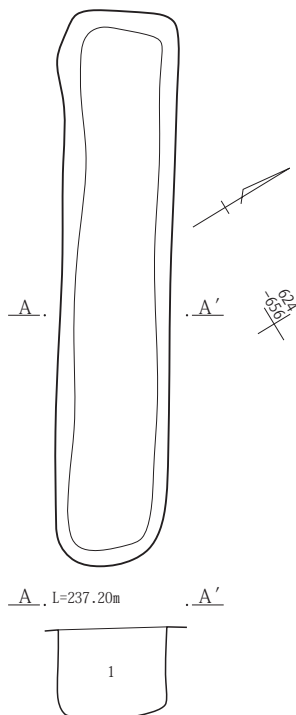
D区1号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・直径3cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや弱い。

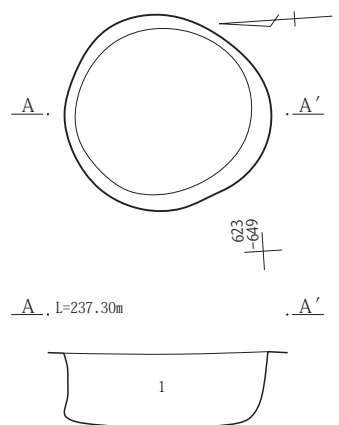
D区2号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、直径3cm大の黄褐色ローム粒を微量含む。粘性弱い。しまり中程度。

D区2号土坑

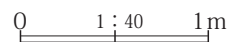


D区3号土坑



D区3号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、直径3cm大の黄褐色ロームブロック・ローム粒を中量含む。粘性弱い。しまり中程度。



第32図 D区1号土坑~3号土坑

長軸方位 N-0°

規模 長軸1.35m 短軸1.31m 深さ0.45m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区5号土坑(第10・33図 PL.12)

位置 X=32,614~32,616 Y=-84,649~-84,651

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-4°-E

規模 長軸1.75m以上 短軸1.50m 深さ0.14m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 埋土から国産施釉陶器片1点が出土したが、小片のため図示には至らなかった。

調査所見 平面形を見るとほぼ同時期の2つの土坑である可能性もある。遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区6号土坑(第10・34図 PL.12)

位置 X=32,614・32,615 Y=-84,646~-84,648

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-70°-E

規模 長軸2.01m 短軸1.27m 深さ0.11m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む黒色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 埋土から国産施釉陶器片1点が出土したが、小片のため図示には至らなかった。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区7号土坑(第10・33図 PL.12)

位置 X=32,615・32,616 Y=-84,645・-84,646

重複 16号土坑に後出する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-51°-E

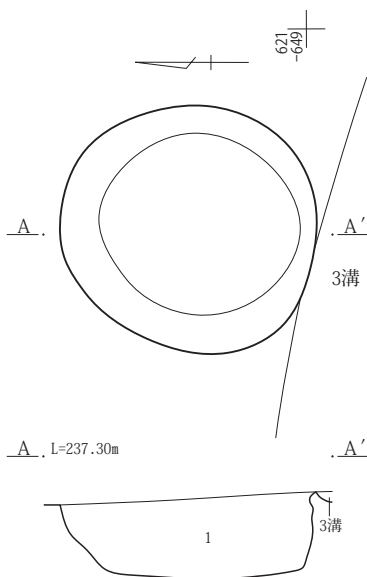
規模 長軸0.64m以上 短軸0.60m 深さ0.18m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黒色土を主体とし、断面形は不整形である。

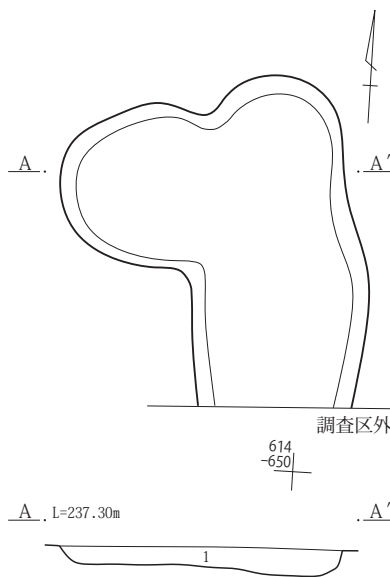
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

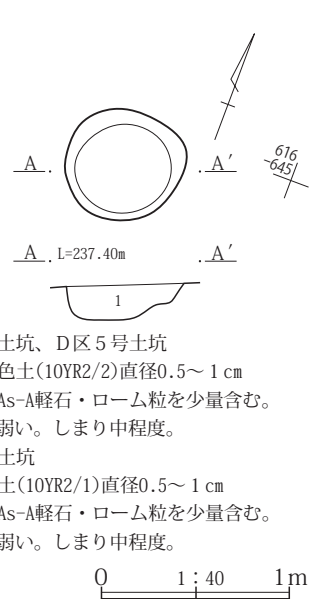
D区4号土坑



D区5号土坑



D区7号土坑



D区4号土坑、D区5号土坑
1 黒褐色土(10YR2/2)直径0.5~1cm
大のAs-A軽石・ローム粒を少量含む。
粘性弱い。しまり中程度。

D区7号土坑
1 黒色土(10YR2/1)直径0.5~1cm
大のAs-A軽石・ローム粒を少量含む。
粘性弱い。しまり中程度。

第33図 D区4号土坑、5号土坑、7号土坑

D区8号土坑(第10・34図 PL.12)

位置 X=32,614・32,615 Y=-84,641・-84,642

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-48°-W

規模 長軸1.10m 短軸1.05m 深さ0.57m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む灰黄褐色土を主体とし、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区10号土坑(第10・34図 PL.13)

位置 X=32,615・32,616 Y=-84,622・-84,623

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-6°-E

規模 長軸1.11m 短軸0.99m 深さ0.37m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区9号土坑(第10・34図 PL.13)

位置 X=32,616・32,617 Y=-84,641~-84,643

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-71°-W

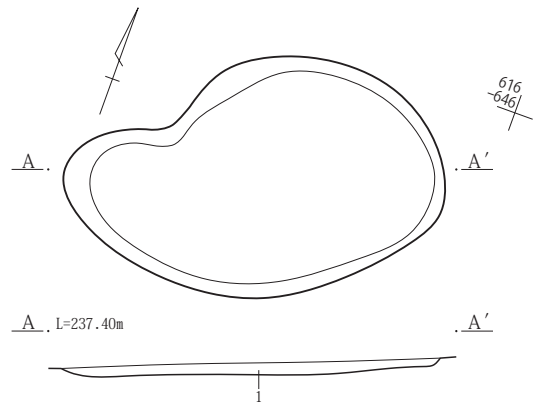
規模 長軸1.63m 短軸1.22m 深さ0.49m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

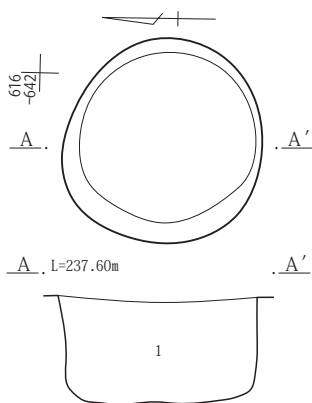
D区6号土坑



D区6号土坑

1 黒色土(10YR2/1)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。

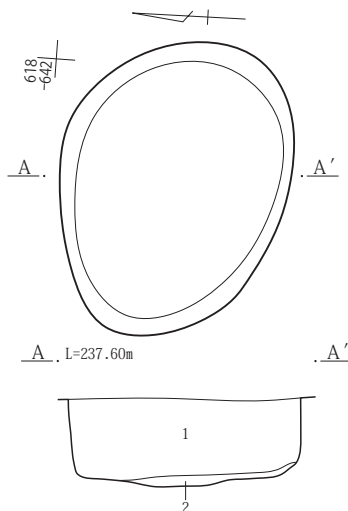
D区8号土坑



D区8号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。

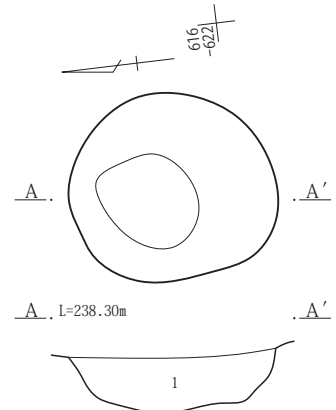
D区9号土坑



D区9号土坑

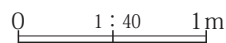
1 暗褐色土(10YR3/4)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。
2 明黄褐色土(10YR6/8)ローム主体に黒色土が混じる。粘性弱い。しまり中程度。

D区10号土坑



D区10号土坑

1 黒褐色土(10YR2/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。



第34図 D区6号土坑、8号土坑~10号土坑

D区11号土坑(第10・35図 PL.13)

位置 X=32,623・32,624 Y=-84,660

重複 なし。

平面形 不整形(溝状)

長軸方位 N-6°-E

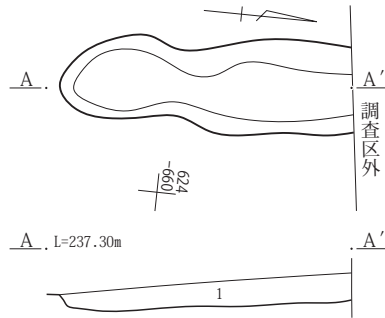
規模 長軸1.55m以上 短軸0.48m 深さ0.15m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形と考えられる。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区11号土坑



D区11号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。

D区12号土坑(第10・35図 PL.13)

位置 X=32,622・32,623 Y=-84,659・-84,660

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-38°-W

規模 長軸0.95m 短軸0.71m 深さ0.18m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区13号土坑(第10・35図 PL.14)

位置 X=32,619・32,620 Y=-84,655・-84,656

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-66°-W

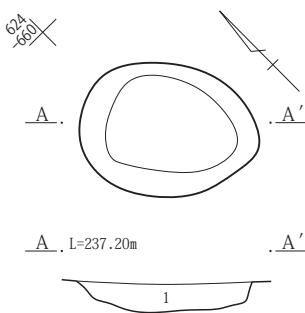
規模 長軸0.72m 短軸0.66m 深さ0.12m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黒色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

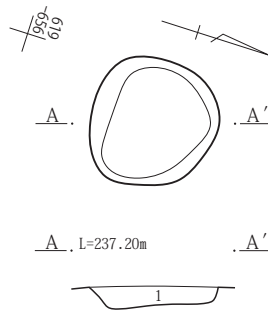
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

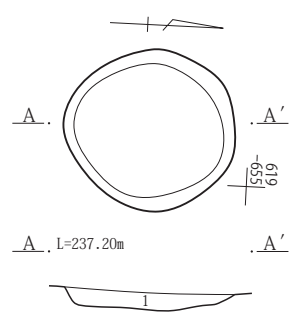
D区12号土坑



D区13号土坑



D区14号土坑

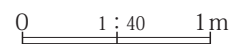


D区12号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。

D区13号土坑、D区14号土坑

1 黒色土(10YR2/1)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。



第35図 D区11号土坑~14号土坑

D区14号土坑(第10・35図 PL.14)

位置 X=32,618 Y=-84,654・-84,655

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-3°-W

規模 長軸0.90m 短軸0.86m 深さ0.12m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黒色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区15号土坑(第10・36図 PL.14)

位置 X=32,616~32,618 Y=-84,656・-84,657

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か

長軸方位 N-44°-W

規模 長軸1.99m 短軸0.67m 深さ0.43m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区16号土坑(第10・36図 PL.14)

位置 X=32,615・32,616 Y=-84,644・-84,645

重複 7号土坑に先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-33°-E

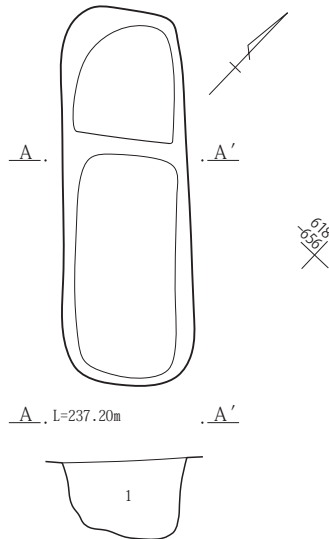
規模 長軸1.43m 短軸1.35m 深さ0.46m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aとロームを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、天明3(1783)年以降と考えられる。

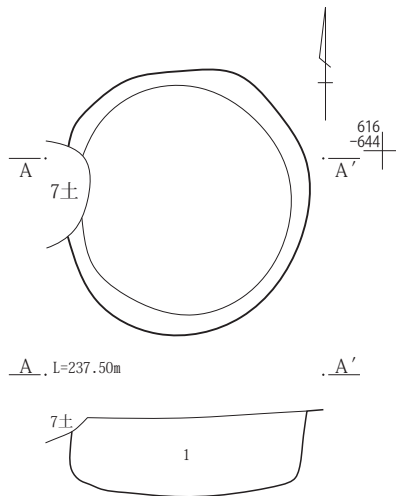
D区15号土坑



D区15号土坑

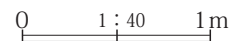
1 黄褐色土(10YR5/6)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量、ローム粒を中量含む。粘性弱い。しまり中程度。

D区16号土坑



D区16号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1)直径0.5~1cm大のAs-A軽石・ローム粒を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。



第36図 D区15号土坑、16号土坑

⑥F区の土坑

F区1号土坑(第17・37図 PL.15)

位置 X=32,830 Y=-84,508

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-48°-E

規模 長軸0.64m 短軸0.51m 深さ0.10m

検出・埋没状況 地すべり層下の黒色土上面で確認した。埋土は暗褐色土を主体とし、断面形は逆三角形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、古墳時代以前と考えられる。

F区2号土坑(第17・37図 PL.15)

位置 X=32,821・32,822 Y=-84,809・-84,510

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-49°-E

規模 長軸1.36m 短軸0.75m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、白色粒子を含む黒色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

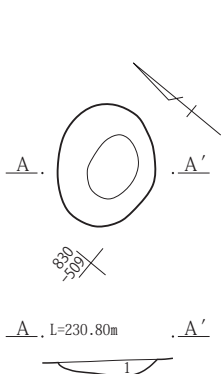
調査所見 遺構の検出状況および埋土から、古墳時代以前と考えられる。

(4)ピット(第12・17・38~40図 PL.15・16)

本遺跡で調査したピットは、E区で3基、F区で24基である。E区のピットは、いずれのピットも埋土中にAs-Aを含んでいるため天明3(1783)年以降である。F区のピットは、地すべり層下の黒色土上面で確認した。これらのうち、土層断面の観察から柱痕を確認できたピットはなかった。埋没土は、黒色土、黒褐色土、暗褐色土の3種類に分類できる。いずれのピットも遺構の確認状況から古墳時代以前と考えられる。

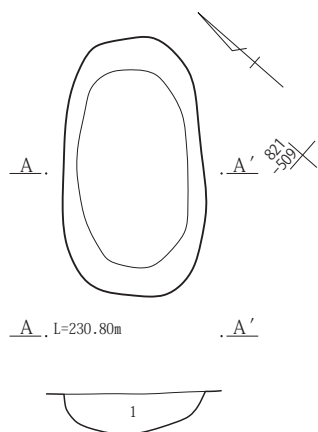
各ピットの位置・規模・埋土の特徴等については、第2表にまとめた。

F区1号土坑



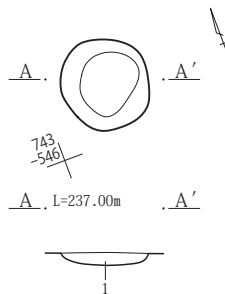
F区1号土坑
1 黒色土主体。

F区2号土坑



F区2号土坑
1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

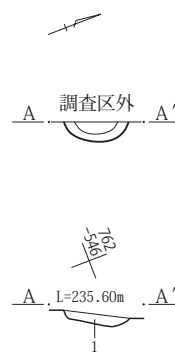
E区1号ピット



E区1号ピット

1 暗褐色土(10YR3/4)を主体とする。As-A軽石を1%、直径1~数cmのロームブロックを3%程含む。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。

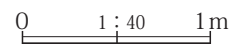
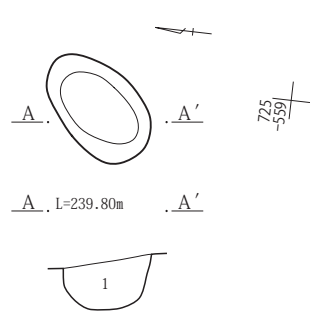
E区2号ピット



E区2号ピット、E区3号ピット

1 暗褐色土(10YR3/4)極小粒を主体。直径5mm程のAs-A軽石を50%程含むAs-A混土。砂質。粘性なし。しまりあり。

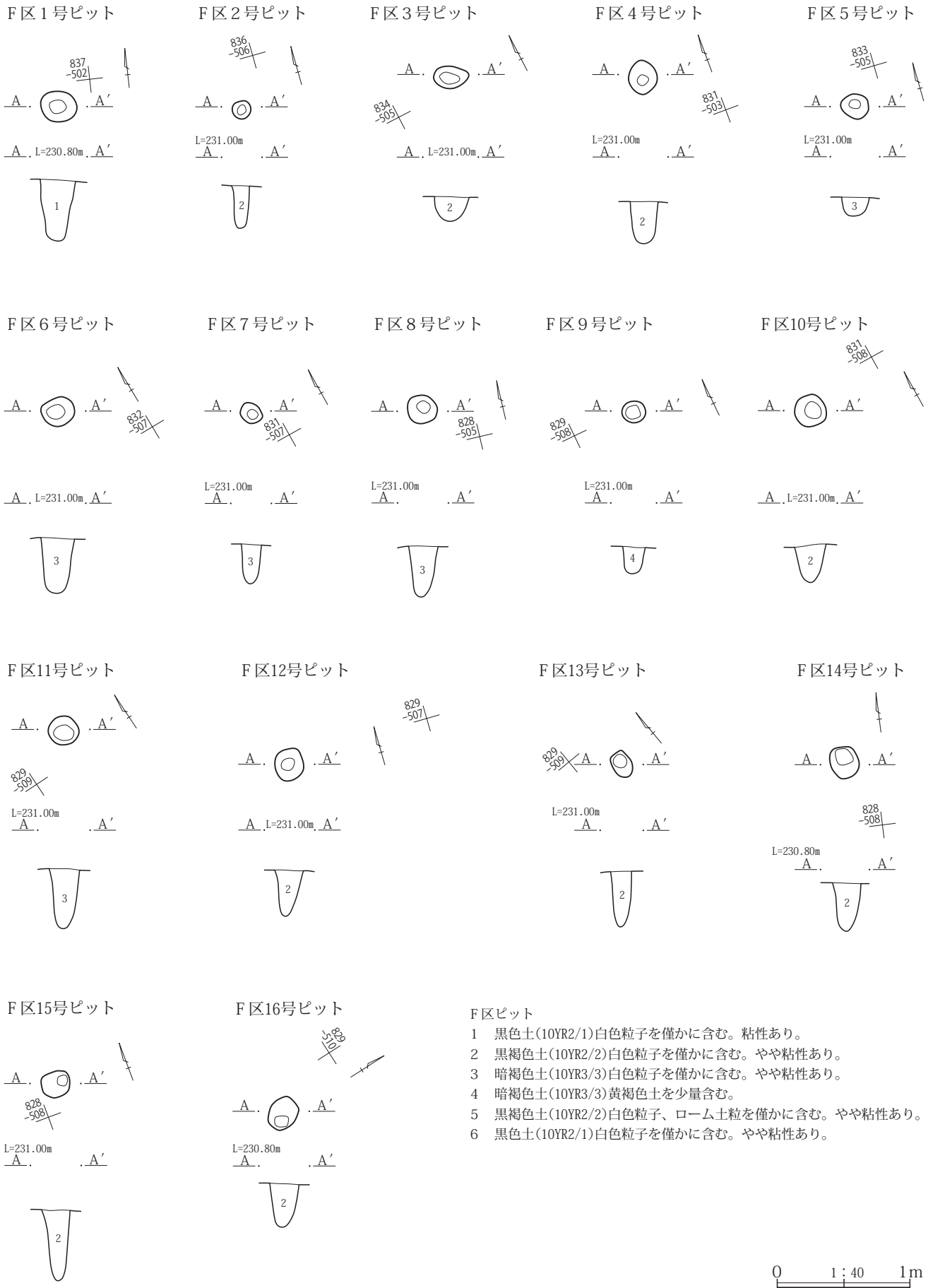
E区3号ピット



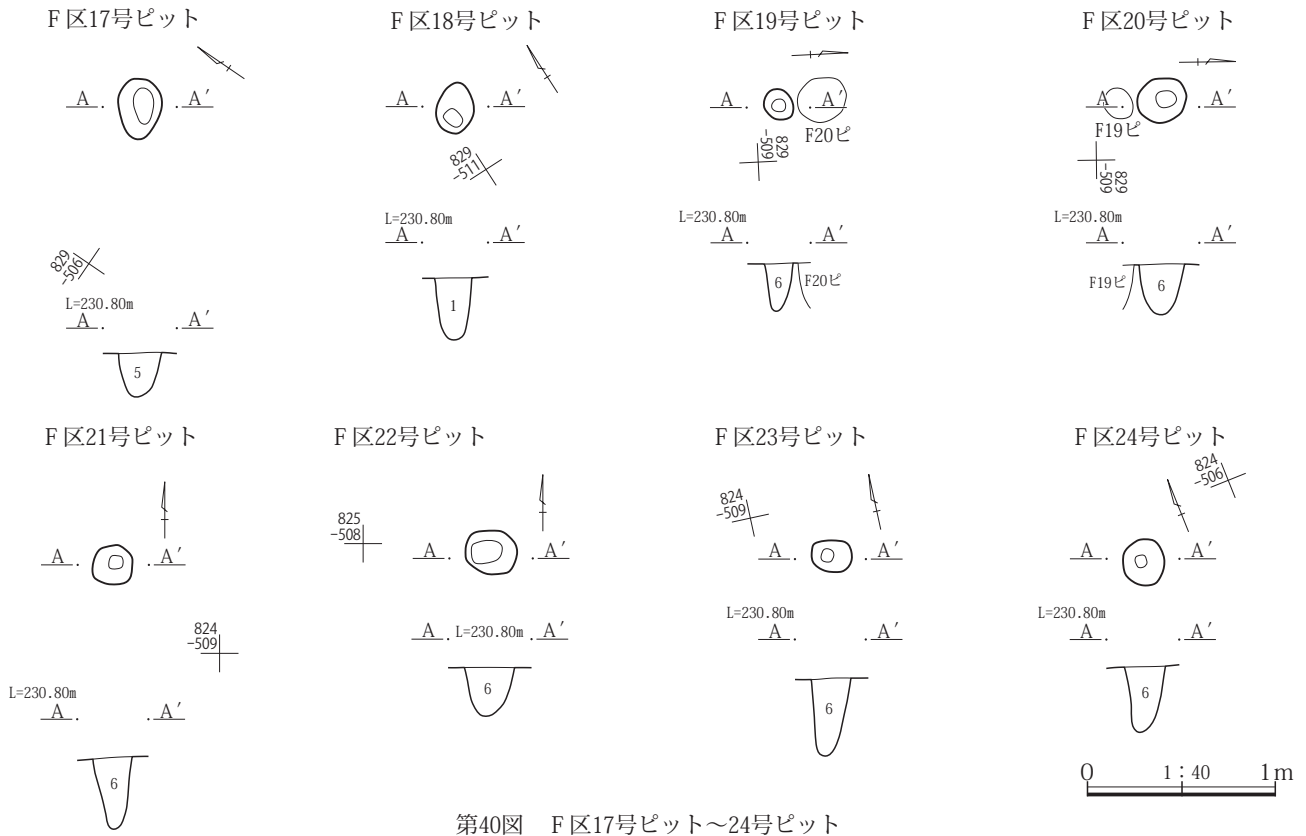
第37図 F区1号土坑、2号土坑

第38図 E区1号ピット~3号ピット

第3章 宮久保遺跡の遺構と遺物



第39図 F区1号ピット～16号ピット



第40図 F区17号ピット～24号ピット

第2表 宮久保遺跡 ピット一覧表

区・面	遺構名称	X座標	Y座標	主軸方位	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	埋土	PL.番号
E区1～3面	E区1号ピット	32,743	-84,545	N-40°-W	49	47	9	楕円形	台形	As-A、ロームブロック含む暗褐色土を主体	PL.15-5・6
E区1～3面	E区2号ピット	32,762	-84,456	N-21°-E	33+	10+	4	不明	台形	As-A混土の暗褐色土	PL.15-7・8
E区1～3面	E区3号ピット	32,725・ 32,726	-84,558・ -84,559	N-45°-E	66	41	30	楕円形	台形	As-A混土の暗褐色土	PL.16-1・2
F-1区4面	F区1号ピット	32,836	-84,502	N-84°-W	26	12	48	楕円形	逆三角形	黒色土	
"	F区2号ピット	32,835	-84,506	N-48°-E	14	14	34	楕円形	逆三角形	黒褐色土	PL.16-3
"	F区3号ピット	32,834	-84,504	N-68°-W	26	16	19	楕円形	逆三角形	黒褐色土	
"	F区4号ピット	32,831	-84,503	N-27°-W	22	22	32	隅丸方形	台形	黒褐色土	
"	F区5号ピット	32,832	-84,505	N-38°-W	20	18	15	楕円形	台形	暗褐色土	
"	F区6号ピット	32,832	-84,507	N-84°-W	25	21	39	隅丸長方形	台形	暗褐色土	
"	F区7号ピット	32,831	-84,507	N-35°-W	17	14	30	楕円形	逆三角形	暗褐色土	
"	F区8号ピット	32,828	-84,505	N-69°-W	22	21	38	隅丸方形	逆三角形	暗褐色土	
"	F区9号ピット	32,828・ 32,829	-84,507	N-72°-W	18	16	22	楕円形	台形	暗褐色土	
"	F区10号ピット	32,830	-84,508	N-83°-W	24	23	30	隅丸方形	逆三角形	黒褐色土	PL.16-4
"	F区11号ピット	32,829	-84,508	N-28°-W	22	22	44	楕円形	逆三角形	暗褐色土	
"	F区12号ピット	32,828・ 32,829	-84,507・ -84,508	N-1°-E	23	21	35	隅丸方形	逆三角形	黒褐色土	
"	F区13号ピット	32,828	-84,508	N-8°-E	20	14	43	楕円形	逆三角形	黒褐色土	PL.16-5
"	F区14号ピット	32,828	-84,508	N-18°-W	24	21	35	隅丸長方形	逆三角形	黒褐色土	
"	F区15号ピット	32,828	-84,507	N-73°-W	21	19	55	隅丸長方形	逆三角形	黒褐色土	
"	F区16号ピット	32,828	-84,509	N-18°-W	25	21	35	楕円形	逆三角形	黒褐色土	
"	F区17号ピット	32,829	-84,505	N-63°-E	31	22	24	楕円形	逆三角形	黒褐色土	PL.16-6
"	F区18号ピット	32,829	-84,510・ -84,511	N-41°-E	27	18	37	楕円形	逆三角形	黒色土	
"	F区19号ピット	32,829	-84,509	N-46°-E	18	15	26	楕円形	逆三角形	黒色土	
"	F区20号ピット	32,829	-84,509	N-22°-W	26	23	27	楕円形	逆三角形	黒色土	
"	F区21号ピット	32,824	-84,509	N-82°-W	21	20	38	隅丸方形	逆三角形	黒色土	
"	F区22号ピット	32,824・ 32,825	-84,507	N-86°-W	28	23	28	隅丸長方形	逆三角形	黒色土	PL.16-7
"	F区23号ピット	32,823	-84,508	N-73°-W	20	16	44	隅丸長方形	逆三角形	黒色土	
"	F区24号ピット	32,823	-84,505	N-5°-E	25	22	37	楕円形	逆三角形	黒色土	

(5) 溝

遺跡から検出された溝は、A区1条、D区5条、F区4条、G区1条の合計11条である。

A区1号溝(第10・41図 PL.17)

位置 X=32,543~32,551 Y=-84,592~-84,599

重複 なし。

形状 北東から南西方向のほぼ直線の溝である。底面は平坦であり、比高は0.23mである。

走向方位 N-42°-E

規模 全長9.34m以上 最大幅0.95m 最深部0.22m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む黒色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含んでいることから天明3(1783)年以降と考えられる。

D区1号溝(第10・42図 PL.17)

位置 X=32,612~32,618 Y=-84,661~-84,670

重複 2号溝、4号溝に先行する。

形状 北東から南西方向のほぼ直線の溝である。底面はほぼ平坦であり、比高は0.19mである。

走向方位 N-55°-E

規模 全長10.16m以上 最大幅1.09m 最深部0.28m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む褐灰色土が主体で、最下層にはAs-Bが堆積している。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Bが堆積していることから、天仁元(1108)年以降と考えられる。

D区2号溝(第10・42図 PL.17)

位置 X=32,613~32,616 Y=-84,668~-84,670

重複 1号溝に後出する。

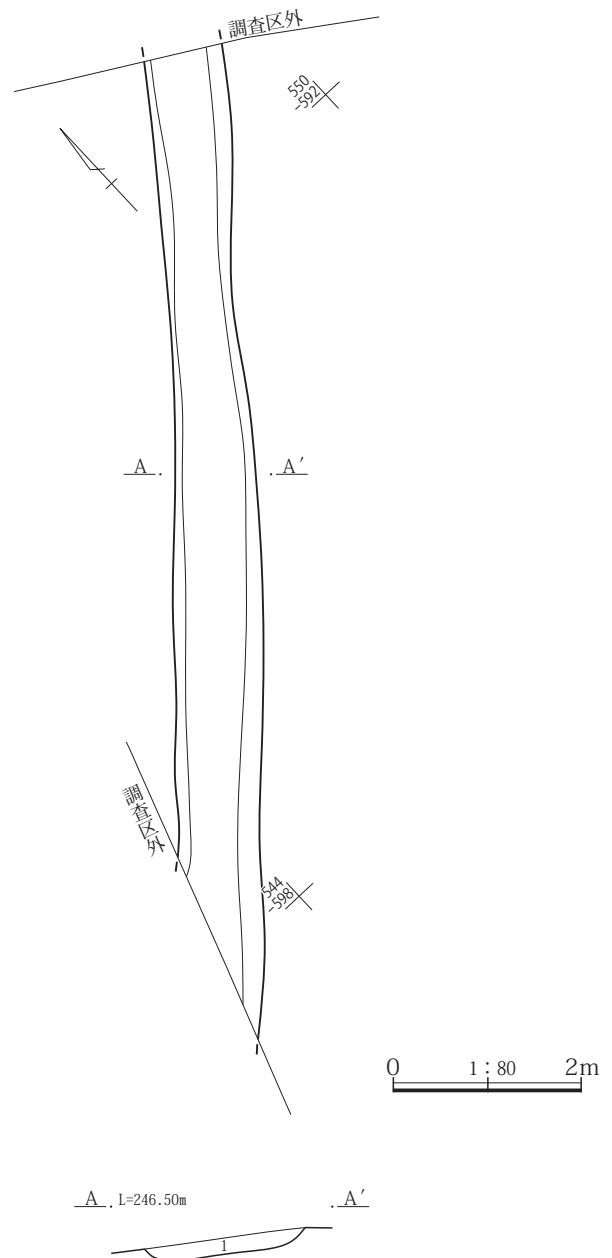
形状 北西から南東方向のほぼ直線の溝である。底面はほぼ平坦である。

走向方位 N-37°-W

規模 全長2.45m以上 最大幅0.74m 最深部0.15m

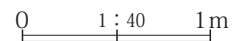
検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む褐灰色土が主体で、断面形は台形を呈する。

A区1号溝



A区1号溝

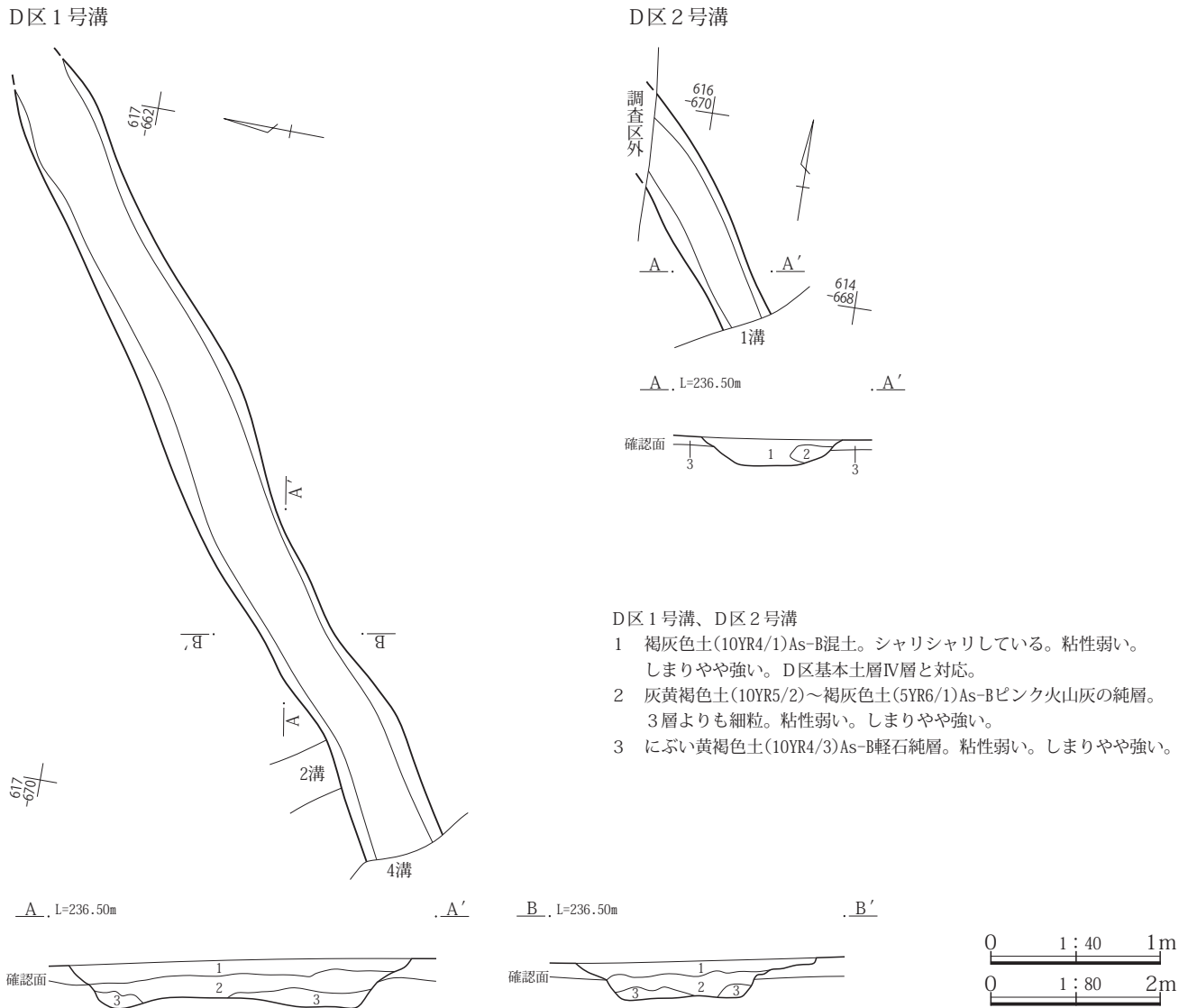
1 黒色土(10YR2/1)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を微量に含む。粘性弱い。しまり中程度。



第41図 A区1号溝

出土遺物 なし。

調査所見 地山のAs-Bを掘削しているため、天仁元(1108)年以降と考えられる。



第42図 D区1号溝、2号溝

D区3号溝(第10・43図 PL.17)

位置 X=32,614～32,621 Y=-84,627～-84,661

重複 なし。

形状 東から西へほぼ直線、調査区東側でやや南に屈曲する溝である。底面は起伏に富み、比高は0.94mである。

走向方位 N-78°-W

規模 全長34.55m以上 最大幅0.69m 最深度0.20m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む黒褐色土が主体で、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを多く含んでいることから、天明3(1783)年以降と考えられる。

D区4号溝(第10・44図 PL.18)

位置 X=32,611～32,613 Y=-84,668～-84,671

重複 1号溝に後出する。

形状 北西から南東方向のほぼ直線の溝である。底面は平坦であり、比高は0.23mである。

走向方位 N-45°-W

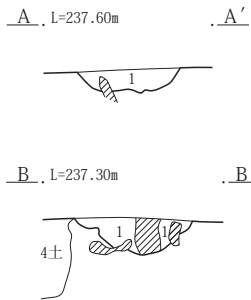
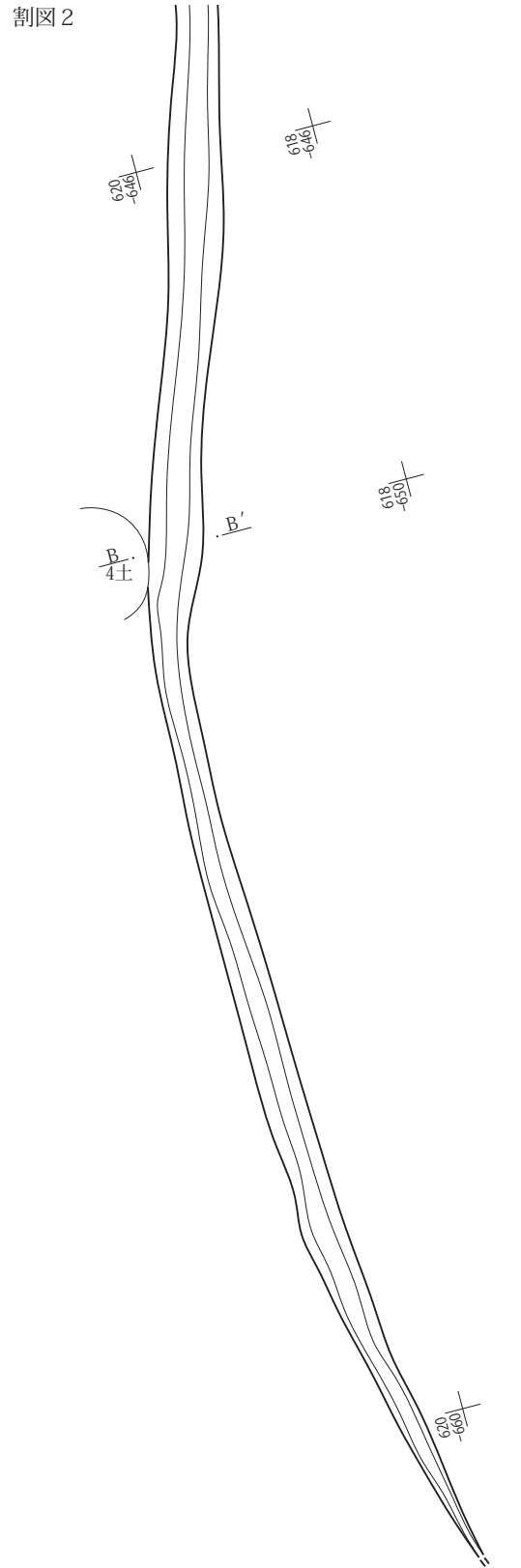
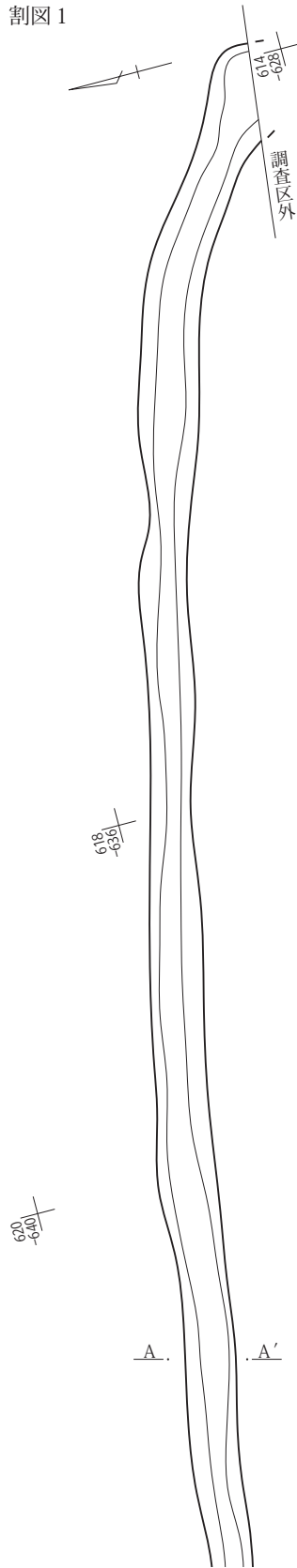
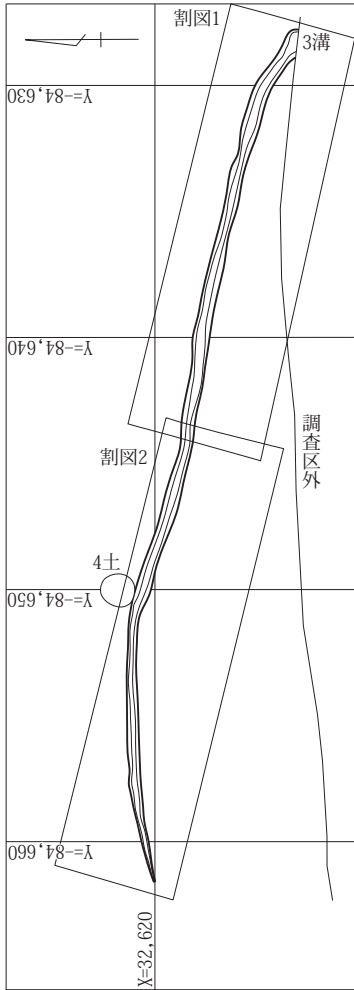
規模 全長2.42m以上 最大幅1.41m 最深度0.50m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含むシルト質の黒色土が主体で、断面形は弧状である。

出土遺物 なし。

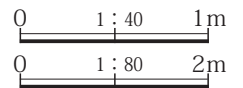
調査所見 埋土にAs-Bを含んでいることから、天仁元(1108)年以降と考えられる。

D区3号溝



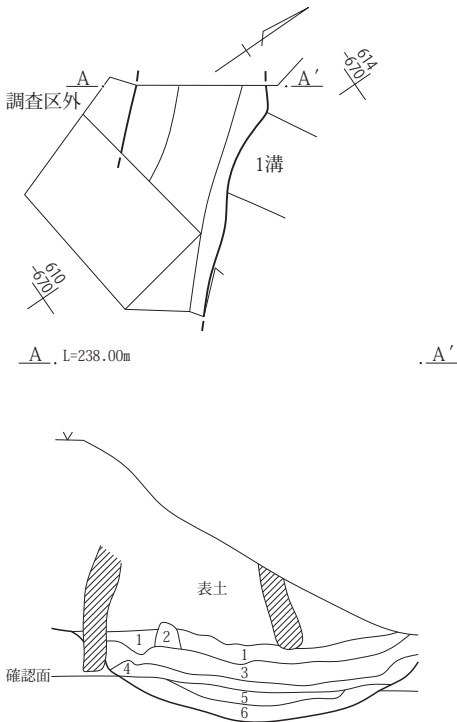
D区3号溝

1 黒褐色土(10YR2/2)直径0.5~1cm大のAs-A軽石を少量含む。粘性弱い。しまり中程度。



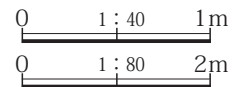
第43図 D区3号溝

D区4号溝

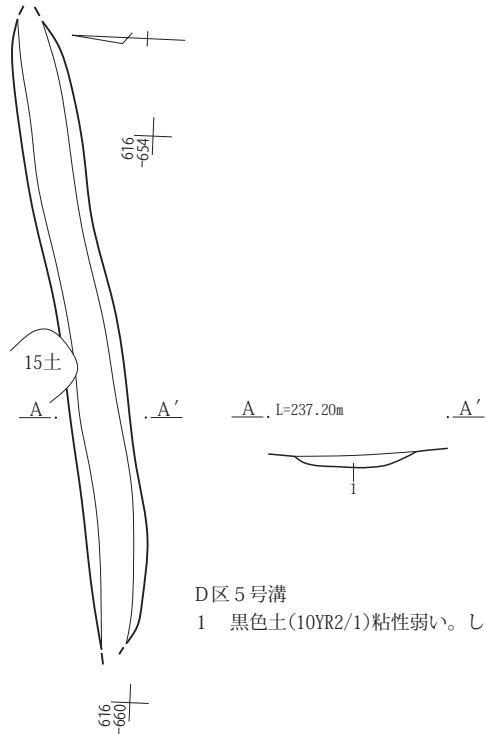


D区4号溝

- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-B軽石粒を中量含む。As-B混土。粘性・しまり中程度。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)As-B軽石粒を多量に含む。As-B混土。粘性弱い。しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)As-B軽石の二次堆積。粘性弱、しまりやや強い。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)シルト質。ラミナ構造。粘性・しまり中程度。
- 5 黒色土(10YR2/1)シルト質。ラミナ構造。粘性やや強い。しまり中程度。
- 6 黒色土(10YR2/1)As-B軽石粒を微量に含む。シルト質。ラミナ構造。粘性中程度。しまりやや強い。



D区5号溝



D区5号溝

- 1 黒色土(10YR2/1)粘性弱い。しまり中程度。

第44図 D区4号溝、5号溝

D区5号溝(第10・44図 PL.18)

位置 X=32,615~32,617 Y=-84,652~-84,659

重複 15号土坑に先行する。

形状 東から西方向のほぼ直線の溝である。底面は平坦であり、比高は0.16mである。

走向方位 N-78°-E

規模 全長6.75m以上 最大幅0.65m 最深部0.07m

検出・埋没状況 埋土は、粘性の弱い黒色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および天明3(1783)年以前と考えられる。

F区1号溝(第15・45図 PL.18)

位置 X=32,801~32,805 Y=-84,522~-84,525

重複 なし。

形状 南東から北西方向へほぼ直線で、底面は平坦な溝である。

走向方位 N-37°-W

規模 全長4.38m以上 最大幅0.90m 最深部0.38m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む黒褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 通水の痕跡がなく人為的に埋め戻されているため、耕作痕の可能性もある。詳細な時期は分からないが、遺構の確認状況から近世であると考えられる。

F区2号溝(第15・45図 PL.18)

位置 X=32,806~32,810 Y=-84,522~-84,524

重複 なし。

形状 北南東から北西方向へほぼ直線で、底面は平坦な溝である。

走向方位 N-19°-W

規模 全長4.18m 最大幅1.06m 最深部0.19m

検出・埋没状況 埋土は、黄橙色の軽石粒を含む黒褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 1号溝と同様、耕作痕の可能性もある。遺構の確認状況から近世と考えられる。

F区4号溝(第21・45図 PL.19)

位置 X=32,843~32,851 Y=-84,470~-84,474

重複 3号溝に後出する。

形状 南西から北東方向へ伸び調査区北側で北西方向に湾曲する溝である。底面は凹凸が多く、比高は0.20mである。

走向方位 N-33°-E

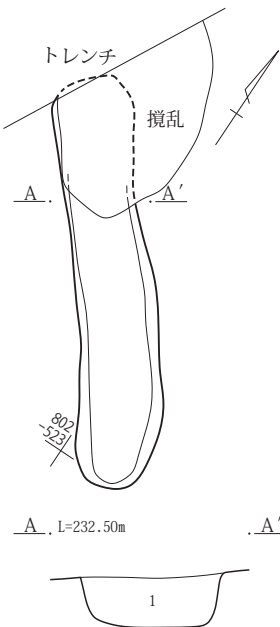
規模 全長9.60m以上 最大幅0.64m 最深部0.19m

検出・埋没状況 埋土は不明、断面形は不整形である。

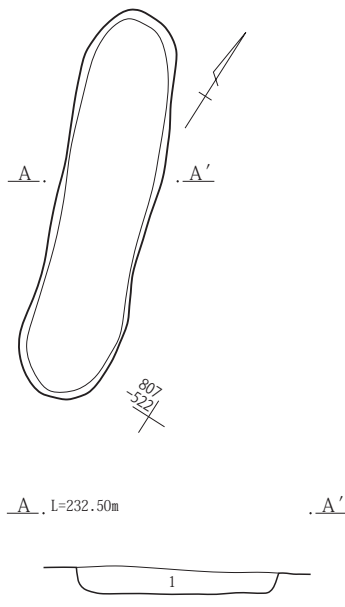
出土遺物 なし。

調査所見 As-B層下面で確認したことから、天仁元(1108)年以前と考えられる。

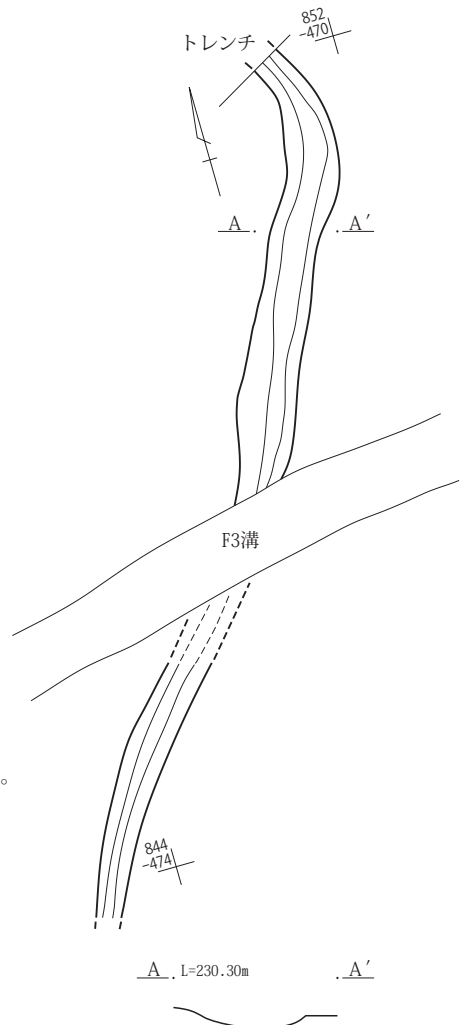
F区1号溝



F区2号溝



F区4号溝

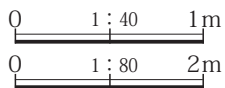


F区1号溝

1 黒褐色土(10YR3/1)を主体として、直径5~10cmの黄橙色土(10YR7/8)ローム粒を50%程含む。砂質。極小粒。粘性なし。しまりあり。

F区2号溝

1 黒褐色土(10YR3/1)を主体として、直径5~15cmの黄橙色(10YR7/8)軽石粒を50%程含む。砂質。極小粒。粘性なし。しまりあり。



第45図 F区1号溝、2号溝、4号溝

F区3号溝(第19・46図 PL.18)

位置 X=32,845~32,848 Y=-84,466~-84,479

重複 4号溝に後出する。

形状 西から東方向のほぼ直線の溝である。底面は凹凸が多く、比高は0.28mである。

走向方位 N-79°-E

規模 全長10.86m以上 最大幅0.90m 最深部0.45m

検出・埋没状況 埋土は、白色粒を含む黒色土が主体で、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 As-B層を掘り込んでいることから天仁元(1108)年以降と考えられる。

G区1号溝(第19・46図 PL.19)

位置 X=32,876~32,878 Y=-84,485~-84,489

重複 なし。

形状 南東から北西方向のほぼ直線の溝である。底面は平坦であり、比高は0.18mである。

走向方位 N-71°-W

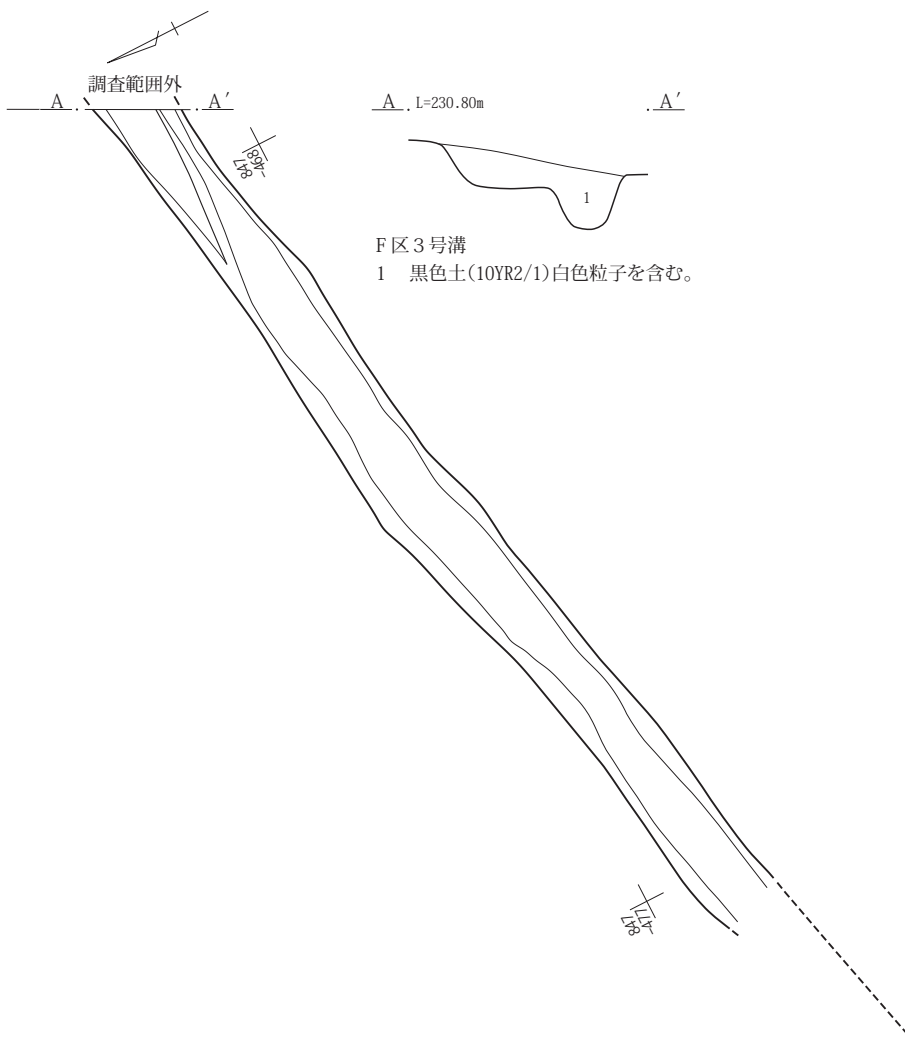
規模 全長4.56m以上 最大幅1.17m 最深部0.27m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む黒色土が主体で、断面形は台形を呈する。

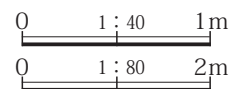
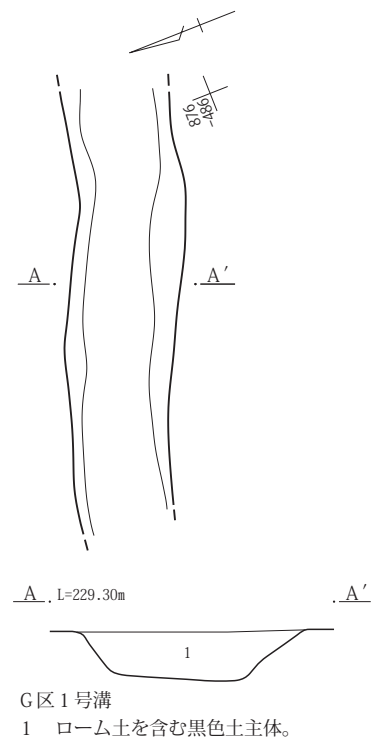
出土遺物 なし。

調査所見 埋土および周辺状況から、時期は天明3(1783)年以前と考えられる。

F区3号溝



G区1号溝



第46図 F区3号溝、G区1号溝

(6)埋甕・焼土

F区1号埋甕(第18・47・48図 PL.19・23)

位置 X=32,834 Y=-84,503

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-65°-W

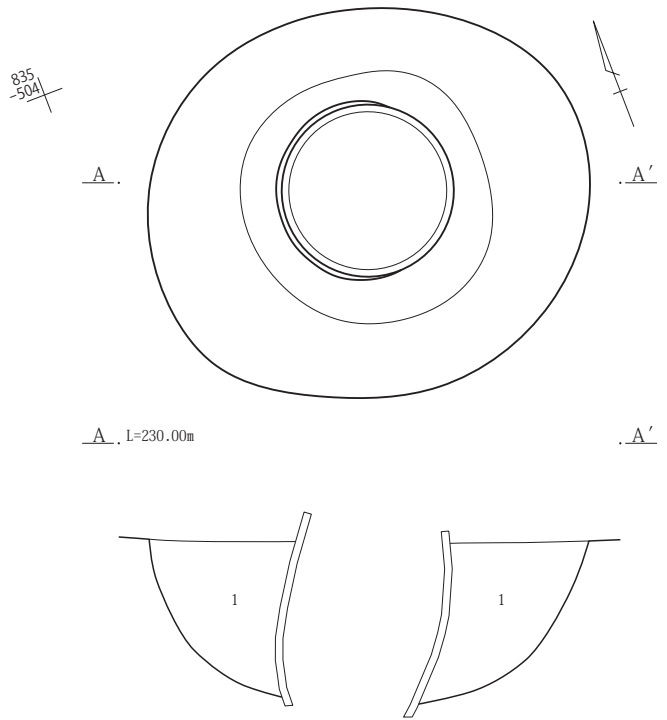
規模 長軸0.58m 短軸0.52m 深さ0.22m

検出・埋没状況 F区2号遺物集中の調査中に検出した。

埋土は、白色粒子を含む黒色土主体である。埋甕の周囲の断面形は弧状である。

出土遺物 五領ヶ台式深鉢胴部(第48図1)が据えられていた。

調査所見 遺物から縄文時代中期初頭の遺構と考えられる。

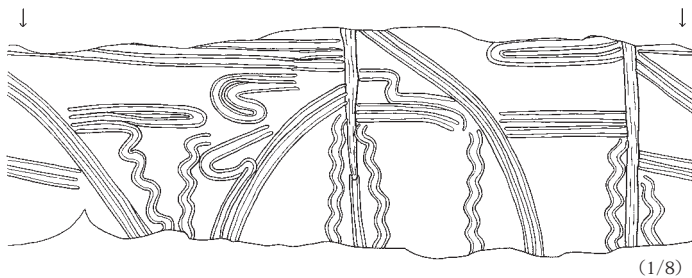


F区1号埋甕

1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

第47図 F区1号埋甕

F区1号埋甕出土遺物



(1/8)

F区1号焼土(第15・48・49図 PL.19・23)

位置 X=32,806・32,807 Y=-84,517・-84,518

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-5°-E

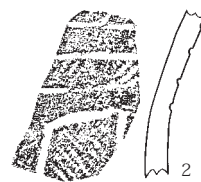
規模 長軸1.02m 短軸0.82m 深さ0.20m

検出・埋没状況 埋土は、しまりの強い明赤褐色土を主体とし、断面形は弧状を呈する。

出土遺物 埋土中から称名寺I式深鉢片(第48図2)が出土した。

調査所見 遺物は後世の混入と考えられる。遺構の検出状況から近世以降と考えられるが、詳細な時期は不明である。

F区1号焼土出土遺物

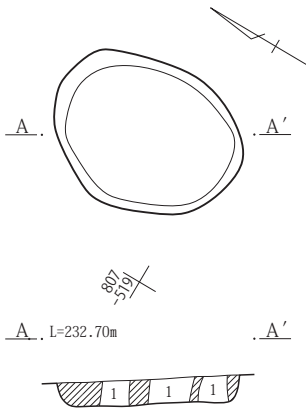


0 1:2 4cm

0 1:4 10cm

第48図 F区1号埋甕、F区1号焼土出土遺物

F区1号焼土



F区1号焼土

1 赤褐色土(2.5YR4/6)焼土、砂質。
極小粒。粘性なし。しまり極めて強い。

F区2号焼土(第18・49図 PL.19)

位置 X=32,835 Y=-84,504

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-86°-E

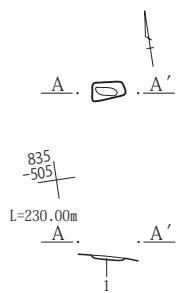
規模 長軸0.18m 短軸0.08m 深さ0.02m

検出・埋没状況 F区の地すべり層下の黒褐色土上面で確認した。埋土は、黒褐色土を含む赤褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

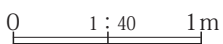
調査所見 遺構の検出状況から古墳時代以前の遺構であると考えられる。

F区2号焼土



F区2号焼土

1 赤褐色土(10R4/4)焼土ベース。黒褐色土を含む。



第49図 F区1号焼土、2号焼土

(7)遺物集中

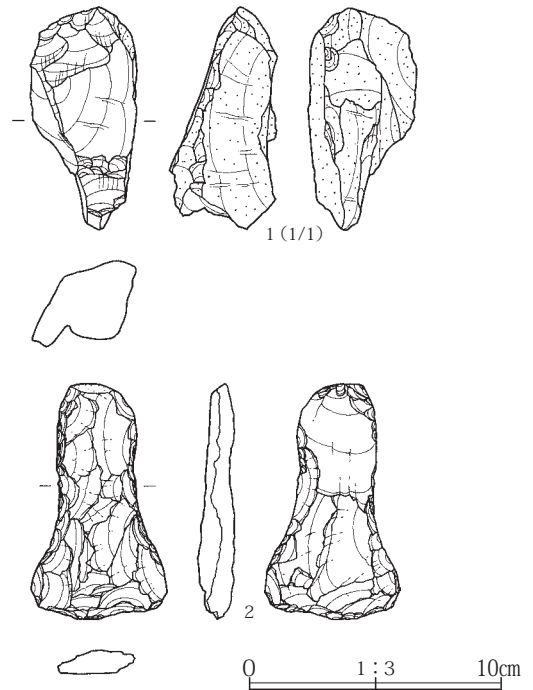
F区1号遺物集中(第15・50図 PL.19・23)

位置 X=32,811~32,817 Y=-84,508~-84,511

検出状況 F区の地すべり層上面で確認した。

出土遺物 遺物は21点出土している。このうち石核1点(第50図1)、打製石斧1点(第50図2)を掲載した。

調査所見 周囲はトレンチャーによる攪乱が著しいため、遺構の全容は確認できない。遺物から縄文時代であると考えられる。



第50図 F区1号遺物集中出土遺物

F区2号遺物集中(第51~62図 PL.19・20・24~33)

F区の旧石器確認調査中、6号旧石器試掘坑のローム下に黒色土と遺物を確認した。また、調査区北側にトレンチを設定してローム下まで掘削したところ、黒色土を確認した。このため、調査区北端からX=32,813・Y=-84,509からX=32,818・Y=-84,518付近、黒色土上面までを掘削して遺構確認を行った。その結果、縄文時代早期から古墳時代前期までの遺物が出土した。

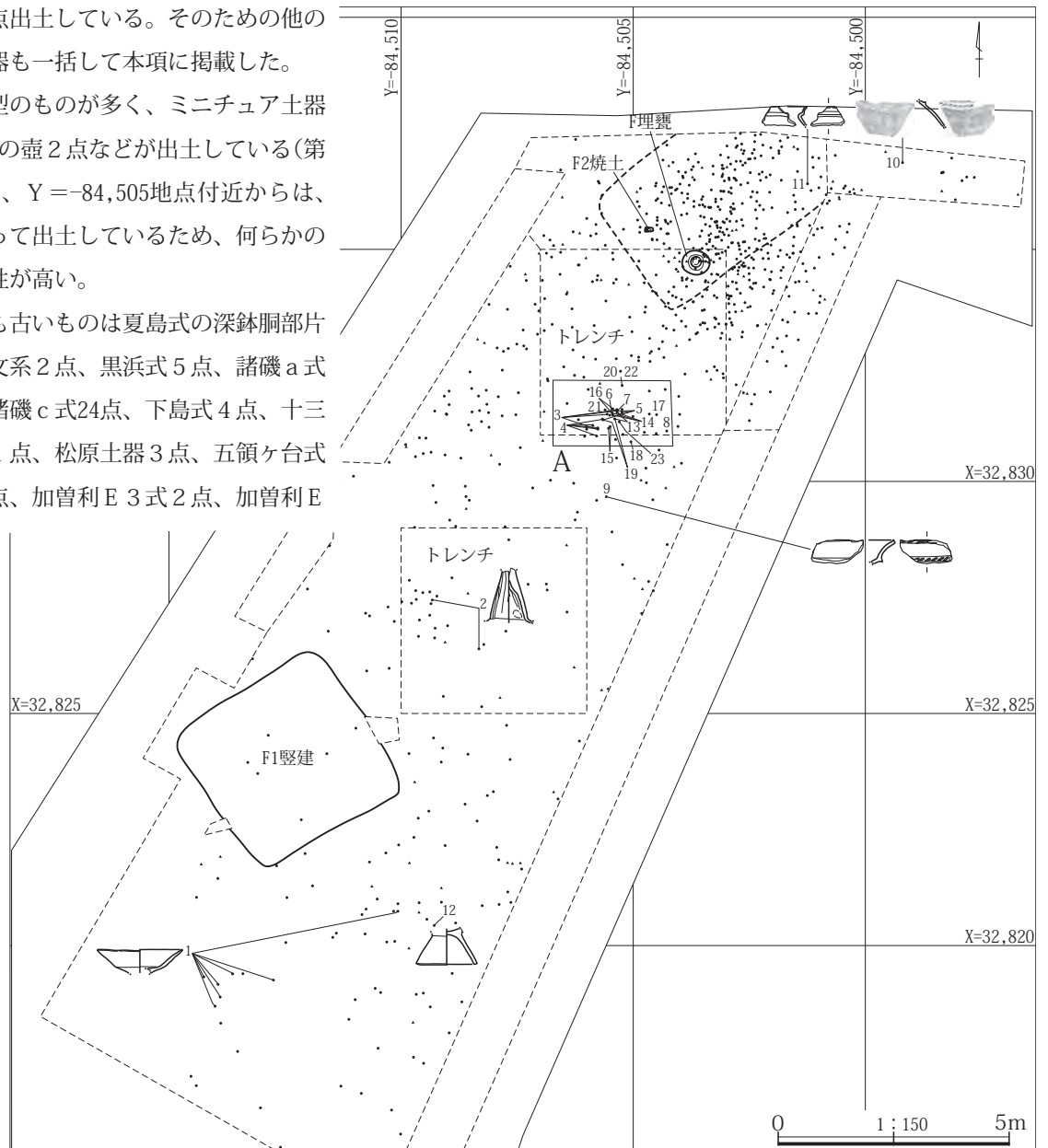
掲載した遺物は、古墳時代土師器23点、縄文土器136点、石器・石製品55点である。

なお、宮久保遺跡の縄文土器は、138点中118点が遺物集中と最も多く、そのほかA区4点、C区1点、D区2

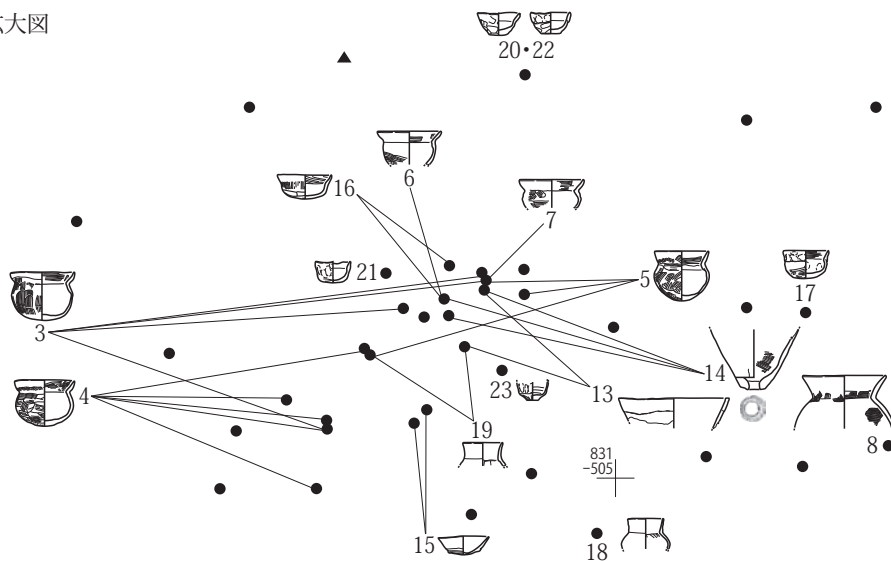
点、E区8点、G区3点出土している。そのための他の調査区から出土した土器も一括して本項に掲載した。

土師器は、比較的小型のものが多く、ミニチュア土器5点、手捏ね4点、小型の壺2点などが出土している(第52図)。特にX=34,831、Y=-84,505地点付近からは、これらの土器がまとまって出土しているため、何らかの祭祀遺構であった可能性が高い。

縄文土器のうち、最も古いものは夏島式の深鉢胴部片1点で、以下早期条痕文系2点、黒浜式5点、諸磯a式6点、諸磯b式16点、諸磯c式24点、下島式4点、十三菩提式1点、晴ヶ峯式1点、松原土器3点、五領ヶ台式42点、加曽利E 2式1点、加曽利E 3式2点、加曽利E



A 拡大図

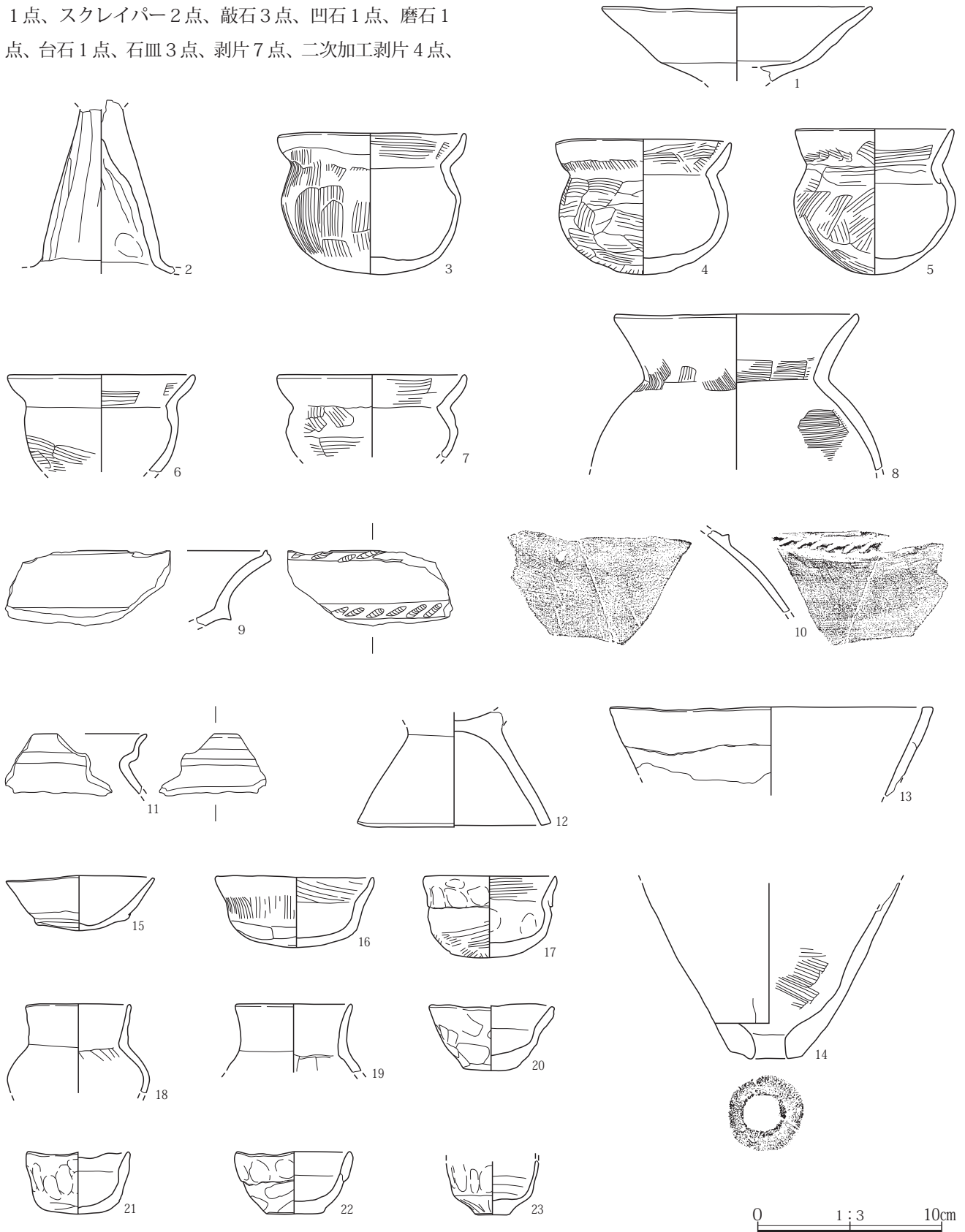


第51図 F区2号遺物集中

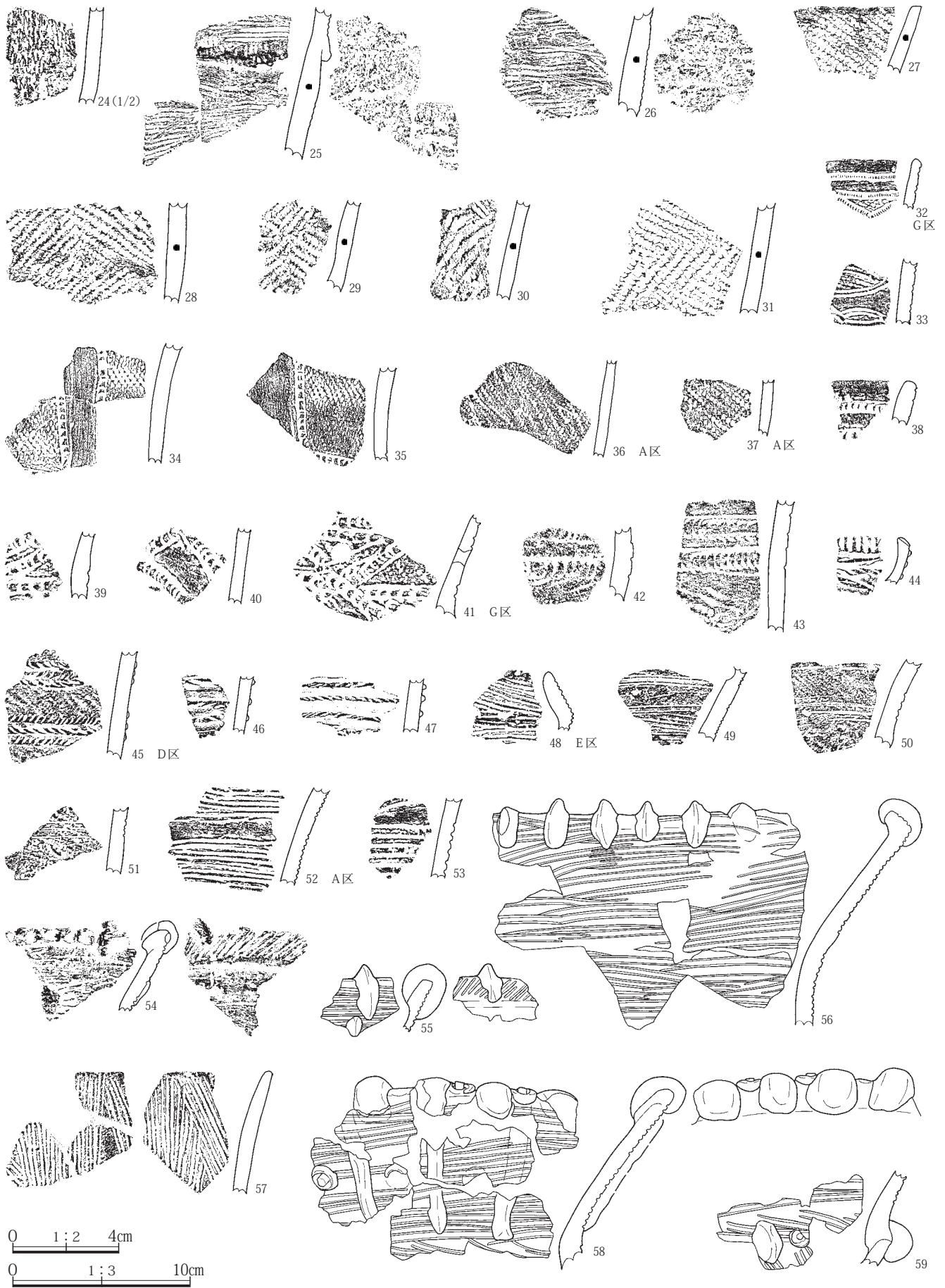
4式7点、称名寺Ⅰ式2点、称名寺Ⅱ式6点、堀之内2式1点、加曾利B 2式1点などが出土した(第53~57図)。

石器・石製品は、石鏃5点、打製石斧6点、楔形石器1点、スクレイパー2点、敲石3点、凹石1点、磨石1点、台石1点、石皿3点、剥片7点、二次加工剥片4点、

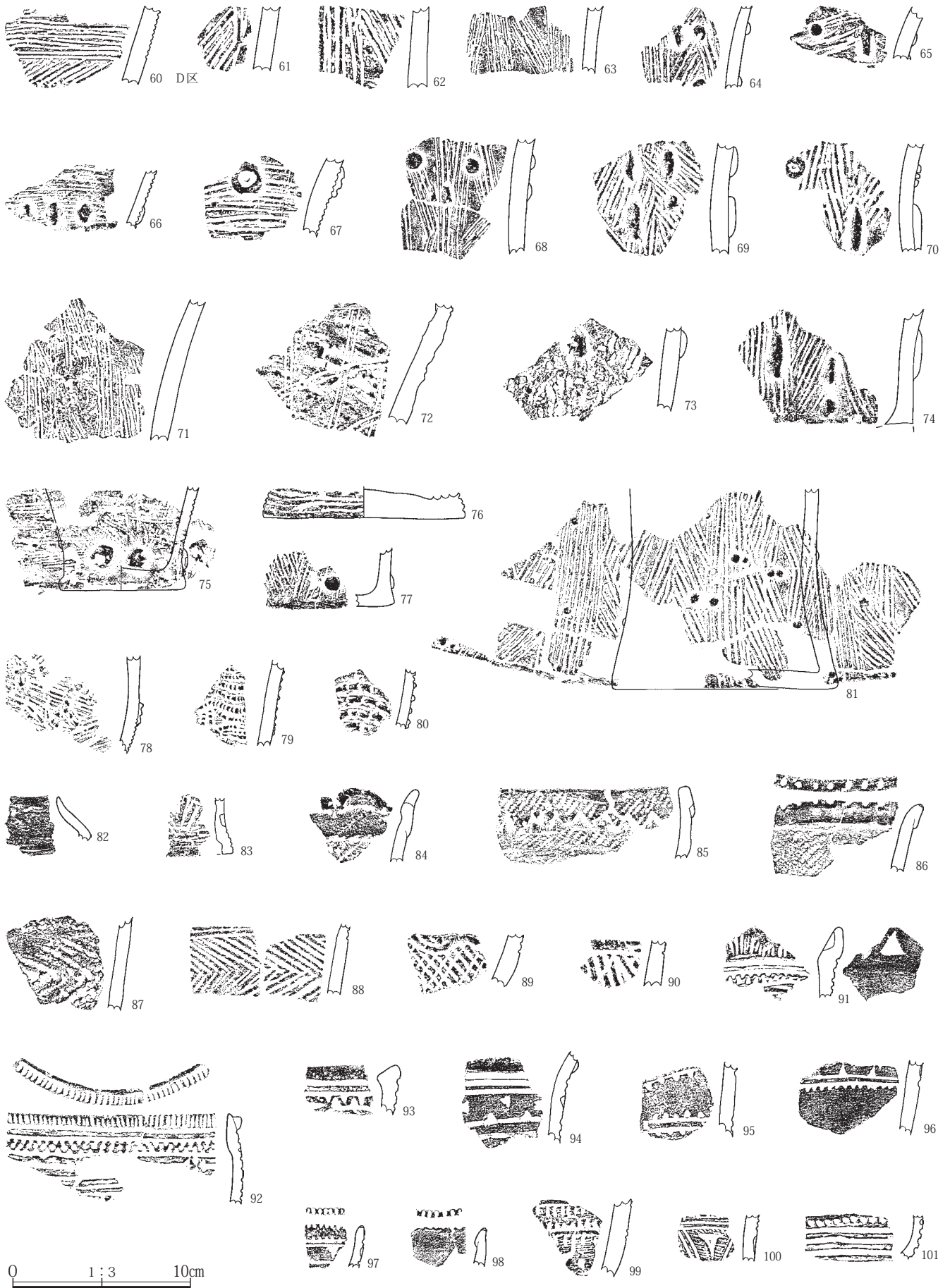
石核18点、管玉2点、ガラス小玉1点が出土した(第57~62図)。



第52図 F区2号遺物集中出土遺物(1)



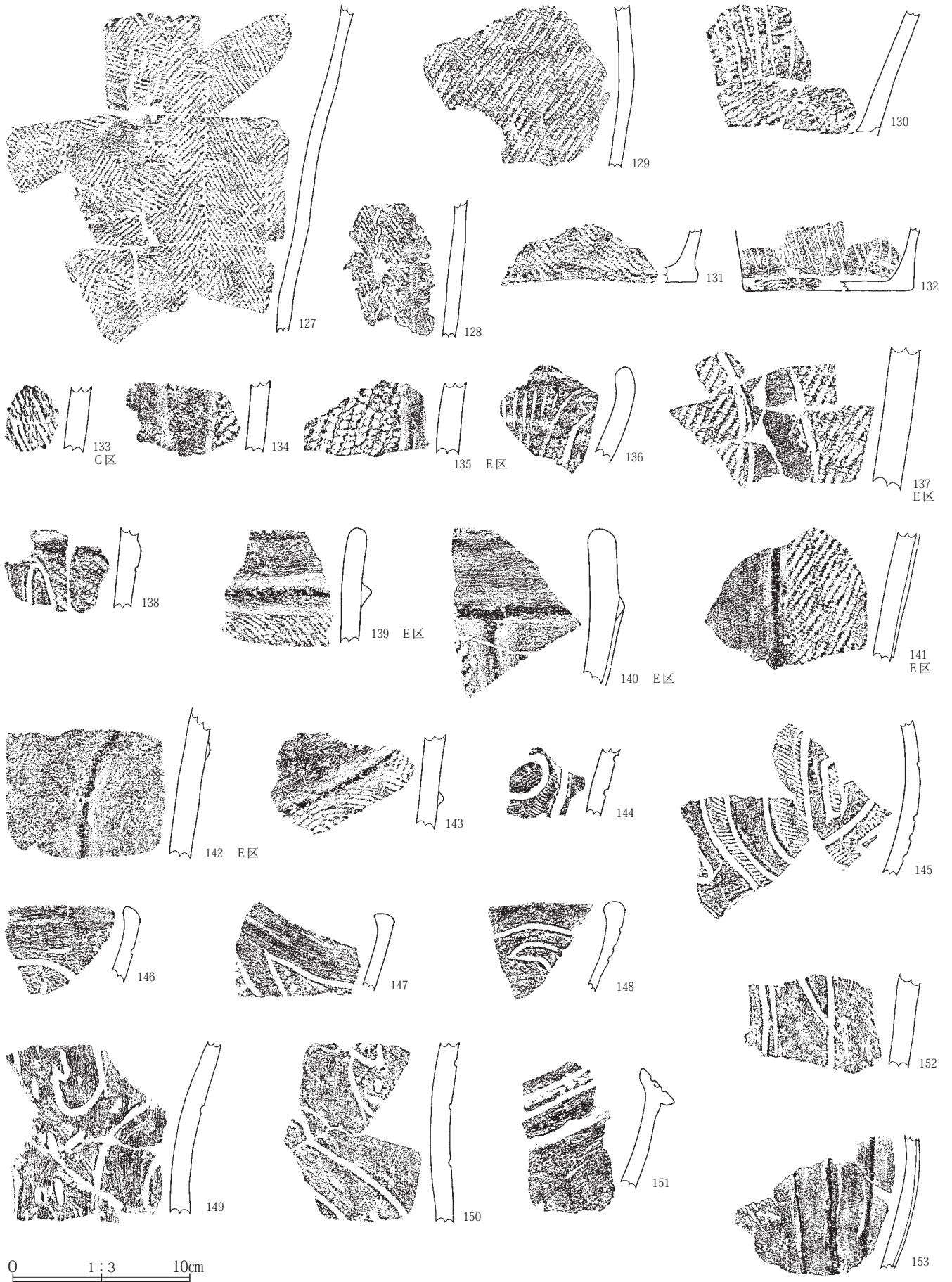
第53図 F区2号遺物集中出土遺物(2)



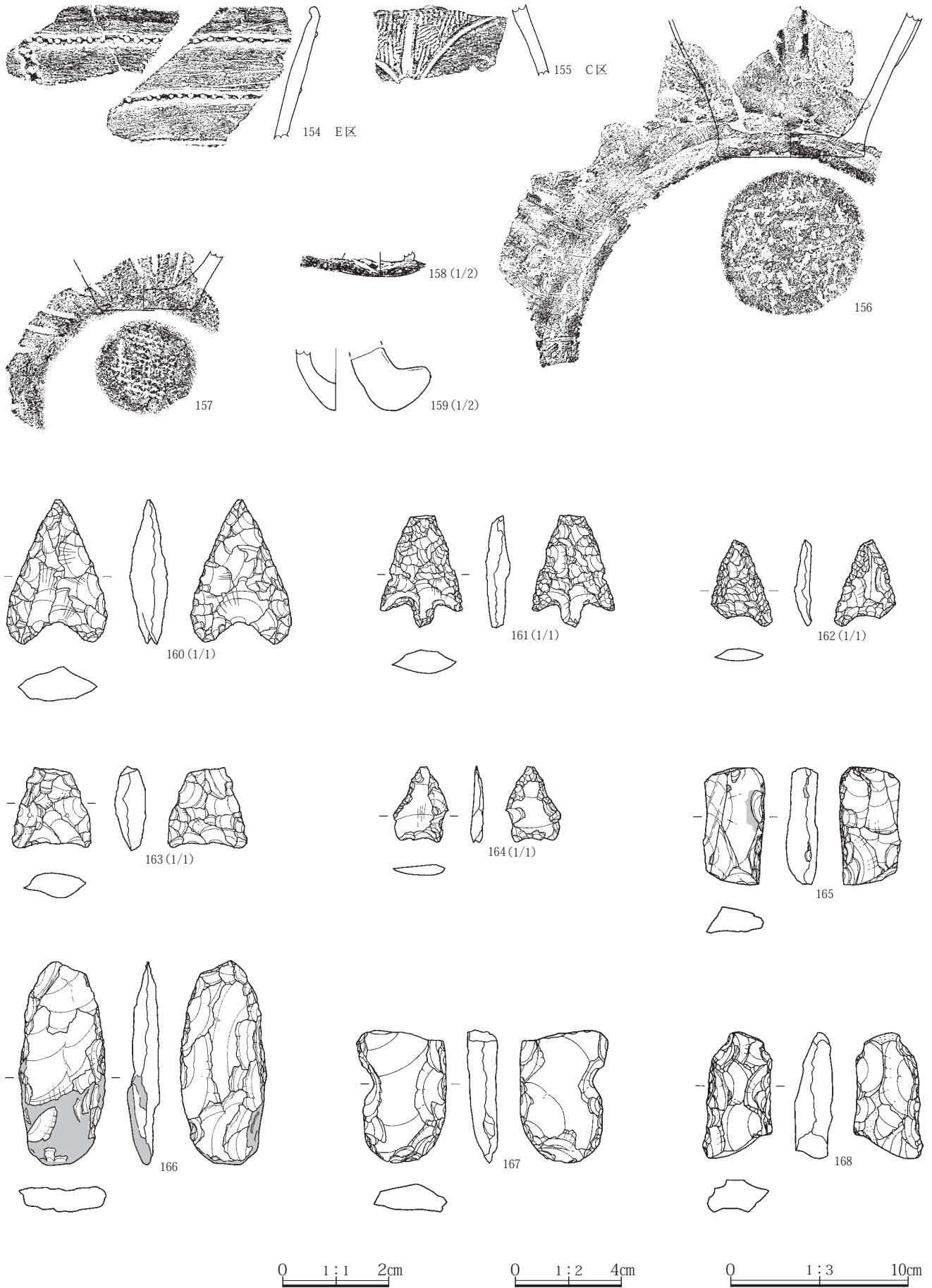
第54図 F区2号遺物集中出土遺物(3)



第55図 F区2号遺物集中出土遺物(4)



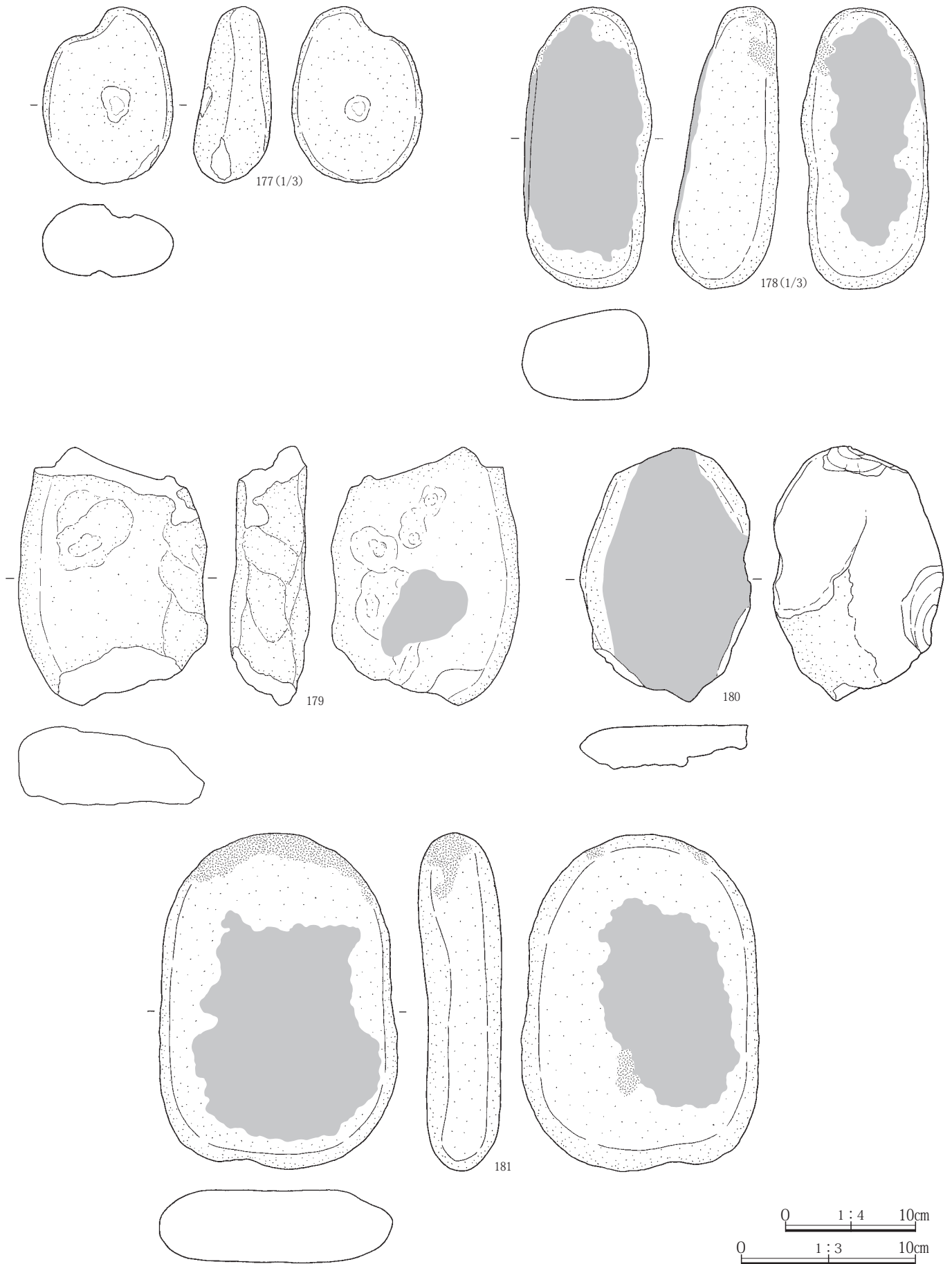
第56図 F区2号遺物集中出土遺物(5)



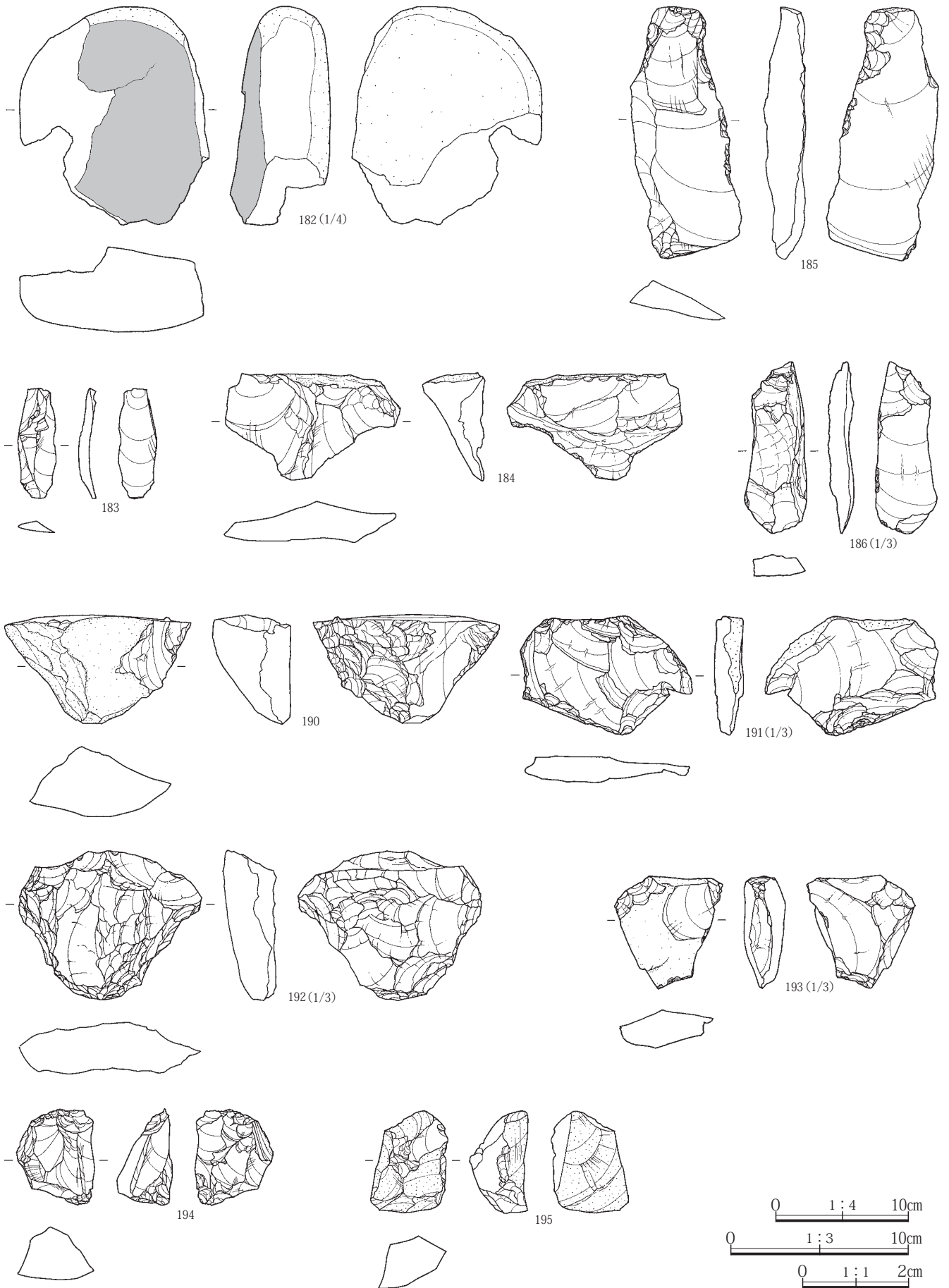
第57図 F区2号遺物集中出土遺物(6)



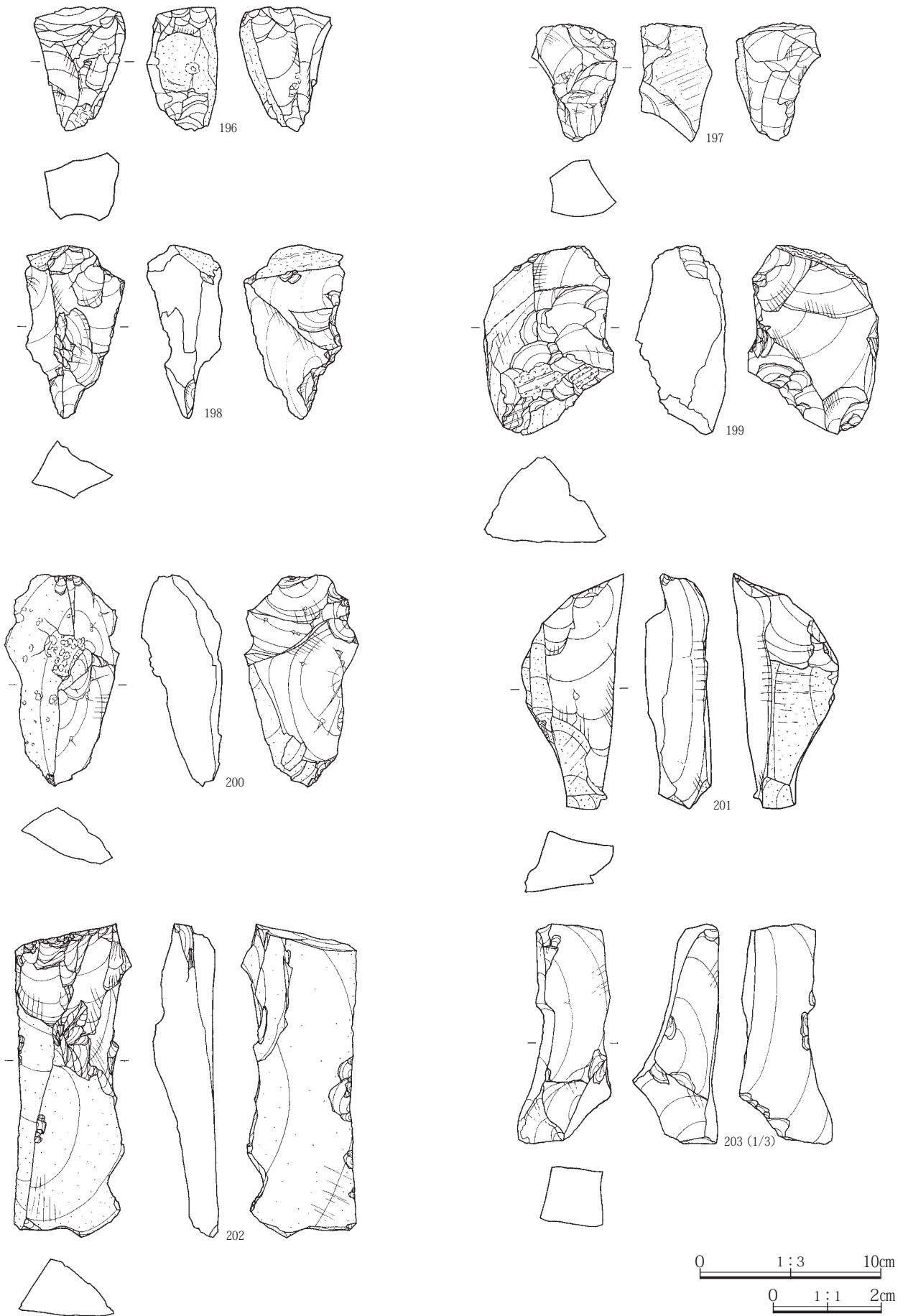
第58図 F区2号遺物集中出土遺物(7)



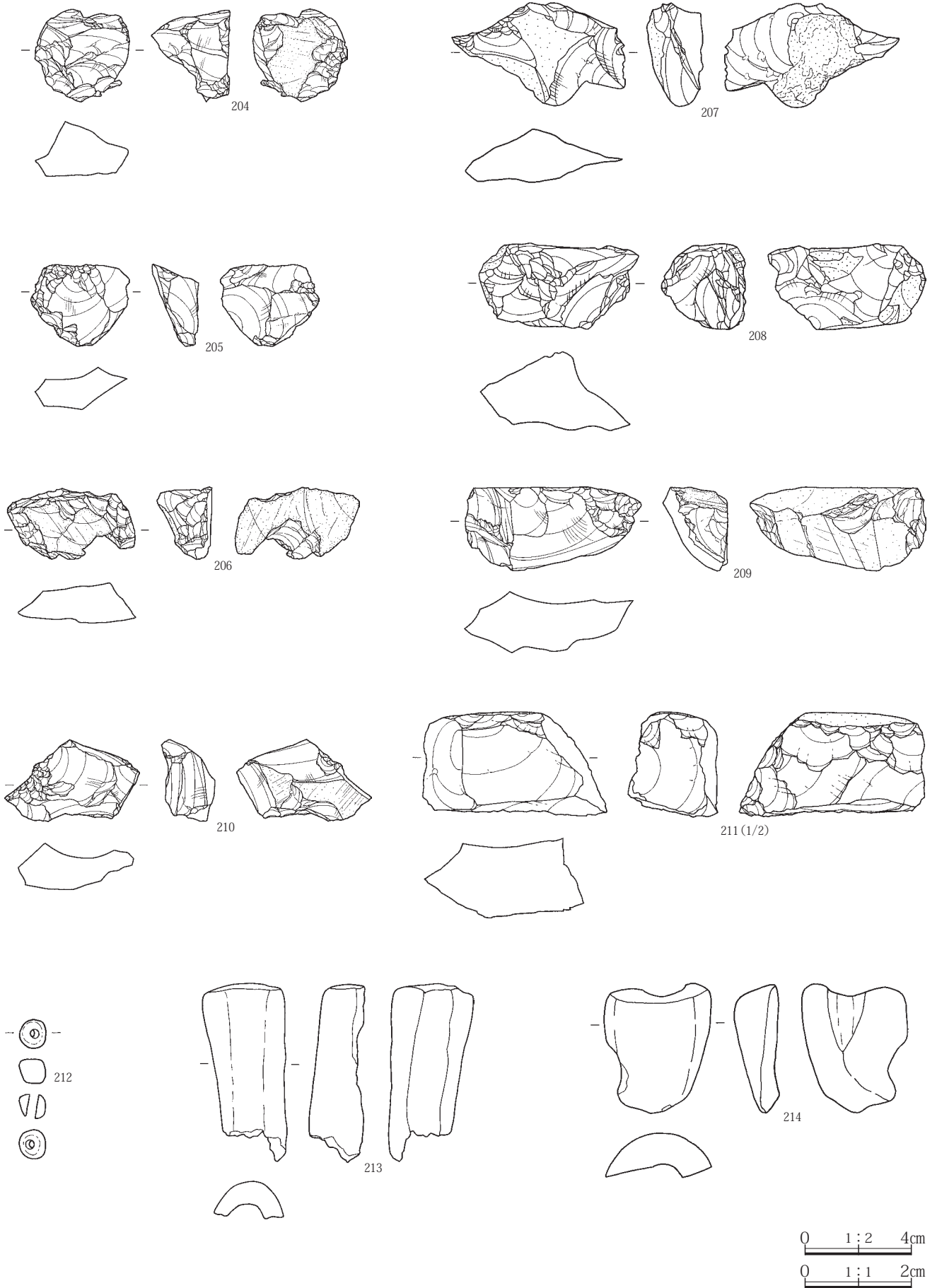
第59図 F区2号遺物集中出土遺物(8)



第60図 F区2号遺物集中出土遺物(9)



第61図 F区2号遺物集中出土遺物(10)

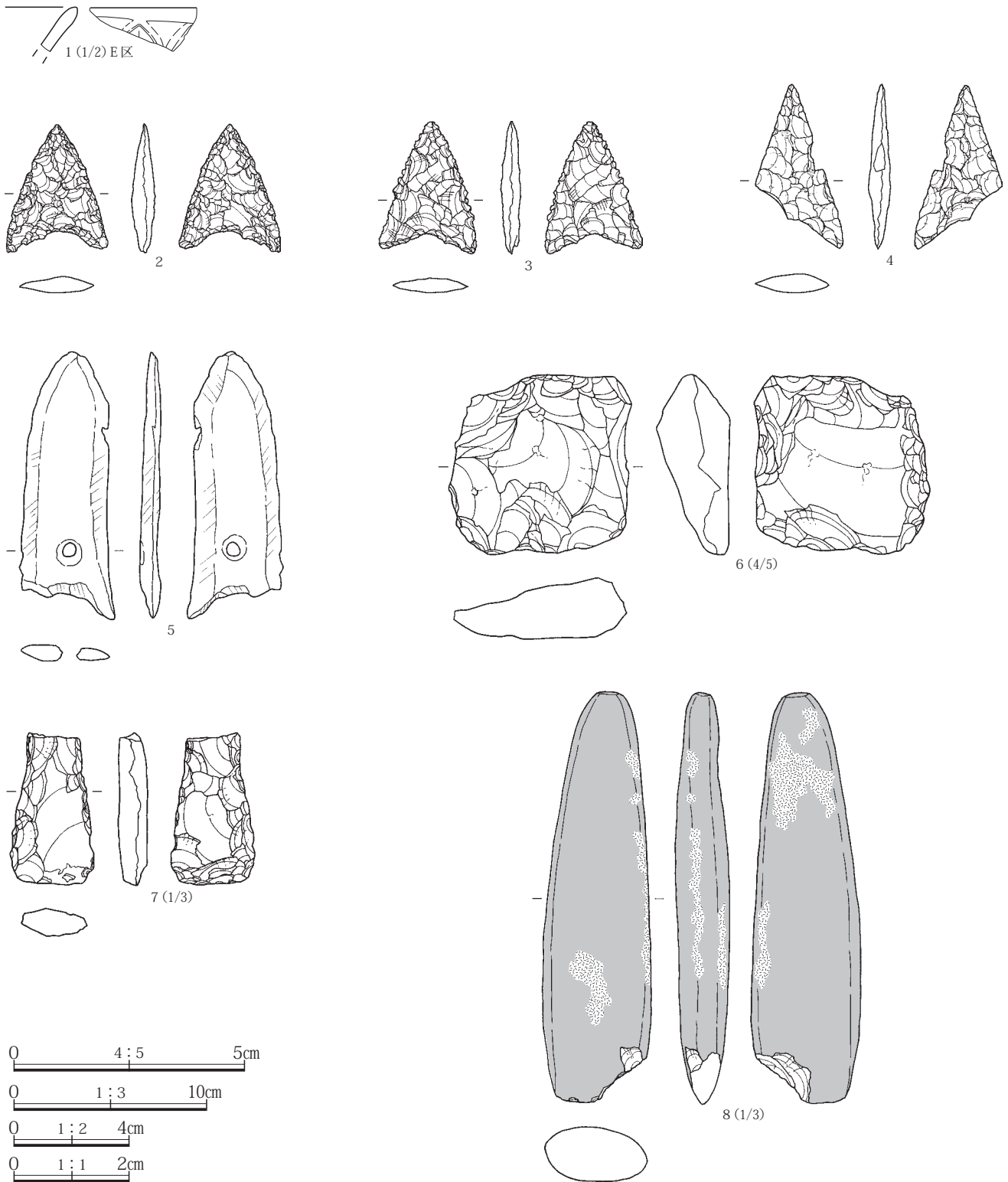


第62図 F区2号遺物集中出土遺物(11)

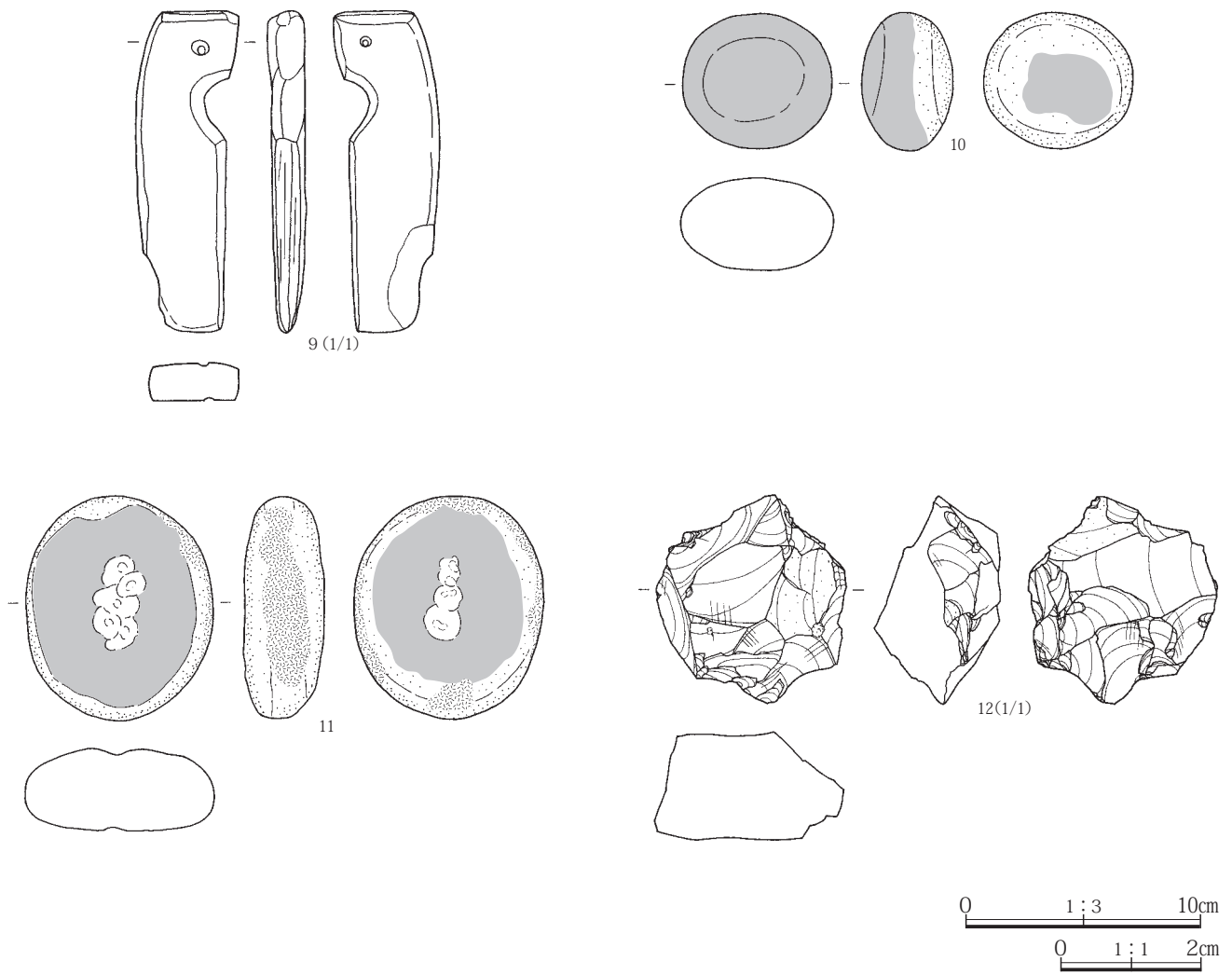
(8) 遺構外出土遺物(第63・64図 PL.34)

遺構外出土遺物のうち掲載したものは、中世の青磁1点(第63図1)、縄文土器18点(第53図～第57図)、石器・石製品11点(第63図2～8、第64図9～12)である。なお、

縄文土器は、(7)遺物集中の項にまとめて掲載した。掲載番号の後に区名を付している遺物が、F区以外の遺構外出土遺物である。



第63図 遺構外出土遺物(1)

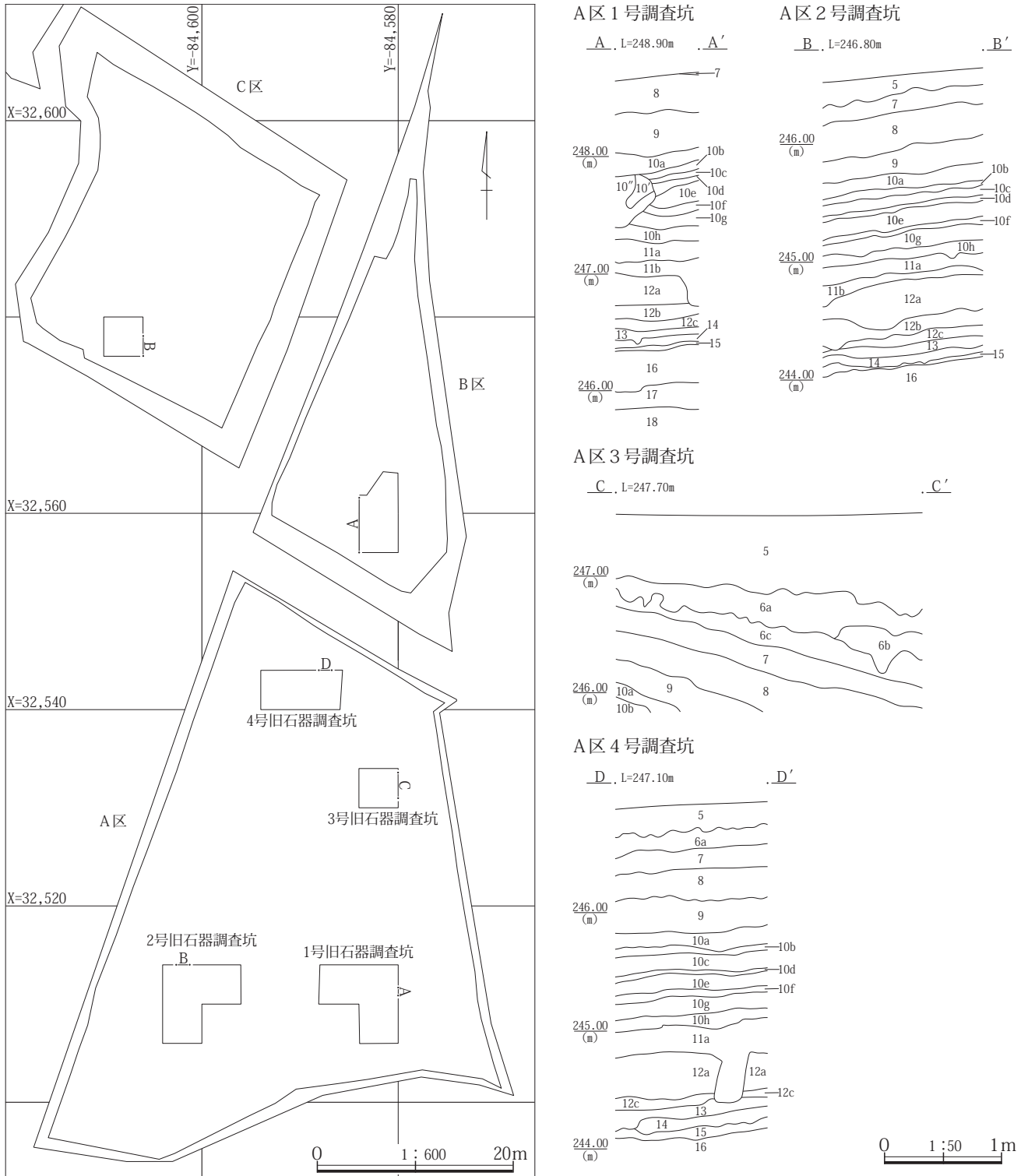


第64図 遺構外出土遺物(2)

(9)旧石器確認調査(第65~68図 PL.21・22)

令和2年度の調査では、A・B・C区でロームの堆積が認められた。よって、A区では4か所、B区とC区ではそれぞれ1か所ずつ調査坑を設置し、旧石器確認調査を行った。A区の調査坑の掘削深度は、1号調査坑2.90

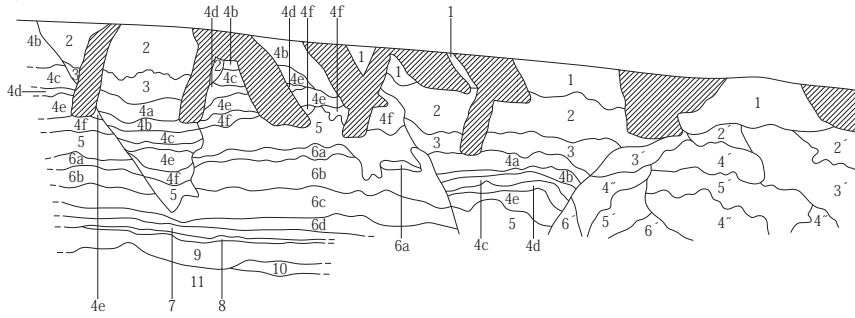
m、2号調査坑2.80m、3号調査坑1.71m、4号調査坑3.07mである。また、B区調査坑は1.90m、C区調査坑0.75mまで調査した。いずれの調査坑からも旧石器は確認されなかった。



第65図 A区~C区旧石器調査坑位置図とA区土層断面図

B区調査坑

A L=245.30m



C区調査坑

A' B L=241.60m



0 1:50 1m

A区1号旧石器調査坑A-A'～4号旧石器調査坑D-D'

- 5 黒褐色土(10YR3/2)As-YP軽石粒を少量含む。谷地の埋没土。粘性・しまり中程度。
- 6a にぶい黄褐色土(10YR5/3)As-YP軽石粒を中量含む。谷地の埋没土。粘性・しまり中程度。
- 6b にぶい黄褐色土(10YR5/3)As-YP軽石粒をほとんど含まない。谷地の埋没土。粘性・しまり中程度。
- 6c 黄褐色土(10YR5/8)As-YP軽石粒を多量に含む。谷地の埋没土。粘性・しまり中程度。
- 7 浅黄褐色土(10YR8/3)As-YP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 8 にぶい黄褐色土(10YR6/4)ローム。As-OK2か。粘性やや強い。しまり中程度。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR7/4)ローム。As-OK1か。粘性やや強い。しまり中程度。
- 10a 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 10b にぶい橙色土(7.5YR6/4)As-BP軽石層群。間層ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 10c 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 10d にぶい橙色土(7.5YR6/4)As-BP軽石層群。間層ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 10e 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 10f にぶい橙色土(7.5YR6/4)As-BP軽石層群。間層ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 10g 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 10h 灰黄褐色土(10YR5/2)As-BP軽石層群。軽石。上層よりやや黒味を帯びる。粘性弱い。しまり中程度。
- 10' にぶい橙色土(7.5YR6/4)10層軽石由来のブロック。粘性弱い。しまり中程度。
- 10'' 黄褐色土(7.5YR7/8)10層ローム由来のブロック。粘性弱い。しまり中程度。
- 11a にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム。粘性・しまり中程度。
- 11b 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム。下層由来の軽石粒を中量含む。粘性・しまり中程度。
- 12a 橙色土(7.5YR6/6)As-MP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 12b にぶい橙色土(7.5YR7/4)As-MP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 12c 褐灰色土(10YR6/1)As-MP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR7/3)砂質ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 14 にぶい黄褐色土(10YR6/3)ローム。ATをブロック状に含む。粘性・しまり中程度。
- 15 黒色土(10YR2/1)・明褐色土(10YR5/6)褐鉄沈着層と間層が互層状に堆積。粘性弱い。しまり強い。
- 16 にぶい黄褐色土(10YR5/4)互層状の粘質シルト。粘性やや強い。しまり強い。
- 17 にぶい黄褐色土(10YR6/3)粘土。粘性やや強い。しまり強い。
- 18 灰白色土(10YR7/1)粘土。粘性やや強い。しまり強い。

C区旧石器調査坑B-B'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム。As-YP粒を少量含む。傾斜部で乱れた土層か。粘性弱い。しまり中程度。
- 2 明黄褐色土(10YR6/6)ローム。As-YP・As-BP粒を少量含む。傾斜部で乱れた土層か。粘性弱い。しまり中程度。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム。As-BP粒を少量含む。傾斜部で乱れた土層か。粘性弱い。しまり中程度。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム。白色粒を中量含む。傾斜部で乱れた土層か。粘性弱い。しまり中程度。
- 5 灰褐色土(5YR4/2)褐鉄が沈着するが層構造を成さずに混在。C区基本土層6層が乱れたものか。粘性弱い。しまりやや強い。

B区旧石器調査坑A-A'

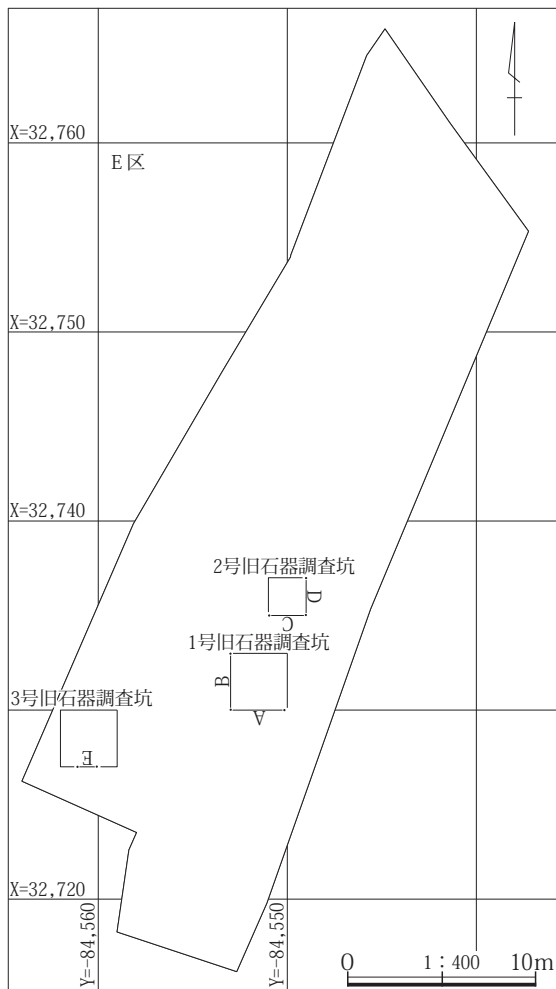
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)As-YP軽石を中量含む(一部ブロック状)。黒色土粒を中量含む。粘性・しまり中程度。
- 2 にぶい黄褐色ローム土(10YR6/4)As-OK2か。粘性やや強い。しまり中程度。
- 2' にぶい黄褐色土(10YR6/4)2層由来の斜面崩落土。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色ローム土(10YR7/4)As-OK1か。粘性やや強い。しまり中程度。
- 3' にぶい黄褐色土(10YR7/4)3層由来の斜面崩落土。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 4a 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 4b にぶい橙色土(7.5YR6/4)As-BP軽石層群。間層ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 4c 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 4d にぶい橙色土(7.5YR6/4)As-BP軽石層群。間層ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 4e 黄褐色土(7.5YR7/8)As-BP軽石層群。軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 4f にぶい橙色土(7.5YR6/4)As-BP軽石層群。間層ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 4' にぶい橙色土(7.5YR6/4)4層由来の斜面崩落土。ローム主体。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 4'' 黄褐色土(7.5YR7/8)4層由来の斜面崩落土。軽石主体。粘性弱い。しまりやや弱い。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム。粘性・しまり中程度。
- 5' にぶい黄褐色土(10YR5/3)5層由来の斜面崩落土。ブロック状。粘性・しまり中程度。
- 6a にぶい黄褐色土(10YR6/4)As-MP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 6b 橙色土(7.5YR6/6)As-MP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 6c 橙色土(7.5YR7/6)As-MP軽石。粘性弱い。しまり中程度。
- 6d にぶい黄褐色土(10YR6/3)As-MP軽石。下部は粒が崩れて土壌化。粘性弱い。しまり中程度。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR7/4)砂質ローム。粘性弱い。しまり中程度。
- 8 にぶい黄褐色ローム土(10YR6/3)ATをブロック状に含む。粘性・しまり中程度。
- 9 黒色土(10YR2/1)・明褐色土(7.5YR5/6)褐鉄沈着層と間層が互層状に堆積。粘性弱い。しまり強い。
- 10 灰黄褐色土(10YR5/2)粘土。粘性・しまりやや強い。
- 11 灰黄褐色土(10YR6/2)粘土。粘性・しまりやや強い。

第66図 B区・C区旧石器調査坑土層断面図

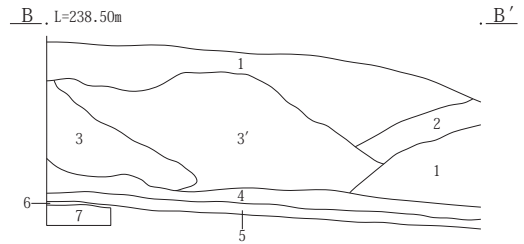
令和4年度の調査では、E区の南半分とF区の北半分にロームの堆積が認められた。そのため、遺構調査の終了後に旧石器確認調査を行った。E区は3m×3mの調査坑を2か所、2m×2mの調査坑を1か所設置した。F区は3m×3mの調査坑を6か所の調査坑を設置して調査を行った。調査坑の設定位置と断面確認地点は第68図のとおりである。E区1号調査坑とF区3号・4号調査坑からは、地割れの痕跡を確認した。なお、F区のローム層は、地すべりによる堆積で、ほぼ成層構造を保ったまま滑動している。本項では、旧石器確認調査の参考資料として報告する。

E区の調査坑の第2面からの掘削深度は、1号調査坑1.21m、2号調査坑1.05m、3号調査坑2.03m、F区第3面からの掘削深度は、1号調査坑2.09m、2号調査坑2.11m、3号調査坑1.90m、4号調査坑1.96m、5号調査坑1.96m、6号調査坑1.78mである。

いずれの調査坑からも旧石器は確認されなかった。



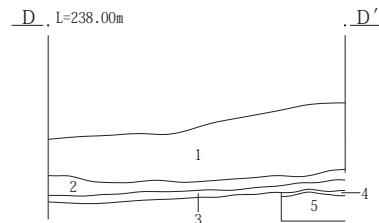
E区1号調査坑



E区1号旧石器調査坑B-B'

- 1 黄褐色土(10YR5/8)を主体とする。直径5mm程のAs-YP軽石を1%程含む。As-YP混土。また地割れがあり上層の黒色土の貫入が認められる。砂質。極小粒。粘性弱い。しまり強い。
- 2 明黄褐色土(2.5Y6/8)直経1cm前後のAs-YP軽石層。地割れによる貫入が認められる。砂質。粘性・しまりなし。
- 3 褐色土(10YR4/6)砂質。極小粒。粘性なし。しまりあり。
- 3' 黄褐色土(2.5Y5/6)砂質。極小粒。粘性なし。しまり弱い。
- 4 浅黄褐色土(10YR8/4)As-YPシルト化層。粘性弱い。しまりあり。
- 5 褐色土(7.5YR4/3)粘土質土。粘性・しまり極めて強い。
- 6 極暗褐色土(7.5YR52/3)硬質化した鉄分沈着層。極めて硬い。粘性なし。しまり極めて強い。
- 7 にぶい黄橙色土(10YR6/4)粘土質。含水層。粘性・しまり極めて強い。

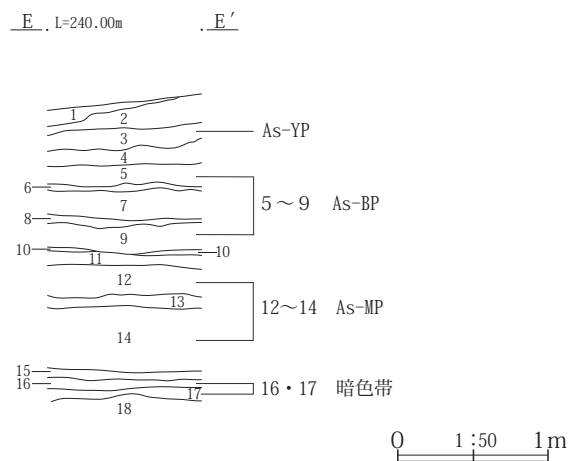
E区2号調査坑



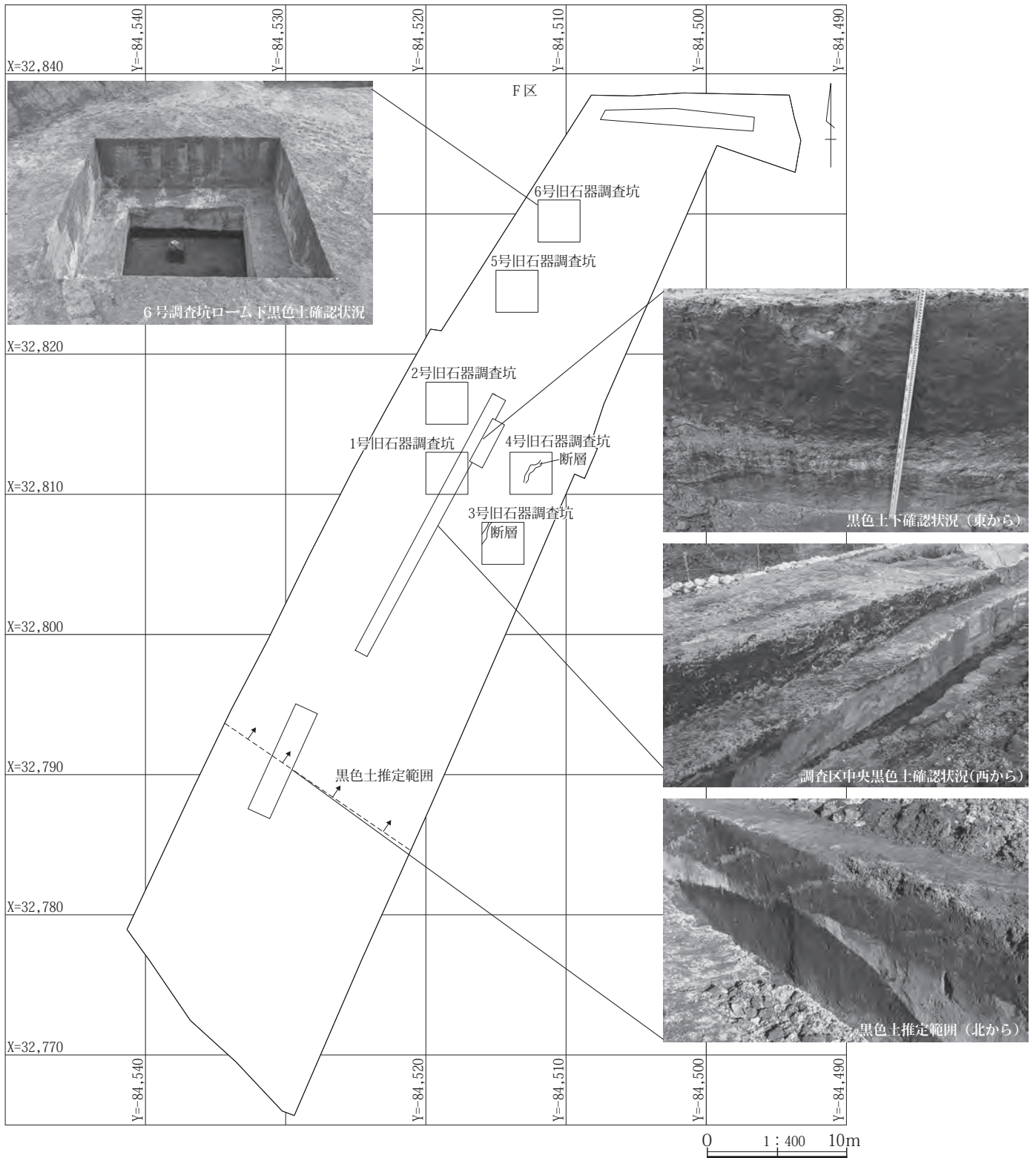
E区2号旧石器調査坑D-D'

- 1 黄褐色土(10YR5/8)を主体とする。直径5mm程のAs-YP粒を1%程含む。As-YP混土。上層の黒色土の貫入が認められるなどの攪乱層。砂質。極小粒。粘性弱い。しまり強い。
- 2 浅黄褐色土(10YR8/4)As-YPシルト化層。粘性弱い。しまりあり。
- 3 褐色土(7.5YR4/3)粘土質。粘性強い。しまり極めて強い。
- 4 極暗褐色土(7.5YR2/3)硬質化した鉄分沈着層。極めて硬い。粘性なし。しまり極めて強い。
- 5 にぶい黄橙色土(10YR6/4)粘土質。含水層。粘性・しまり極めて強い。

E区3号調査坑



第67図 E区旧石器調査坑位置図と土層断面図



第68図 F区旧石器調査坑位置図

第3表 宮久保遺跡 出土遺物観察表

F区1号竪穴建物出土遺物												
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備考		
第22図 PL.23	1	土師器 高杯	床直 脚部				細砂粒・粗砂粒/ やや不良/にぶい 黄橙	外面ヘラケズリ、内面しぼり。				
第22図 PL.23	2	土師器 鉢	床直 完形	口 底	10.2 3.9	高	5.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部～胴部上位横ナデのちヘラミガキ、胴部下位ヘラケズリ。内面口縁部横ナデのちヘラミガキ、胴部ナデ。			
第22図 PL.23	3	土師器 鉢	床直 完形	口 底	11.6 5.2	高	7.1	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐	口縁部～胴部上位横ナデ、胴部下位ヘラケズリ。内面ナデ、胴部ナデのちヘラミガキか。			
第22図 PL.23	4	土師器 鉢	床直 一部欠	口 高	10.2 7.3			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部下位～底部ヘラケズリ、内面ナデ。			
第22図 PL.23	5	土師器 鉢	床直 一部欠	口 底	10.9 5.9	高	6.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐	口縁部横ナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面ナデ、胴部上位ナデのち散発的にヘラミガキ。			
第22図 PL.23	6	土師器 鉢	床直 一部欠	口 高	10.6 6.3			細砂粒/良好/にぶい 褐色	口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部下位ヘラケズリ、内面ナデ。			
第22図 PL.23	7	土師器 鉢	埋没土 完形	口 底	10.0 5.7	高	7.3	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部～胴部上位横ナデ、胴部下位ナデ、内面ナデ。			
第23図 PL.23	8	土師器 短頸壺	床直 一部欠	口 底	16.3 6.8	高	13.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリのち胴部下位帯状にヘラミガキ、内面ナデ。			
第23図 PL.23	9	土師器 直口壺	埋没土 口縁部片					細砂粒/良好/にぶい 橙	外面横ナデ、内面横ナデのちヘラミガキ。			
A区3号土坑出土遺物												
第25図 PL.23	1	瀬戸・美濃 磁器か 皿	1/4	口 底	(8.7) (5.0)	高	2.6	白	口縁部から体部内面は型による印刻唐草文。底部内面は型による陽刻銀杏文。唐草文部分は全体に呉須を塗る。底部内面は銀杏文の外を呉須塗り。口縁部は輪花に作る。		19世紀前葉から中葉	
F区1号埋甕出土遺物												
第48図 PL.23	1	縄文土器 深鉢	北 胴上～中位1/3					粗砂、輝石、雲母 /良好	胴中位が膨らみ、頸部に向かってややすばまる器形。縦位隆帯を垂下させて胴部を不等分に2分割し、文様帯内に平行沈線による横位や弧状、蛇行文などを施す。片方の縦位隆帯は胴中位まで、下位は平行沈線となる。地文にLR縄文を横位施文。		五領ケ台式	
F区1号焼土出土遺物												
第48図 PL.23	2	縄文土器 深鉢	胴部破片					粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縄文を充填施文する。		称名寺I式	
F区1号遺物集中出土遺物												
第50図 PL.23	1	剥片石器 石核	F区1号遺物集 中 完形	長 幅	29 14	厚 重	14 4.2	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用した石核で、小型剥片を剥離している。			
第50図 PL.23	2	剥片石器 打製石斧	F区1号遺物集 中 完形	長 幅	91 53	厚 重	14 57.6	珪質頁岩	撥形の打製石斧で、刃部に最大幅を持つ。先端部は一部摩耗している程度である。			
F区2号遺物集中出土遺物 (A～G区の遺構外出土縄文土器を含む)												
第52図 PL.24	1	土師器 高杯	2号遺物集中 杯部	口	14.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内外面横ナデ。			
第52図 PL.24	2	土師器 高杯	2号遺物集中 脚部					細砂粒/やや不良/ 橙	外面ヘラナデ、内面しぼり、指圧痕。			
第52図 PL.24	3	土師器 鉢	2号遺物集中 一部欠	口 高	10.0 7.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	胴部～底部ハケメ、口縁部横ナデのち下位にハケメ、内面口縁部ハケメ(1cm当たり5本)、胴部ナデ。			
第52図 PL.24	4	土師器 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 高	9.4 7.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデのち下位にハケメ、胴部～底部ハケメ(1cm当たり5本)。内面口縁部ハケメ、胴部ナデ。			
第52図 PL.24	5	土師器 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 高	8.4 7.9			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデのちハケメ、胴部ハケメ(1cm当たり5本)、内面口縁部ハケメ、胴部ナデ。			
第52図 PL.24	6	土師器 鉢	2号遺物集中 口縁部～胴部	口	10.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、胴部下位ハケメ(1cm当たり5本)、内面口縁部横ナデのちハケメ、胴部ナデ。			
第52図 PL.24	7	土師器 鉢	2号遺物集中 口縁部～胴部	口	10.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(1cm当たり5本)、内面口縁部ハケメ、胴部ナデ。			
第52図 PL.24	8	土師器 壺	2号遺物集中 口縁部～胴部	口	13.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部ヘラナデのちに横ナデ、胴部ナデ。内面口縁部横ナデ、口縁部下位、胴部にハケメ(1cm当たり9本)。			
第52図 PL.24	9	土師器 二重口縁壺	2号遺物集中 口縁部片	口	10.0			細砂粒/良好/にぶい 黄橙	有段口縁。口唇部・口縁段部に刺突文、口縁部横ナデ。			
第52図 PL.24	10	土師器 壺	2号遺物集中 胴部片					細砂粒/良好/黄灰	頸部に刺突文の入った凸帯、ヘラナデ、内面横ナデ。			
第52図 PL.24	11	土師器 甕	2号遺物集中 口縁部～胴部					細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	S字状口縁台付甕。口縁部横ナデ、頸部ヘラナデのち横ナデ。			
第52図 PL.24	12	土師器 甕	2号遺物集中 脚部	底	9.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	台付甕。内外面ナデ。			
第52図 PL.24	13	土師器 有孔鉢	2号遺物集中 口縁部	口	17.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面輪積痕、内面ヘラナデ。No.14と同一個体。			
第52図 PL.24	14	土師器 有孔鉢	2号遺物集中 胴部～底部	底 穴	3.9 1.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面ヘラケズリ、内面ハケメ(1cm当たり5本)、穴は内面側から穿孔。No.13と同一個体。			
第52図 PL.24	15	ミニチュア 土器 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 底	7.8 4.9	高	3.0	細砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部縦方向のナデ、底部横方向のナデ、内面ナデ。			

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.24	16	ミニチュア 土器 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 高	8.4 3.9		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(1cm当たり5本)、底部ヘラケ ズリ。内面口縁部ハケメ、胴部～底部ナデ。	
第52図 PL.24	17	ミニチュア 土器 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 高	7.1 4.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄褐色	口縁部指頭痕、口縁部下位に輪積痕、胴部～底部ハケメ(1 cm当たり5本)。内面口縁部ハケメ、胴部指頭痕。	
第52図 PL.24	18	ミニチュア 土器 埴	2号遺物集中 口縁部～胴部	口	5.6		細砂粒・粗砂粒/ やや不良/にぶい 橙	口縁部ナデ、内面頸部ナデ。	
第52図 PL.24	19	ミニチュア 土器 埴	2号遺物集中 口縁部～胴部	口	6.2		細砂粒・粗砂粒/ やや不良/にぶい 黄橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデか。内面口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデ。	
第52図 PL.24	20	手捏ね 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 底	6.5 3.0	高 3.6	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部～胴部上位方向不定のヘラナデ、胴部下位ナデ。内 面口縁部横ナデ。	
第52図 PL.24	21	手捏ね 鉢	2号遺物集中 完形	口 底	5.4 3.4	高 3.4	細砂粒/良好/黒褐	胴部指頭痕、底部ヘラナデ、内面ナデ。	
第52図 PL.24	22	手捏ね 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	口 底	6.0 3.1	高 3.4	細砂粒/良好/黒褐	口縁部指頭痕、口縁部下位に輪積痕、胴部ナデ、内面ナデ。	
第52図 PL.24	23	手捏ね 鉢	2号遺物集中 口縁部～底部	底	1.9		細砂粒・粗砂粒/ やや不良/橙	胴部上位縦方向のナデ、胴部下位ヘラナデ、内面胴部ヘラ ナデ。	
第53図 PL.24	24	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、輝石/良好	撚糸文Rを縦位施文する。	夏島式
第53図 PL.24	25	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口辺部破片				粗砂、チャート細 礫、片岩、繊維/ 良好	折り返し状の肥厚口縁。肥厚部、肥厚部下に横位の条痕を 施す。肥厚部下端に絡条体圧痕文と思われる押捺を施す。	早期後半
第53図 PL.24	26	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片					No.25と同一個体。	早期後半
第53図 PL.24	27	縄文土器 深鉢	F区 口縁部破片				粗砂、チャート細 礫、輝石、繊維/ ふつう	RL縄文を横位施文する。	黒浜式
第53図 PL.24	28	縄文土器 深鉢	F区 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	RL、LR縄文を羽状施文する。	黒浜式
第53図 PL.25	29	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、チャート、 繊維/ふつう	RL、LR縄文を羽状施文する。	黒浜式
第53図 PL.25	30	縄文土器 深鉢	F区一括 胴部破片				粗砂、細礫、繊維 /ふつう	無節RL、Lr縄文を羽状施文する。	黒浜式
第53図 PL.25	31	縄文土器 深鉢	F区一括 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	RL、LR縄文を羽状施文する。	黒浜式
第53図 PL.25	32	縄文土器 深鉢	G区一括 口縁部破片				細砂/良好	連続爪形文によるモチーフを施す。地文にRL縄文を施し、 区画外を磨り消す。	諸磯a式
第53図 PL.25	33	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂/良好	平行沈線による木葉文を施す。地文にRL縄文を施し、区画 外を磨り消す。	諸磯a式
第53図 PL.25	34	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂/ふつう	RL縄文を横位施文し、連続爪形文で矩形状に区画、区画外 を磨り消す。	諸磯a式
第53図 PL.25	35	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片					No.34と同一個体。	諸磯a式
第53図 PL.25	36	縄文土器 深鉢	A区4層 胴部破片				細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第53図 PL.25	37	縄文土器 深鉢	A区4層 胴部破片				細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第53図 PL.25	38	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂/良好	連続爪形文を横位にめぐらす。	諸磯b式
第53図 PL.25	39	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂/良好	連続爪形文によるモチーフを施す。	諸磯b式
第53図 PL.25	40	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂/良好	連続爪形文によるモチーフを施す。	諸磯b式
第53図 PL.25	41	縄文土器 深鉢	G区一括 胴部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	連続爪形文によるモチーフを施す。	諸磯b式
第53図 PL.25	42	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、輝石/良好	連続爪形文を横位にめぐらし、下位に斜線文を施す。	諸磯b式
第53図 PL.25	43	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、白色粒、輝 石/良好	連続爪形文を横位にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第53図 PL.25	44	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 一括 口縁部破片				粗砂/良好	横位、弧状の浮線を施す。地文にRL縄文を横位施文。口縁 外端に縦位短沈線を施す。	諸磯b式
第53図 PL.25	45	縄文土器 深鉢	D区一括 胴部破片				粗砂、輝石/良好	3条1単位の浮線を横位にめぐらす。地文にRL縄文を横位 施文。	諸磯b式
第53図 PL.25	46	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂/良好	浮線を横位にめぐらす。	諸磯b式
第53図 PL.25	47	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、輝石/良好	複数条の横位浮線をめぐらす。	諸磯b式
第53図 PL.25	48	縄文土器 深鉢	E区1面 口縁部破片				細砂/ふつう	波状口縁で口縁部がくの字状に内屈する。横位集合沈線を 施す。	諸磯b式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.25	49	縄文土器 深鉢	2号遺物集中 口辺部破片			細砂、輝石/良好	口縁が内屈する部位と思われる。横位集合沈線をめぐらす。	諸磯b式
第53図 PL.25	50	縄文土器 深鉢	2号遺物集中 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第53図 PL.25	51	縄文土器 深鉢	F区1号溝 胴部破片			粗砂/良好	横位集合沈線をめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第53図 PL.25	52	縄文土器 深鉢	A区4層 胴部破片			粗砂/良好	横位集合沈線をめぐらす。	諸磯b式
第53図 PL.25	53	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位集合沈線、斜位沈線を施す。	諸磯b式
第53図 PL.25	54	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			細砂/ふつう	口縁外端に刻みをめぐらし、横位集合沈線を施文、口縁に小型の耳状突起、口頸部にボタン状貼付文を付す。口縁内面を肥厚させ、斜位の集合沈線を施す。	諸磯c式
第53図 PL.25	55	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂/ふつう	横位集合沈線をめぐらし、口縁に耳状突起、口頸部にボタン状貼付文を付す。口縁内面を肥厚させ、斜位の集合沈線を施す。	諸磯c式
第53図 PL.25	56	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	口縁が開き、口縁部が短く内湾する。横位集合沈線をめぐらし、口縁部に耳状突起を連ねる。	諸磯c式
第53図 PL.25	57	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			細砂、輝石/良好	縦位、斜位の集合沈線を施す。口縁部が加飾されず、残存部には貼付文も付されない。	諸磯c式
第53図 PL.25	58	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂/良好	くの字状に外屈し、口縁が開く器形で口縁内面を肥厚させる。横位集合沈線を施し、口縁部に内外面にまたがる貼付文、口頸部に棒状貼付文を付し、それぞれの間に円形竹管刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第53図 PL.25	59	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂/良好	頸部の屈曲する部位。口頸部に横位、頸部に斜位、胴部に縦位展開する集合沈線を施し、屈曲部に耳状突起、円形竹管刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.25	60	縄文土器 深鉢	D区10層 胴部破片			粗砂、赤色粒、輝石/良好	横位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯c式
第54図 PL.25	61	縄文土器 深鉢	2号遺物集中 胴部破片			細砂/良好	縦位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯c式
第54図 PL.26	62	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂/良好	縦位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯c式
第54図 PL.26	63	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、チャート/良好	縦位、斜位の集合沈線を施す。	諸磯c式
第54図 PL.26	64	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂/良好	縦位、矢羽根状の集合沈線を施し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	65	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂、チャート/良好	横位、鋸歯状の集合沈線を施し、棒状、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	66	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂/良好	横位集合沈線を施し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	67	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐらし、円形竹管刺突を伴うボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	68	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、チャート細礫/良好	縦位、斜位の集合沈線を施し、ボタン状貼付文、短い棒状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	69	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂/良好	レンズ状文内の部位か。斜位沈線で区画し、区画内に矢羽根状の集合沈線を充填施文、短い棒状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	70	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、輝石/良好	レンズ状文の部位と思われ、縦位弧状、矢羽根状の集合沈線を施し、円形竹管刺突を伴うボタン状貼付文、短い棒状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	71	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂/良好	縦位、斜位の集合沈線を施す。やや粗雑な施文。	諸磯c式
第54図 PL.26	72	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口辺部破片			細砂、輝石/良好	口縁下の部位と思われる。縦位、斜位の平行沈線により斜格子目文を施す。斜位のナデ痕により器面の凹凸著しい。口縁内面肥厚。	諸磯c式
第54図 PL.26	73	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、輝石/良好	無飾Lr縄文を横位施文し、貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	74	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片			粗砂、輝石/良好	縦位、矢羽根状の集合沈線を施し、短い棒状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	75	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片	底	7.0	粗砂/良好	横位集合沈線をめぐらし、一部斜位沈線を施文、半截竹管内皮による刺突を伴うボタン状貼付文を付す。やや粗雑な施文。	諸磯c式
第54図 PL.26	76	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片	底	11.2	粗砂、チャート/良好	横位集合沈線をめぐらす。	諸磯c式
第54図 PL.26	77	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片			細砂/良好	縦位、斜位の集合沈線を施し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第54図 PL.26	78	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 一括 胴部破片			細砂/良好	縦位鋸歯状の集合沈線を施し、結節浮線によるモチーフを貼付する。	下島式
第54図 PL.26	79	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂/良好	横位集合沈線を施し、結節浮線によるモチーフを貼付する。	下島式
第54図 PL.26	80	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂/良好	渦巻状の結節浮線を施す。	下島式

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第54図 PL.26	81	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 一括 底部破片	底	12.5		細砂/良好	集合沈線により縦位区画し、区画内に矢羽根状や菱形の集合沈線を施文、2個1単位の小型のボタン状貼付文を付す。	下島式
第54図 PL.26	82	縄文土器 浅鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂/良好	ソロバン玉状の器形で、口縁が緩く外反する。口頸部に円孔を穿つ。	前期後葉
第54図 PL.26	83	縄文土器 深鉢	2号遺物集中 底部破片				細砂/良好	底部際に横位集合沈線をめぐらして文様帯を区画、集合沈線による鋸歯状文をめぐらし、三角印刻を施す。	十三菩提式
第54図 PL.26	84	縄文土器 深鉢	2号遺物集中 口縁部破片				細砂/良好	折り返し状の薄い肥厚口縁で、口縁に舌状の突起を付し、脇に口縁内外にまたがる貼付文を付す。肥厚部下にLR縄文を横位施文する。	晴ヶ峯式
第54図 PL.26	85	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	折り返し状の肥厚口縁で、肥厚部下端を鋸歯状に彫り込む。残存部全面にLR縄文を横位施文する。	前期末葉
第54図 PL.26	86	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂、チャート細 礫/良好	折り返し状の肥厚口縁で、肥厚部下にLR縄文を横位施文する。口唇部に刻みを付す。	前期末葉
第54図 PL.26	87	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂、輝石/ふつ う	RL、LRの結束羽状縄文を横位施文する。	前期末葉
第54図 PL.26	88	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂、赤色粒/良 好	横位平行沈線をめぐらして区画、区画内に矢羽根状の平行沈線を充填施文する。	松原土器
第54図 PL.26	89	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂、輝石/良好	平行沈線と単沈線による斜格子目文を施し、平行沈線による蛇行文をめぐらす。	松原土器
第54図 PL.26	90	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂、輝石、石英 /良好	横位沈線をめぐらして区画、平行沈線と単沈線による斜格子目文を施す。	松原土器
第54図 PL.26	91	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂/良好	三角形の小突起を付す波状口縁で、口縁がくの字状に外屈する。横位平行沈線をめぐらして口縁部縦位沈線帯を区画、以下、平行沈線、交互刺突を施す。波頂部内面に三角印刻を施す。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	92	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂、輝石、雲母 /良好	口縁直下に断面三角形の隆帯をめぐらして、上下半に縦位沈線を充填施文、以下、平行沈線を多段にめぐらす。最上段に交互刺突、円形刺突を施す。口縁内面肥厚。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	93	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂/良好	横位多段の平行沈線、交互刺突を施す。内削ぎ状に口縁内面肥厚。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	94	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂/良好	横位隆帯、横位沈線をめぐらし、横帯内と下端沈線に三角印刻を交互に施す。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	95	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、輝石/良好	2条の沈線を横位、斜位に施し、沈線上下端に刺突を沿わせる。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	96	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂/良好	2条の沈線をめぐらし、上位に三角印刻、下位に刺突を沿わせる。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	97	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂/良好	横位沈線をめぐらして刺突を沿わせ、三角印刻を施す。口唇部に刻みを付す。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	98	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂/良好	口縁部の無文帯か。口縁内面を肥厚させ、口唇部に刻みを付す。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	99	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂、輝石、石英 /良好	横位平行沈線をめぐらし、交互刺突を施す。地文に細密条痕を横位施文。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	100	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂/良好	沈線による三角形モチーフを施し、内部に三角印刻を施文、周囲に短沈線を充填施文する。	五領ヶ台式
第54図 PL.26	101	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				細砂/良好	緩く内湾する。沈線を多段にめぐらし、最上段に刺突を施す。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	102	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片	口	(12.0)		粗砂、輝石、雲母 /良好	直立する器形。弧状、L字状の隆帯を施して平行沈線を沿わせ、区画内に縦位平行沈線、蛇行文を配す。地文にLR縄文を横位、斜位施文。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	103	縄文土器 深鉢	2号遺物集中 口縁・胴部破片	口	(21.0)		粗砂、輝石、片岩 /良好	胴部が膨らみ、頸部でくの字状に外屈して口縁が緩く内湾する。頸部下にV字状ないしU字状の隆帯を貼付し、口縁から胴中位にかけてLR縄文を縦位施文する。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	104	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂、赤色粒/良 好	口縁外面を若干肥厚させて横位沈線を施し、以下、平行沈線を多段にめぐらす。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	105	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂、輝石、雲母 /良好	波頂部の突起。波頂部を逆U字状に肥厚させることで波頂部下に凹みを作出、口縁に沿って沈線を沿わせ、LR縄文を施す。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	106	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂、輝石、雲母 /良好	波頂部の突起。波頂部を円形状に肥厚させることで波頂部下に凹みを作出、脇に平行沈線、波頂部にLR縄文を施す。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	107	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂/良好	細い角押状の刺突を伴う隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、縦位沈線を充填施文する。地文にRL縄文を横位施文。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	108	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				細砂、輝石/良好	口縁部の縦位沈線帯。地文にRL縄文を横位施文する。口唇部にも部分的に縄文を施文。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	109	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口辺部破片					No.108と同一個体。	五領ヶ台式
第55図 PL.27	110	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂、チャート細 礫、片岩/良好	頸部でくの字状に外屈する。口縁部をわずかに内屈させて縦位短沈線帯とし、頸部に刺突を伴う隆帯をめぐらす。隆帯下に逆U字状の隆帯を貼付する以外は無文となるようだ。口縁内面を折り返し状に薄く肥厚させる。	五領ヶ台式

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第55図 PL.27	111	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂、細礫、輝石 /良好	半截竹管によるC字状刺突を伴う隆帯をめぐらして口縁部 RL縄文帯を区画、以下、横位平行沈線を施す。口縁内面肥厚。	五領ケ台式
第55図 PL.27	112	縄文土器 深鉢	A区4層 口縁部破片			細砂/良好	口縁に左右非対称の三角形突起を付し、一辺のみ上端を 平坦に作出して刺突を施す。残存部全面にLR縄文を横位施 文する。口縁外面若干肥厚。	五領ケ台式
第55図 PL.27	113	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂、輝石、雲母 /良好	頸部でくの字状に外屈し、口縁が緩く内湾する。頸部に低 平な押捺隆帯をめぐらし、下位に横位棒状の隆帯を貼付す る。口頸部に結節LR縄文を縦位施文する。欠損しているが、 胴部にも同様の縄文施文がなされるようだ。口縁内面肥厚。	五領ケ台式
第55図 PL.27	114	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁~胴中位破 片			細砂/良好	胴部が膨らみ、頸部でくの字状に外屈して口縁が短く内屈 する。頸部に横位隆帯、胴部に弧状隆帯を施し、集合沈線 を沿わせる。地文にLR縄文を施文。口縁内面肥厚。	五領ケ台式
第55図 PL.27	115	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂、輝石、雲母 /良好	No.116と同一個体と思われる。LR横位施文を地文とし、横位、 折り返し平行沈線を施す。	五領ケ台式
第55図 PL.27	116	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂、輝石、雲母 /良好	三角形の突起を付す波状口縁。波頂部からややずらして 隆帯を垂下させ、平行沈線による文様を施す。地文にLR縄 文を横位施文。	五領ケ台式
第55図 PL.27	117	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				No.114と同一個体。	五領ケ台式
第55図 PL.27	118	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、チャート細 礫/良好	頸部下の部位と思われる。横位隆帯をめぐらして区画、さら にY字状に垂下させ、RL縄文を縦位充填施文する。隆帯 上にも縄文を施文。	五領ケ台式
第55図 PL.27	119	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂、石英/良好	No.121と同一個体。口縁に小突起を付す。	五領ケ台式
第55図 PL.27	120	縄文土器 深鉢	F区一括 胴部破片			粗砂、輝石/良好	Y字状の隆帯を垂下させ、平行沈線による集合沈線を沿わ せる。地文、隆帯上にLR縄文を縦位施文。	五領ケ台式
第55図 PL.27	121	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片			粗砂、チャート細 礫、輝石/良好	口縁下に横位押引沈線、押引沈線を沿わせた波状隆帯をめ ぐらし、区画内に刺突を施す。さらに波状隆帯に合わせて 連弧状の押引沈線をめぐらし、以下、RL縄文を縦位、斜位 施文する。隆帯上、口縁部区画内にも縄文を施文。口縁内 面に段を形成。	五領ケ台式
第55図 PL.27	122	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、輝石、雲母 /良好	頸部下の部位と思われる。横位平行沈線をめぐらして区画、 さらに縦位に垂下させ、蛇行文を施す。地文にLR縄文を横 位施文。	五領ケ台式
第55図 PL.27	123	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂、輝石、石英 /良好	平行沈線による横位折り返し状文、縦位蛇行文を施す。地 文にLR縄文を横位施文。	五領ケ台式
第55図 PL.27	124	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂、輝石/良好	横位平行沈線をめぐらして区画、以下、平行沈線による円 文、縦位蛇行文を施す。	五領ケ台式
第55図 PL.27	125	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂、輝石/良好	刺突、角押文によるモチーフを施す。	五領ケ台式
第55図 PL.27	126	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			細砂、輝石/良好	LR縄文を横位施文し、刺突列を縦位に垂下させる。	五領ケ台式
第56図 PL.28	127	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、チャート/ 良好	LR、RLの結束羽状縄文を縦位、横位に施す。破片上端部に 平行沈線による鋸歯状が見られる。	五領ケ台式
第56図 PL.28	128	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、細礫/良好	結節LR縄文を縦位施文する。	五領ケ台式
第56図 PL.28	129	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、細礫、輝石 /良好	RL縄文を縦位施文する。	五領ケ台式
第56図 PL.28	130	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片			細砂、輝石、雲母 /良好	平行沈線による縦位集合沈線を施す。地文にLR縄文を横位 施文。	五領ケ台式
第56図 PL.28	131	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片			粗砂/良好	RL縄文を横位施文する。	五領ケ台式
第56図 PL.28	132	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片	底	(9.5)	細砂、輝石、雲母 /良好	平行沈線による縦位集合沈線を施す。一部、斜格子目状に なる。	五領ケ台式
第56図 PL.28	133	縄文土器 深鉢	G区一括 胴部破片			細砂/良好	捺糸文Lを縦位施文する。	加曾利E2式
第56図 PL.28	134	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片			粗砂、輝石/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第56図 PL.28	135	縄文土器 深鉢	E区 胴部破片			細砂、輝石/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、複節RL縄文を縦位充填施 文する。	加曾利E3式
第56図 PL.28	136	縄文土器 深鉢	一括 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	2条沈線による弧状モチーフを施し、縦位沈線を充填施文 する。	中期後葉
第56図 PL.28	137	縄文土器 深鉢	E区2面 胴部破片			細砂/良好	2条沈線による弧状モチーフを施し、沈線外にRL縄文を充 填施文する。	加曾利E4式
第56図 PL.28	138	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口辺部破片			粗砂、輝石/ふつ う	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線に よる逆U字状モチーフを施し、文様外にLR縄文を縦位充填 施文する。	加曾利E4式
第56図 PL.28	139	縄文土器 深鉢	E区1面 口縁部破片			粗砂/ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、無節Lr 縄文を縦位充填施文する。	加曾利E4式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56図 PL.28	140	縄文土器 深鉢	E区2面 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、隆帯による懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第56図 PL.28	141	縄文土器 深鉢	E区 胴部破片				細砂/ふつう	隆線による胴部懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第56図 PL.28	142	縄文土器 深鉢	E区2面 胴部破片				粗砂、細礫/ふつう	隆帯による弧状モチーフを施し、縄文を充填施文する。摩滅により原形不明。	加曾利E4式
第56図 PL.28	143	縄文土器 深鉢	F区2面 口辺部破片				粗砂、輝石/ふつう	波状口縁。横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、無節Lr縄文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第56図 PL.28	144	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第56図 PL.28	145	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片				粗砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縄文を充填施文する。	称名寺I式
第56図 PL.28	146	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第56図 PL.28	147	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつう	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第56図 PL.28	148	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第56図 PL.28	149	縄文土器 深鉢	F区 胴部破片				粗砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第56図 PL.29	150	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 胴部破片					No.149と同一個体。	称名寺II式
第56図 PL.29	151	縄文土器 鉢	2号遺物集中北 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつう	波状口縁。内湾する口縁部に隆帯を貼付して張り出す口縁部文様帯を作成、帯状沈線をめぐらし、列点を充填施文する。以下、残存部は無文。	称名寺II式
第56図 PL.29	152	縄文土器 深鉢	F区一括 胴部破片				粗砂/ふつう	縦位、斜位の沈線を垂下させる。	後期前葉
第56図 PL.29	153	縄文土器 深鉢	F区一括 胴部破片				細砂/ふつう	現存3条の隆線を垂下させ、無節Lr縄文を縦位施文する。隆線間、内面、縦位のミガキ整形。	中期末葉～後期初頭
第57図 PL.29	154	縄文土器 深鉢	E区 口縁部破片				細砂、輝石/良好	口縁部に2条の刻み隆線をめぐらし、縦位隆線であつなく。隆線下に横位沈線が見られる。	堀之内2式
第57図 PL.29	155	縄文土器 深鉢	C区一括 胴部破片				粗砂/ふつう	連弧文をめぐらし、交点上位に縦位沈線を配す。地文にLR縄文を施し、連弧文内を磨り消す。	加曾利B2式
第57図 PL.29	156	縄文土器 深鉢	F区一括 底部破片	底	8.2			No.153と同一個体。	中期末葉～後期初頭
第57図 PL.29	157	縄文土器 深鉢	2号遺物集中北 底部破片	底	5.2		細砂、赤色粒、輝石/良好	斜位の沈線を垂下させる。底面に網代痕。	後期前葉
第57図 PL.29	158	縄文土器 ミニチュア 土器	2号遺物集中北 底部破片	底	2.9		細砂/ふつう	底面が丸みを帯びる。鋸歯状の沈線を施す。	前期後葉
第57図 PL.29	159	縄文土器 ミニチュア 土器	2号遺物集中北				粗砂、輝石/ふつう	口縁の高さが2段になる。あるいは残存する口縁が舐先となり、舟形になるか。	後期前葉か
第57図 PL.29	160	剥片石器 石鏃	2号遺物集中 完形	長幅 19	厚重 7 2.2		黒曜石	凹基無茎鏃、やや厚みがある。両面を丁寧に調整加工している。	産地分析
第57図 PL.29	161	剥片石器 石鏃	2号遺物集中 欠損	長幅 15	厚重 4 1		黒曜石	凹基有茎鏃、先端部欠損、両面を丁寧に加工して左右対称形に整形、晩期の可能性がある。	産地分析
第57図 PL.29	162	剥片石器 石鏃	一括 欠損	長幅 16	厚重 3 0.4		黒曜石	凹基無茎鏃、左脚部先端を欠損、剥片素材。	
第57図 PL.29	163	剥片石器 石鏃	2号遺物集中 欠損	長幅 15	厚重 6 1.1		黒色安山岩	平基無茎鏃、先端部欠損、やや厚みがある。	
第57図 PL.29	164	剥片石器 石鏃	2号遺物集中 完形	長幅 14	厚重 3 0.2		黒曜石	凹基無茎鏃の未成品。	未成品
第57図 PL.29	165	剥片石器 打製石斧	2号遺物集中 完形	長幅 65 35	厚重 15 45.5		硬質泥岩	短冊形の打製石斧。	
第57図 PL.29	166	剥片石器 打製石斧	2号遺物集中 完形	長幅 113 48	厚重 18 97.8		硬質泥岩	短冊形で器体中央部が緩やかに膨らみ最大幅を持つ。刃部は摩耗が著しい。	
第57図 PL.29	167	剥片石器 打製石斧	2号遺物集中 欠損	長幅 73 50	厚重 16 72.8		硬質泥岩	短冊形の打製石斧の下半部、刃部は円弧状を呈する。	
第57図 PL.29	168	剥片石器 打製石斧	2号遺物集中 欠損	長幅 69 37	厚重 21 63.1		珪質頁岩	短冊形の打製石斧の上半部。	
第58図 PL.30	169	剥片石器 打製石斧	2号遺物集中 完形	長幅 82 39	厚重 14 49.9		珪質頁岩	短冊形の打製石斧。	
第58図 PL.30	170	剥片石器 打製石斧	2号遺物集中 欠損	長幅 40 43	厚重 17 64.5		硬質泥岩	短冊形の打製石斧の上半部。	
第58図 PL.30	171	剥片石器 楔形石器	2号遺物集中 完形	長幅 25 23	厚重 10 5.1		黒曜石	上下両側縁に180度対向する剥離痕、右側縁に微細な剥離痕が認められる。	産地分析

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚 重			
第58図 PL.30	172	剥片石器 スクレイパー	2号遺物集中 完形	79 41	14 51	黒色頁岩	横長剥片を素材とし、右側縁裏面にスクレイパーエッジを 作出している。		
第58図 PL.30	173	剥片石器 スクレイパー	2号遺物集中 完形	61 58	13 42.7	硬質泥岩	幅広の縦長剥片を素材とし、右側縁裏面スクレイパーエッジを 作出している。		
第58図 PL.30	174	礫石器 敲石	2号遺物集中 完形	162 85	69 1318.6	粗粒輝石安山岩	厚みのある洋梨形の棒状礫を素材、上端部に敲打痕、左側 面に摩耗痕、表面に小さな凹みが認められる。		
第58図 PL.30	175	礫石器 敲石	2号遺物集中 欠損	136 79	52 830.1	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある楕円礫を素材とし、表裏両面の中央部に敲 打痕、左右両側面に顕著な摩耗痕、被熱痕(赤化)が部分的 に認められる。	被熱	
第58図 PL.30	176	礫石器 敲石	2号遺物集中 完形	91 77	62 609.2	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある楕円礫を素材とし、側面に敲打痕・摩耗痕 が認められる。		
第59図 PL.30	177	礫石器 凹石	2号遺物集中 完形	101 76	45 430.4	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材とし、表裏両面の対向する位置に凹み が認められる。		
第59図 PL.30	178	礫石器 磨石	2号遺物集中 完形	161 73	59 1050.5	粗粒輝石安山岩	偏平な棒状礫を素材とし、表裏面と左側面に摩耗痕が認め られる。		
第59図 PL.31	179	礫石器 台石	2号遺物集中 欠損	199 144	62 2331	粗粒輝石安山岩	大型の偏平な楕円礫を素材とし、上下両端部を意図的に 割っている。表裏両面は平坦ではなく、凸凹している。裏 面に摩耗痕が認められる。		
第59図 PL.31	180	礫石器 石皿	2号遺物集中 完形	193 134	41 1163.3	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材とし、表面に弱い摩耗痕が認められる。		
第59図 PL.31	181	礫石器 石皿	2号遺物集中 完形	257 182	63 4897.4	粗粒輝石安山岩	大型の偏平な楕円礫を素材とする。表裏両面に弱い摩耗痕、 側面に敲打痕が認められる。		
第60図 PL.31	182	礫石器 石皿	2号遺物集中 欠損	163 152	75 1837.9	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある偏平な楕円礫を素材、表面に摩耗痕。剖面 を含む全面が赤化し、破損後の被熱を示す。		
第60図 PL.31	183	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	21 7	2 0.2	黒曜石	薄手の縦長剥片で、背面は主要剥離面と同一加撃方向の複 数の剥離面で構成される。細石刃に似ているが、ほかに細 石刃及び細石刃核は確認できなかった。		
第60図 PL.31	184	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	20 32	11 3.8	黒曜石	横長剥片で、打面は自然面。	産地分析	
第60図 PL.31	185	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	47 18	7 5.6	チャート	石刃状の縦長剥片、左側縁上半部に連続する微細剥離痕が 認められる。		
第60図 PL.31	186	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	96 34	13 54.2	細粒輝石安山岩	縦長剥片で右側縁裏面に微細剥離痕が認められる。		
PL.31	187	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	32 17	5 2.6	黒曜石	縦長剥片。透明度の高い黒曜石を利用。写真掲載	産地分析	
PL.31	188	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	28 19	6 2.6	黒曜石	やや幅広の縦長剥片。透明度の高い黒曜石を利用。写真掲 載	産地分析	
PL.32	189	剥片石器 剥片	2号遺物集中 完形	42 18	8 5.2	黒曜石	横長剥片、節理の多い黒曜石を利用。写真掲載	産地分析	
第60図 PL.32	190	剥片石器 二次加工剥 片	2号遺物集中 完形	21 35	16 7.8	黒曜石	折断した厚みのある剥片を素材とし、裏面に平坦な二次加 工を施す。	産地分析	
第60図 PL.32	191	剥片石器 二次加工剥 片	2号遺物集中 完形	65 98	15 105.9	珪質頁岩	板状の剥片を素材とし、表裏両面に二次加工を施している。		
第60図 PL.32	192	剥片石器 二次加工剥 片	2号遺物集中 完形	82 100	29 251.3	硬質泥岩	厚みのある大型剥片を素材とし、周縁部の両面に二次加工 が施される。		
第60図 PL.32	193	剥片石器 二次加工剥 片	2号遺物集中 完形	62 61	23 87.7	細粒輝石安山岩	厚みのある剥片を折断し、縁辺部に部分的な二次加工を施 している。		
第60図 PL.32	194	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	17 18	9 2.2	黒曜石	小型石核で、小型剥片を剥離している。楔形石器の可能性 もある。	産地分析	
第60図 PL.32	195	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	19 14	10 2.5	黒曜石	小型原石(ズリ)を素材とした石核で小型剥片を剥離してい る。		
第61図 PL.32	196	剥片石器 石核	F区一括 完形	22 16	13 4.8	黒曜石	楔形を呈する石核で、小型原石(ズリ)を素材として小型剥 片を剥離している。		
第61図 PL.32	197	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	22 16	13 2.9	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用した小型石核で、打面転移しながら 小型剥片を剥離している。	産地分析	
第61図 PL.32	198	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	31 19	13 4.7	黒曜石	打面転移しながらバルブの発達した剥片を複数枚剥離して いる。	産地分析	
第61図 PL.32	199	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	36 26	16 12.2	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用した石核で、主に裏面で小型剥片を 剥離している。	産地分析	
第61図 PL.32	200	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	39 22	14 6.8	黒曜石	自然面を打面にして横長剥片を剥離している。	産地分析	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図 PL.33	201	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 42	厚 19	重 12 8.5	黒曜石	小型原石(ズリ)を使用した石核で、表面で比較的大型の剥片を剥離している。	産地分析
第61図 PL.33	202	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 57	厚 22	重 11 11.2	黒曜石	細長い短冊状の原石(ズリ)を利用した石核で、折断面を打面として小型剥片を剥離している。	産地分析
第61図 PL.33	203	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 120	厚 51	重 46 159.9	硬質泥岩	厚みのある大型剥片を素材とした石核。	
第62図 PL.33	204	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 17	厚 17	重 14 3.5	黒曜石	多面体の小型石核で、打面転移しながら小型剥片を剥離している。	産地分析
第62図 PL.33	205	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 16	厚 19	重 9 1.7	黒曜石	楔形を呈する石核で、小型剥片を剥離している。	
第62図 PL.33	206	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 12	厚 24	重 10 2.4	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用した小型石核。剥離面は石鏃より小さいため、二次加工の可能性もある。	産地分析
第62図 PL.33	207	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 19	厚 33	重 10 4.2	黒曜石	薄手の小型原石(ズリ)を利用した石核で、透明度のない漆黒の黒曜石を利用。	産地分析
第62図 PL.33	208	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 16	厚 29	重 18 6.3	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用した多面体石核で、打面転移しながら小型剥片を剥離している。透明度のない漆黒の黒曜石である。	産地分析
第62図 PL.33	209	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 15	厚 32	重 12 5.1	黒曜石	小型原石(ズリ)を利用した石核で、表面で剥離を行っている。	産地分析
第62図 PL.33	210	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 16	厚 26	重 9 2.3	黒曜石	小型原石(ズリ)を使用した小型石核で、打面転移しながら小型剥片を剥離している。	
第62図 PL.33	211	剥片石器 石核	2号遺物集中 完形	長幅 41	厚 68	重 32 107.2	細粒輝石安山岩	厚みのある大型剥片を素材とし、打面転移しながら剥片剥離している。	
第62図 PL.33	212	玉類 ガラス小玉	2号遺物集中 完形	長幅 6	厚 5	重 5 0.2	ガラス	古墳時代のガラス小玉で、2号遺物集中への混入品である。	古墳
第62図 PL.33	213	玉類 管玉	2号遺物集中 欠損	長幅 34	厚 16	重 11 5.5	滑石	大型の管玉の破片で、現存部の長さ34mm、穿孔径6mmと推定される。	
第62図 PL.33	214	玉類 管玉	2号遺物集中 欠損	長幅 26	厚 21	重 8 4.1	滑石	大型の管玉の破片で、現存部の直径20mm、穿孔径7mmと推定される。	

遺構外出土遺物

第63図 PL.34	1	龍泉窯系青磁 鎬連弁文碗	口縁部片	口底 —	高 —	—	灰白	外面片彫りによる鎬連弁文。内外面に青磁釉。大宰府分類2-B類。	13世紀前後～前半
第63図 PL.34	2	剥片石器 石鏃	A区 完形	長幅 22	厚 17	重 4 1	黒曜石	凹基無茎鏃、表裏両面を入念に調整加工している。	
第63図 PL.34	3	剥片石器 石鏃	A区 完形	長幅 22	厚 17	重 3 0.8	黒曜石	凹基無茎鏃、表裏両面を入念に調整加工している。左右両側縁は鋸歯状に整形されている。	
第63図 PL.34	4	剥片石器 石鏃	A区 欠損	長幅 28	厚 15	重 4 0.9	黒色安山岩	凹基無茎鏃、左脚部欠損。	
第63図 PL.34	5	剥片石器 磨製石鏃	G区 欠損	長幅 46	厚 17	重 3 2.8	珪質準片岩	全面を丁寧に磨いて整形し、左右両側縁刃部を作出している。下側に穿孔部(径3mm)を持つ。	弥生
第63図 PL.34	6	剥片石器 楔形石器	E区 完形	長幅 39	厚 41	重 16 25.1	黒色安山岩	正方形を呈し、上下両側縁と左右両側縁に180度対向する剥離痕が認められ、器体全体を利用していることがわかる。	
第63図 PL.34	7	剥片石器 打製石斧	A区 欠損	長幅 77	厚 43	重 15 60.6	硬質泥岩	撥形の小型打製石斧で、刃部に最大幅を持つ。刃部に摩耗痕が認められる。	
第63図 PL.34	8	剥片石器 磨製石斧	A区 欠損	長幅 213	厚 57	重 28 526.6	緑色片岩	扁平な乳棒状の磨製石斧、先端刃部は一部欠損している。敲打と研磨により整形している。	
第64図 PL.34	9	玉類 扶状耳飾り	G区 完形	長幅 46	厚 14	重 5 5.2	蛇紋岩	縦長の扶状耳飾りの左半部、穿孔部径は7mmと推定。上部部の表裏面に未穿孔の小穴が認められる。	
第64図 PL.34	10	礫石器 磨石	D区 完形	長幅 58	厚 62	重 39 177	花崗岩	やや扁平な円礫を素材とし、表裏両面に弱い摩耗痕が認められる。	
第64図 PL.34	11	礫石器 磨石	F区 完形	長幅 95	厚 81	重 34 377	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫を素材とし、表裏両面の中央部に複数の凹みと摩耗痕、黒色の付着物の痕跡、側面に部分的な敲打痕が認められる。	
第64図 PL.34	12	剥片石器 石核	E区 完形	長幅 29	厚 26	重 17 11.7	黒曜石	多面体石核で、打面転移しながら小型剥片を剥離している。	

第4表 石器集計表(掲載点数、写真のみ掲載を含む)

時代	掲載区分	ガラス小玉	扶状耳飾り	管玉	磨製石鏃	石鏃	石匙	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫	総計
縄文	掲載		1	2		8		2	2	8	1	20	4	7	3	1	3	3	1			66
	未掲載						1	4		18		9	17	340	1	4	1	1		6	75	477
弥生	掲載				1																	1
古墳以降	掲載	1																			2	1
	未掲載																					2
総計		1	1	2	1	8	1	6	2	26	1	29	21	347	4	5	4	4	1	8	75	547

第5表 石器集計表(遺構別)

時代	出土位置	ガラス小玉	扶状耳飾り	管玉	磨製石鏃	石鏃	石匙	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫	総計
縄文	A区				3					1	1	1	2	18								26
	A区1号溝													1								1
	A区9号復旧坑													1								1
	A区3号旧石器調査坑													2								2
	B区							1		1				4								6
	D区											1		13	1							15
	D区3号溝												1	1							1	3
	E区							1	1	2		1	1	21			1					7
	E区1号旧石器調査坑														1							1
	F区1号遺物集中									1		1		12							1	2
	F区2号遺物集中				2		2	1	2		7	3	21	1			1	3				33
	F区1号竪穴建物													1								1
	F区埋喪													1								1
	F区1号溝													2								2
	F区4号旧石器調査坑													2								2
	G区		1									1		9								11
	一括				1				8				2	76		3		1				1
弥生	G区				1																	1
古墳以降	F区2号遺物集中	1																				1
	G区																				1	1
	一括																				1	1
総計		1	1	2	1	8	1	6	2	26	1	29	21	347	4	5	4	4	1	8	75	547

第6表 器種別・石材別点数(剥片石器・玉類)

時代	種別	石材	ガラス小玉	扶状耳飾り	管玉	磨製石鏃	石鏃	石匙	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	総計
縄文	剥片石器	黒曜石				6				1			24	7	104	142
		チャート													11	11
		硬質泥岩							4		11		4	6	126	151
		黒色安山岩				2				1					4	7
		黒色頁岩							1		1				6	8
		珪質頁岩										6		4	57	67
		赤碧玉						1								1
		流紋岩													2	2
		メノウ													1	1
		細粒輝石安山岩							1		2		1	3	14	21
		泥岩													18	18
		ホルンフェルス										1			1	2
		変玄武岩												1		1
		結晶片岩									1					1
		緑色片岩									4	1			2	7
		砂岩													1	1
	玉類	蛇紋岩		1												1
		滑石			2											2
弥生	剥片石器	珪質準片岩				1										1
古墳以降	玉類	ガラス	1													1
総計			1	1	2	1	8	1	6	2	26	1	29	21	347	446

第7表 器種別・石材別点数(礫石器・礫)

時代	種別	石材	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫	総計	剥片石器	磨製石斧・玉類	総合計
縄文	礫石器	粗粒輝石安山岩	3	4	3	3	1	1		15			142
		緑色片岩			1	1				2			11
		結晶片岩		1						1			151
		牛伏砂岩							3	3			7
		砂岩							2	2			8
		花崗岩	1							1			67
	礫	粗粒輝石安山岩								60	60		1
		細粒輝石安山岩								2	2		2
		緑色片岩								1	1		1
		結晶片岩								5	5		21
		珪質頁岩								1	1		18
		砂岩								4	4		2
		石灰岩								2	2		1
弥生												1	
古墳以降	礫石器	凝灰岩						2	2			7	
総合計			4	5	4	4	1	8	75	101	446	547	1

第8表 器種別・石材別重量(剥片石器・玉類)

時代	種別	石材	ガラス小玉	扶状耳飾り	管玉	磨製石鏃	石鏃	石匙	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	総計	
縄文	剥片石器	黒曜石					5.6			5.1			112.2	23.5	134.3	280.7	
		チャート														103.3	103.3
		硬質泥岩								142.6		694.2		680.6	476.0	2,196.1	4,189.5
		黒色安山岩					2.0				25.1					30.1	57.2
		黒色頁岩								51.0		48.1				106.3	205.4
		珪質頁岩										404.5			205.5	861.6	1,471.6
		赤碧玉							8.7								8.7
		流紋岩														6.0	6.0
		メノウ														0.9	0.9
		細粒輝石安山岩									31.0	170.9		107.2	235.5	238.3	782.9
		泥岩														79.2	79.2
		ホルンフェルス										81.8				10.1	91.9
		変玄武岩													9.2		9.2
		結晶片岩										256.3					256.3
		緑色片岩										280.6	526.6			25.8	833.0
		砂岩														33.3	33.3
	玉類	蛇紋岩			5.2												5.2
滑石					9.6											9.6	
弥生	剥片石器	珪質準片岩				2.8										2.8	
古墳以降	玉類	ガラス	0.2													0.2	
総合計			0.2	5.2	9.6	2.8	7.6	8.7	224.6	30.2	1,936.4	526.6	900.0	949.7	3,825.3	8,426.9	

(g)

第9表 器種別・石材別重量(礫石器・礫)

時代	種別	石材	磨石	凹石	敲石	石皿	台石	砥石	礫	総計	剥片石器・玉類	総合計	
縄文	礫石器	粗粒輝石安山岩	1,880.9	1,312.7	2,757.9	7,898.6	2,331.0	106.0		16,287.1			
		緑色片岩			49.7	451.5				501.2			
		結晶片岩		268.0						268.0			
		牛伏砂岩						50.5		50.5			
		砂岩						115.4		115.4			
		花崗岩	177.0							177.0			
	礫	粗粒輝石安山岩								32,523.4	32,523.4		
		細粒輝石安山岩								251.3	251.3		
		緑色片岩								167.5	167.5		
		結晶片岩								98.9	98.9		
		珧質頁岩								147.5	147.5		
		砂岩								92.9	92.9		
		石灰岩								11.3	11.3		
		弥生											
古墳以降	礫石器	凝灰岩						121.8	121.8				
総合計			2,057.9	1,580.7	2,807.6	8,350.1	2,331.0	393.7	33,292.8	50,813.8	8,426.9	59,240.7	

(g)

第10表 黒曜石産地分析集計表

時代	産地分析	楔形石器	石鏃	石核	二次加工剥片	剥片	総計
縄文	分析	1	2	12	1	4	20
	未分析		4	12	6	100	122
黒曜石出土総点数		1	6	24	7	104	142

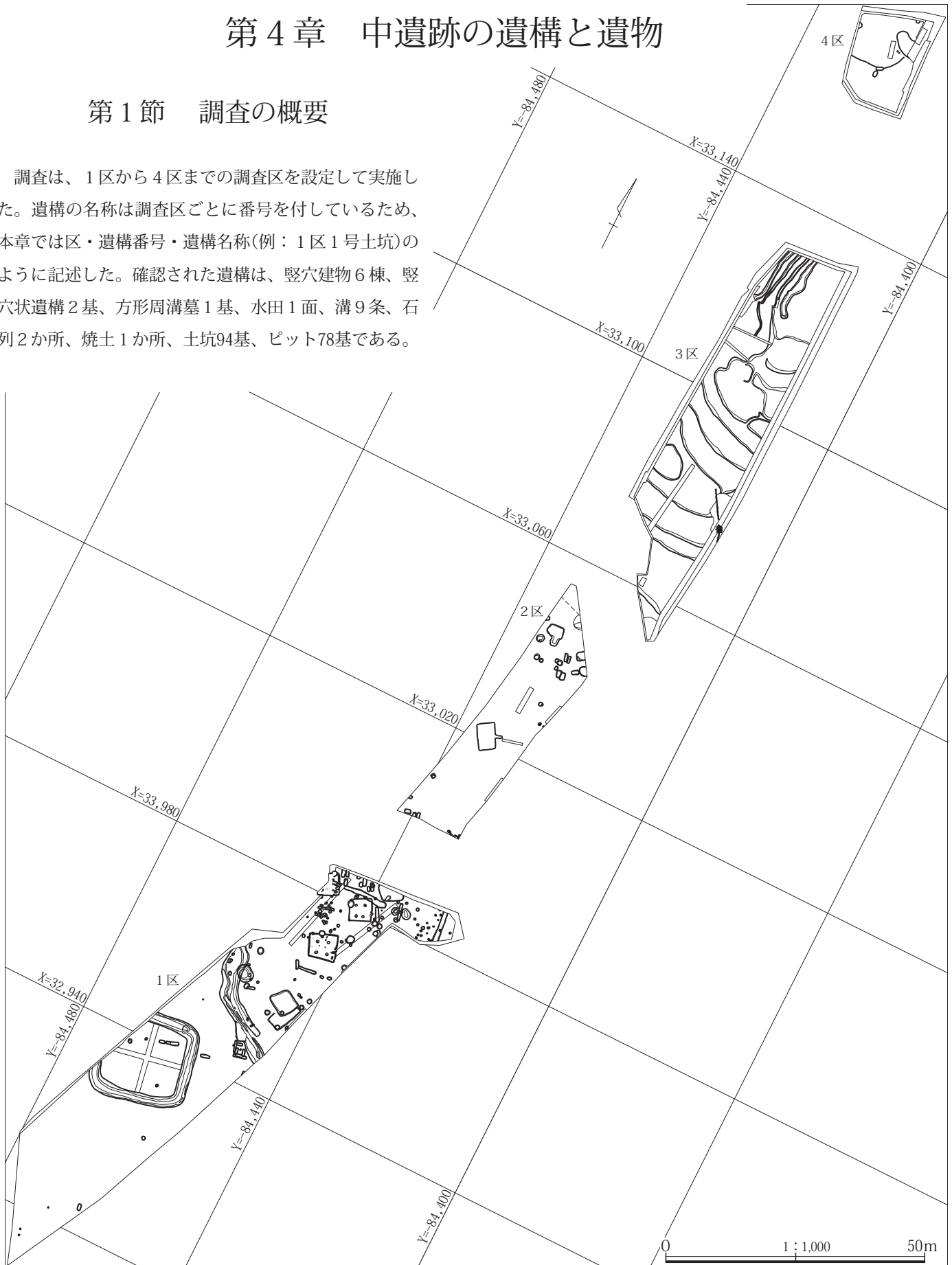
第11表 黒曜石産地分析一覧

時代	産地分析結果判別群	楔形石器	石鏃	石核	二次加工剥片	剥片	総計
縄文	星ヶ台	1	2	10	1	4	18
	土屋橋 1			2			2
		1	2	12	1	4	20

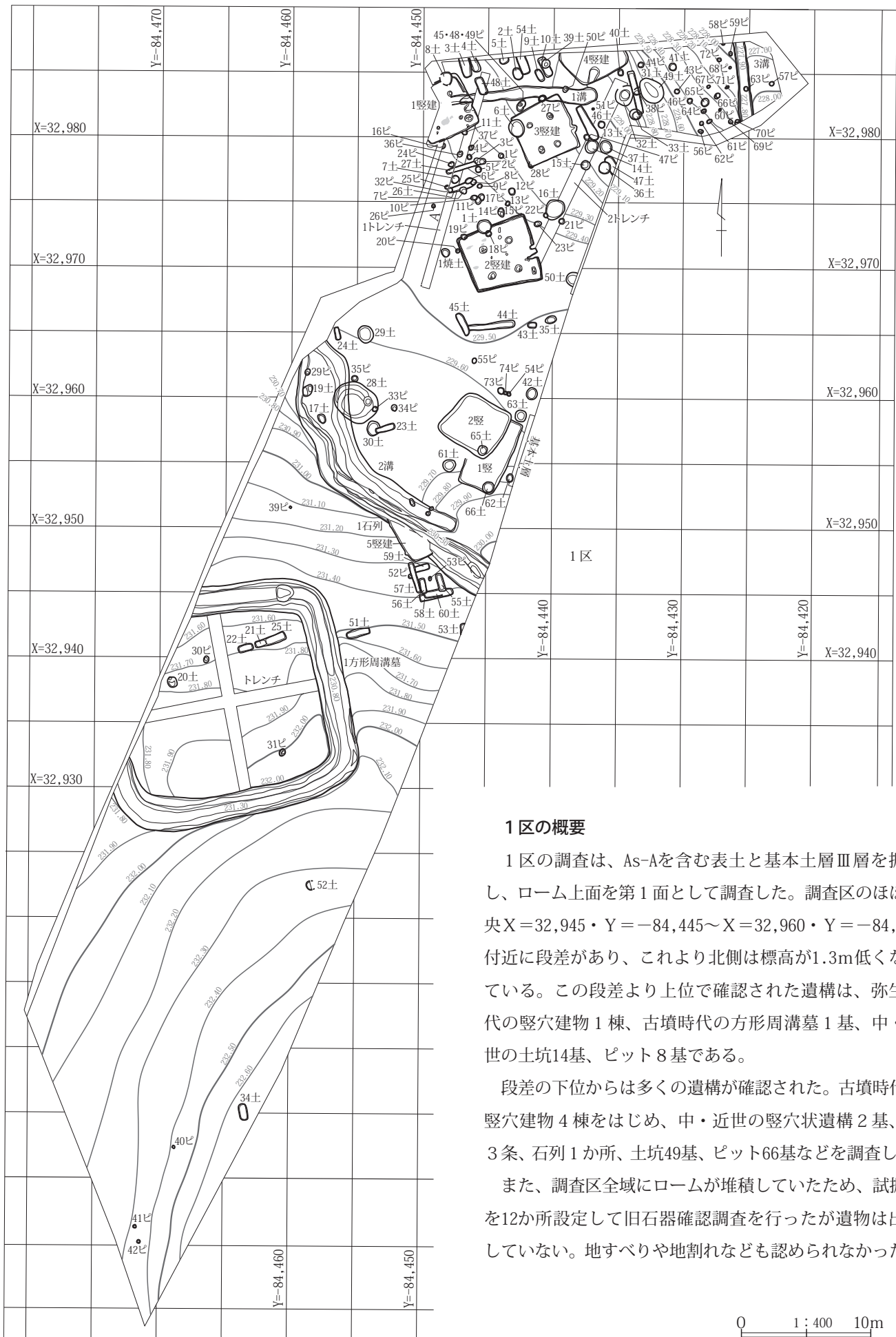
第4章 中遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要

調査は、1区から4区までの調査区を設定して実施した。遺構の名称は調査区ごとに番号を付しているため、本章では区・遺構番号・遺構名称(例：1区1号土坑)のように記述した。確認された遺構は、竪穴建物6棟、竪穴状遺構2基、方形周溝墓1基、水田1面、溝9条、石列2か所、焼土1か所、土坑94基、ピット78基である。



第69図 中遺跡 遺構全体図



1区の概要

1区の調査は、As-Aを含む表土と基本土層Ⅲ層を掘削し、ローム上面を第1面として調査した。調査区のほぼ中央X=32,945・Y=-84,445～X=32,960・Y=-84,460付近に段差があり、これより北側は標高が1.3m低くなっている。この段差より上位で確認された遺構は、弥生時代の竪穴建物1棟、古墳時代の方形周溝墓1基、中・近世の土坑14基、ピット8基である。

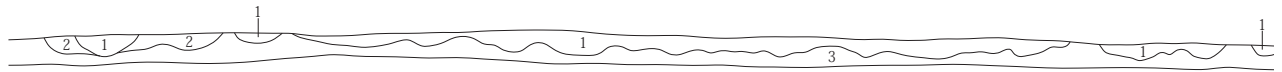
段差の下位からは多くの遺構が確認された。古墳時代の竪穴建物4棟をはじめ、中・近世の竪穴状遺構2基、溝3条、石列1か所、土坑49基、ピット66基などを調査した。

また、調査区全域にロームが堆積していたため、試掘坑を12か所設定して旧石器確認調査を行ったが遺物は出土していない。地すべりや地割れなども認められなかった。

第70図 中遺跡 1区遺構全体図

1区トレンチ土層断面図

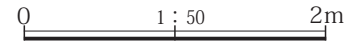
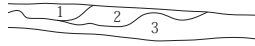
A, L=230.00m



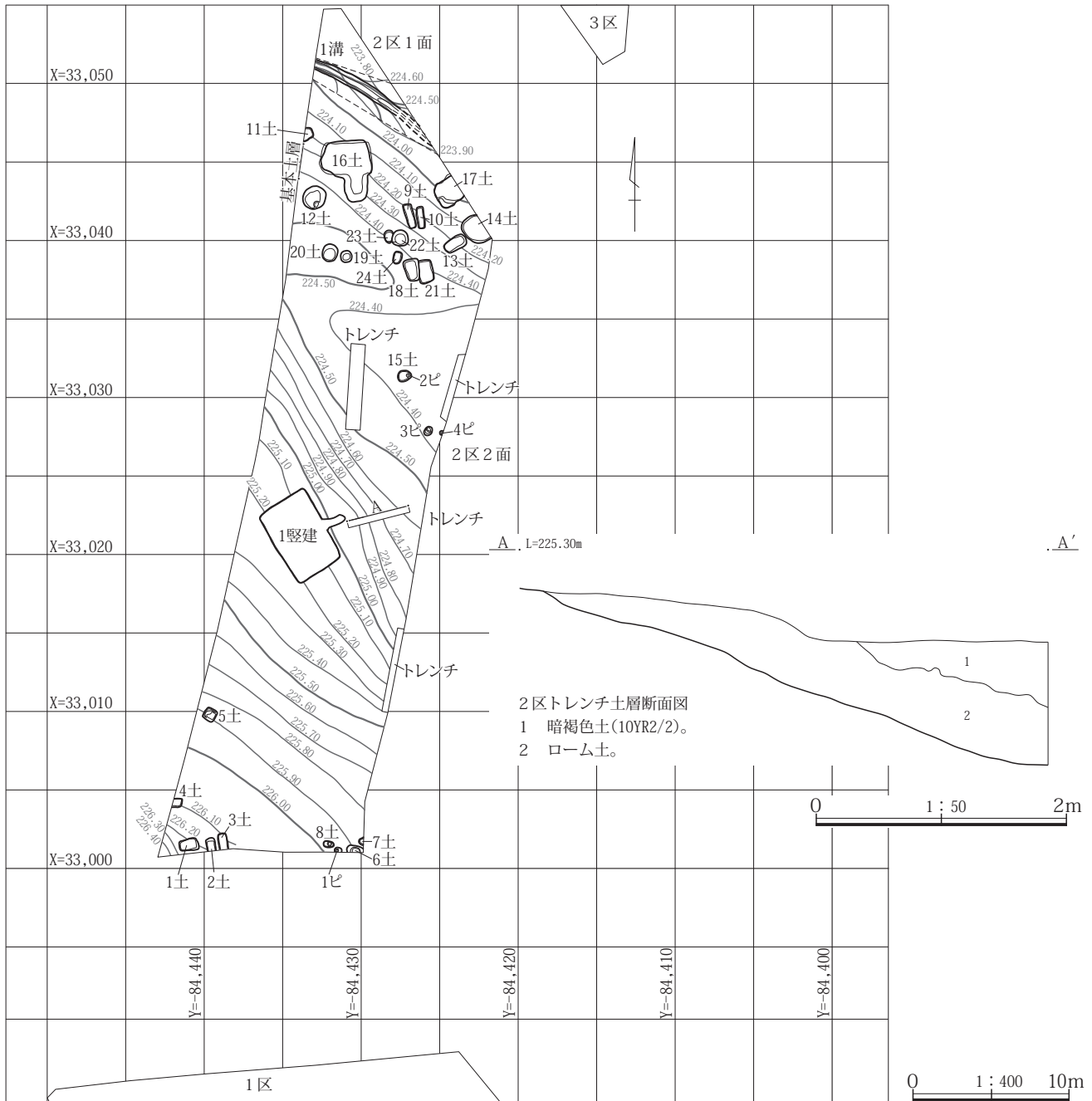
A'

1区1号トレンチ

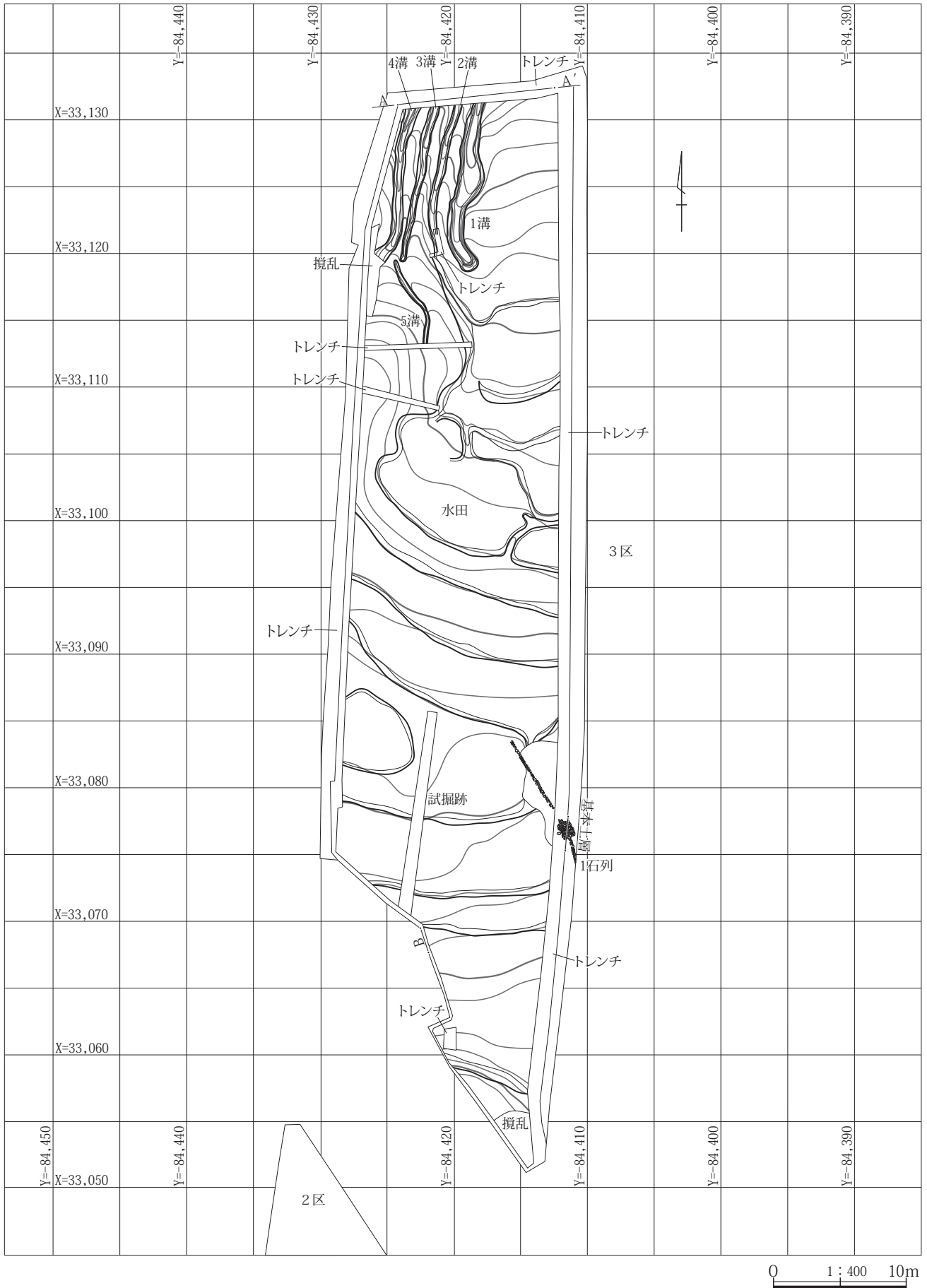
- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土を少量含む。ローム土を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)褐色土を少量含む。ローム土を少量含む。
- 3 褐色土を多量に含む。ローム土を少量含む。やや硬く締まっている。As-Aよりも下位。近~中世。



第71図 中遺跡 1区1号トレンチ土層断面図

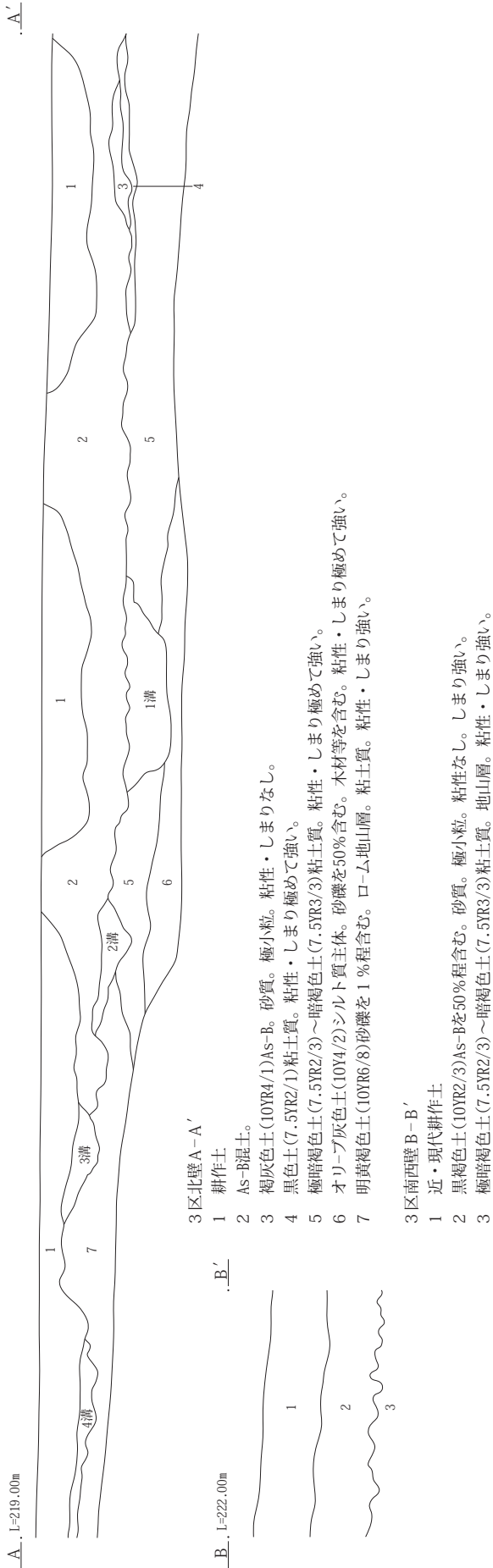


第72図 中遺跡 2区遺構全体図

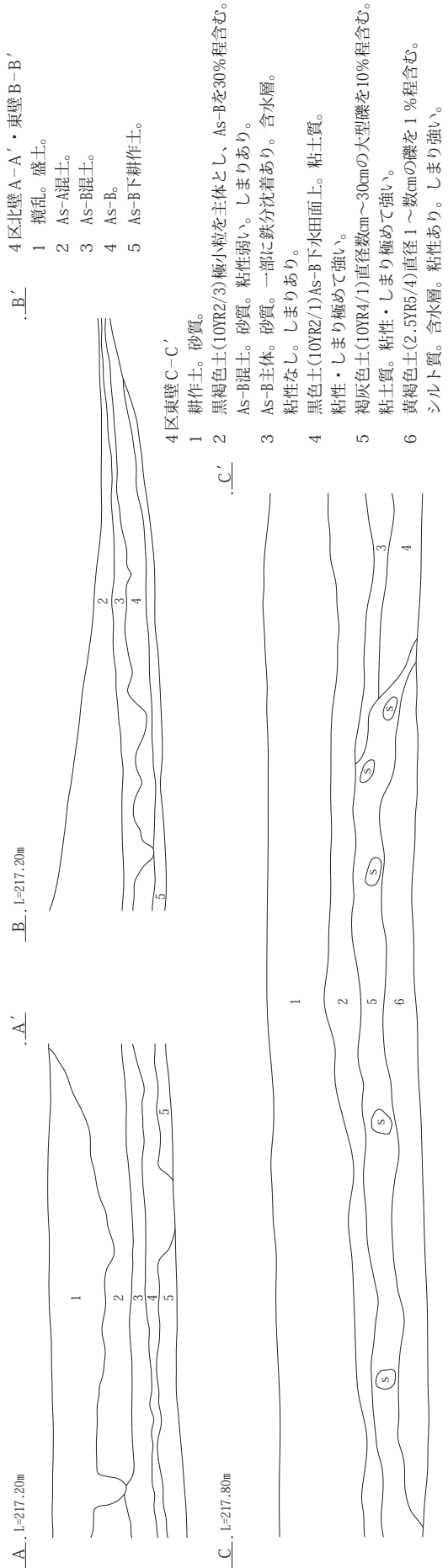


第73図 中遺跡 3区遺構全体図

3区土層断面図



4区土層断面図



第74図 中遺跡 3区、4区土層断面図



2区の概要

2区の調査は、As-Aを含む表土と基本土層Ⅲ層を掘削し、Ⅳ層の褐色土上面を第1面として調査した。調査区最北端にはAs-Aの堆積が認められたので、この部分のみ0.60m高い面で遺構確認を行った。2区は傾斜地にあるため、調査区南端と北端との比高は2.40mである。調査区のほぼ中央には地すべりと考えられるロームの堆積が認められた。

検出された遺構は、古墳時代の竪穴建物1棟、中・近世の土坑24基、ピット4基である。

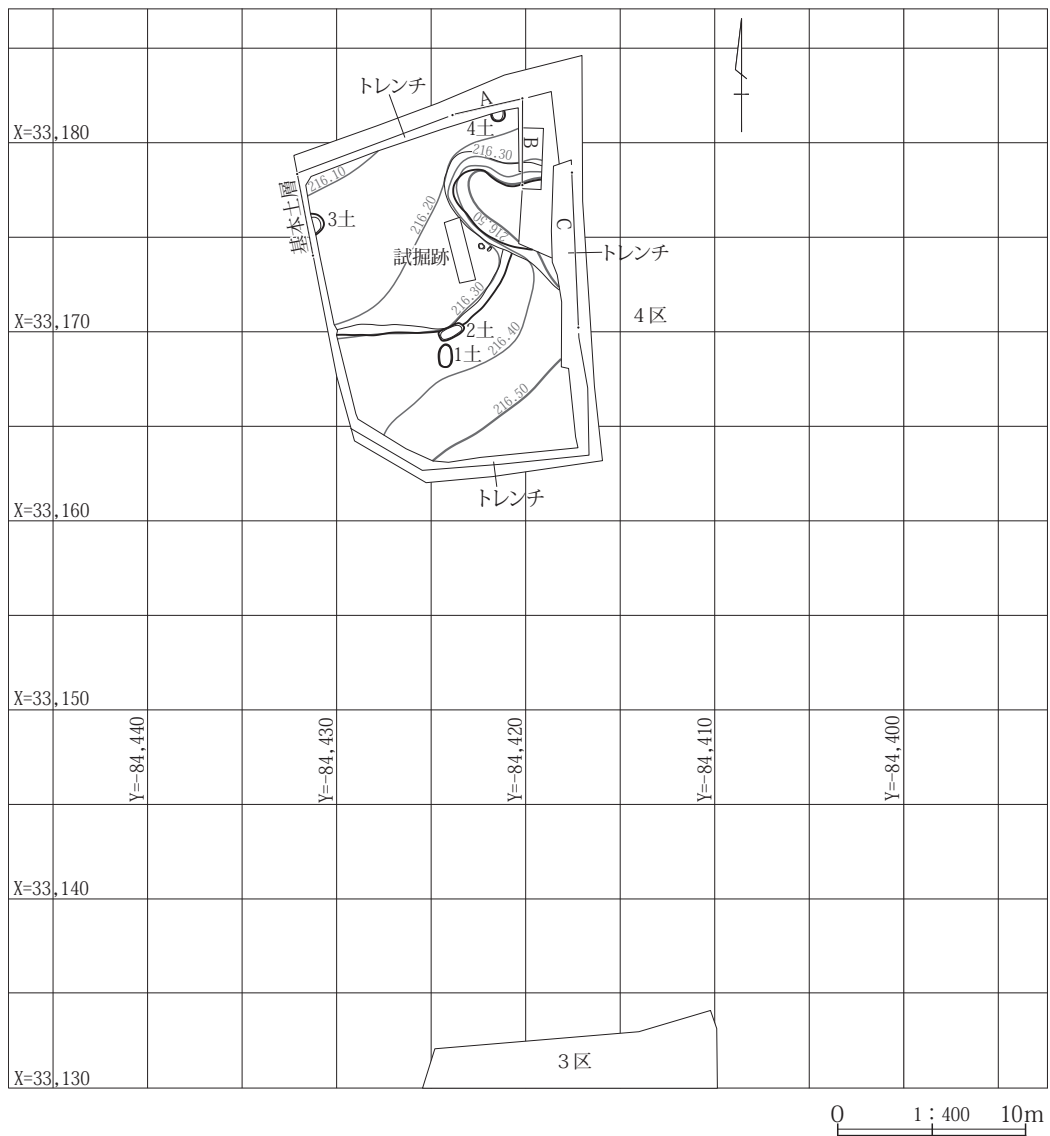
3区の概要

3区の調査は、As-Bの堆積が認められたことから水田を想定して調査を実施した。As-B下からは水田面と考えられる黒色粘質土層を確認した。また、畦状の高まりや水口、木杭なども検出した。調査区北では、北から南へ掘削された溝5条を確認した。

水田面の掘削途中に調査区東端で、暗渠と想定される近世以降の石列1か所も検出した。

4区の概要

4区の調査は、3区同様にAs-B下を第1面として調査した。調査区全体は比較的平坦ではあるが、範囲が狭小であるため水田とは断定できなかった。このほか、平安時代の土坑4基が検出されている。



第75図 中遺跡 4区遺構全体図

第2節 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴建物

1区1号竪穴建物(第70・76~78図 PL.36・37・78
遺物観察表P.159)

位置 X=32,979~32,984 Y=-84,445~-84,449

重複 8号土坑に先行し、11号土坑に後出する。

平面形 正方形か。

規模 長軸4.30m 短軸4.24m以上 残存壁高53cm

床面積 10.17㎡以上

主軸方位 N-66°-E

検出・埋没状況 1区北西壁に接して検出した。遺構の規模を確認するため、調査範囲を西側に拡張して調査した。埋没土は黄褐色土を少量含む黒褐色土を主体とする。

柱穴 床面で主柱穴3本が検出された。規模は下記の通りである。

P1 長径0.37m 短径0.36m 深さ0.55m

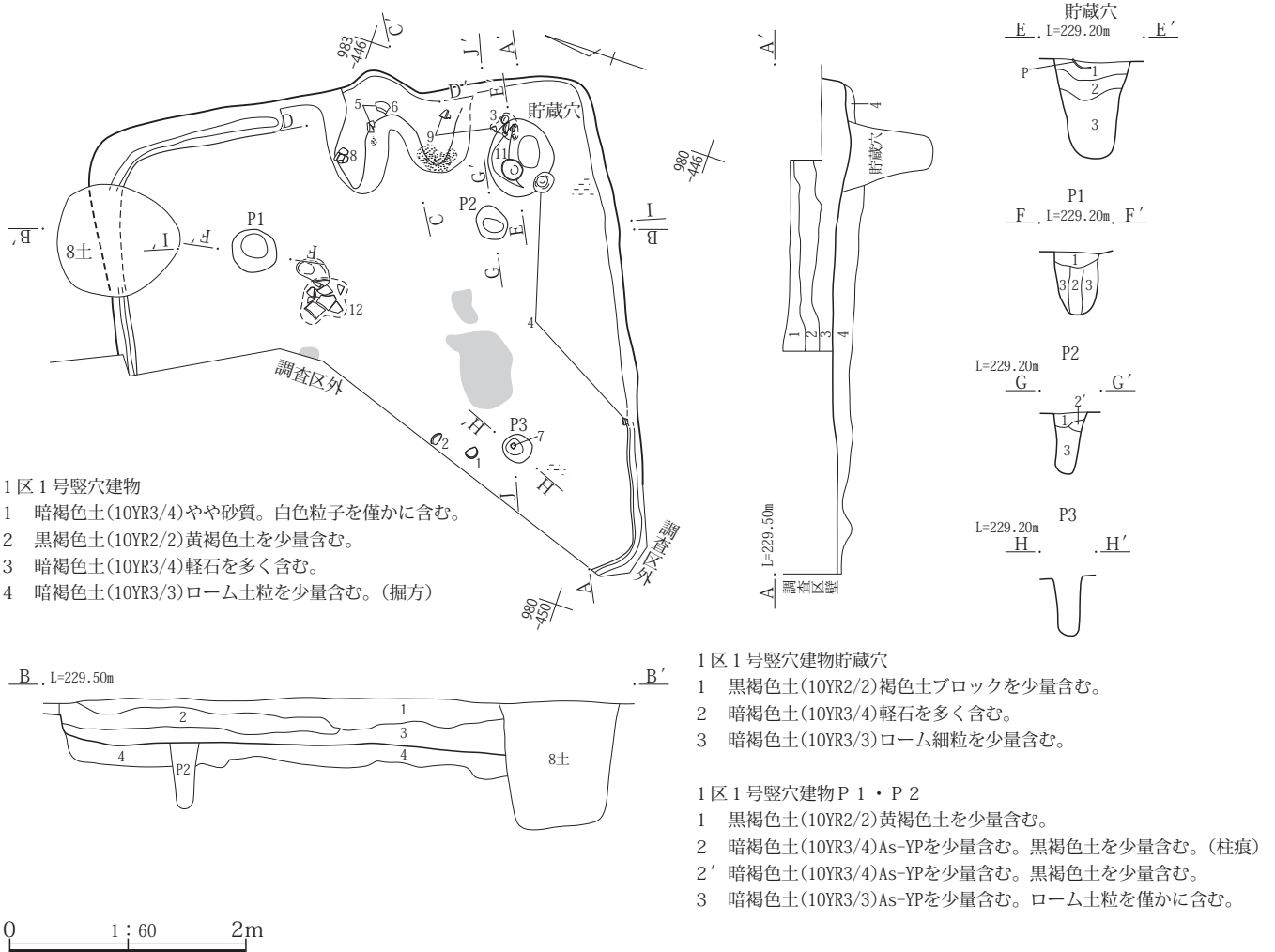
P2 長径0.28m 短径0.26m 深さ0.52m

P3 長径0.24m 短径0.23m 深さ0.51m

P1・P2の柱間の距離は2.03m、P2・P3は1.92mである。

カマド 東壁に敷設されていた。残存するカマドの規模は確認長1.00m、幅1.29m、煙道部長0.41m、燃烧部長0.59m、煙道部幅計測不可、焚口幅0.39mである。カマド袖の遺存状況が悪いため、構築状況は明らかにすることができないが、袖に相当する部分に粘土を検出した。

貯蔵穴 建物の南東隅に、長軸0.66m、短軸0.56m、深さ0.86mの楕円形の貯蔵穴を検出した。埋没土は暗褐色土が主体で軽石やローム粒が含まれていた。貯蔵穴からの出土遺物はない。

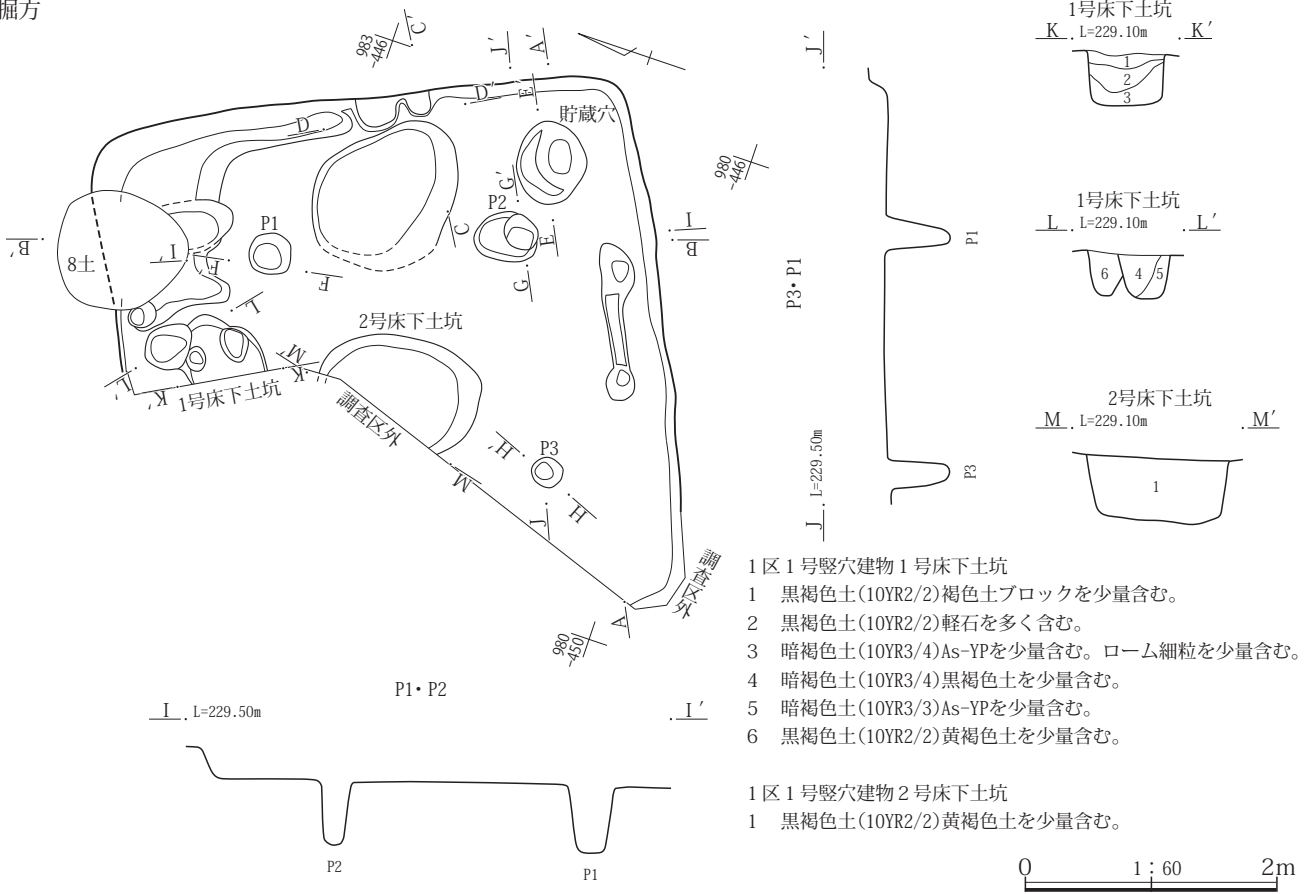


第76図 1区1号竪穴建物

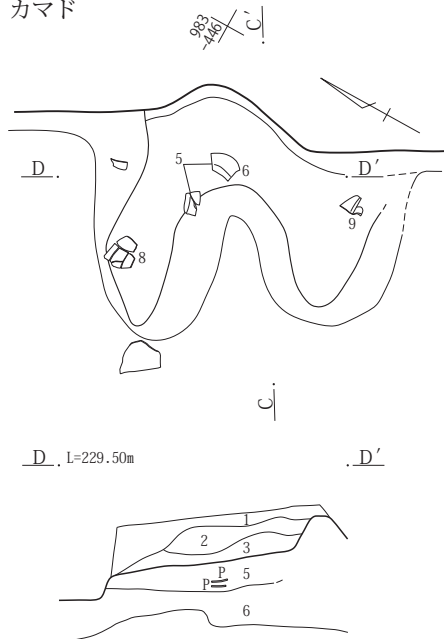
壁際溝 カマド袖から北壁にかけてと南西隅に幅13~34cm、深さ62cmの溝を確認した。
掘方 床面から14cmほど下位で掘方面を検出した。北東

隅が最も深く掘り込まれている。貼床はローム粒を少量含む暗褐色土が主体である。
床下土坑 2基確認した。1号床下土坑は深さ45cm、2

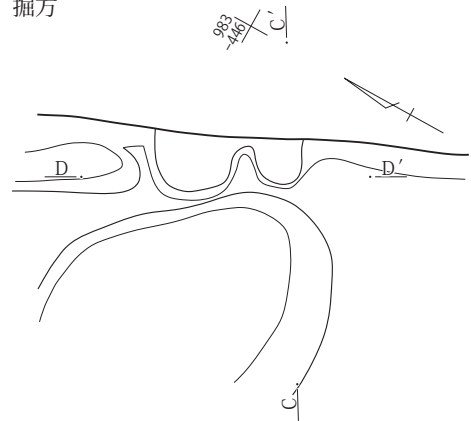
掘方



カマド



掘方



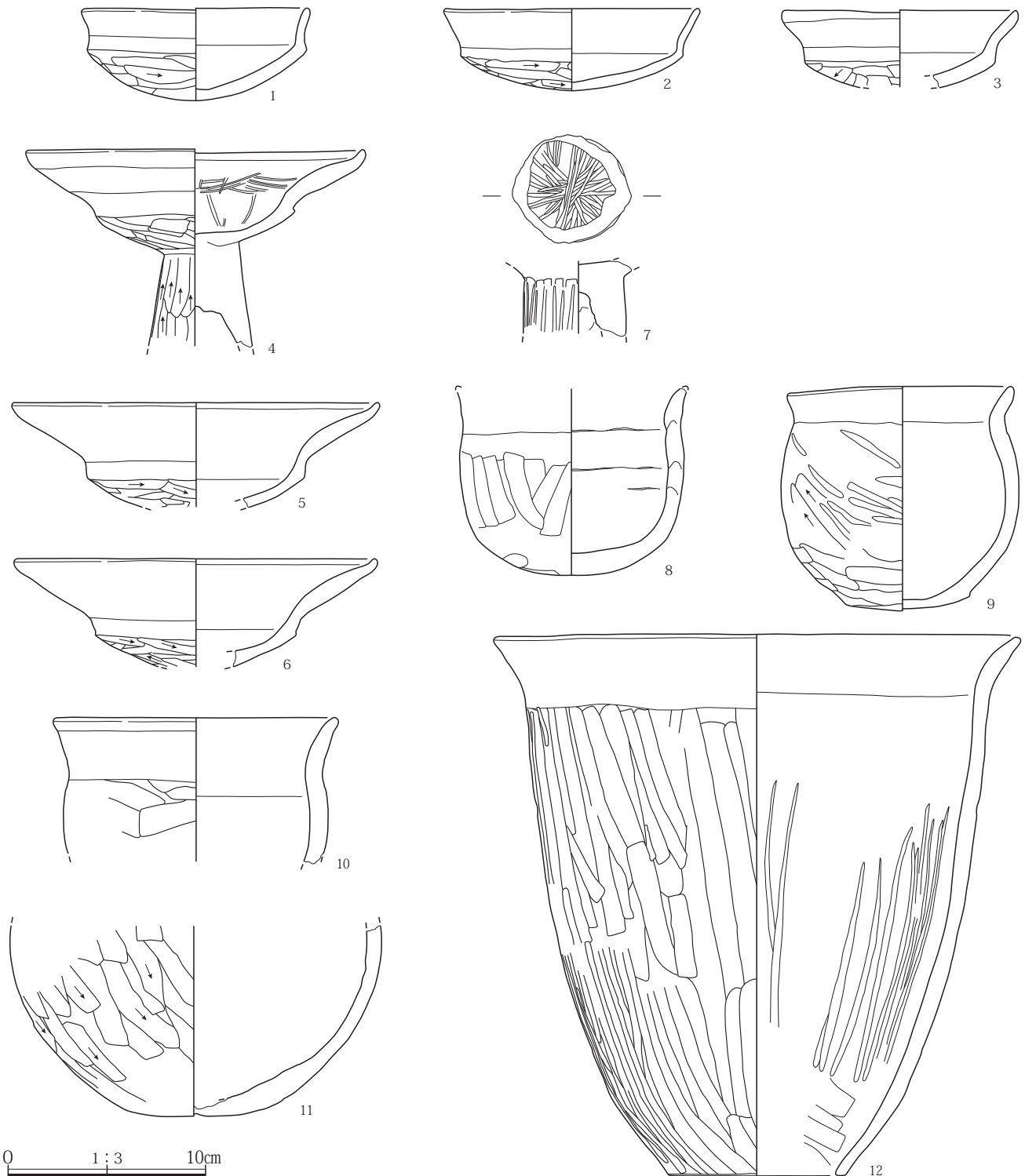
第77図 1区1号竪穴建物 掘方・カマド

号床下土坑は深さ48cmである。

遺物と出土状況 図示できた遺物は土師器杯3点(第78図1～3)、高杯4点(第78図4～7)、鉢1点(第78図8)、小型甕(9)、甕2点(第78図10・11)、甕1点(第78図12)である。須恵器は出土していない。このう

ち床直上から出土した土器は、杯(3)、高杯(7)、小型甕(9)、甕(12)の4点である。非掲載遺物は土師器1,398.6gである。

調査所見 出土遺物から6世紀前半から中ごろの竪穴建物と考えられる。



第78図 1区1号竪穴建物出土遺物

1区2号竪穴建物(第70・79~81図 PL.38~40・78)

遺物観察表P.159)

位置 X=32,968~32,974 Y=-84,440~-84,447

重複 1号土坑、18号ピット・19号ピットに先行する。

平面形 台形。

規模 長軸5.47m 短軸4.88m 残存壁高18cm

床面積 22.64㎡

主軸方位 N-71°-E

検出・埋没状況 埋没土は、軽石を少量含む黒色土を主体とし、炭化物も混入している。床面の北西部分から焼土が確認され、カマドの南側から貯蔵穴付近にかけて炭

化物を検出した。

柱穴 床面で支柱穴4本が検出された。規模は下記の通りである。

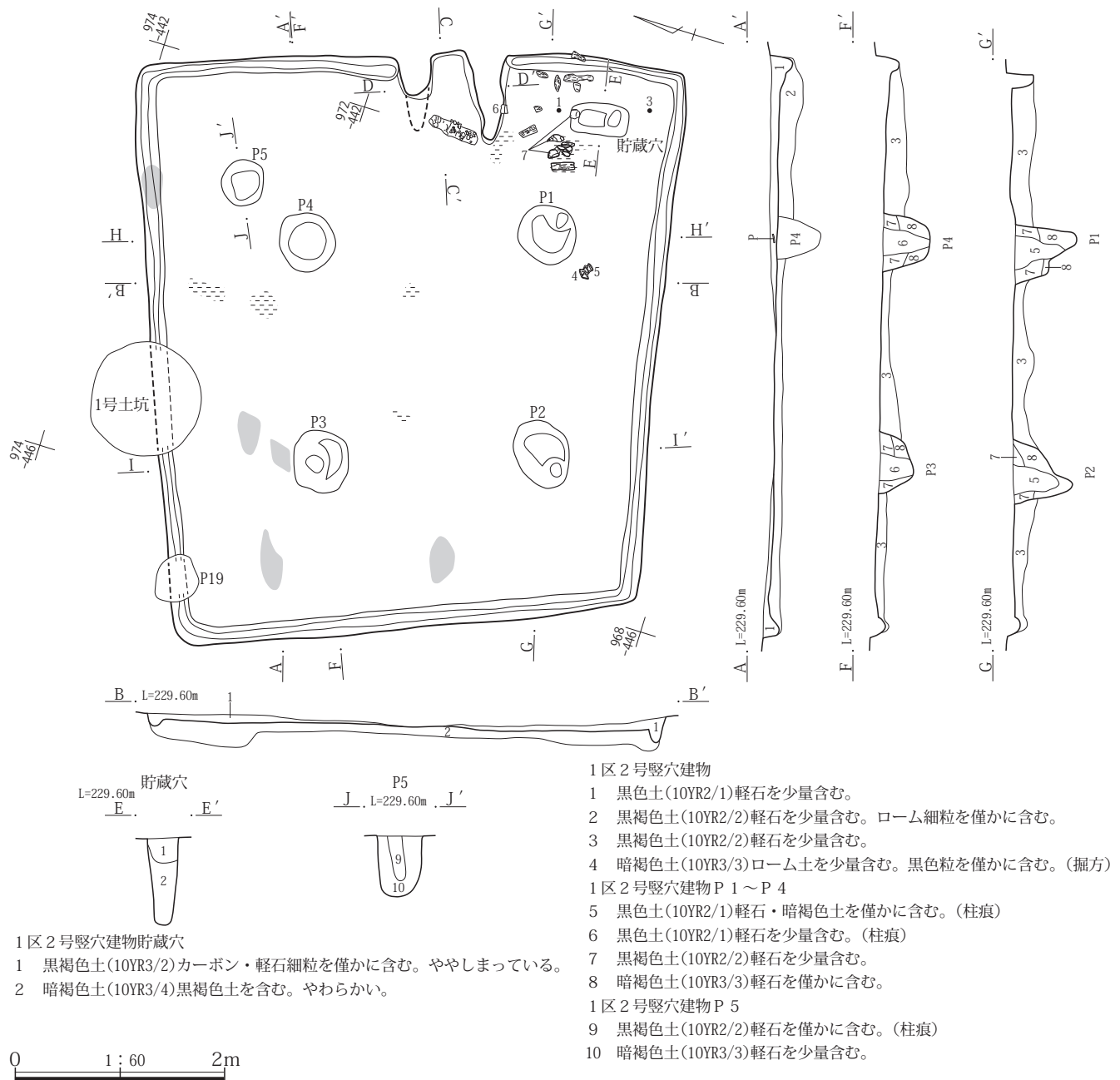
P 1 長径0.56m 短径0.54m 深さ0.66m

P 2 長径0.67m 短径0.51m 深さ0.64m

P 3 長径0.58m 短径0.53m 深さ0.49m

P 3 長径0.56m 短径0.54m 深さ0.41m

P 1・P 2の柱間の距離は2.10m、P 2・P 3は2.10m、P 3・P 4は2.10m、P 4・P 1は2.29mで、ほぼ均等な間隔である。また、P 1~P 4のすべてに柱痕を確認することができた。



第79図 1区2号竪穴建物

カマド 東壁に敷設されていた。残存するカマドの規模は確認長0.91m、幅(0.91m)、焚口幅0.54m、煙道部は遺存状況が悪いため、明らかにすることができなかった。袖は地山のロームを使って構築されていた。焚口付近には、天井石に使用されたと考えられる長さ0.50m、幅0.12mの礫が残されていた。

貯蔵穴 建物の南東隅に、長軸0.55m、短軸0.30m、深さ0.84mの隅丸長方形の貯蔵穴を検出した。埋没土は暗褐色土が主体で炭化粒が含まれていた。底部からは炭化物が出土している。

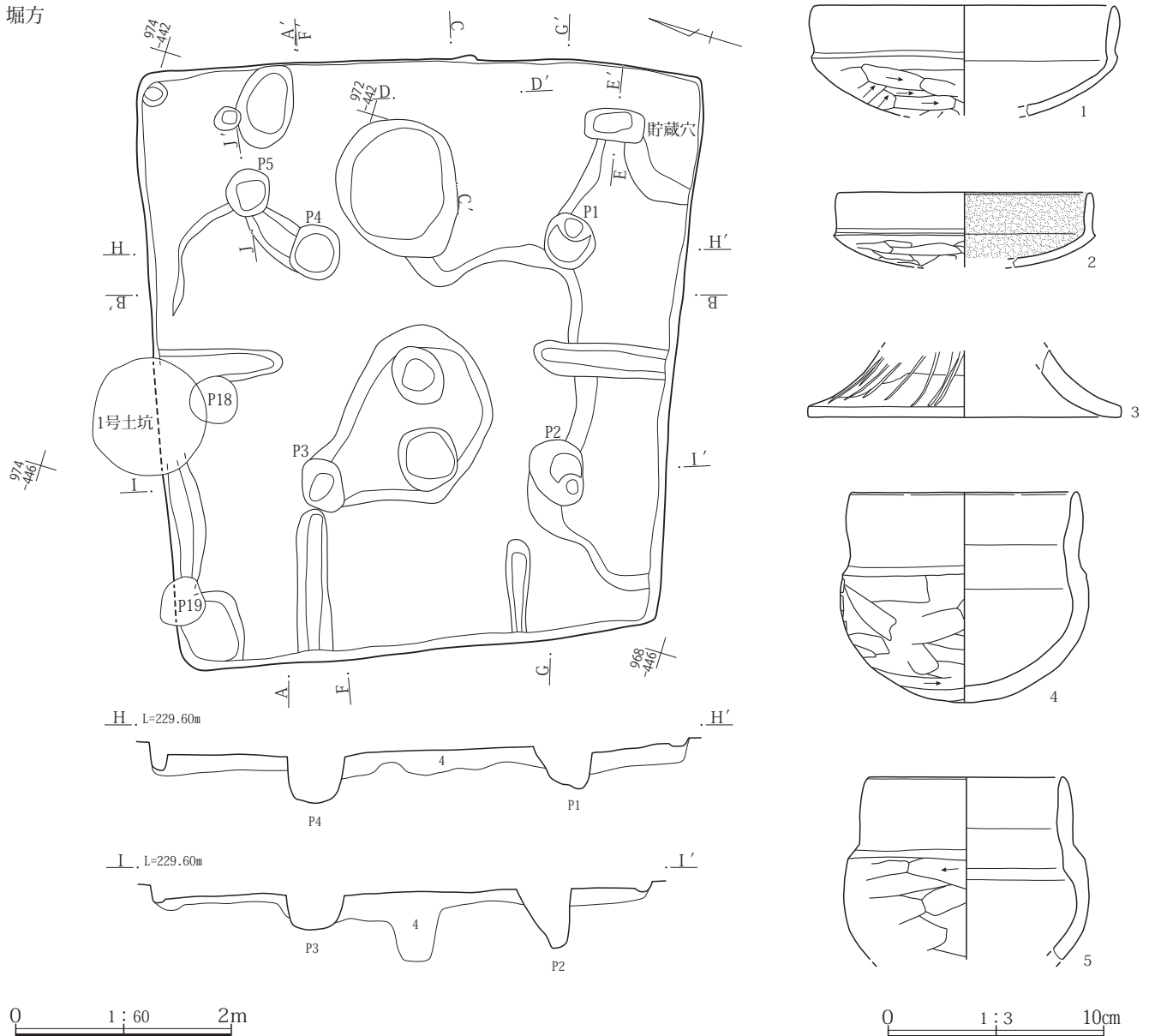
壁際溝 カマド部分を除き、床面を全周する溝を確認した。最大深度0.28mである。

掘方 床面から0.06m~0.20mほど下位で掘方面を検出した。貼床は軽石を少量含む黒褐色土が主体である。中央部分が最も深く掘り込まれており、最深部は床面より0.60mである。また、南壁と北壁にそれぞれ1条ずつ、西壁に2条の間仕切り溝を確認した。

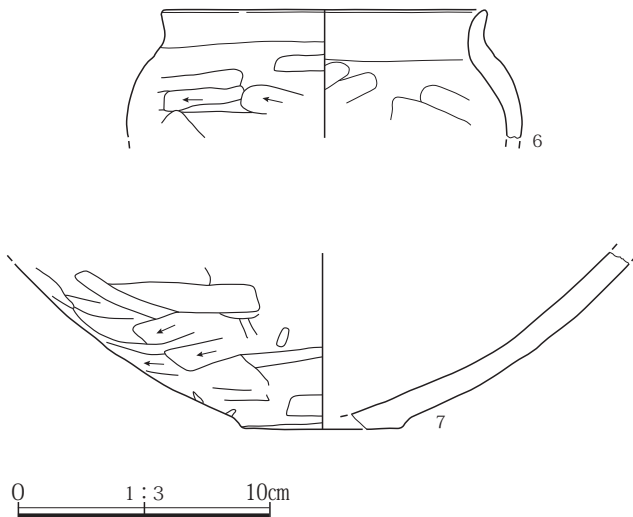
遺物と出土状況 図示できた遺物は、土師器杯2点(第80図1・2)、高杯1点(第80図3)、小型甕2点(第80図4・5)、短頸壺1点(第81図6)、壺1点(第81図7)の7点である。このうち杯(1)、高杯、小型甕は床直上から、壺は貯蔵穴と床直上から出土している。

調査所見 遺構の検出状況および埋没土から5世紀末から6世紀初頭の竪穴建物と考えられる。

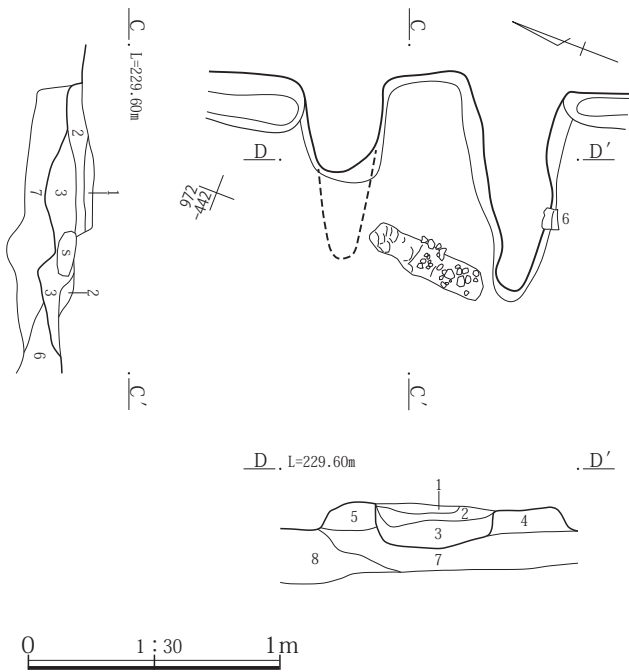
掘方



第80図 1区2号竪穴建物 掘方と出土遺物(1)



カマド



1区2号竪穴建物カマド

- 1 黒色土(10YR2/1)灰を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)焼土粒を少量含む。
- 3 赤褐色土(2.5YR4/8)焼土主体。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)ローム土細粒・軽石を僅かに含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒・As-YPを少量含む。カマド袖。
- 6 暗褐色土(10YR3/4)ローム土粒を少量含む。
- 7 明褐色土(7.5YR5/6)ローム土粒を多量に含む。As-YPを少量含む。
- 8 竪穴建物埋没土

第81図 1区2号竪穴建物 カマドと出土遺物(2)

1区3号竪穴建物(第70・82~85図 PL.40・41・79・80
遺物観察表P.159・160)

位置 X=32,977~32,983 Y=-84,438~-84,443

重複 1号溝、6号土坑、28号ピットに先行する。27号ピットとは同時期か。

平面形 南辺がやや長い隅丸長方形。

規模 長軸4.41m 短軸4.30m 残存壁高0.38m

床面積 16.84㎡以上

主軸方位 N-67°-E

検出・埋没状況 調査区北側、1号竪穴建物の東2.4mに位置する。埋没土は軽石を含む黒褐色土を主体とし、レンズ状堆積しているため自然埋没と考えられる。

柱穴 床面で支柱穴4本が検出された。規模は下記の通りである。

P 1 長径0.51m 短径0.50m 深さ0.43m

P 2 長径0.58m 短径0.43m 深さ0.41m

P 3 長径0.47m 短径0.43m 深さ0.50m

P 4 長径0.55m 短径0.47m 深さ0.65m

P 1・P 2の柱間の距離は1.30m、P 2・P 3は2.08m、P 3・P 4は1.71m、P 4・P 1は2.19mで、東西の間隔が狭い。また、P 1~P 4のすべてに柱痕を確認することができた。

カマド 東壁に敷設されていた。残存するカマドの規模は確認長1.08m、幅1.19m、煙道部長0.49m、燃烧部長0.59m、煙道部幅0.56m、焚口幅0.32mである。カマド袖の遺存状況が悪いが、袖の芯材に使用されたであろう礫が左右に残っていた。

貯蔵穴 建物の南東隅に、長軸0.58m、短軸0.32m、深さ0.75mの不整形の貯蔵穴を検出した。埋没土は炭化物を僅かに含む黒褐色土が主体である。底面より、ほぼ完形の小型甕が出土している。

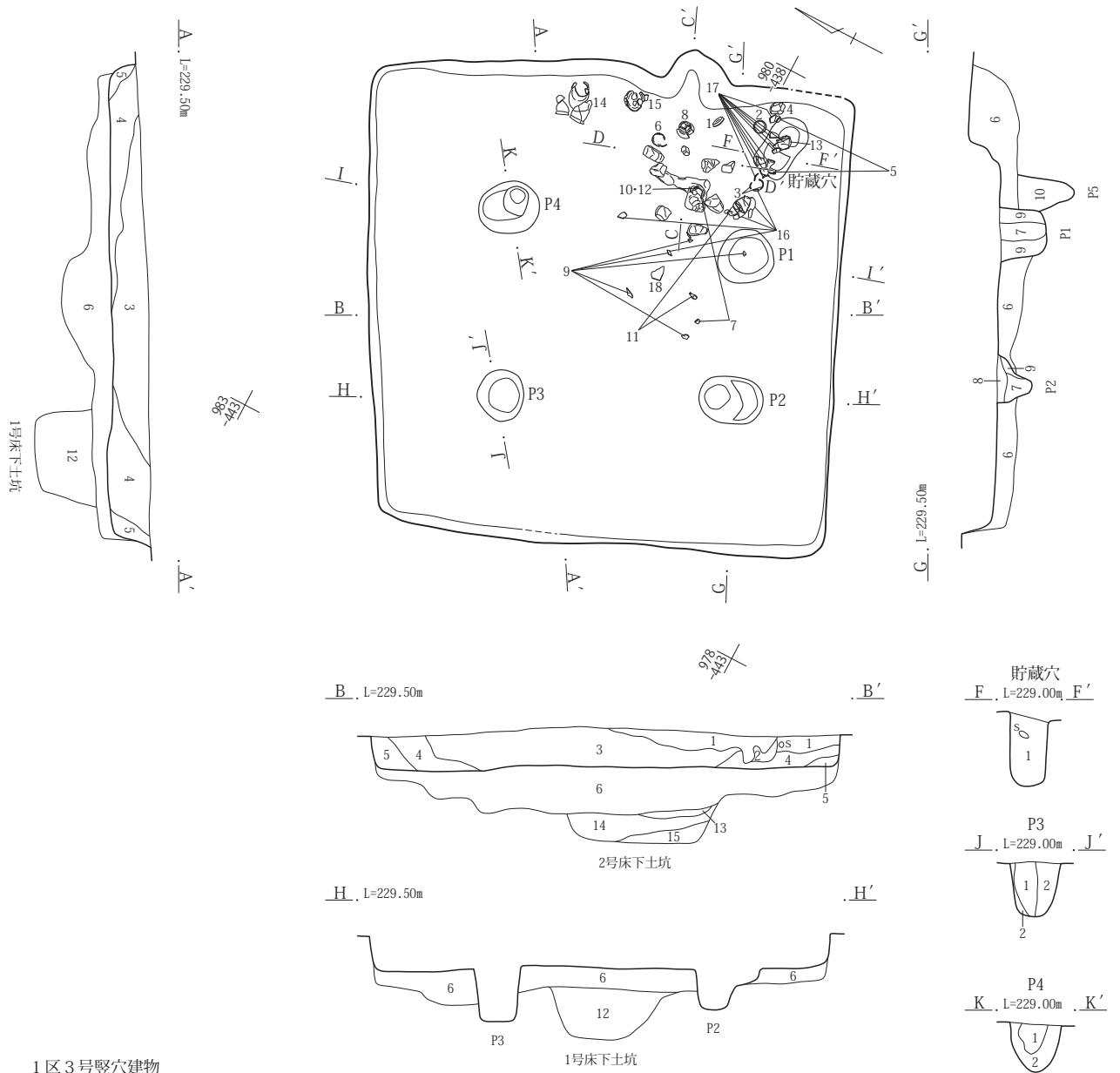
壁際溝 確認できなかった。

掘方 床面から0.16m~0.44mほど下位で掘方面を検出した。中央部と西壁側が土坑状に深く掘り込まれている。貼床はローム粒を含む暗褐色土が主体である。

遺物と出土状況 図示できた遺物は、ほぼ完形の土師器杯5点(第84図1~5)、内面黒色処理の杯口縁から体部片1点(第84図6)、高杯杯部3点(第84図8~10)、高杯杯部から脚部片1点(第84図7)、高杯脚部1点(第84図

11)、鉢口縁から底部片1点(第84図12)、小型甕1点(第84図13)、長胴甕2点(第85図14・15)、甕3点(第85図16~18)が出土した。このうち、床直上からの遺物は、杯(2

~5)、高杯(8)、小型甕(13)、長胴甕(15)、甕(17)である。
調査所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

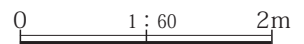


1区3号竪穴建物

- 1 褐色土(10YR4/4)ローム土粒・軽石を少量含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)軽石を含まない。
- 3 黒色土(10YR2/1)軽石を少量含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)軽石を少量含む。
- 5 褐色土(10YR4/4)軽石を僅かに含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/4)ローム土粒・褐色土を少量含む。
- 1区3号竪穴建物 P 1・P 2
- 7 黒褐色土(10YR2/2)ローム土細粒・軽石を僅かに含む。(柱痕)
- 8 黒褐色土(10YR2/2)ローム土細粒・軽石を僅かに含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2)軽石を少量含む。
- 1区3号竪穴建物 P 5
- 10 黒褐色土(10YR2/2)ローム土細粒・軽石を含む。

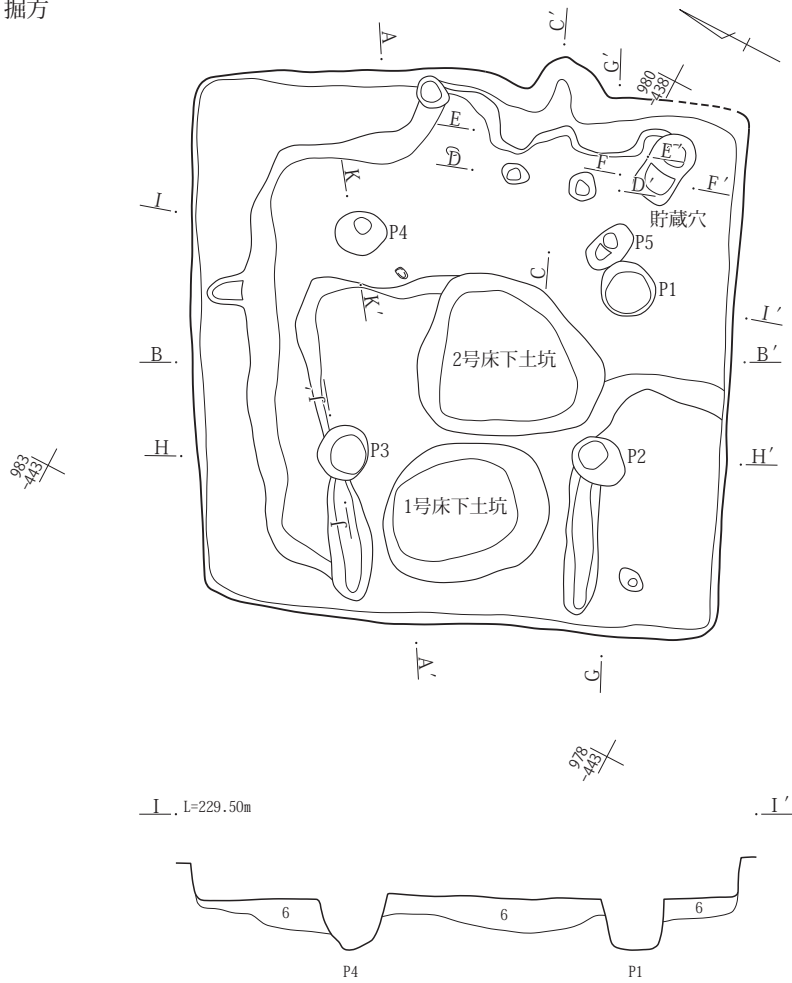
1区3号竪穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR2/2)暗褐色土を少量含む。炭化物を僅かに含む。
- 1区3号竪穴建物 P 3・P 4
- 1 黒褐色土(10YR2/2)褐色土粒を少量含む。(柱痕)
- 2 暗褐色土(10YR3/4)褐色土を少量含む。
- 1区3号竪穴建物 1号床下土坑
- 12 暗褐色土(10YR3/3)黒色土・ローム粒を僅かに含む。
- 1区3号竪穴建物 2号床下土坑
- 13 黄褐色土(10YR5/6)褐色土・ローム土を少量含む。
- 14 褐色土(10YR4/4)ローム土を少量含む。As-YPを僅かに含む。
- 15 褐色土(10YR4/6)ローム土を多く含む。やや硬くしまっている。

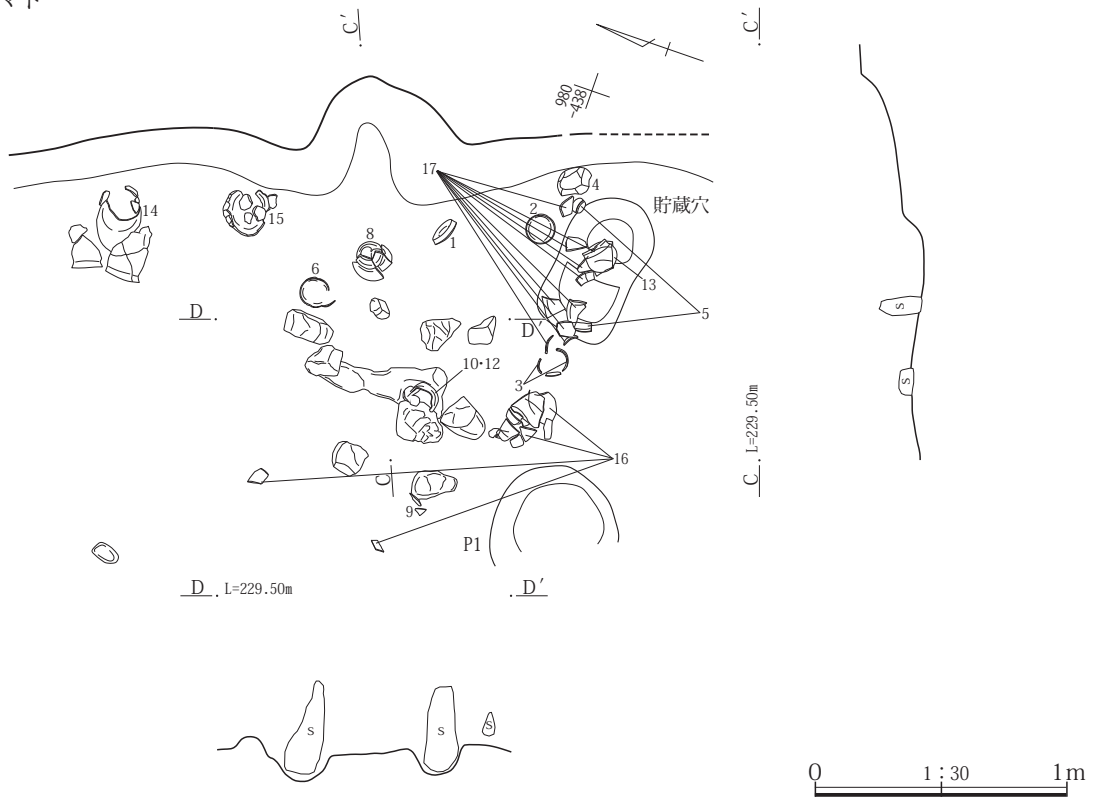


第82図 1区3号竪穴建物

掘方

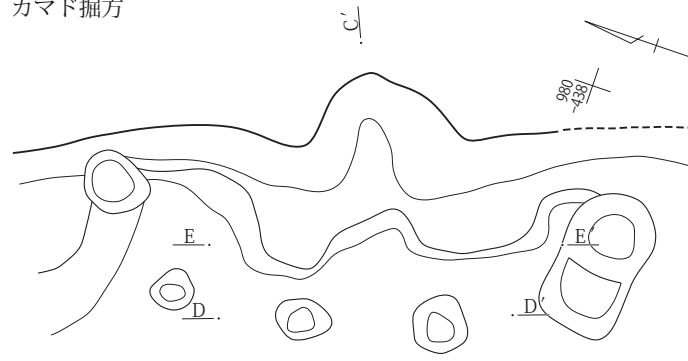


カマド



第83図 1区3号竪穴建物 掘方・カマド

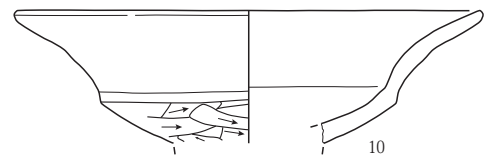
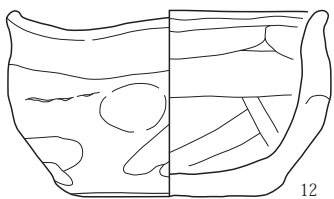
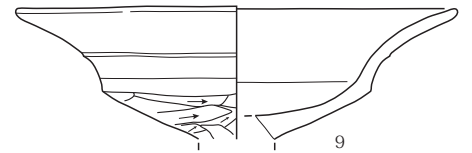
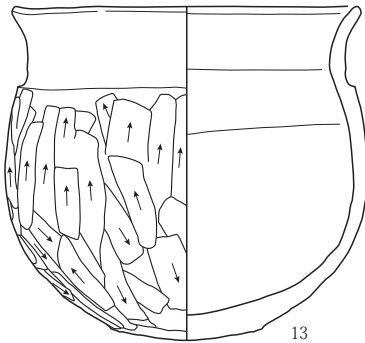
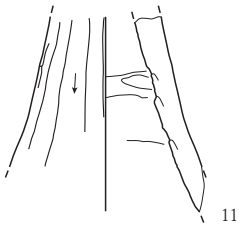
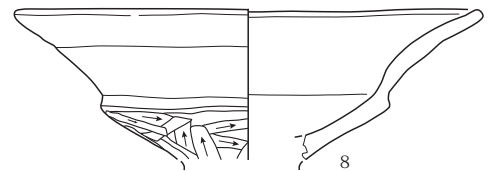
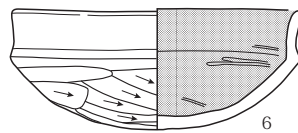
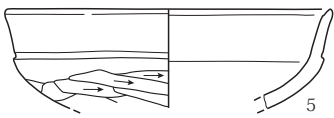
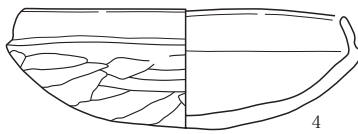
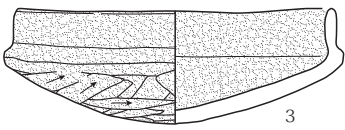
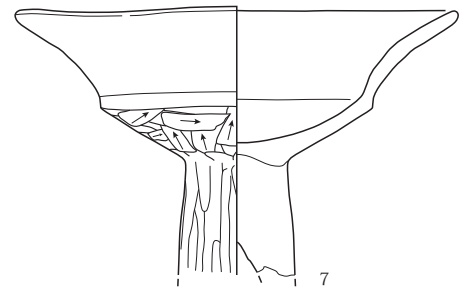
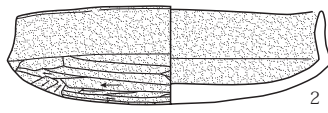
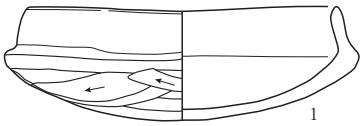
カマド掘方



E. L=229.00m E'

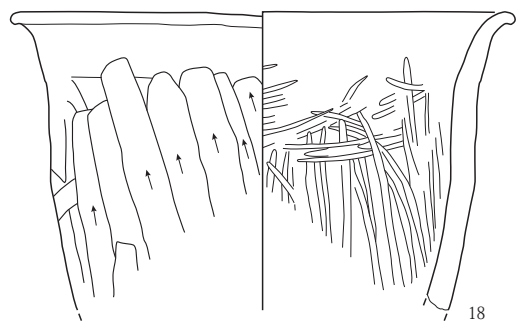
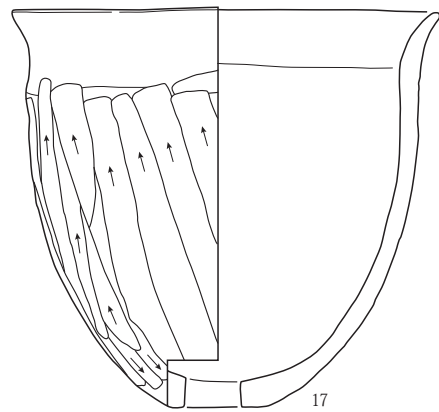
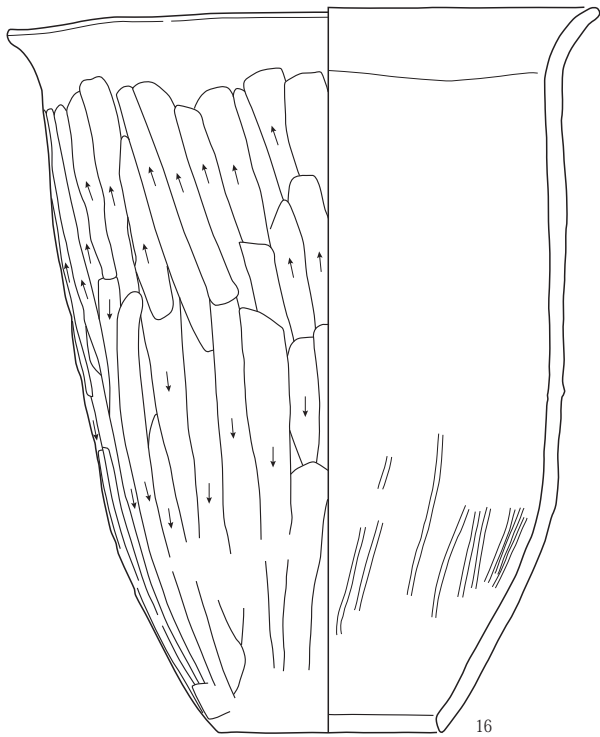
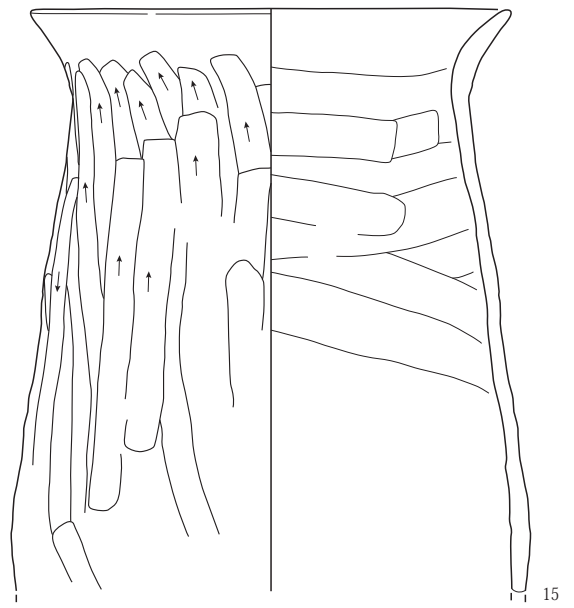
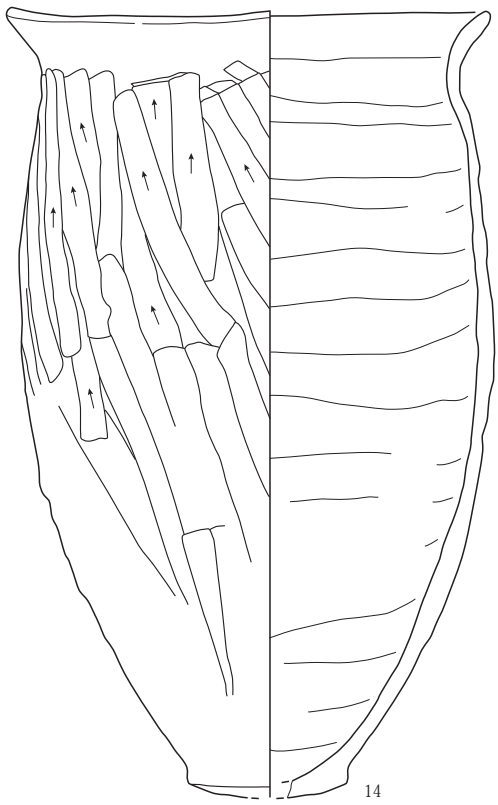


0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第84図 1区3号竪穴建物 カマド掘方と出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第85図 1区3号竪穴建物出土遺物(2)

1区4号竪穴建物(第70・86図 PL.41)

位置 X=32,984~32,986 Y=-84,434~-84,439

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か。

規模 長軸4.38m 短軸2.76m以上 残存壁高0.39m

床面積 8.54㎡以上

主軸方位 N-63°-E

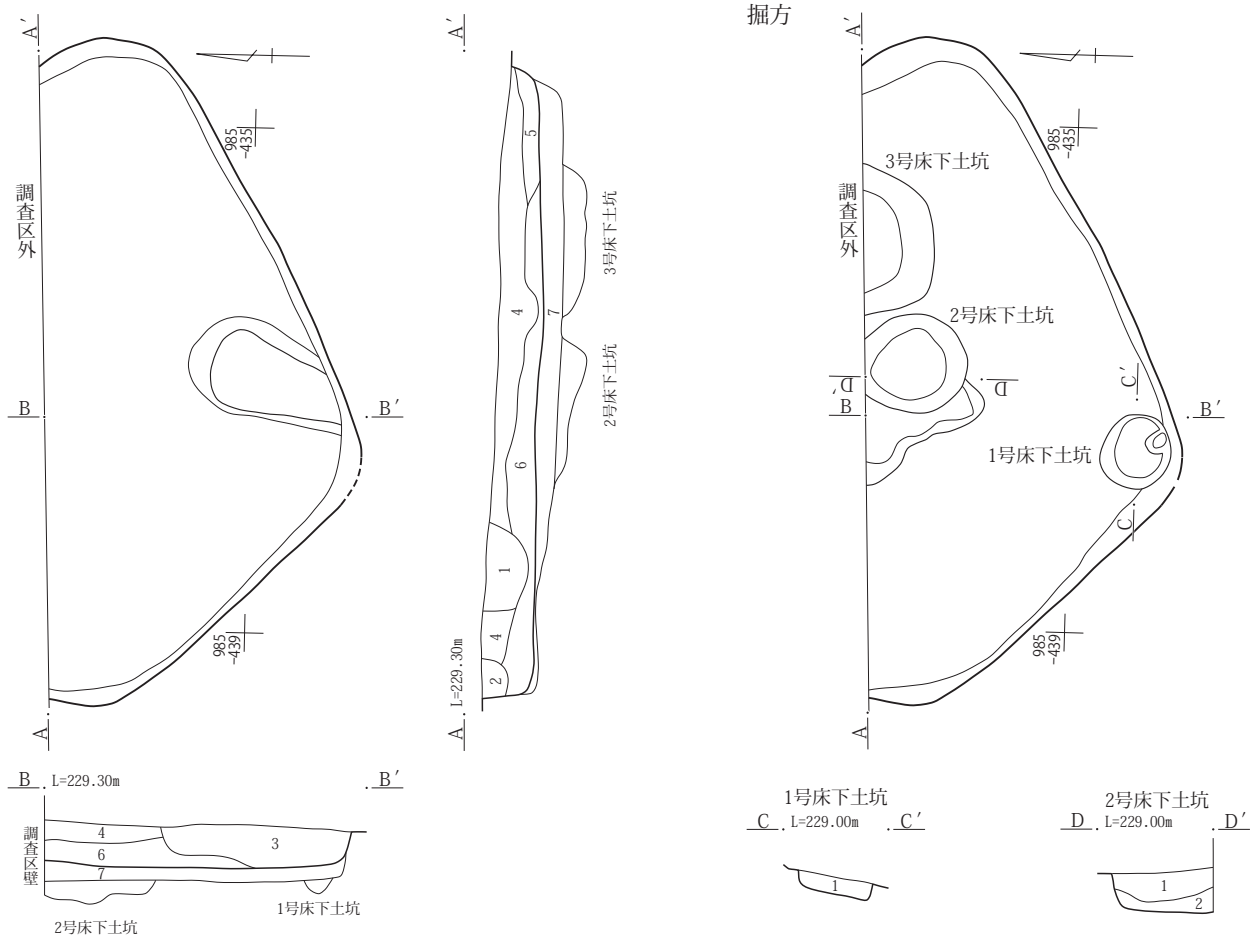
検出・埋没状況 調査区北端で検出した。埋没土は暗褐色土が主体であり、南壁側にはロームを含む黒褐色土が確認できることから人為的に埋め戻されたと考えられる。

柱穴・カマド・貯蔵穴・壁溝 確認できなかった。

掘方 床面から厚さ0.10m~0.18mほどの貼床を検出した。南西隅と中央部が深く掘り込まれ、東壁側が西壁側より0.29m深く掘削されている。細礫を微量含む黄褐色土を主体としている。

出土遺物 なし。

調査所見 調査では竪穴建物としているが、遺物が出土しておらず竈等の施設も確認できないため、竪穴状遺構の可能性もある。埋没土が1号竪穴建物や3号竪穴建物と類似しているため、古墳時代と考えられるが詳細な時期は不明である。



1区4号竪穴建物

- 1 黄褐色土(10YR5/6)褐色土を少量含む。黒褐色土を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3)黒色土を僅かに含む。褐色土を少量含む。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/2)黒色土粒を少量含む。As-YPを僅かに含む。
- 4 暗褐色土(7.5YR3/3)黒色土を僅かに含む。褐色土を少量含む。
- 5 暗褐色土(7.5YR3/4)黒色土を多量に含む。褐色土を少量含む。
- 6 褐色土(7.5YR4/6)黒色土を僅かに含む。褐色土を少量含む。
- 7 黄褐色土(10YR5/6)褐色土・ローム土を少量含む。As-YPを僅かに含む。

1区4号竪穴建物床下土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黒色土粒・褐色土を僅かに含む。

第86図 1区4号竪穴建物

1区5号竪穴建物(第70・87・88図 PL.42・80・81
遺物観察表P.160)

位置 X=32,947~32,950 Y=-84,449~-84,452

重複 1号石列に先行する。

平面形 隅丸長方形か。

規模 長軸3.69m以上 短軸1.88m以上 残存壁高0.66m

床面積 4.34㎡以上

主軸方位 N-58°-E

検出・埋没状況 調査区ほぼ中央、1号方形周溝墓から北東に約7.00mの位置で確認した。埋没土は黒褐色土を主体とし、壁際はロームが混入している。

柱穴 床面で支柱穴1基、壁柱穴を2基検出した。規模は下記の通りである。

P1 長径0.35m 短径0.28m 深さ0.62m

P2 長径0.30m 短径0.26m 深さ0.50m

P3 長径0.32m 短径0.27m 深さ0.31m

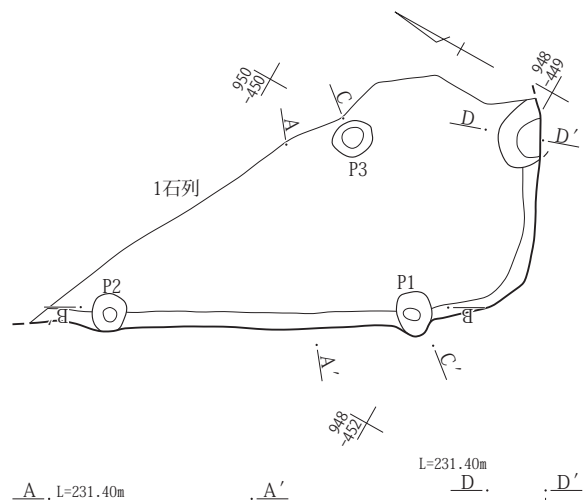
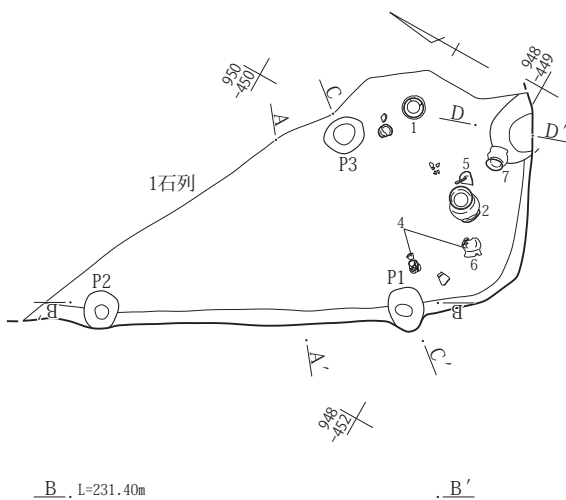
P1・P2の柱間の距離は2.41m、P3・P1は1.46mである。

炉・貯蔵穴・壁際溝 確認できなかった。

掘方 床面から厚さ0.04mほどの貼床を検出した。掘方はほぼ平坦に掘削されローム粒を僅かに含む黒褐色土を主体としている。

遺物と出土状況 遺物は、弥生土器7点を図示した。高杯杯部1点(第88図1)、一部欠損の高杯1点(第88図2)、土師器埴口縁部片(第88図3)、ほぼ完形の甕2点(第88図4・5)、壺口縁~肩部1点(第88図6)、完形の壺1点(第88図7)が出土した。このうち、床直上からの遺物は、1・2・4・6・7である。

調査所見 出土遺物から、3世紀中~後半であると考えられる。



B, L=231.40m

B'

A, L=231.40m

A'

L=231.40m

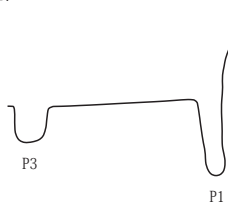
D

D'



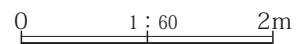
C, L=231.40m

C'



1区5号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-YPを僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)As-YPを僅かに含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4)炭化物を少量含む
- 5 褐色土(10YR4/6)ローム土粒を少量含む
- 1区5号竪穴建物1号床下土坑
- 6 黒褐色土(10YR2/2)黒色土粒・炭化物を少量含む。As-YPを僅かに含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/4)黒色土粒を少量含む。As-YPを僅かに含む。



第87図 1区5号竪穴建物

2区1号竪穴建物(第72・89図 PL.43)

位置 X=33,018~32,024 Y=-84,430~-84,436

重複 なし。

平面形 隅丸長方形。

規模 長軸5.10m 短軸3.49m 残存壁高0.07m

床面積 16.33㎡

主軸方位 N-68°-E

検出・埋没状況 2区のほぼ中央で検出した。遺構の上層はほとんど削平されているため、使用面ではなく掘方土であると考えられる。黒褐色土主体で暗褐色土を少量含んでいる。

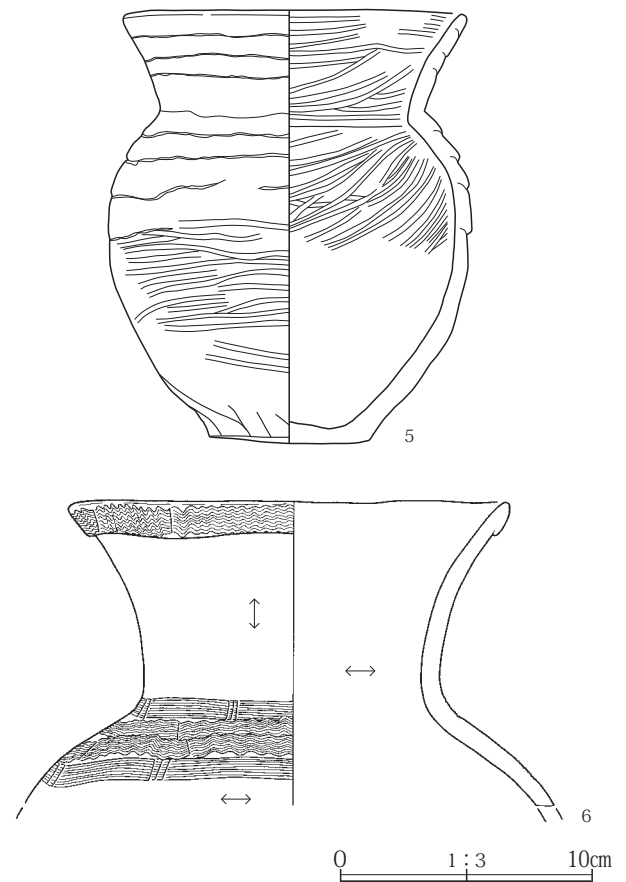
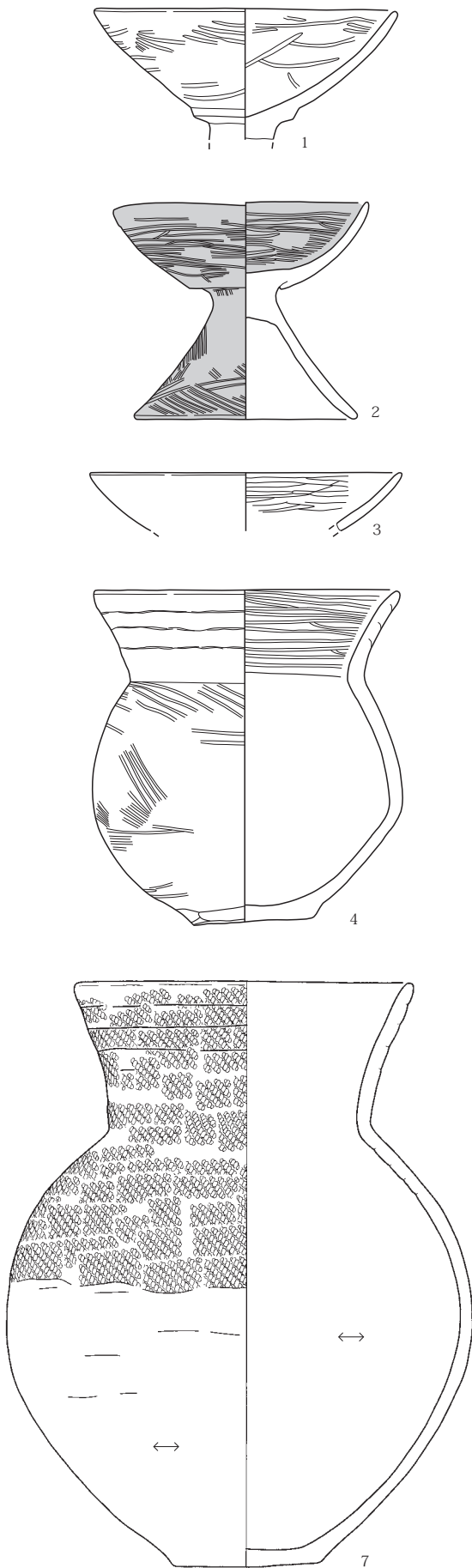
柱穴 確認できなかった。

カマド 西壁に敷設されていた。遺存状態が悪く、焼土がわずかに残されている。

貯蔵穴・壁際溝 確認できなかった。

遺物と出土状況 土師器が13片出土しているが、小片のため図示できなかった。

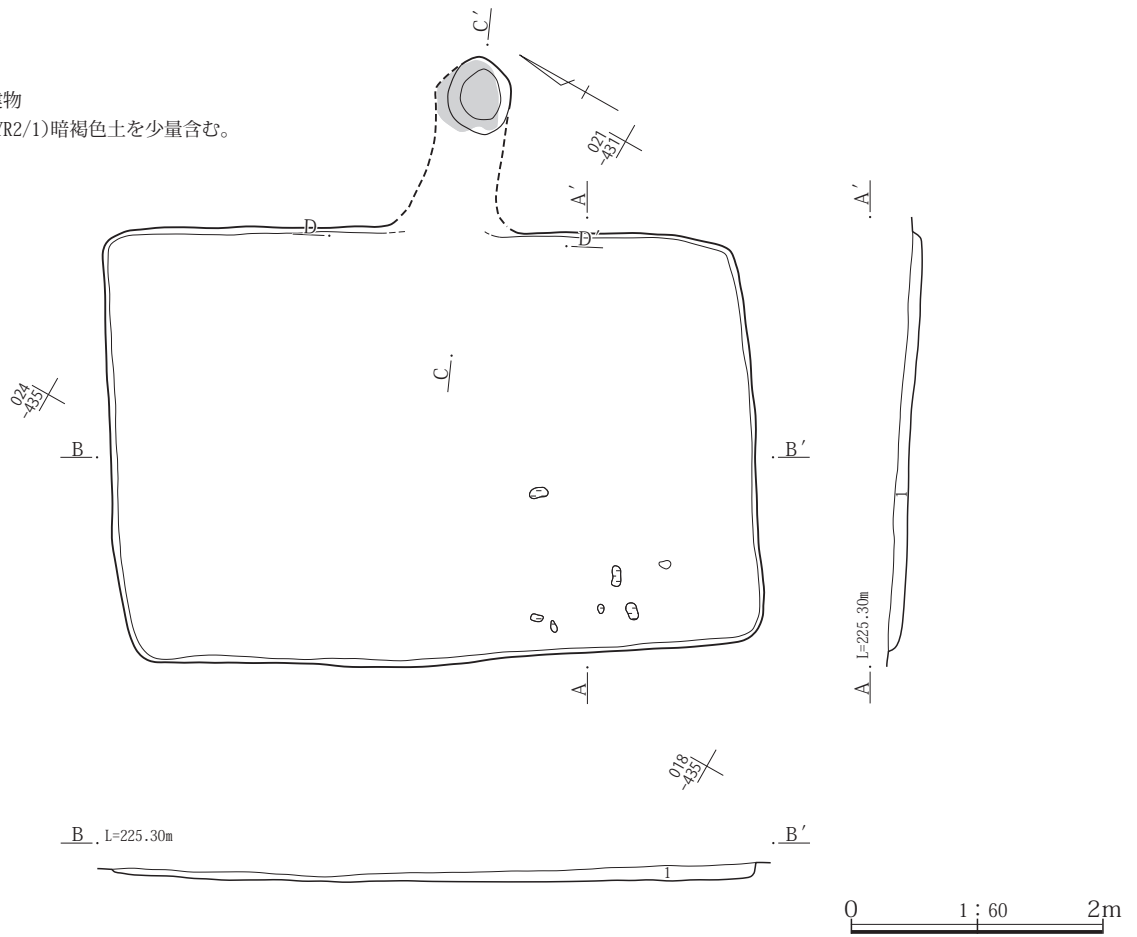
調査所見 遺構の確認状況や非掲載遺物などから古墳時代と考えられるが、詳細な時期は不明である。



第88図 1区5号竪穴建物出土遺物

2区1号竪穴建物

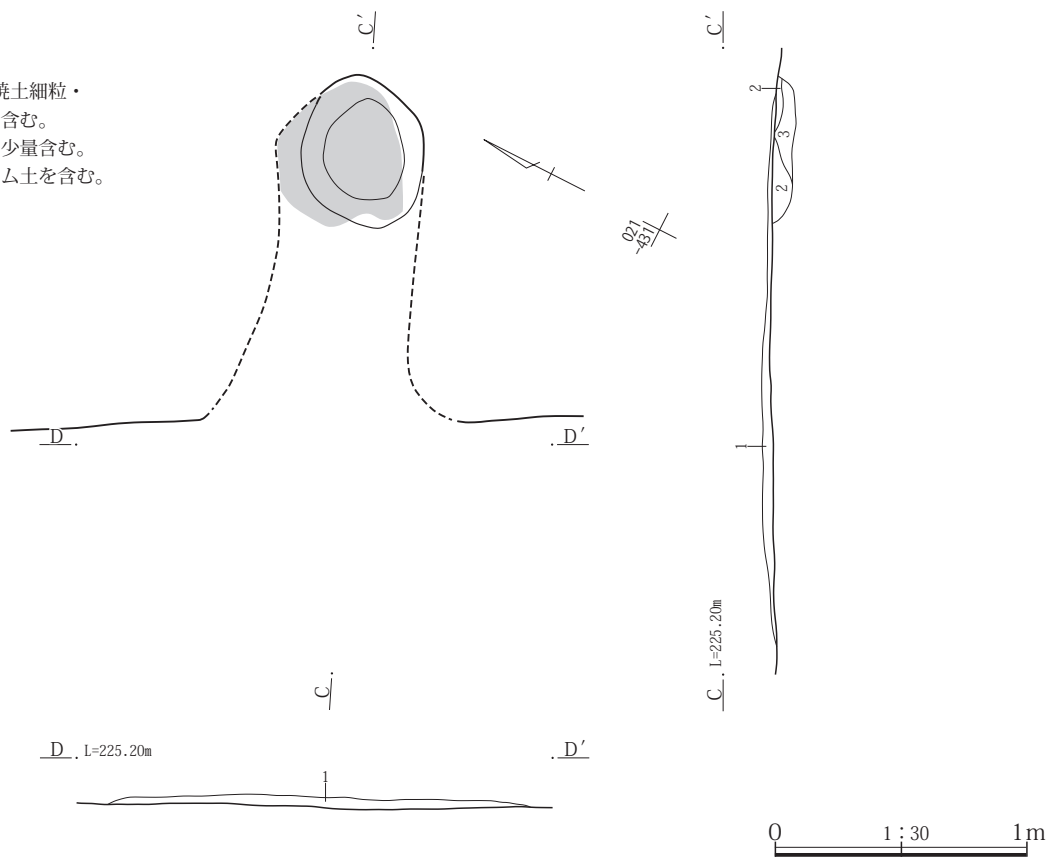
- 1 黒色土(10YR2/1)暗褐色土を少量含む。



カマド

2区1号竪穴建物カマド

- 1 暗褐色土(10YR3/3)焼土細粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 赤褐色土 焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 焼けたローム土を含む。



第89図 2区1号竪穴建物

(2) 竪穴状遺構

1区1号竪穴状遺構(第70・90図 PL.43)

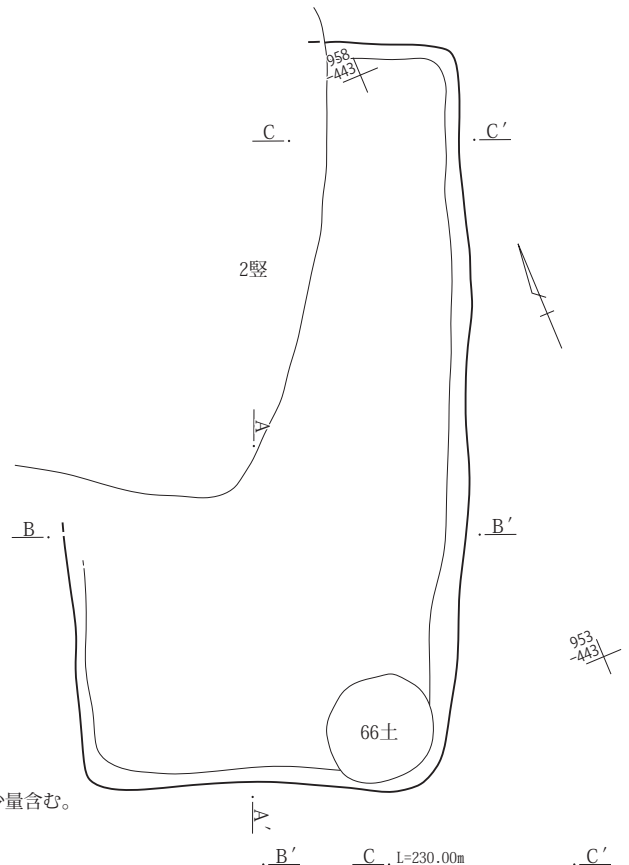
位置 X=32,952~32,958 Y=-84,442~-84,447
 重複 2号竪穴状遺構に先行する。66号土坑との新旧は不明。
 平面形 隅丸長方形か。
 規模 長軸5.91m 短軸3.12m 残存壁高0.22m
 面積 9.98㎡以上
 長軸方位 N-23°-E

検出・埋没状況 調査区ほぼ中央の1号石列北で検出した。埋没土は暗褐色土を主体とし、褐色土を少量含んでいる。

出土遺物 なし。

調査所見 埋没土には他の調査区で確認できるAs-A、As-Bを含まないことから近世以前と考えられるが、詳細な時期は不明である。

1区竪穴状遺構
 1 暗褐色土(10YR3/4)褐色土を少量含む。



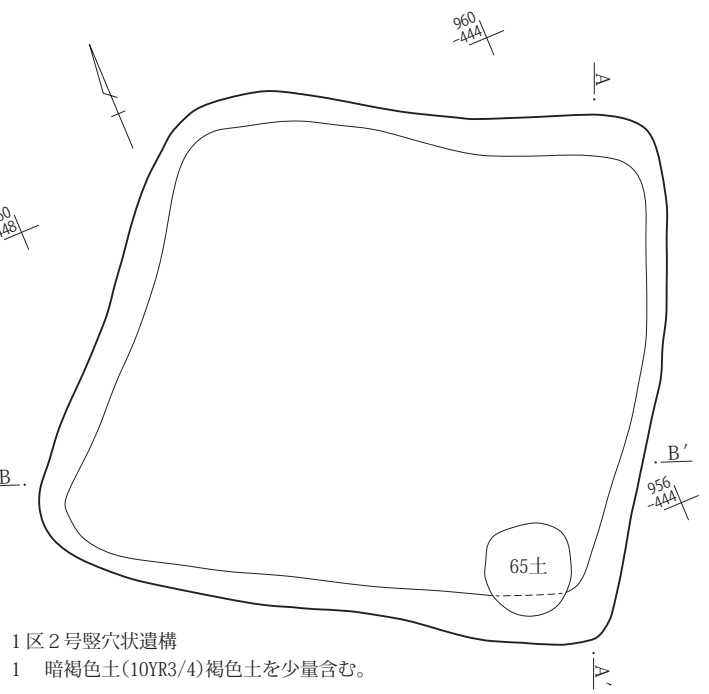
2号竪穴状遺構(第70・90図 PL.43)

位置 X=32,955~32,960 Y=-84,443~-84,448
 重複 1号竪穴状遺構に後出する。65号土坑との新旧は不明。
 平面形 隅丸長方形。
 規模 長軸4.45m 短軸 3.98m 残存壁高0.29m
 面積 13.80㎡
 長軸方位 N-61°-W

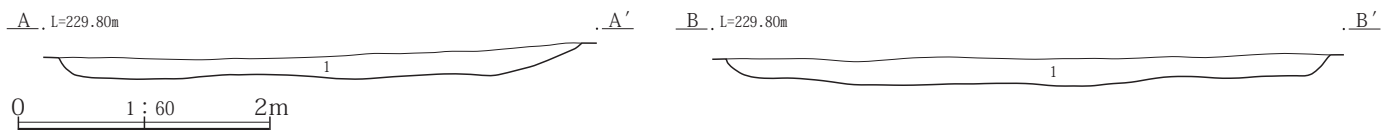
検出・埋没状況 調査区ほぼ中央の1号石列北で検出した。埋没土は暗褐色土を主体で、褐色土を少量含み、1号竪穴状遺構と酷似している。

出土遺物 なし。

調査所見 埋没土には他の調査区で確認できるAs-A、As-Bを含まないことから近世以前と考えられるが、詳細な時期は不明である。



1区2号竪穴状遺構
 1 暗褐色土(10YR3/4)褐色土を少量含む。



第90図 1区1号竪穴状遺構、2号竪穴状遺構

(3) 方形周溝墓

1区1号方形周溝墓(第70・91・92図 PL.44・81)

位置 X=32,926~32,946 Y=-84,454~-84,473

重複 なし。

平面形 東西がやや長い長方形。

長軸方位 N-10°-W

規模 南北17.72m 東西19.03m

検出状況 古墳時代の住居群より南西に25m離れ、約2

m高い台地上で検出した。

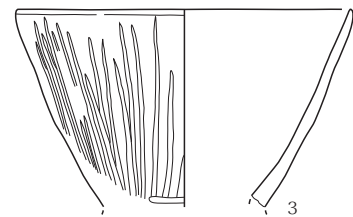
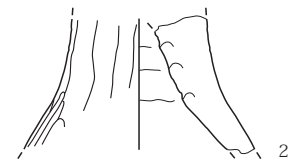
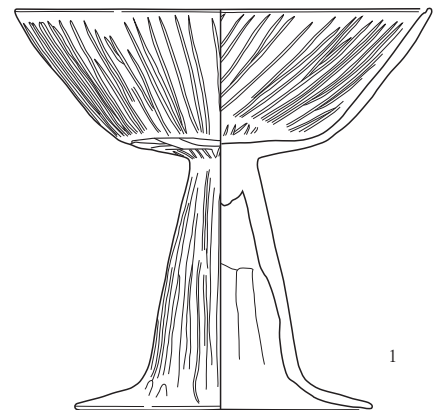
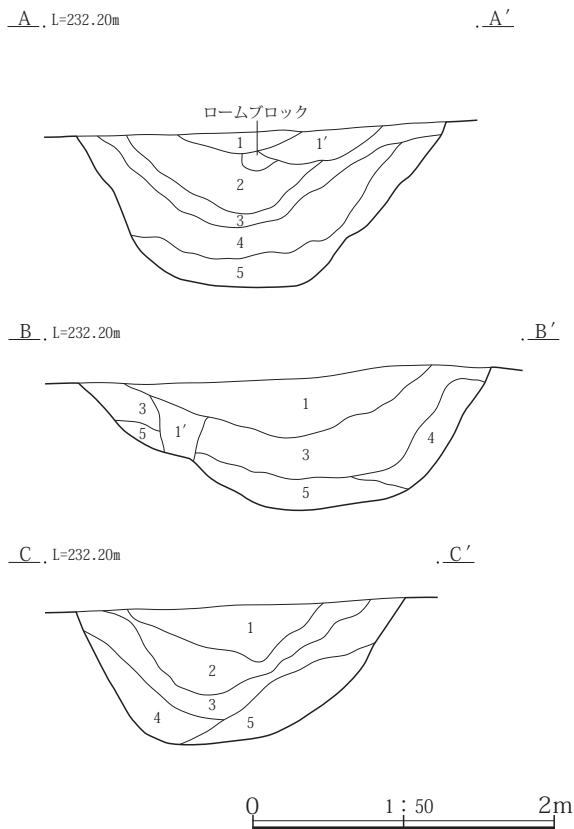
墳丘・主体部 ほぼ削平されていた。

周溝埋土 埋土は黒褐色土主体で、下層にはロームを少量含んでいる。断面形は弧状を呈する。

周溝規模 最大幅2.68m 最大深度 1.16m

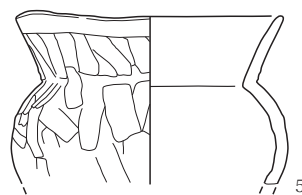
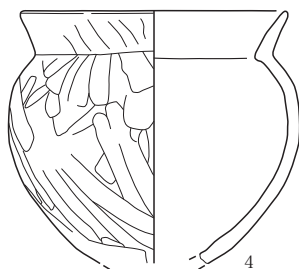
遺物と出土状況 周溝の東部から、ややまとまって出土した。図示した遺物は、すべて土師器である。高杯杯部~裾部1点(第91図1)、高杯脚部1点(第91図2・6)、埴口縁部1点(第91図3)、小型壺口縁~胴部片(第91図4・5)はすべて、周溝の埋土中から出土した。図示した遺物のほかに土師器、杯、甕が出土している。

調査所見 出土遺物から4世紀後半と考えられる。



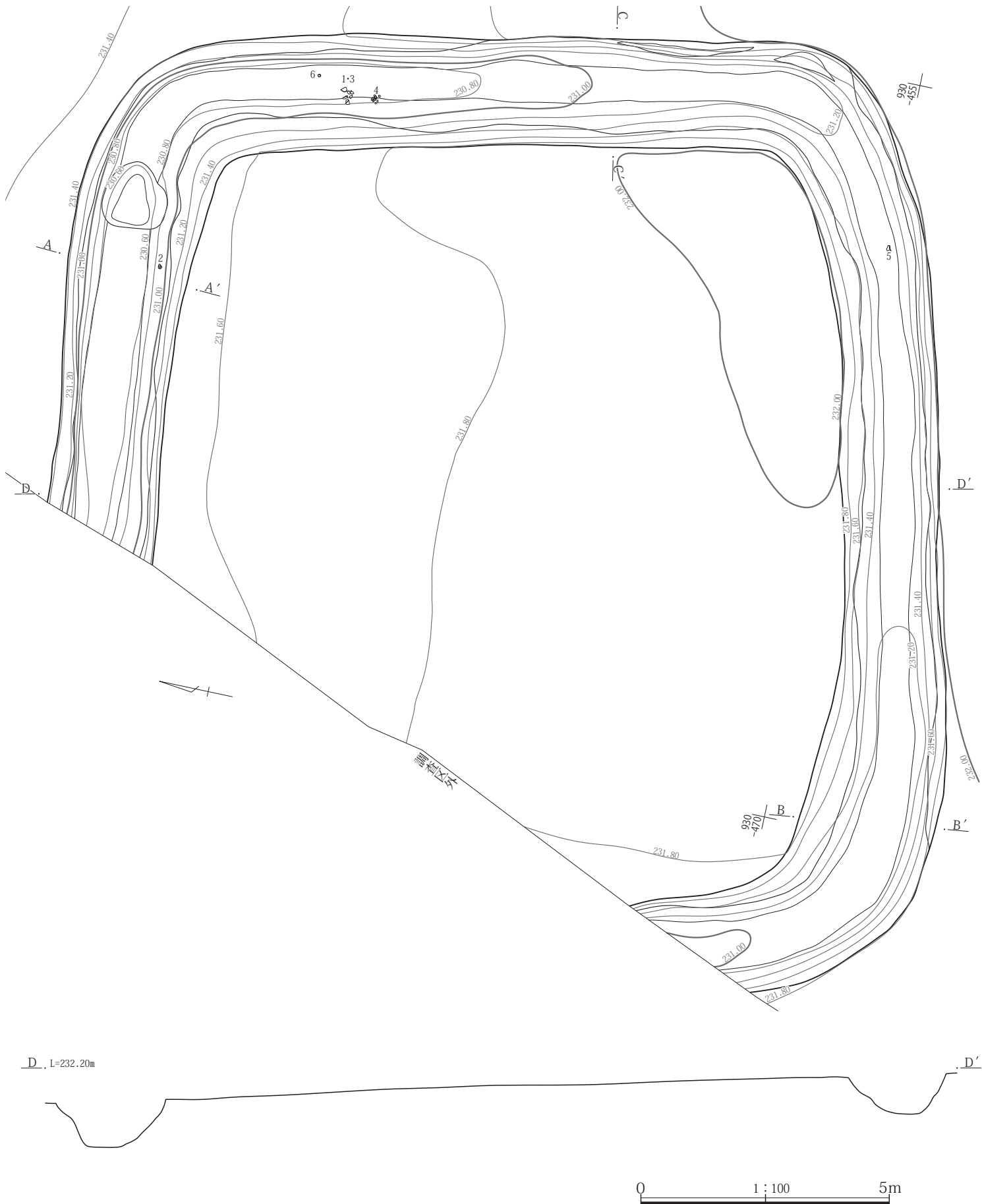
1区1号方形周溝墓

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黒色土を少量含む。褐色土を僅かに含む。
- 1' 黒褐色土(10YR2/3)黒色土を少量含む。褐色土を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)黒色土を僅かに含む。褐色土を少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黒色土・ローム土を僅かに含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4)ローム土を少量含む。(壁の崩れ)
- 5 暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土・ローム土を僅かに含む。土器が出土(流れ込み)



0 1:3 10cm

第91図 1区1号方形周溝墓(1)と出土遺物



第92図 1区1号方形周溝墓(2)

(4) 水田(第73・93~97図 PL.45・46)

3区のAs-B下より、黒色粘質土を検出した。この層位は水田土壌の可能性はあるが、調査ではプラントオパール等の自然科学分析を行っていないため、水田と断定する根拠に乏しい。しかし、畦状の高まりや区画などが確認できるため、本項では調査時の名称のまま水田として報告する。

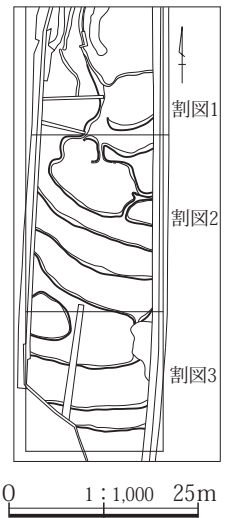
位置 X=33,069~33,119 Y=-84,412~-84,429

重複 なし。

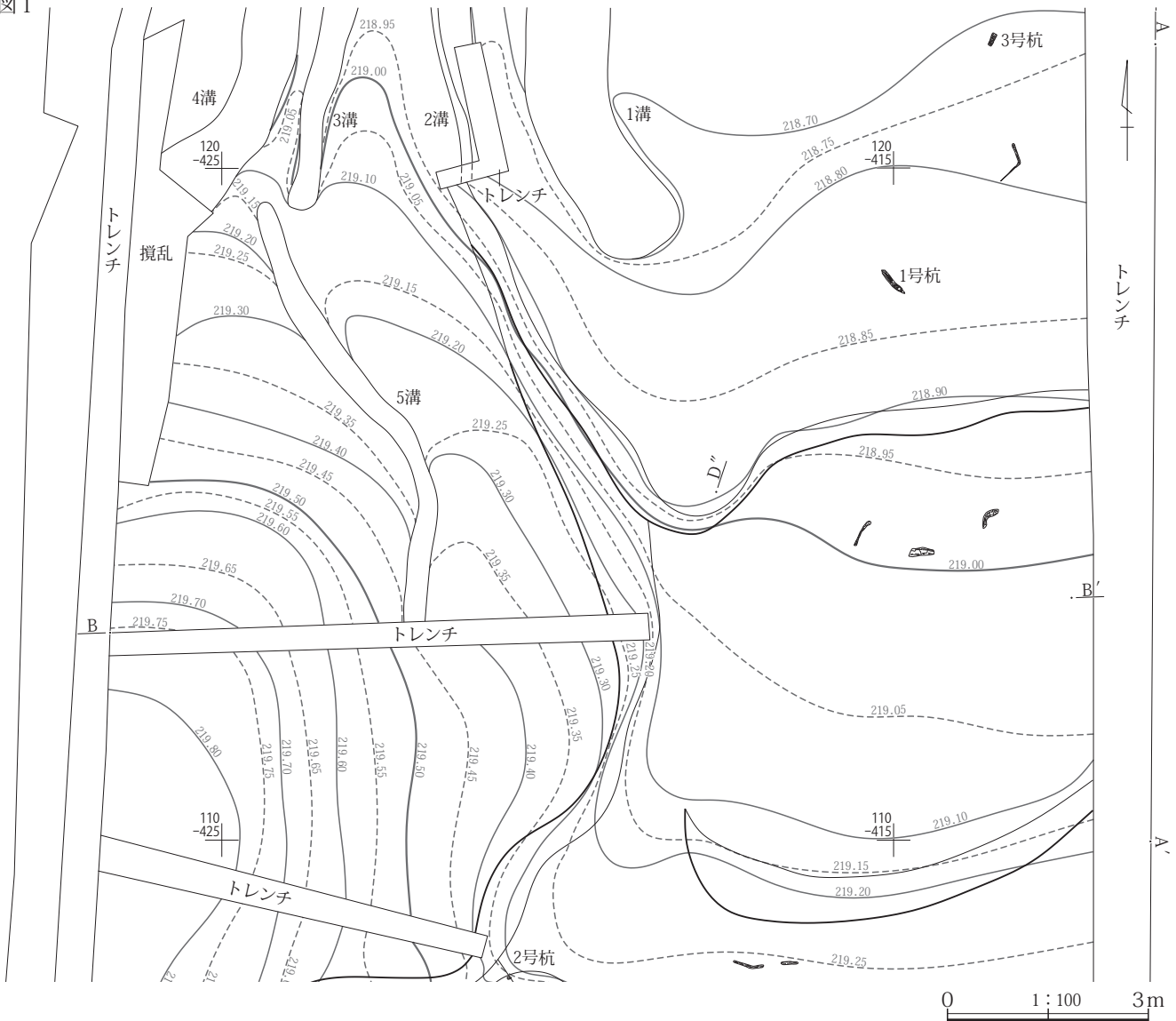
検出・埋没状況 遺構確認面である黒色粘質土層の上位に、As-Bが堆積している。南から北にかけて柵田状に約2.0m低くなる地形で、12区画を確認検出した。

出土遺物 水口から杭が出土している。

調査所見 As-B下より検出されたことから、天仁元(1108)年以前であると考えられる。



割図1



第93図 3区水田(1)

割図2



第94図 3区水田(2)

割図3



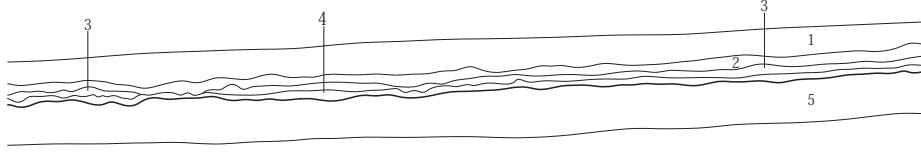
← 水田 → ← 水田 → ← 水田 →

0 1:100 3m

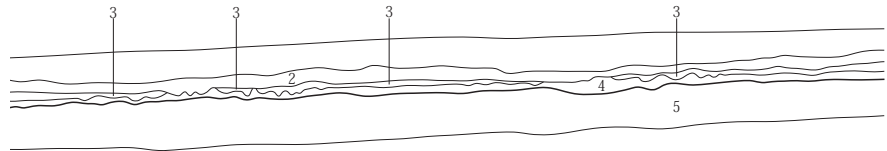
第95図 3区水田(3)

A, L=221.00m

A'



A''



3区水田A-A'

- 1 表土 耕作土。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)を主体とし、As-Bを50%程含むAs-B混土。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。
- 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)直径1～数mmのAs-B軽石粒。砂質。粘性なし。しまりなし。
- 4 黒色土(7.5Y2/1)粘土層。粘性・しまり強い。4層上面がAs-B下水田面。
- 5 極暗褐色土(7.5YR2/3)～暗褐色土(7.5YR3/3)。粘土質。粘性・しまり極めて強い。地山層。

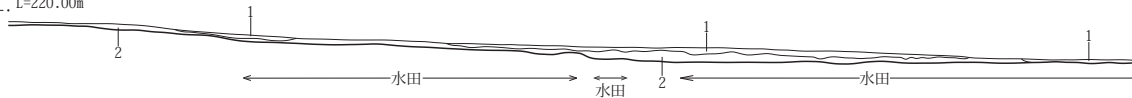
B, L=220.00m

B'



C, L=220.00m

C'



3区水田B-B'・C-C'

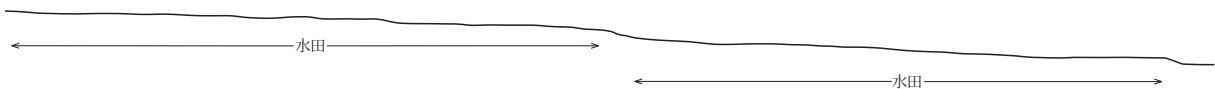
- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)を主体とし、直径1～5mmのAs-B粒を5%程含むAs-B混土。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。
- 2 黒色土(7.5Y2/1)粘土質土。粘性・しまり強い。
- 3 明黄褐色土(10YR7/6) 粘土質土。粘性・しまり強い。地山ローム。

D, L=220.50m

D'



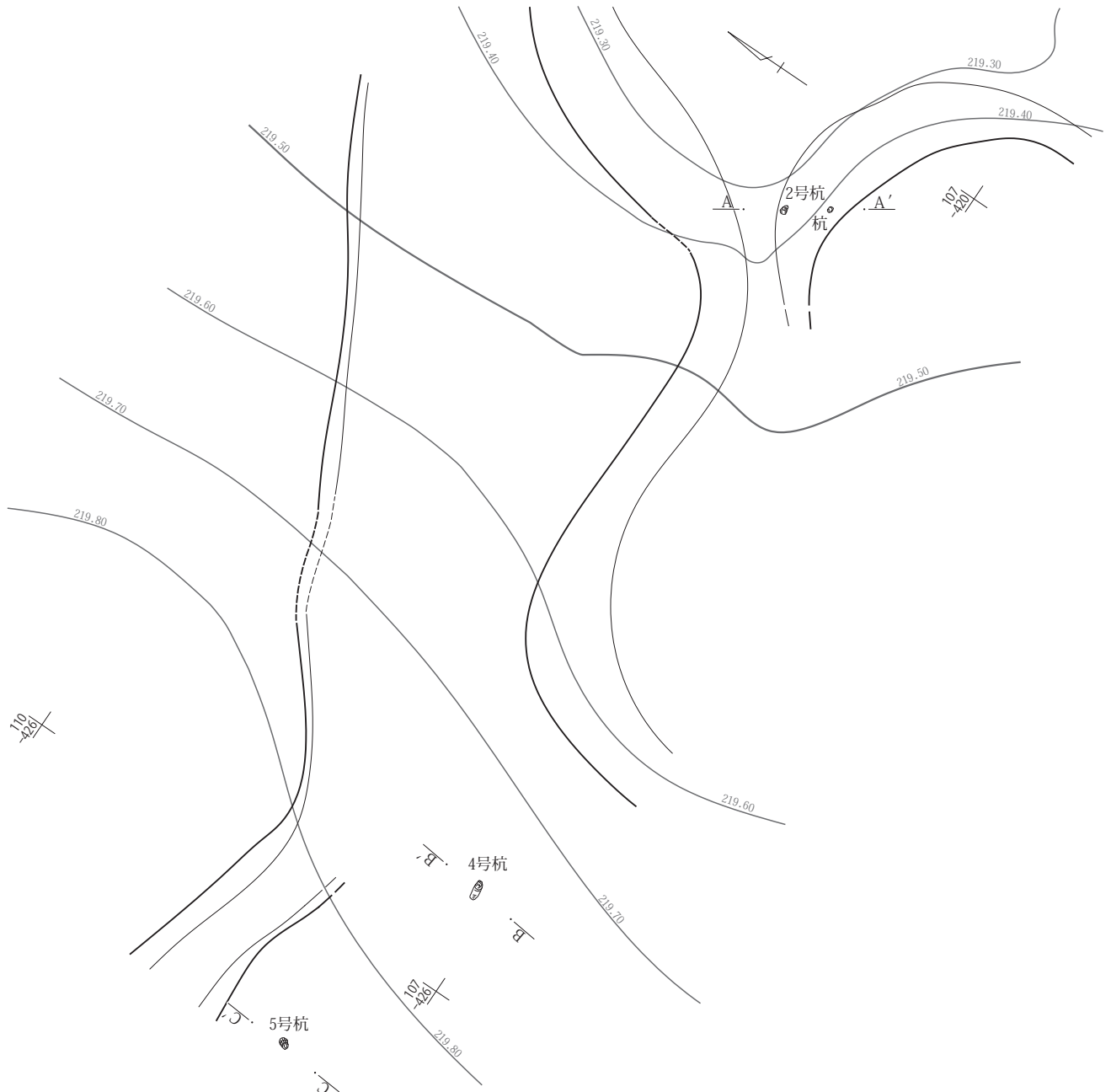
D''



0 1:100 3m

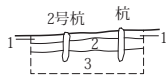
第96図 3区水田(4)

3区 杭



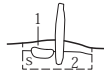
2号杭

A, L=219.90m A'



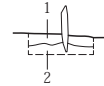
4号杭

B, L=219.90m B'



5号杭

C, L=219.90m C'

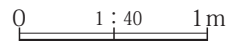


3区 2号杭

- 1 黒褐色土(5YR2/2)直径1~3mmのAs-B粒を10%程含む。砂質。極小粒。粘性・しまり強い。
- 2 黒褐色土(5YR2/2)砂質。極小粒。粘性・しまり強い。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)土地基盤層。粘土~シルト質土。粘性、しまり極めて強い。

3区 4号杭・3区 5号杭

- 1 黒色土(10YR2/1)粘性強い。やや硬くしまっている。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)やや砂質。



第97図 3区 杭

(5)溝

各調査区で確認した溝は、1区が3条、2区が1条、3区が5条である。1区・2区の溝は埋土中にAs-Aを含み、流水の痕跡は確認できない。よって畑の区画の溝であると推測する。3区の溝はAs-B下で確認した。1号～4号溝は南から北へ並行している。同じ調査区からは水田の可能性のある区画が検出されているため、排水に使用されていたと考えられる。また、1号溝とその東の低地部からは、杭や木片が出土している。

1区1号溝(第70・98図 PL.46)

位置 X=32,982・32,983 Y=-84,436～-84,447

重複 3号竪穴建物より後出する。

形状 東西方向のほぼ直線の溝である。底面には凹凸があり、比高は0.34mである。

走向方位 N-88°-E

規模 全長11.26m以上 最大幅1.25m 最深部0.17m

検出・埋没状況 埋土には、As-Aを多量に含んでいて、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを多く含んでいることから復旧坑の可能性もある。時期は天明3(1783)年以降と考えられる。

1区2号溝(第70・99図 PL.46・47)

位置 X=32,949～32,964 Y=-84,447～-84,458

重複 28号土坑より後出する。

形状 1号石列に沿って調査区の南東から北西にかけて湾曲する溝である。底面は平坦、比高は0.20mである。

走向方位 N-37°-W

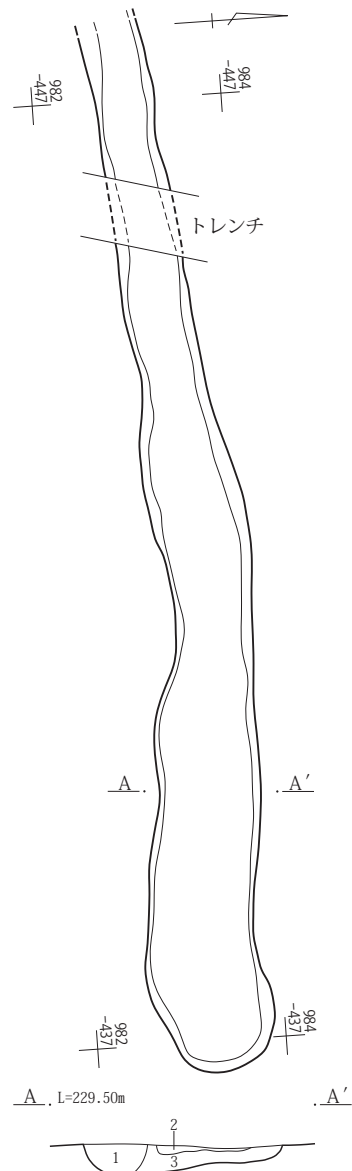
規模 全長19.04m以上 最大幅1.88m 最深部0.56m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む暗褐色土を主体とし、断面形は不整形である。通水の痕跡はない。

出土遺物 なし。

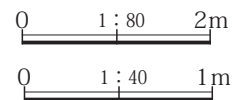
調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は天明3(1783)年以降と考えられる。

1区1号溝



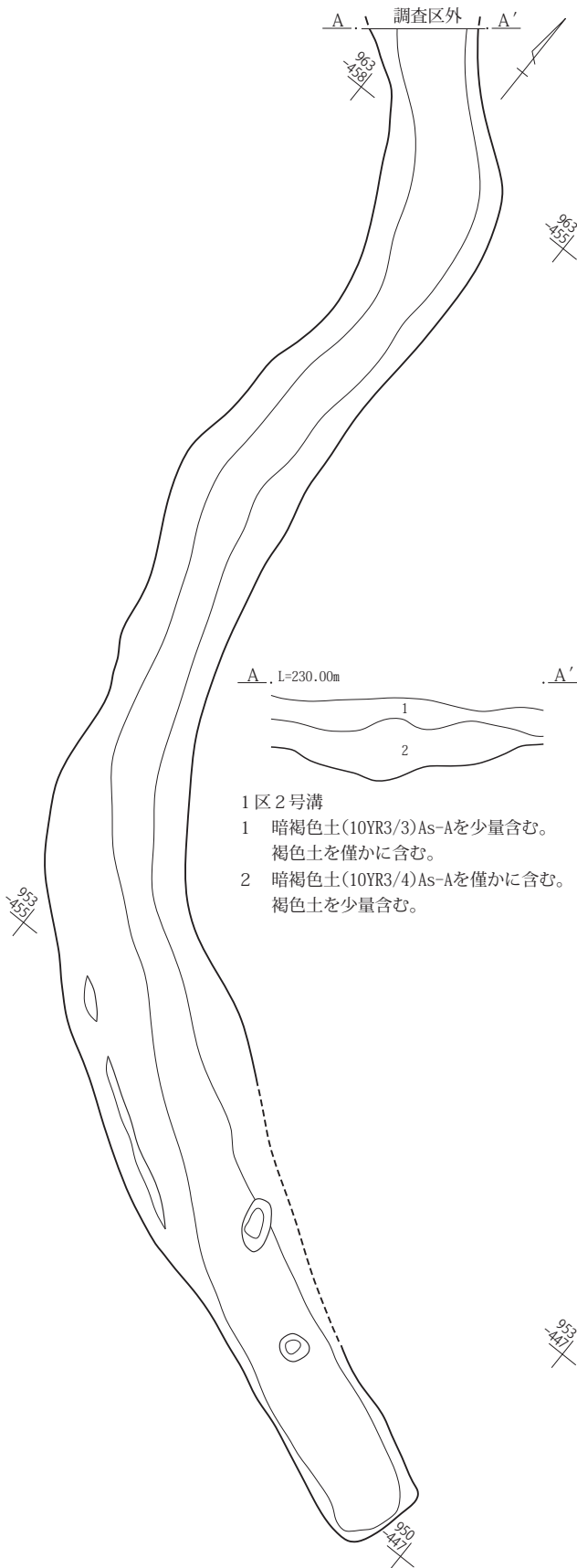
1区1号溝

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)ローム土粒・軽石を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)褐色土を少量含む。



第98図 1区1号溝

1区2号溝



1区3号溝(第70・99図 PL.47)

位置 X=32,981~32,987 Y=-84,424~-84,426

重複 63号土坑より後出する。

形状 南北方向のほぼ直線の溝である。底面には凹凸があり、比高は0.09mである。

走向方位 N-6°-W

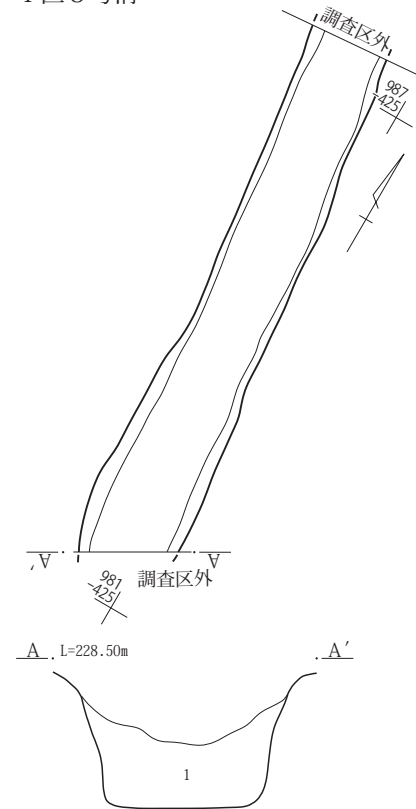
規模 全長5.87m以上 最大幅1.13m 最深部0.59m

検出・埋没状況 埋土の上層はロームを含む黄褐色土で、下層はAs-Aを含む暗褐色土が主体である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

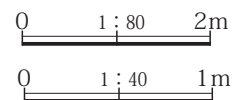
調査所見 遺構の検出状況および埋土から、時期は天明3(1783)年以降と考えられる。

1区3号溝



1区3号溝

1 暗褐色土(10YR3/4)As-Aを僅かに含む。褐色土を少量含む。



第99図 1区2号溝、1区3号溝

2区1号溝(第72・100図 PL.48)

位置 X=33,045~33,051 Y=-84,425~-84,432

重複 なし。

形状 北西から南東方向のほぼ直線の溝である。底面は凹凸が少なく、比高は0.25mである。

走向方位 N-59°-W

規模 全長8.53m以上 最大幅0.76m 最深部0.26m

検出・埋没状況 2区北、他の遺構より0.8m標高が高い面で確認した。埋土は、As-Aを含む暗褐色土を主体とし、断面形は弧状である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にはAs-Aを多く含んでいることから、復旧坑の可能性もある。天明3(1783)年以降と考えられる。

3区1号溝(第73・101~103図 PL.48・49・81)

位置 X=33,118~33,131 Y=-84,417~-84,420

重複 なし。

形状 南から北方向へ掘削された溝である。底面には礫が多く見られる。比高は0.55mである。

走向方位 N-7°-E

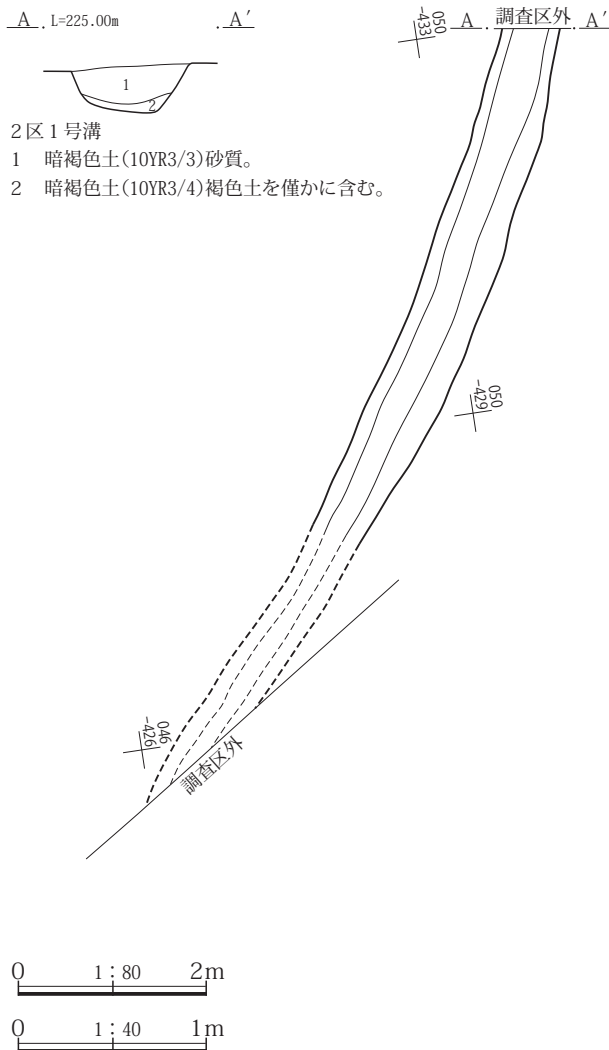
規模 全長13.20m以上 最大幅1.95m 最深部0.51m

検出・埋没状況 埋土は、As-BとAs-Bを含む黒色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 遺物は溝幅の一番広い部分に集中している。須恵器杯(第103図1)、土師器壺(第103図2)および板状の木材(第103図3・4)の4点が出土した。

調査所見 As-Bが堆積していることから、天仁元(1108)年以降と考えられる。

2区1号溝



3区2号溝(第73・101図 PL.48)

位置 X=33,119~33,131 Y=-84,419~-84,421

重複 なし。

形状 1号溝と3号溝の間に位置し、南北方向にほぼ直線の溝である。底面に礫は確認できない。比高は0.56mである。

走向方位 N-13°-E

規模 全長11.54m以上 最大幅0.66m 最深部0.24m

検出・埋没状況 埋土は、As-BとAs-Bを含む黒色土を主体とし、断面形は逆三角形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 As-Bが堆積していることから、天仁元(1108)年以降と考えられる。

3区3号溝(第73・101・103図 PL.48・49)

位置 X=33,119~33,131 Y=-84,421~-84,424

重複 なし。

形状 2号溝と4号溝の間に位置し、南北方向にほぼ直線の溝である。底面に礫を確認した。比高は0.16mである。

走向方位 N-21°-E

規模 全長11.85m以上 最大幅0.76m 最深部0.24m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む砂質土を主体とし、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

第100図 2区1号溝

3区1号溝～5号溝



第101図 3区1号溝(1)～3区5号溝

調査所見 埋土にAs-Bを多く含んでいることから、天仁元(1108)年以降と考えられる。

3区4号溝(第73・101・103図 PL.48・49)

位置 X=33,119~33,130 Y=-84,422~-84,425

重複 なし。

形状 3号溝の西に位置し、南北方向にほぼ直線の溝である。底面に礫を確認した。比高は0.56mである。

走向方位 N-7°-E

規模 全長11.74m以上 最大幅1.12m 最深部0.28m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを主体とし、断面形は不整形である。

出土遺物 図示した遺物は、常滑陶器甕の体部片(第103図5)1点である。

調査所見 As-Bが堆積していることから、天仁元(1108)年以降と考えられる。

3区5号溝(第73・101・103図 PL.48)

位置 X=33,113~33,119 Y=-84,421~-84,424

重複 なし。

形状 3号溝の北に位置し、南から北西に湾曲する溝である。底面に礫を確認した。比高は0.56mである。

走向方位 N-19°-W

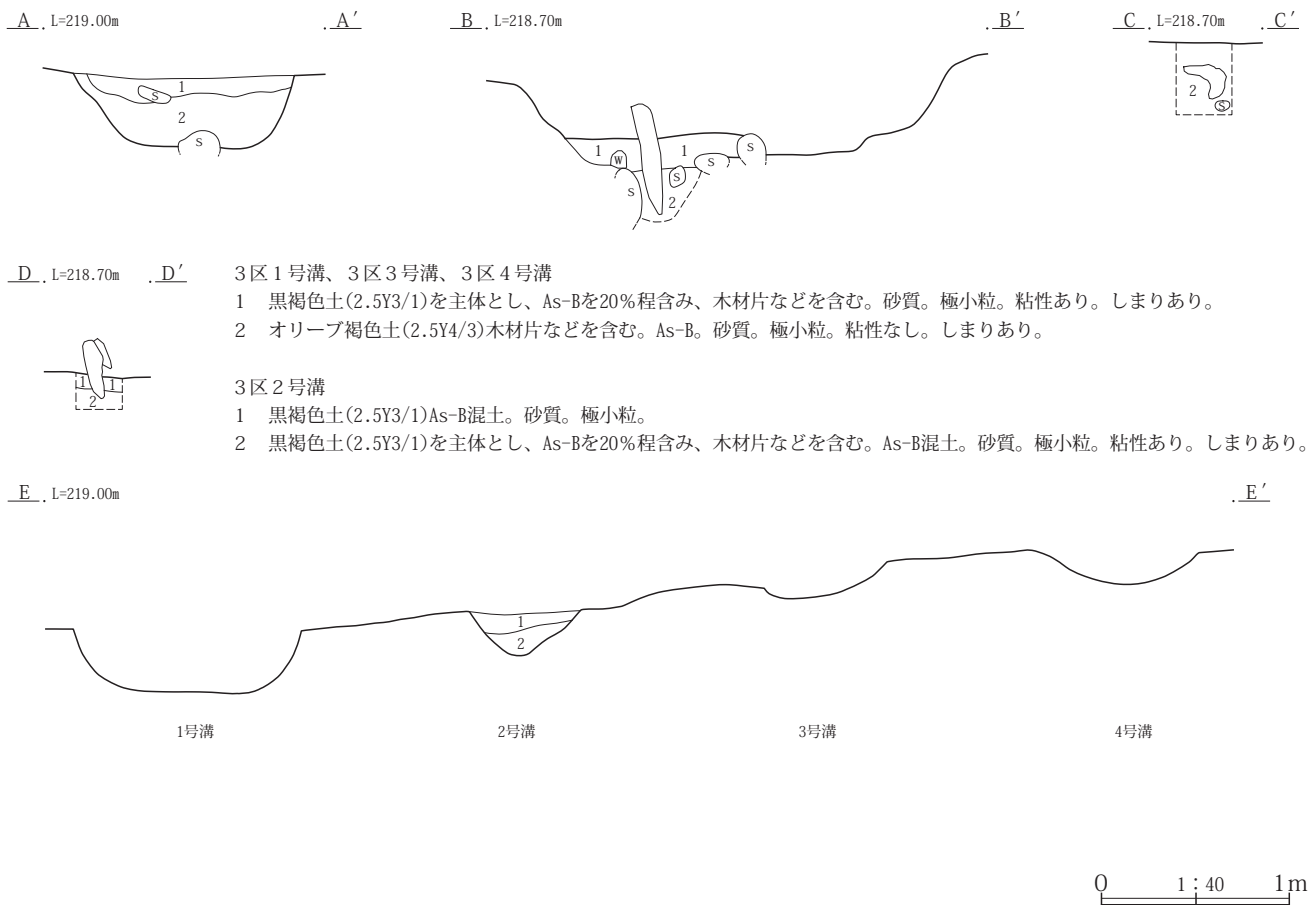
規模 全長7.00m以上 最大幅0.43m 最深部0.16m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む黒褐色の砂質土を主体とし、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 3号溝と近接し、埋土も似ていることから同一の溝の可能性もある。埋土から、天仁元(1108)年以降と考えられる。

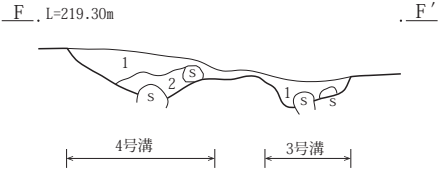
3区1号溝



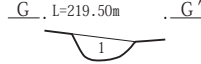
第102図 3区1号溝(2)

第4章 中遺跡の遺構と遺物

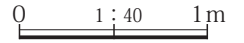
3区3号溝・4号溝



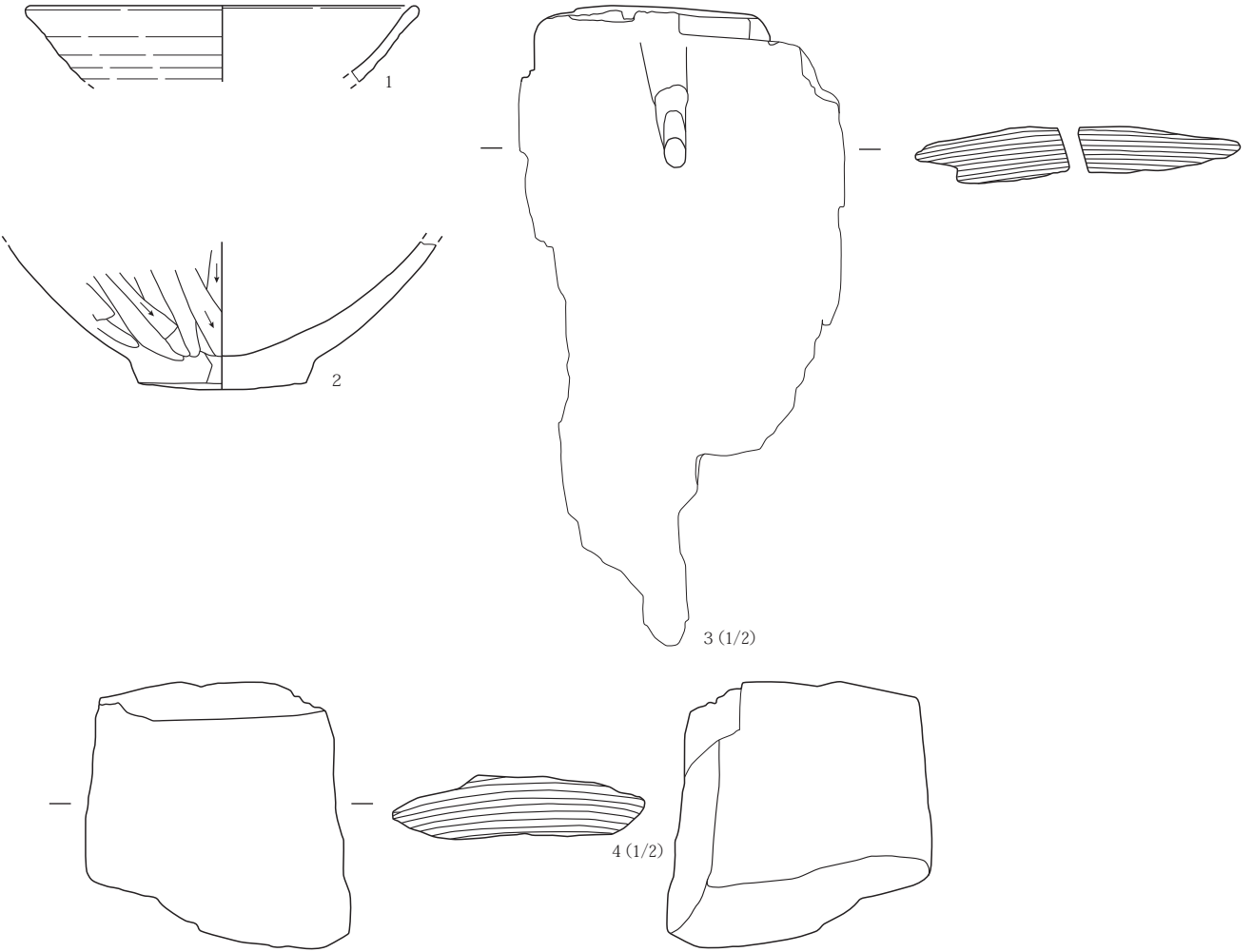
3区5号溝



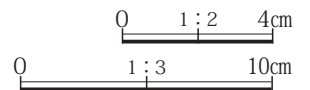
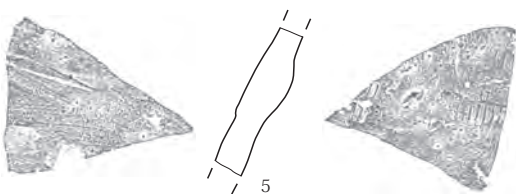
3区5号溝
1 As-Bを含む黒褐色砂質土。



3区1号溝出土遺物



3区4号溝出土遺物



第103図 3区1号溝出土遺物、3区3号溝～5号溝と出土遺物

(6)石列・焼土

1区1号石列(第70・104~106図 PL.47・82)

位置 X=32,944~32,963 Y=-84,445~-84,459

重複 重複はしていないが2号溝とほぼ並行している。

形状 2号溝北の段差に沿って石が並べられている。調査区東端から北西方向にほぼ直線で、X=32,953、Y=-84,457付近で北方向に並べられている。東側は礫を平積みした部分が確認できるが、西側はほとんど崩れ落ちている。

走向方位 N-53°-WからN-12°-W

規模 全長23.15m以上 比高1.14m 傾斜角度58°

検出・埋没状況 現地形の段差に沿って検出された。礫はAs-Aで覆われている。

出土遺物 瀬戸・美濃陶磁器および在地系土器など、12点を図示した。礫下から瀬戸・美濃陶器徳利体部(第106図1)と瀬戸・美濃陶器筒形香炉(第106図2)、埋土中から製作地不明磁器釉下彩碗口縁部(第106図3)、瀬戸・美濃陶器皿(第106図4)、在地系土器焙烙(第106図5)、肥前陶器碗(第106図6)、瀬戸・美濃陶器碗(第106図7)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(第106図8)、瀬戸・美濃陶器尾呂碗(第106図9)、肥前陶器呉器手碗(第106図10)、瀬戸・美濃陶器碗(第106図11)、煙管雁首(第106図12)、が出土した。

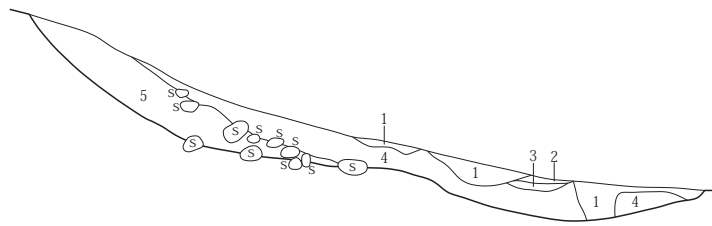
調査所見 自然地形の斜面が崩れないように土留めとして礫を配置した遺構であろう。遺物は、中世にさかのぼるものから近現代のものまで含まれている。石列の下から江戸時代の磁器が出土し、礫はAs-Aに覆われていることから、天明3(1783)年以前と考えられる。



第104図 1区1号石列(1)

A, L=231.00m

A'

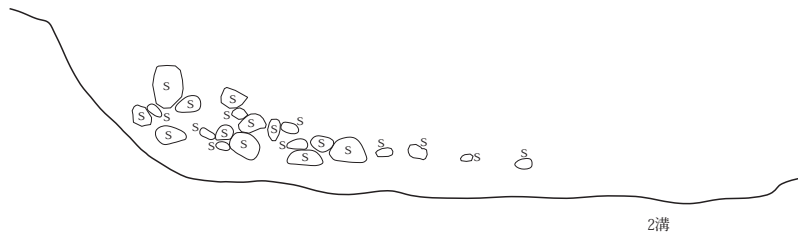


1区1号石列

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Aを少量含む。褐色土を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を僅かに含む。硬くしまっている。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を僅かに含む。
- 4 As-A
- 5 褐色土(10YR4/6)ローム土粒を少量含む。

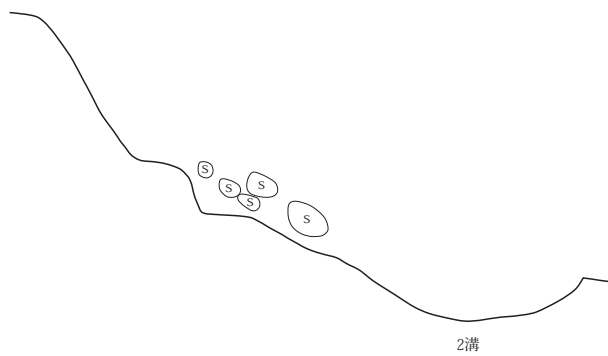
B, L=231.20m

B'



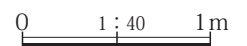
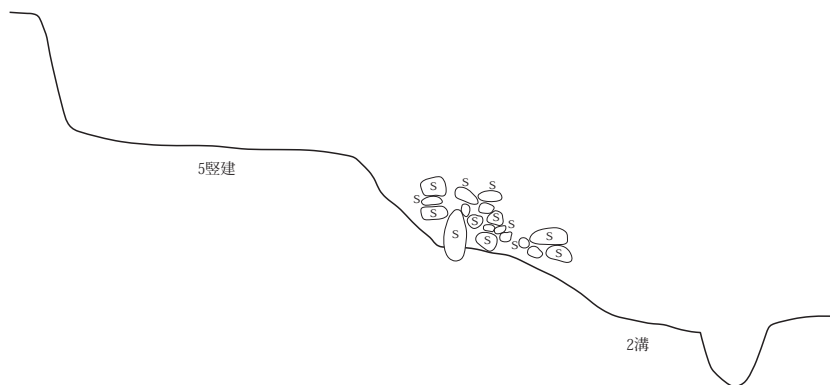
C, L=231.20m

C'



D, L=231.50m

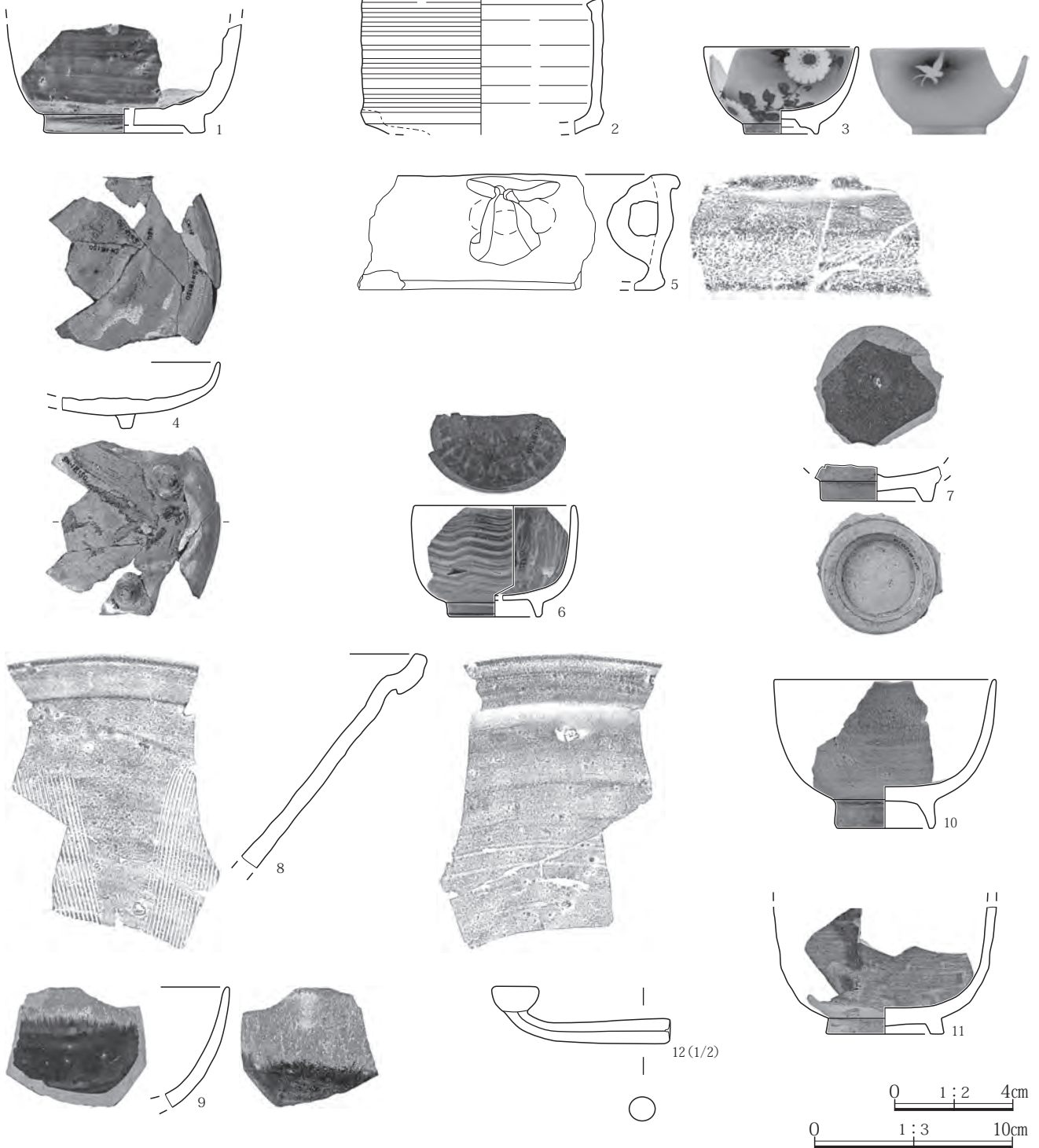
D'



第105図 1区1号石列(2)



1区1号石列出土遺物



第106図 1区1号石列(3)と出土遺物

3区1号石列

083
-416



083
-413

3区1号石列(第73・107・108図 PL.49・82)

位置 X=33,074~33,083 Y=-84,410~-84,415

重複 なし。

形状 南東から北西にかけてほぼ直線に石が敷き詰められている。東壁から0.2m付近は、礫が長方形に並べられていた。

走向方位 N-32°-W

規模 全長10.46m以上 比高1.30m 石積高0.40m

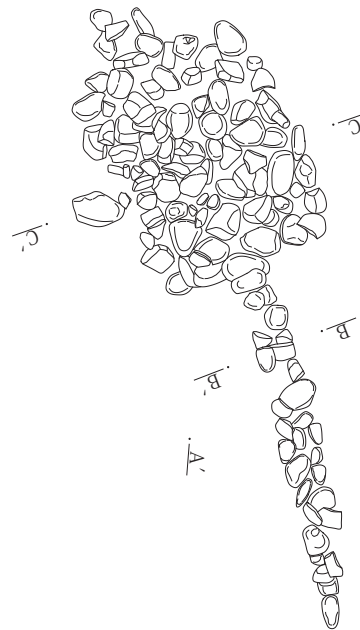
検出・埋没状況 As-Bおよびその下の暗褐色粘質土を掘り込んでいる。

出土遺物 在地系土器片口鉢(第108図1)が出土した。その他、須恵器小片が出土しているが、図示には至らなかった。

調査所見 礫の両端の比高はほとんどなく、礫の平らな面を上面にして敷き詰めている。出土遺物は中世以前であるが、埋土は新しいため近世から近現代の可能性が高い。

078
-413

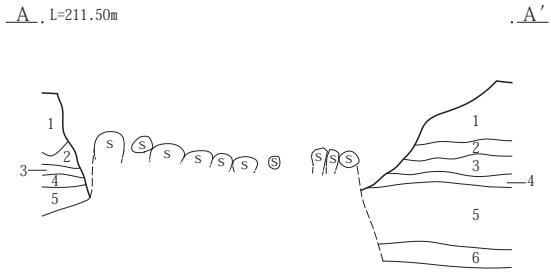
078
-411



074
-411

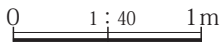
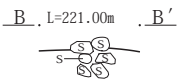
0 1:40 1m

第107図 3区1号石列(1)



3区1号石列

- 1 表土 耕作土。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)を主体とし、As-Bを50%程含むAs-B混土。砂質。極小粒。粘性なし。しまり強い。
- 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)直径1～5mmのAs-B。砂質。粘性なし。しまりなし。
- 4 黒色土(7.5Y2/1)粘土質。粘性、しまり極めて強い。As-B降下時の地表面。
- 5 極暗褐色土(7.5YR2/3)～暗褐色土(7.5YR3/3)粘土質。粘性、しまり極めて強い。地山。
- 6 オリーブ灰色土(10Y4/2)を主体とした礫混土。数cm～十cmの砂礫を50%含む。シルト質土。グライ土壤。粘性・しまり極めて強い。



1区1号焼土(第70・109図 PL.50)

位置 X=32,970・32,971 Y=-84,447・-84,448

重複 なし。

平面形 楕円形

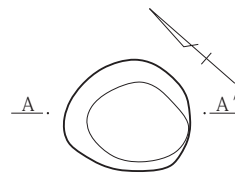
長軸方位 N-45°-W

規模 長軸0.67m 短軸0.58m 深さ0.20m

検出・埋没状況 埋土は、明赤褐色土を主体とし、断面形は弧状を呈する。

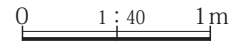
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況から近世以降と考えられるが、詳細な時期は不明である。



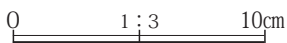
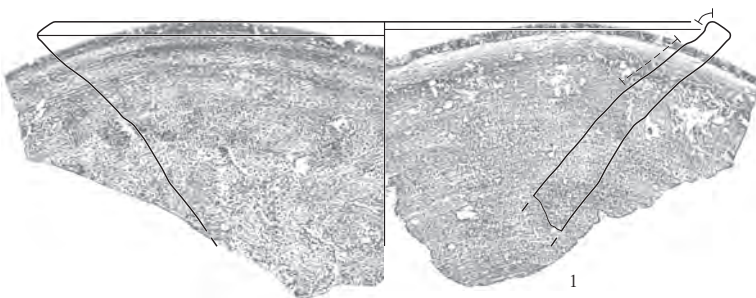
1区1号焼土

1 明赤褐色土を主体とする。



第109図 1区1号焼土

3区1号石列出土遺物



第108図 3区1号石列(2)と出土遺物

(7)土坑

1区で66基、2区で24基、4区で4基検出した。

1区の土坑は、方形周溝墓より北の調査区に集中して、66基のうち62基を確認した。これらの土坑を、平面の形状が長方形の土坑とそれ以外の土坑の2種類に分類した。さらに長方形の土坑は等高線に対して平行な土坑(A類)と垂直な土坑(B類)の2つに分けた。

2区の土坑は、調査区北と南に分布しており、調査区中央付近では確認されていない。調査区南の土坑は、形状や掘削方向から1区の土坑の同一の土坑群と考えられるものもある。調査区北の土坑群は、形状や掘削方位は様々まであり、規則性は見られない。

4区ではAs-B下より4基の土坑を調査した。

①1区の土坑

1区1号土坑(第70・110図 PL.51)

位置 X=32,972・32,973 Y=-84,444・-84,445

重複 2号竪穴建物・18号ピットに後出する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-66°-E

規模 長軸1.08m 短軸1.06m 深さ0.32m

検出・埋没状況 埋土は、黒色土、軽石、ロームを含む黒褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土中の軽石がAs-Aであれば天明3(1783)年以降と考えられるが、詳細な時期は不明である。

1区2号土坑(第70・110図 PL.51)

位置 X=32,984・32,985 Y=-84,442・-84,443

重複 54号土坑に後出する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-28°-W

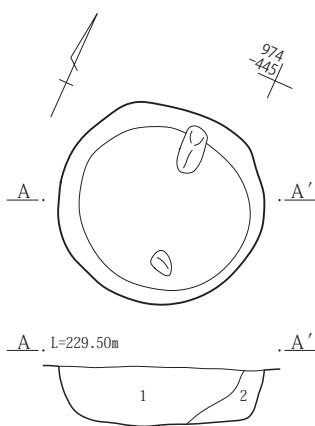
規模 長軸0.94m 短軸0.71m 深さ0.29m

検出・埋没状況 埋土は、褐色土を含む黒褐色土主体で、断面形は長方形を呈する。

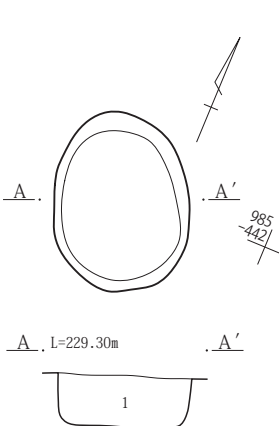
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから、近世以前であると考えられる。

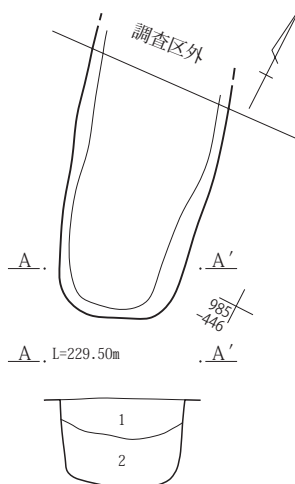
1区1号土坑



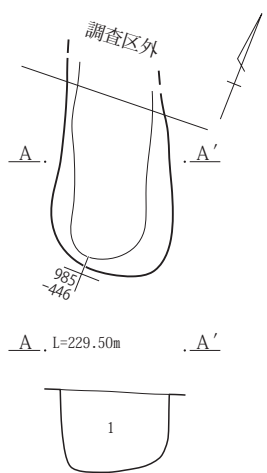
1区2号土坑



1区3号土坑



1区4号土坑



1区1号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)軽石・ローム土を僅かに含む。黒色土を含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)主体。

1区2号土坑

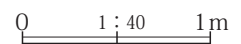
- 1 黒褐色土(10YR3/2)多く、茶褐色土を少量含む。

1区3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)砂質。黒色土を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)黒褐色土を少量含む。

1区4号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)やや砂質。



第110図 1区1号土坑～4号土坑

3号土坑(第70・110図 PL.51)

位置 X=32,984・32,985 Y=-84,446・-84,447

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-15°-W

規模 長軸1.28m以上 短軸0.77m 深さ0.51m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を含む暗褐色土が主体で、上層はやや砂質である。断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

4号土坑(第70・110図 PL.51)

位置 X=32,985 Y=84,445・-84,446

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-18°-W

規模 長軸0.92m以上 短軸0.61m 深さ0.51m

検出・埋没状況 埋土は、やや砂質の黒褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。深さや長軸方向は3号土坑とほぼ一致する。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

5号土坑(第70・111図 PL.52)

位置 X=32,985・32,986 Y=-84,443・-84,444

重複 なし。

平面形 不明。

長軸方位 N-6°-W

規模 長軸0.45m以上 短軸0.68m 深さ0.39m

検出・埋没状況 埋土は、褐色土を含む黒褐色土が主体で、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

6号土坑(第70・111図 PL.52)

位置 X=32,980・32,981 Y=-84,442・-84,443

重複 3号竪穴建物に後出する。

平面形 楕円形。

長軸方位 N-27°-W

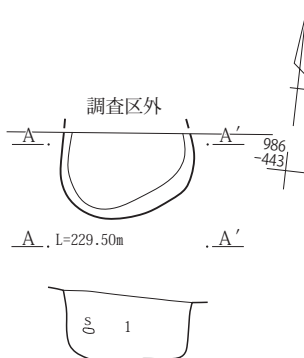
規模 長軸1.35m 短軸1.15m 深さ0.20m

検出・埋没状況 埋土は、軽石・暗褐色土を少量含み、ロームを多量に含む黄褐色土が主体である。断面形は逆三角形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土中の軽石がAs-Aであれば天明3(1783)年以降であり、3号竪穴建物よりも新しいが、詳細な時期は不明である。

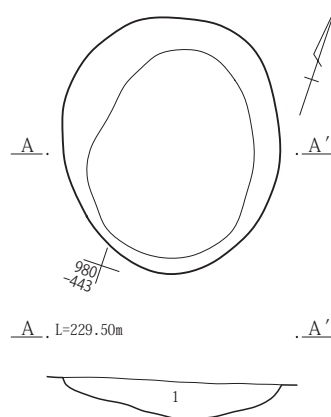
1区5号土坑



1区5号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)多く、茶褐色土を僅かに含む。

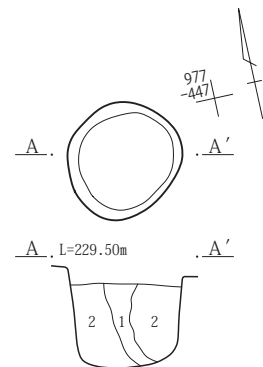
1区6号土坑



1区6号土坑

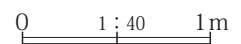
1 黄褐色土 軽石・暗褐色土を少量を含む。ローム土を多く含む。

1区7号土坑



1区7号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)黒色土を少量を含む。
2 暗褐色土を多く、褐色土・軽石を少量含む。



第111図 1区5号土坑～7号土坑

7号土坑(第70・111図 PL.52)

位置 X=32,976・32,977 Y=-84,447

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-13°-E

規模 長軸0.61m 短軸0.60m 深さ0.56m

検出・埋没状況 埋土は、暗褐色土が主体で褐色土・軽石を少量含んでいる。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、近世以前であると考えられる。

8号土坑(第70・112図 PL.52)

位置 X=32,984・32,985 Y=-84,447・-84,448

重複 1号竪穴建物に後出する。

平面形 楕円形か

長軸方位 N-18°-W

規模 長軸1.03m 短軸(0.94)m 深さ1.06m

検出・埋没状況 埋土は、暗褐色土が主体で軽石を多く含んでいる。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から、近世以降であると考えられる。

9号土坑(第70・112図 PL.52・53)

位置 X=32,984・32,985 Y=-84,440・-84,441

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-32°-W

規模 長軸0.99m 短軸0.49m 深さ0.31m

検出・埋没状況 埋土は、軽石を含む暗褐色土が主体で、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。軽石の詳細は不明であるが、付近ではAs-Aを含む遺構が確認されていることから、近世であると考えられる。

10号土坑(第70・112図 PL.53)

位置 X=32,984~32,986 Y=-84,440・-84,441

重複 39号土坑に後出する。

平面形 隅丸長方形

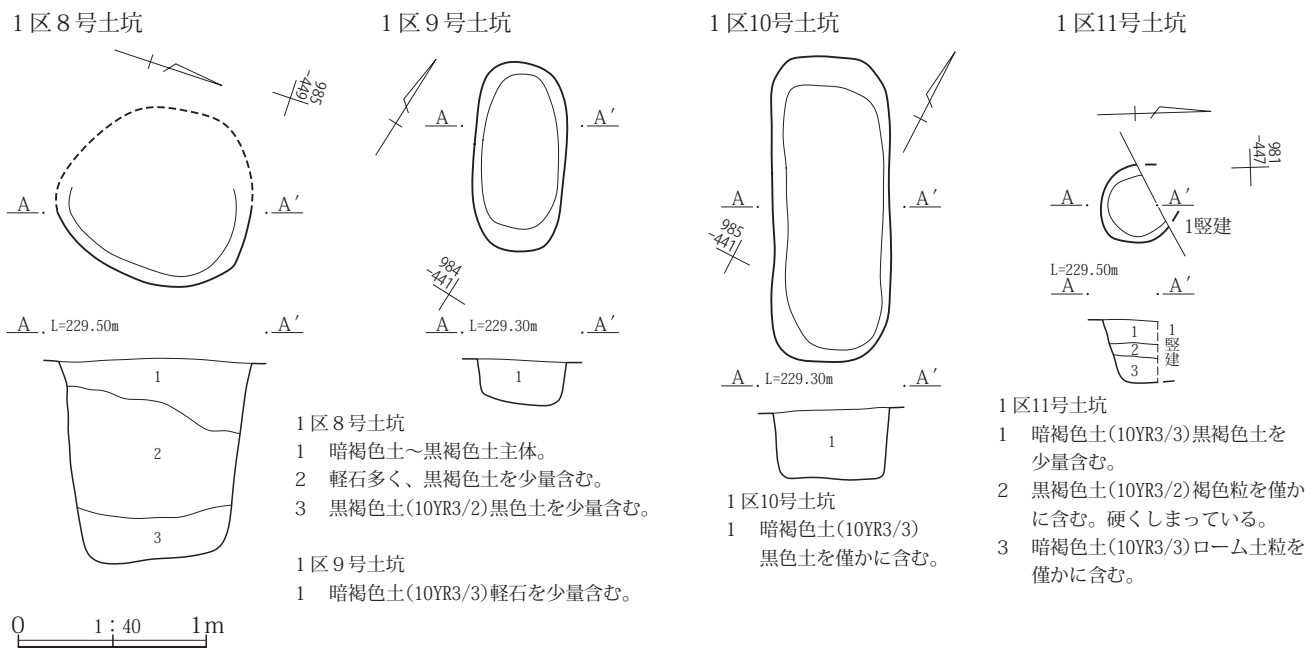
長軸方位 N-29°-W

規模 長軸1.60m 短軸0.62m 深さ0.43m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を僅かに含む暗褐色土が主体で、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。



第112図 1区8号土坑~11号土坑

11号土坑(第70・112図 PL.53)

位置 X=32,980 Y=-84,446・-84,447

重複 1号竪穴建物に先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-29°-W

規模 長軸0.30m以上 短軸0.41m 深さ0.34m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を僅かに含む暗褐色土が主体で、断面形は台形と考えられる。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

12号土坑(欠番)

13号土坑(第70・113図 PL.53)

位置 X=32,980・32,981 Y=-84,436

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-27°-W

規模 長軸0.56m 短軸0.53m 深さ0.28m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む暗褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

14号土坑(第70・113図 PL.53・54)

位置 X=32,978・32,979 Y=-84,436・-84,437

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-25°-E

規模 長軸1.03m 短軸0.93m 深さ0.36m

検出・埋没状況 埋土は、灰白色粘土を主体とし、上層に暗褐色土を含む。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

15号土坑(第70・114図 PL.54)

位置 X=32,977・32,978 Y=-84,437

重複 なし。

平面形 隅丸方形

長軸方位 N-61°-W

規模 長軸0.69m 短軸0.67m 深さ0.69m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む暗褐色土主体で、断面形は逆三角形を呈する。

出土遺物 須恵器杯蓋(第114図1)が出土している。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

16号土坑(第70・114図 PL.54)

位置 X=32,973~32,975 Y=-84,439・-84,440

重複 22号ピットと重複するが、新旧は不明である。

平面形 楕円形

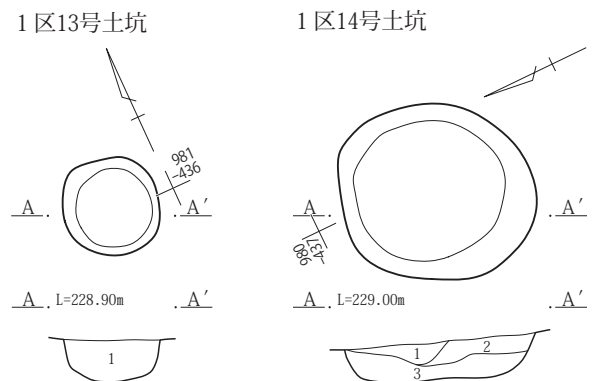
長軸方位 N-28°-E

規模 長軸1.63m 短軸1.34m 深さ0.27m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。



1区13号土坑

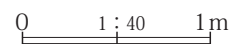
1 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土・ローム土粒・As-YP粒を僅かに含む。

1区14号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土を僅かに含む。

2 灰白色粘土を少量含む。

3 灰白色粘土を多量に含む。



第113図 1区13号土坑、14号土坑

17号土坑(第70・114図 PL.54)

位置 X=32,957~32,958 Y=-84,457

重複 1号石列に先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-31°-W

規模 長軸0.73m 短軸0.54m 深さ0.14m

検出・埋没状況 埋土は、黄褐色土粒を含む暗褐色土が主体でやや砂質である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 1号石列の下面から検出されていることから、近世以前であると考えられる。

18号土坑(欠番)

19号土坑(第70・114図 PL.54・55)

位置 X=32,960 Y=-84,458・-84,459

重複 1号石列に先行する。

平面形 不整形

長軸方位 N-64°-E

規模 長軸0.85m 短軸0.71m 深さ0.23m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土・褐色粒を含む暗褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 1号石列の下面から検出されていることから、近世以前であると考えられる。

20号土坑(第70・114図 PL.55)

位置 X=32,937・32,938 Y=-84,468・-84,469

重複 なし。

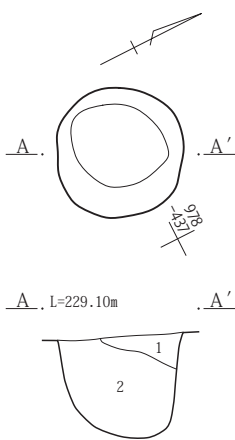
平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-19°-W

規模 長軸0.78m 短軸0.69m 深さ0.55m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土・As-YPを含む褐色土が主体で、断面形は不整形である。

1区15号土坑



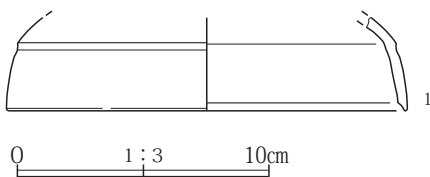
1区15号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム土粒を僅かに含む。軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。

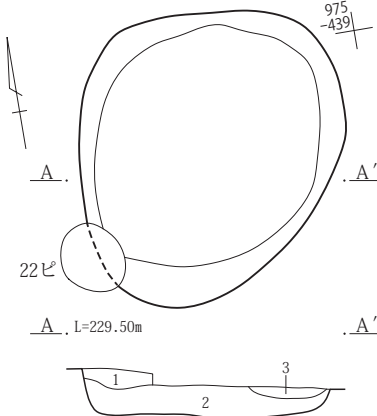
1区16号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を少量含む。(ラミナ状)
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)褐色土を僅かに含む。

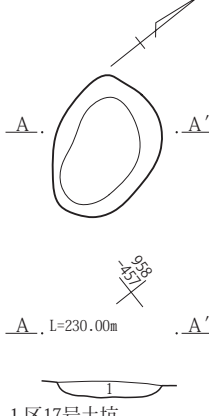
1区15号土坑出土遺物



1区16号土坑



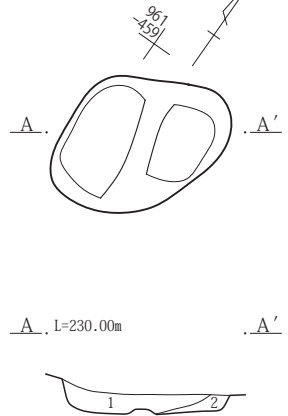
1区17号土坑



1区17号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄色土粒を僅かに含む。やや砂質。

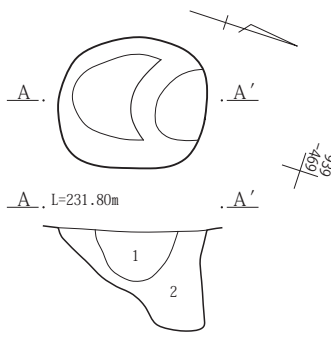
1区19号土坑



1区19号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土・褐色粒を僅かに含む。

1区20号土坑



1区20号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色粒を僅かに含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)黒色土を少量含む。As-YPを僅かに含む。

第114図 1区15号土坑～17号土坑と出土遺物、19号土坑、20号土坑

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土から1号方形周溝墓に伴う土坑ではない。近世以前であると考えられる。

21号土坑(第70・115図 PL.55・82)

位置 X=32,940・32,941 Y=-84,461・-84,462

重複 25号土坑と重複するが新旧は不明である。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-74°-E

規模 長軸0.83m以上 短軸0.50m 深さ0.29m

検出・埋没状況 埋土は、記録が欠落しているため不明、断面形は台形を呈する。

出土遺物 ガラス製菓子容器(第115図1)が出土している。

調査所見 A類の土坑ではあるが、遺物から近現代と考えられる。

25号土坑(第70・115図 PL.56)

位置 X=32,940・32,941 Y=-84,460~-84,461

重複 21号土坑と重複するが、新旧は不明である。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-68°-E

規模 長軸1.60m以上 短軸0.63m 深さ0.63m

検出・埋没状況 埋土は、褐色土・As-YPを含む暗褐色土主体で、断面形は台形である。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。21号土坑と同時期に存在していたならば、近現代と考えられる。

22号土坑(第70・115図 PL.55)

位置 X=32,940・32,941 Y=-84,462~-84,464

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-73°-E

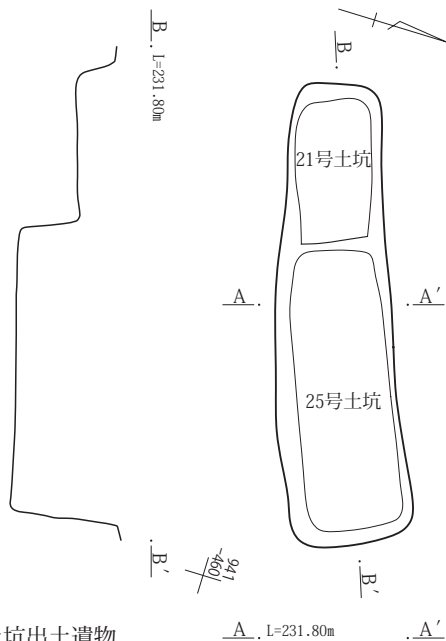
規模 長軸1.17m 短軸0.54m 深さ0.28m

検出・埋没状況 埋土は、暗褐色の砂質土で、断面形は台形である。

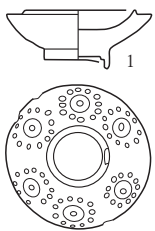
出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含んでいないことから、近世以前であると考えられる。

1区21号土坑・25号土坑



1区21号土坑出土遺物

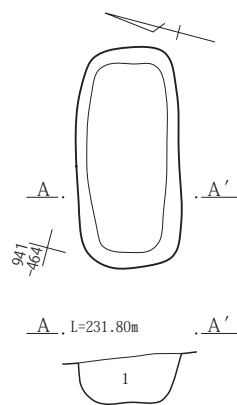


1区25号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黒色土粒を少量含む。As-YP・ローム土を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黒色粒を僅かに含む。

0 1:2 4cm

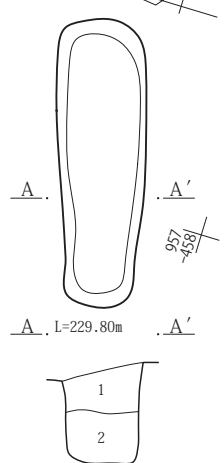
1区22号土坑



1区22号土坑、1区23号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)砂質。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)褐色土粒を少量含む。

1区23号土坑



0 1:40 1m

第115図 1区21・25号土坑と出土遺物、22号土坑、23号土坑

23号土坑(第70・115図 PL.55)

位置 X=32,957・32,958 Y=-84,457・-84,458

重複 30号土坑に後出する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-73°-E

規模 長軸1.52m 短軸0.46m 深さ0.57m

検出・埋没状況 埋土は、暗褐色の砂質土主体で、断面形は台形である。

出土遺物 図示はしていないが、埋土中に近現代の陶磁器が混入している。

調査所見 B類の土坑である。出土遺物から近現代であると考えられる。

24号土坑(第70・116図)

位置 X=32,964・32,965 Y=-84,456

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-11°-W

規模 長軸0.98m 短軸0.38m 深さ0.19m

検出・埋没状況 埋土は、褐色土粒・As-YPを含む暗褐色土主体で、断面形は台形である。

出土遺物 図示はしていないが、埋土中に近現代の瓦・ガラスが混入している。

調査所見 A類の土坑である。出土遺物から近現代の遺構と考えられる。

26号土坑(第70・116図 PL.56)

位置 X=32,975・32,976 Y=-84,445~-84,447

重複 6~8・32号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

平面形 不明

長軸方位 N-70°-E

規模 長軸1.49m以上 短軸0.51m 深さ0.19m

検出・埋没状況 埋土は、褐色土・As-YPを含む暗褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 B類の土坑である。埋土が24号土坑に酷似しているため、近現代の可能性が考えられる。

27号土坑(第70・116図 PL.56)

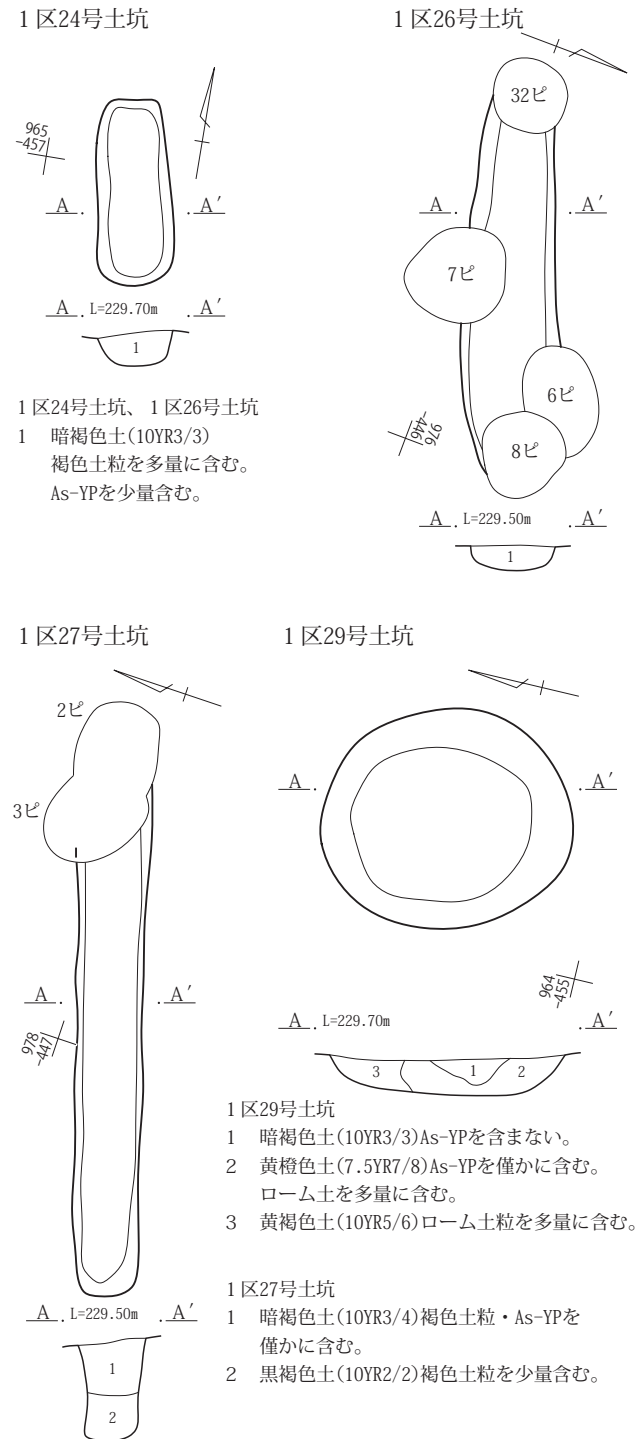
位置 X=32,977・32,978 Y=-84,445~-84,448

重複 2・3号ピットに先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-71°-E

規模 長軸2.23m以上 短軸0.36m 深さ0.59m



第116図 1区24号土坑、26号土坑、27号土坑、29号土坑

検出・埋没状況 埋土は、褐色土・As-YPを含む暗褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 B類の土坑である。埋土が24号土坑に酷似しているため、近現代の可能性が考えられる。

28号土坑(第70・117図 PL.56)

位置 X=32,958~32,961 Y=-84,453~-84,456

重複 2号溝、33号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

平面形 楕円形

長軸方位 N-54°-W

規模 長軸3.45m 短軸2.76m 深さ0.59m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む褐色土を主体とし、弧状を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

29号土坑(第70・116図 PL.57)

位置 X=32,964・32,965 Y=-84,453・-84,454

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-14°-W

規模 長軸1.34m 短軸1.17m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む黄褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

30号土坑(第70・117図 PL.57)

位置 X=32,957 Y=-84,453・-84,454

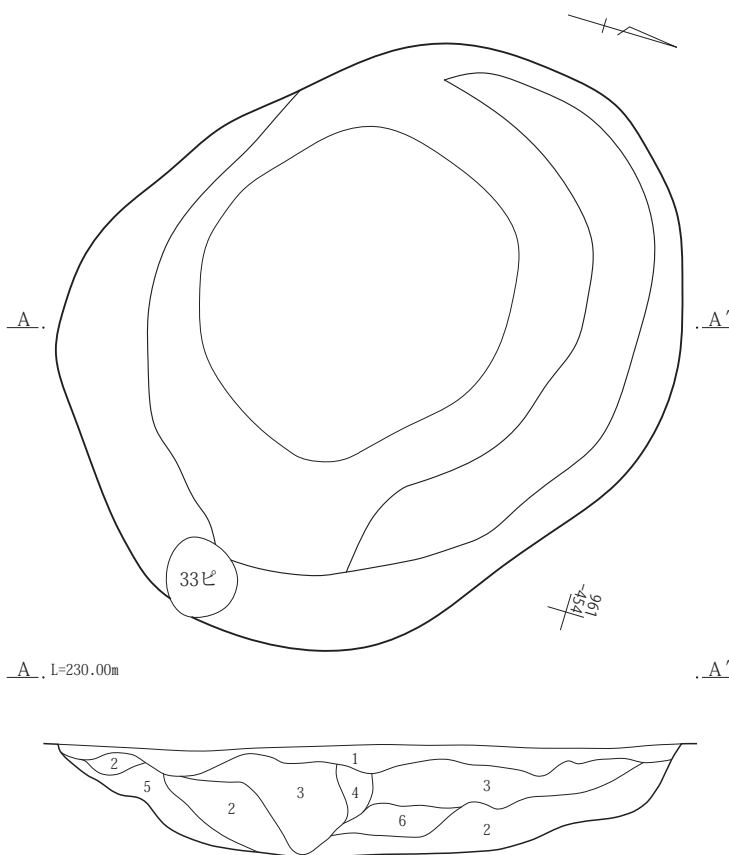
重複 23号土坑に先行する。

平面形 楕円形

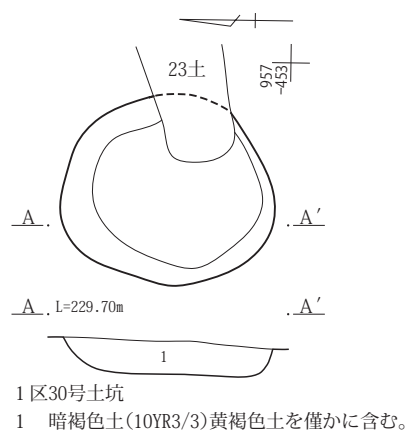
長軸方位 N-13°-E

規模 長軸1.12m 短軸1.01m 深さ0.18m

1区28号土坑

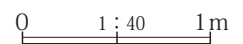


1区30号土坑



1区28号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を多量に含む。As-YPを少量含む。
- 2 黒褐色土
- 3 黄褐色土
- 4 ロームブロック
- 5 褐色土
- 6 暗褐色土



第117図 1区28号土坑、30号土坑

検出・埋没状況 埋土は、黄褐色土を含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

31号土坑(第70・118図 PL.57)

位置 X=32,981~32,985 Y=-84,433・-84,434

重複 32号土坑、33号土坑、38号ピットに後出する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-14°-W

規模 長軸3.34m 短軸0.51m 深さ0.37m

検出・埋没状況 埋土は、As-Aを含む暗褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含むことから天明3(1783)年以降であると考えられる。

32号土坑(第70・118図 PL.57)

位置 X=32,982~32,984 Y=-84,433~-84,435

重複 31号土坑に先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-31°-E

規模 長軸1.60m 短軸(1.31)m 深さ0.48m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

33号土坑(第70・118図 PL.58)

位置 X=32,981・32,982 Y=-84,433・-84,434

重複 31号土坑に先行する。

平面形 楕円形

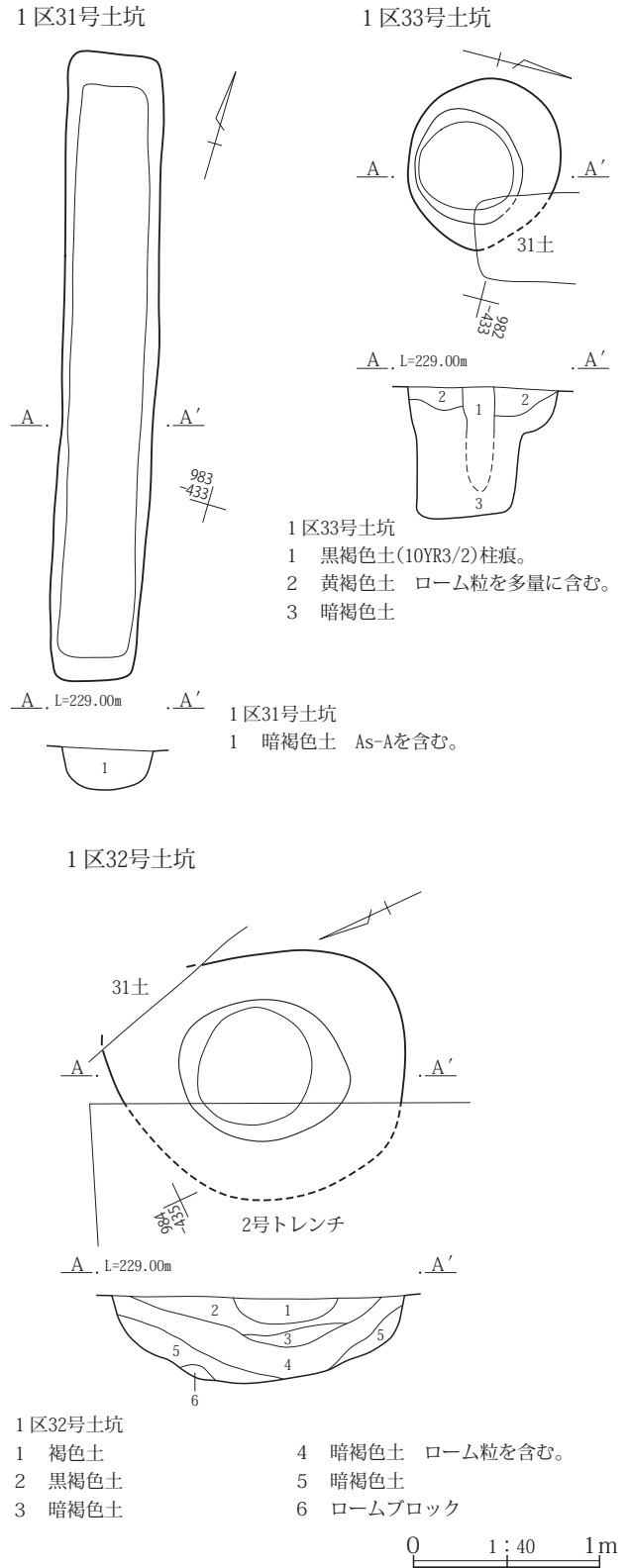
長軸方位 N-88°-E

規模 長軸0.93m 短軸0.80m 深さ0.71m

検出・埋没状況 埋土は、暗褐色土を主体としており、柱痕を確認できた。断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。



第118図 1区31号土坑～33号土坑

34号土坑(第70・119図 PL.58)

位置 X=32,904・32,905 Y=-84,463

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-9°-W

規模 長軸1.26m 短軸0.63m 深さ0.24m

検出・埋没状況 埋土は、黄褐色土を含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 B類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

35号土坑(第70・119図 PL.58)

位置 X=32,965・32,966 Y=-84,439・-84,440

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-70°-E

規模 長軸0.85m 短軸0.55m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

36号土坑(第70・120図 PL.58・82)

位置 X=32,977・32,978 Y=-84,435・-84,436

重複 47号土坑より後出する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-13°-E

規模 長軸0.92m 短軸0.88m 深さ0.34m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、桶状の木質の腐食層を確認した。断面形は台形を呈する。

出土遺物 底面より瀬戸美濃陶器徳利の底部片(第120図1)が出土した。

調査所見 出土遺物から江戸時代と考えられる。

37号土坑(第70・120図 PL.59)

位置 X=32,978・32,979 Y=-84,435・-84,436

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-42°-W

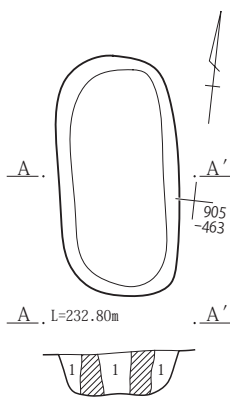
規模 長軸0.98m 短軸0.92m 深さ0.17m

検出・埋没状況 埋土は、灰白色粘土を主体とし、上層に暗褐色土を含む。断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

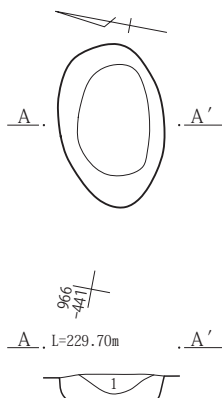
1区34号土坑



1区34号土坑

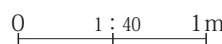
1 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土を僅かに含む。

1区35号土坑



1区35号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YP粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-YPを少量含む。



第119図 1区34号土坑、35号土坑

38号土坑(欠番)

39号土坑(第70・120図 PL.59)

位置 X=32,985・32,986 Y=-84,440

重複 10号土坑に先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-41°-E

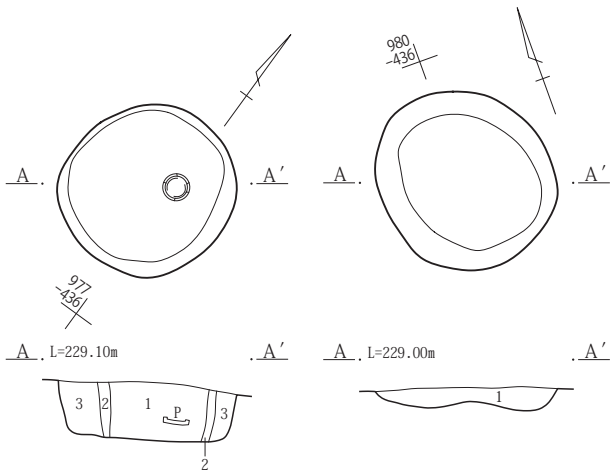
規模 長軸0.69m 短軸0.62m 深さ0.24m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区36号土坑



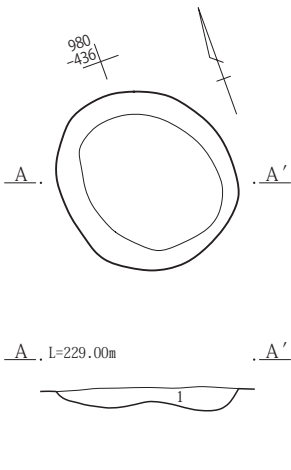
1区36号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YP粒を僅かに含む。
- 2 桶状の木質の腐食。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)ローム土粒を僅かに含む。

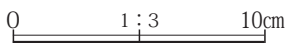
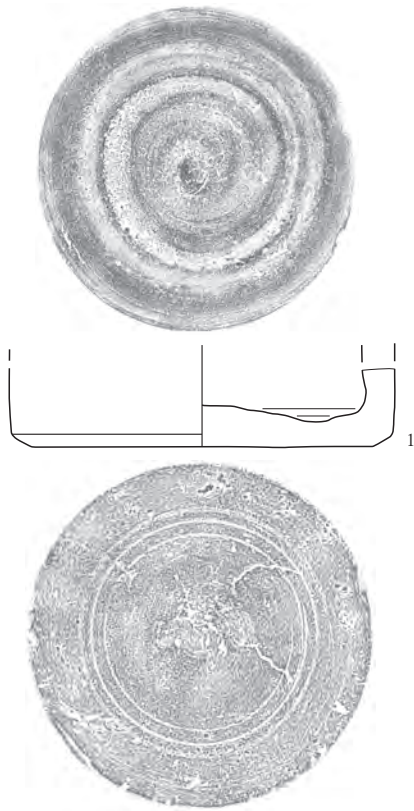
1区37号土坑

- 1 灰白色粘土(10YR7/1)褐色土粒を僅かに含む。

1区37号土坑



1区36号土坑出土遺物



40号土坑(第70・120図 PL.59)

位置 X=32,984・32,985 Y=-84,434・-84,435

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-3°-W

規模 長軸0.51m 短軸0.41m 深さ0.13m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

41号土坑(第70・120図 PL.59)

位置 X=32,985 Y=-84,430・-84,431

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-41°-W

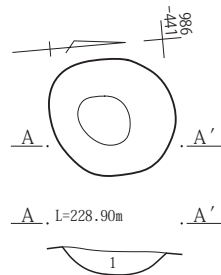
規模 長軸0.60m 短軸0.56m 深さ0.10m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

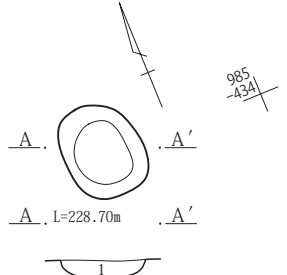
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

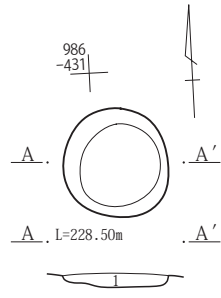
1区39号土坑



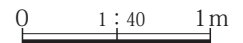
1区40号土坑



1区41号土坑



- 1区39号土坑～1区41号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YP粒を僅かに含む。



第120図 1区36号土坑と出土遺物、37号土坑、39号土坑～41号土坑

42号土坑(第70・121図 PL.60)

位置 X=32,959・32,960 Y=-84,441

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-25°-E

規模 長軸0.91m 短軸0.83m 深さ0.40m

検出・埋没状況 埋土は、上層にはAs-YPを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

43号土坑(第70・121図 PL.60)

位置 X=32,965 Y=-84,441

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-88°-W

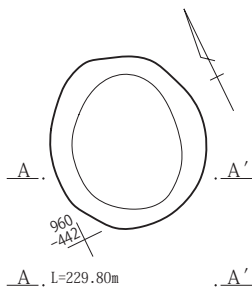
規模 長軸0.67m 短軸0.43m 深さ0.14m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

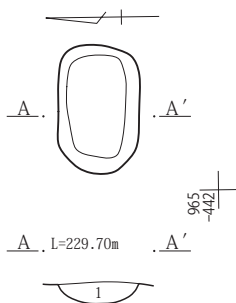
出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区42号土坑



1区43号土坑



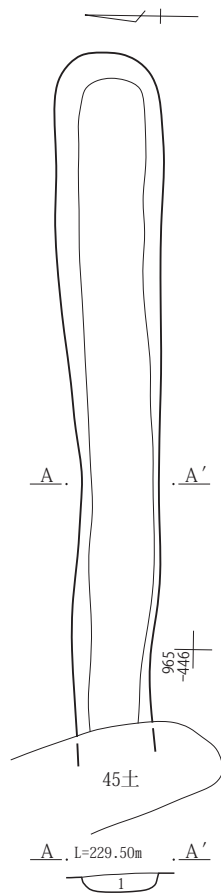
1区42号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を多量に含む。As-YPを少量含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ローム土を僅かに含む。

1区43号土坑、1区44号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YP粒を少量含む。

1区44号土坑



44号土坑(第70・121図 PL.60)

位置 X=32,965 Y=-84,442~-84,446

重複 45号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-84°-E

規模 長軸3.57m以上 短軸0.47m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

45号土坑(第70・122図 PL.60)

位置 X=32,964~32,966 Y=-84,446・-84,447

重複 44号土坑に後出する。

平面形 隅丸長方形

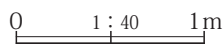
長軸方位 N-27°-W

規模 長軸1.81m 短軸0.52m 深さ0.08m

検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土が主体で、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。



第121図 1区42号土坑～44号土坑

46号土坑(第70・122図 PL.61)

位置 X=32,979~32,982 Y=-84,436~-84,438

重複 遺構確認状況から47号ピットに後出する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-29°-W

規模 長軸2.91m 短軸0.63m 深さ0.10m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む暗褐色土を主体とし、断面形は逆三角形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

47号土坑(第70・122図 PL.61)

位置 X=32,977・32,978 Y=-84,435・-84,436

重複 36号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-29°-W

規模 長軸1.15m以上 短軸(0.69)m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、ローム粒を含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。36号土坑より古い遺構であることから近世以前と考えられる。

48号土坑(第70・122図 PL.61)

位置 X=32,983・32,984 Y=-84,445・-84,446

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-21°-W

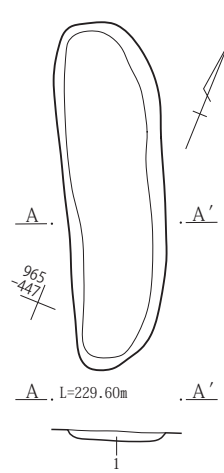
規模 長軸1.38m 短軸0.60m 深さ0.11m

検出・埋没状況 ローム粒を含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

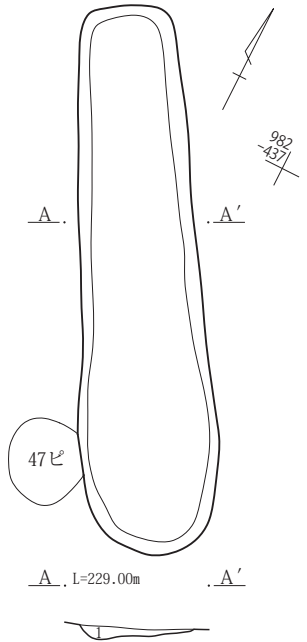
調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区45号土坑



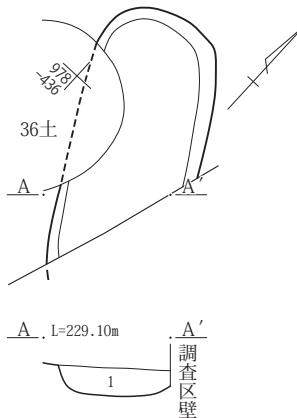
1区45号土坑
1 暗褐色土(10YR3/3)
As-YP粒を僅かに含む。

1区46号土坑

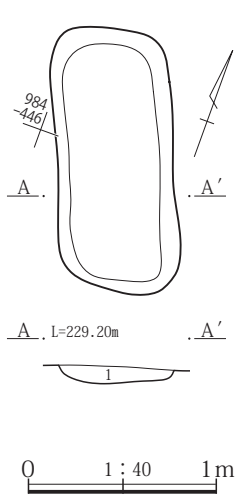


1区46号土坑~1区48号土坑
1 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を多量に含む。As-YPを少量含む。

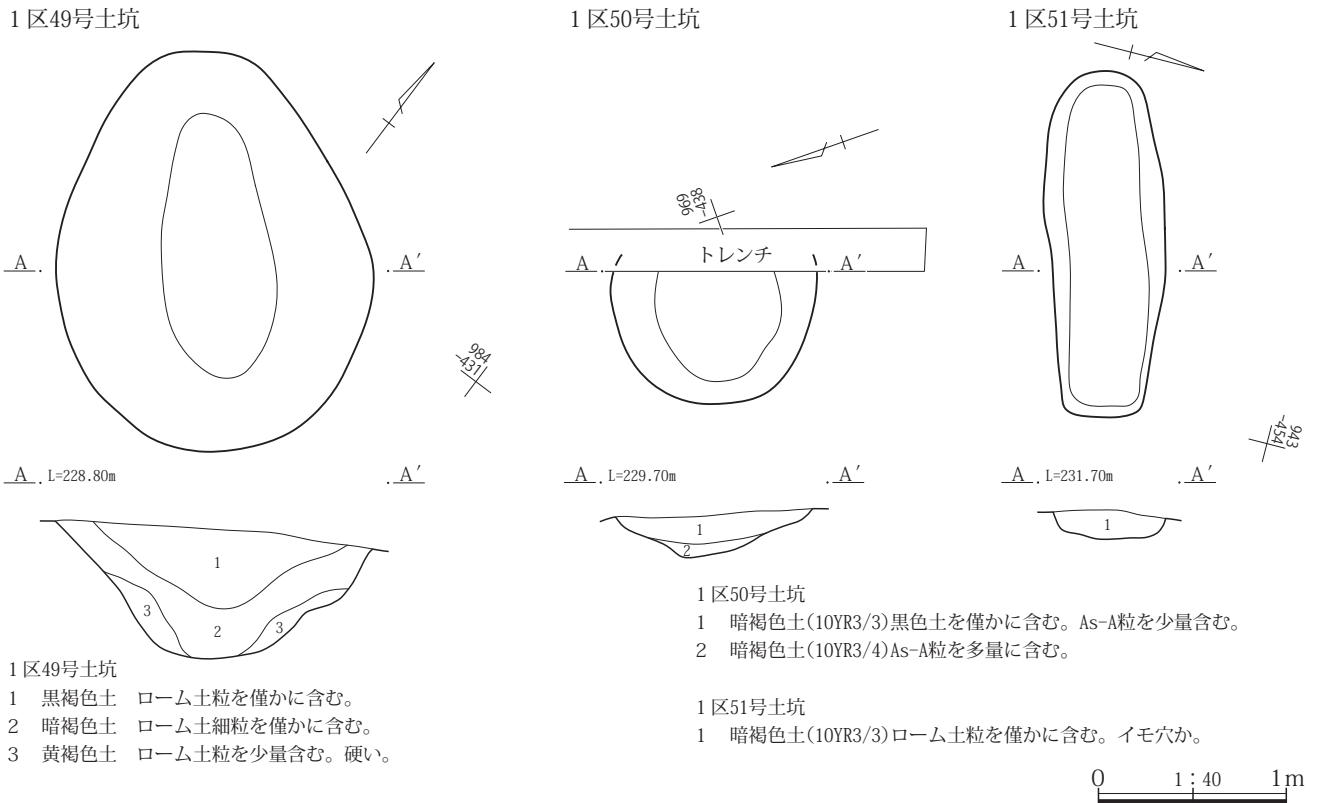
1区47号土坑



1区48号土坑



第122図 1区45号土坑~48号土坑



第123図 1区49号土坑～51号土坑

49号土坑(第70・123図 PL.61)

位置 X=32,982~32,984 Y=-84,431~-84,433

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-38°-W

規模 長軸2.10m 短軸1.65m 深さ0.76m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は逆三角形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

50号土坑(第70・123図 PL.62)

位置 X=32,968・32,969 Y=-84,438

重複 なし。

平面形 楕円形か

長軸方位 N-20°-E

規模 長軸1.06m 短軸0.70m以上 深さ0.30m

検出・埋没状況 埋土は、暗褐色土を主体とし、中層にAs-Aを含んでいる。断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含んでいることから天明3(1783)年以降であると考えられる。

51号土坑(第70・123図 PL.62)

位置 X=32,941・32,942 Y=-84,453~-84,455

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-77°-E

規模 長軸1.83m 短軸0.61m 深さ0.19m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。調査所見にはイモ穴とあるが、畑の耕作痕の可能性もある。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

52号土坑(第70・124図 PL.62・82)

位置 X=32,922 Y=-84,458

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-16°-W

規模 長軸0.69m 短軸0.34m以上 深さ0.17m

検出・埋没状況 遺構の東側は後世の耕作のため、破壊されている。埋土は、ロームを含む暗褐色土を主体とし、軟質である。断面形は弧状を呈する。

出土遺物 縄文土器諸磯 a 式深鉢(第124図1)が出土している。

調査所見 出土遺物から縄文時代前期であると考えられる。

53号土坑(第70・124図 PL.63)

位置 X=32,941・32,942 Y=-84,446

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 計測不可

規模 長軸0.89m以上 短軸0.39m以上 深さ0.45m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を含む暗褐色土が主体で、上層はやや砂質である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

54号土坑(第70・125図 PL.63)

位置 X=32,984~32,986 Y=-84,441・-84,442

重複 2号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-20°-W

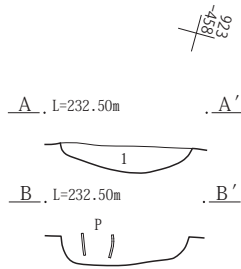
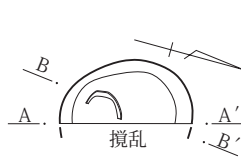
規模 長軸1.41m以上 短軸0.71m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を含む暗褐色土が主体で、上層はやや砂質である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 A類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区52号土坑



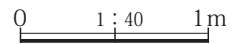
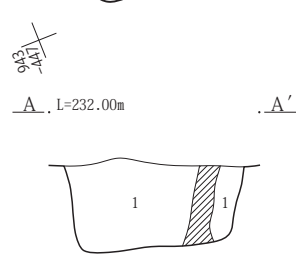
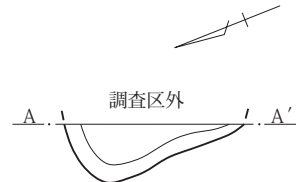
1区52号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。軟質。

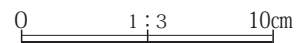
1区53号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。縄文土器片。

1区53号土坑



1区52号土坑出土遺物



第124図 1区52号土坑と出土遺物、53号土坑

55号土坑(第70・125図 PL.63)

位置 X=32,945・32,946 Y=-84,448

重複 60号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-15°-W

規模 長軸1.37m 短軸0.48m 深さ0.87m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を含む暗褐色土が主体で、上層はやや砂質である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 B類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

56号土坑(第70・125図 PL.63)

位置 X=32,944~32,946 Y=-84,449・-84,450

重複 60号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-13°-W

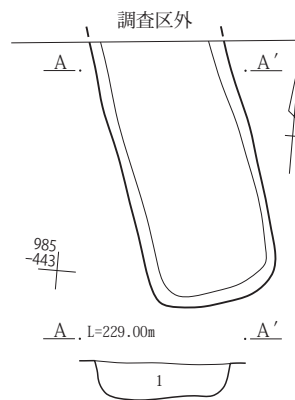
規模 長軸1.18m 短軸0.44m 深さ0.82m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を含む暗褐色土が主体で、上層はやや砂質である。断面形は台形を呈する。

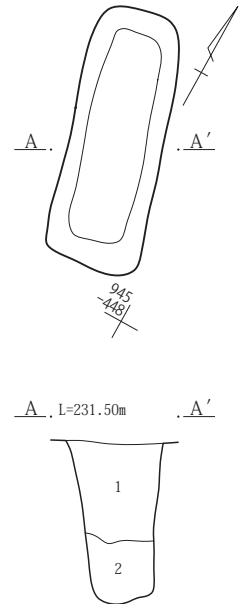
出土遺物 なし。

調査所見 B類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区54号土坑



1区55号土坑



57号土坑(第70・125図 PL.63)

位置 X=32,945~32,947 Y=-84,450

重複 52号ピットに後出する。59号土坑と重複するが、新旧は不明である。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-16°-W

規模 長軸2.41m 短軸0.38m 深さ0.36m

検出・埋没状況 埋土は、黒褐色土を含む暗褐色土が主体で、上層はやや砂質である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 B類の土坑である。遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区54号土坑

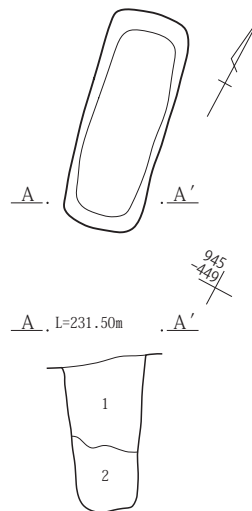
1 黒褐色土(10YR3/2)ローム土粒を僅かに含む。

1区55号土坑、1区56号土坑

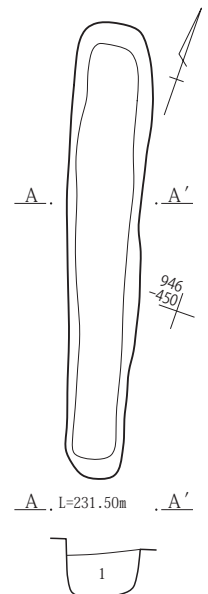
1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。

2 黒褐色土(10YR3/2)ローム土粒を僅かに含む。

1区56号土坑



1区57号土坑



58号土坑(第70・126図 PL.64)

位置 X=32,944・32,945 Y=-84,447~-84,450

重複 60号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-77°-E

規模 長軸2.60m 短軸0.48m 深さ0.53m

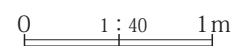
検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形と考えられる。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

1区57号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。ローム粒を僅かに含む。



第125図 1区54号土坑～57号土坑

60号土坑(第70・126図 PL.64)

位置 X=32,944・32,945 Y=-84,447~-84,449

重複 55・56・58号土坑に後出する。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-80°-E

規模 長軸2.21m 短軸0.55m 深さ0.62m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

59号土坑(第70・126図 PL.64)

位置 X=32,946・32,947 Y=-84,449・-84,450

重複 57号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形 隅丸長方形か

長軸方位 N-75°-E

規模 長軸1.11m以上 短軸0.46m 深さ0.26m

検出・埋没状況 埋土は、やや砂質の暗褐色土を主体とし、断面形は長方形の可能性が高い。

出土遺物 なし。

調査所見 A群の土坑である。埋土にAs-Aは確認されなかったが、58号土坑や60号土坑とほぼ同じ方向に掘削されているため、天明3(1783)年以降であると考えられる。

61号土坑(第70・126図 PL.64)

位置 X=32,954・32,955 Y=-84,447・-84,448

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-50°-E

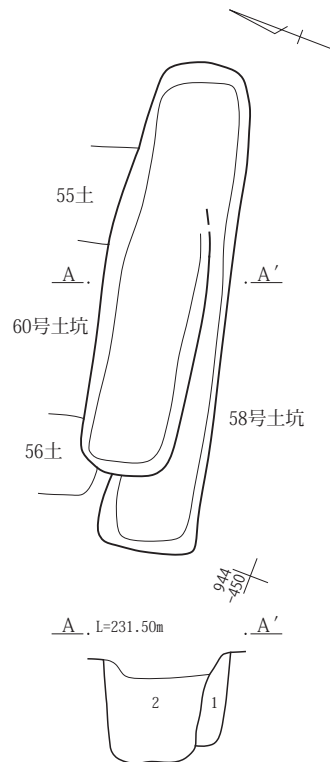
規模 長軸0.98m 短軸0.90m 深さ0.28m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は不整形である。

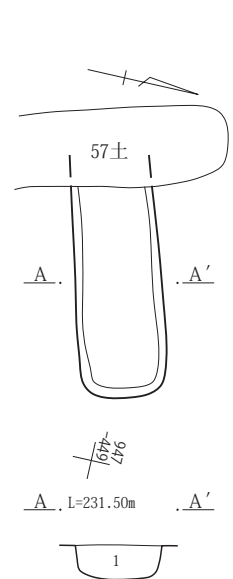
出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

1区58・60号土坑



1区59号土坑



1区58号土坑

1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を少量含む。ローム土粒を僅かに含む。

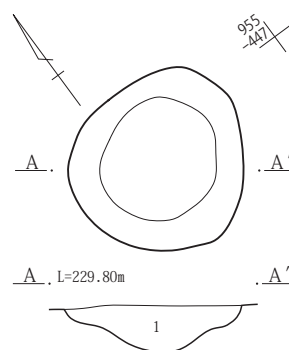
1区60号土坑

2 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を少量含む。ローム土粒を僅かに含む。やや砂質。

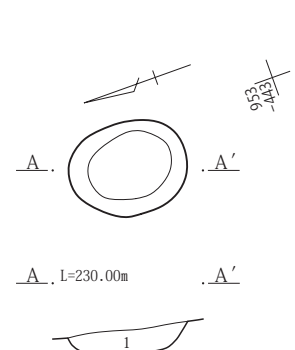
1区59号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。

1区61号土坑

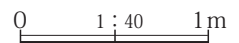


1区62号土坑



1区61号土坑、1区62号土坑

1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。



第126図 1区58号土坑～62号土坑

62号土坑(第70・126図 PL.64)

位置 X=32,953・32,954 Y=-84,442・-84,443

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-10°-E

規模 長軸0.62m 短軸0.50m 深さ0.21m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

63号土坑(第70・127図 PL.65)

位置 X=32,958・32,959 Y=-84,441・-84,442

重複 なし。

平面形 隅丸方形

長軸方位 N-17°-E

規模 長軸0.87m 短軸0.84m 深さ0.31m

検出・埋没状況 埋土は、1層にはAs-Aを含むが、2・3層には含まない暗褐色土が主体である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 図示には至らなかったが、在地系土器の細片が出土した。

調査所見 出土遺物から、中世であると考えられる。

64号土坑(欠番)

65号土坑(第70・127図 PL.65)

位置 X=32,955・32,956 Y=-84,444・-84,445

重複 2号竪穴状遺構と重複するが新旧は不明である。

平面形 楕円形

長軸方位 N-23°-E

規模 長軸0.74m 短軸0.69m 深さ0.33m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

66号土坑(第70・127図 PL.65)

位置 X=32,952・32,953 Y=-84,444・-84,445

重複 1号竪穴状遺構と重複するが新旧は不明である。

平面形 隅丸方形

長軸方位 N-67°-W

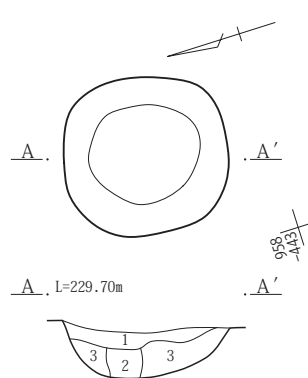
規模 長軸0.84m 短軸0.83m 深さ0.31m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む暗褐色土を主体とし、下層は硬くしまっている。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構の検出状況および埋土にAs-Aを含まないことから近世以前であると考えられる。

1区63号土坑

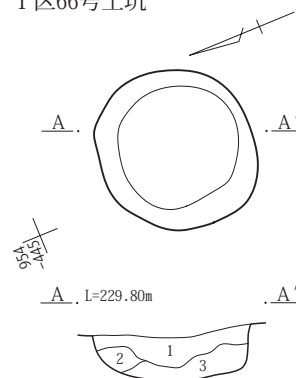


- 1区63号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2)黒色土を少量含む。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3)ローム細粒を少量含む。

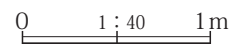
1区65号土坑

- 1 黄褐色土(10YR5/6)黒色土・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム土粒を僅かに含む。

1区66号土坑



- 1区66号土坑
- 1 黄褐色土(10YR5/6)黒色土を僅かに含む。ローム土粒を少量含む。
 - 2 黒色土 ローム土細粒を僅かに含む。
 - 3 暗褐色土 ローム土粒を少量含む。硬い。



第127図 1区63号土坑、65号土坑、66号土坑

②2区の土坑

1号土坑(第72・128図 PL.65)

位置 X=33,001 Y=-84,440・-84,441

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-80°-E

規模 長軸1.22m 短軸0.72m 深さ0.24m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる

2号土坑(第72・128図 PL.66)

位置 X=33,001 Y=-84,439

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か

長軸方位 N-8°-W

規模 長軸0.81m以上 短軸0.55m 深さ0.78m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は長方形を呈する。

出土遺物 土師器細片1点、近現代の土器1点が出土している。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから天明3(1783)年以降であるが、埋土中の遺物から近現代の可能性もある。

3号土坑(第72・128図 PL.66)

位置 X=33,001・33,002 Y=-84,438・-84,439

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か

長軸方位 N-9°-W

規模 長軸1.04m以上 短軸0.58m 深さ0.61m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土が2号土坑とほぼ同一であるため、時期も同様と考えられる。

4号土坑(第72・128図 PL.66)

位置 X=33,003・33,004 Y=-84,441・-84,442

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か

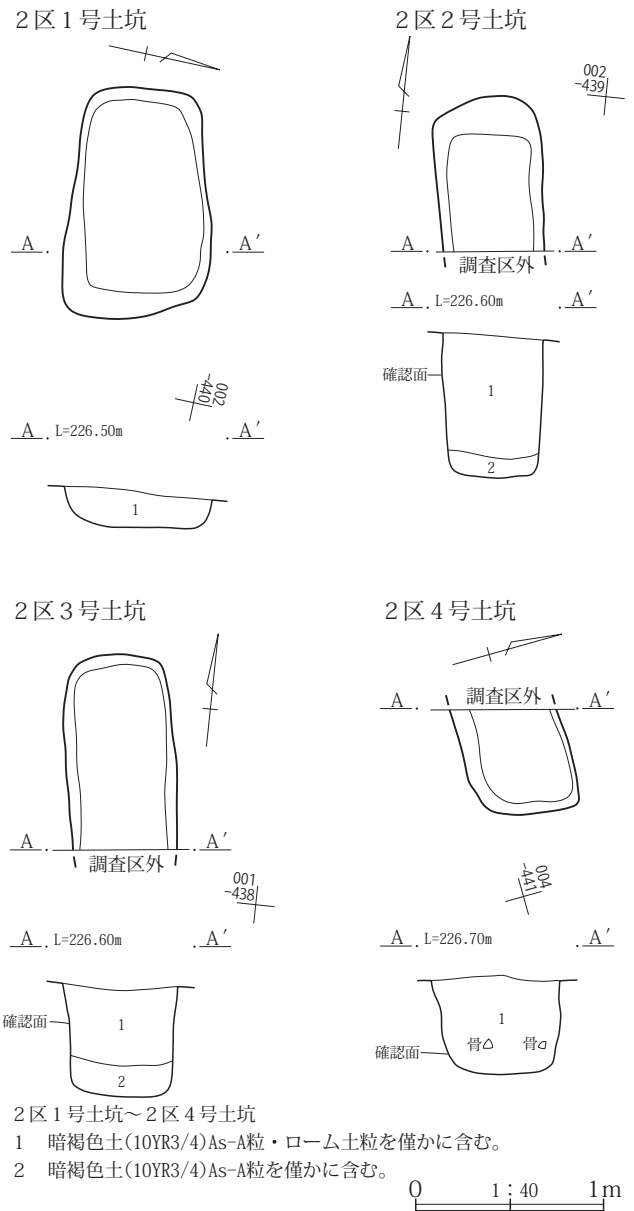
長軸方位 N-88°-E

規模 長軸0.57m以上 短軸0.57m 深さ0.50m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 埋土中から骨片が出土したが、細片のため図示および鑑定はできなかった。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。



第128図 2区1号土坑～4号土坑

5号土坑(第72・129図 PL.66)

位置 X=33,009・33,010 Y=-84,439・-84,440

重複 なし。

平面形 隅丸方形

長軸方位 N-30°-E

規模 長軸0.79m 短軸0.78m 深さ0.92m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

6号土坑(第72・129図 PL.66)

位置 X=33,001 Y=-84,429・-84,430

重複 なし。

平面形 調査区南東隅に位置するため、遺構の平面形は確認できなかった。

長軸方位 N-63°-W

規模 長軸0.73以上m 短軸0.41以上m 深さ0.44m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

7号土坑(第72・129図 PL.66)

位置 X=33,001 Y=-84,429・-84,430

重複 なし。

平面形 調査区東壁に接する。遺構の平面形は確認できなかった。

長軸方位 N-84°-W

規模 長軸0.33m以上 短軸0.52m 深さ0.32m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

8号土坑(第72・129図 PL.66・67)

位置 X=33,001 Y=-84,431・-84,432

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-77°-W

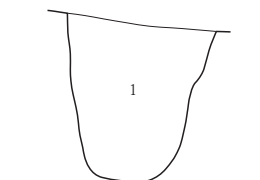
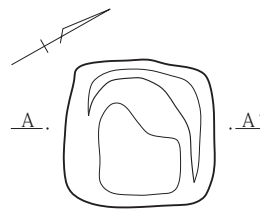
規模 長軸0.68m 短軸0.40m 深さ0.20m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

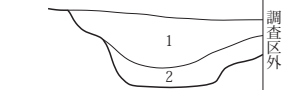
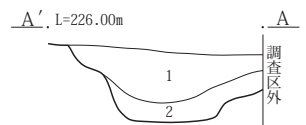
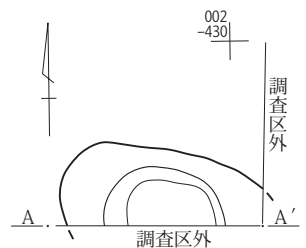
出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

2区5号土坑



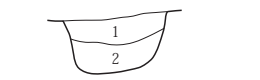
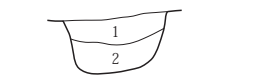
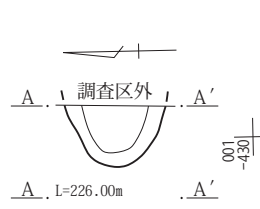
2区6号土坑



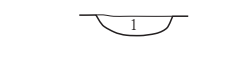
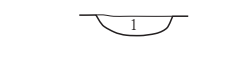
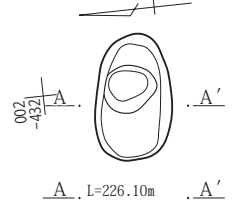
2区5号土坑、2区6号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を僅かに含む。

2区7号土坑

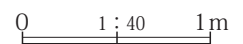


2区8号土坑



2区7号土坑、2区8号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。



第129図 2区5号土坑～8号土坑

9号土坑(第72・130図 PL.67)

位置 X=33,040~33,042 Y=-84,426・-84,427

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-15°-W

規模 長軸1.57m 短軸0.52m 深さ0.22m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

10号土坑(第72・130図 PL.67)

位置 X=33,040~33,042 Y=-84,425・-84,426

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-8°-W

規模 長軸1.38m 短軸0.48m 深さ0.22m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

11号土坑(第72・130図 PL.67)

位置 X=33,046・33,047 Y=-84,443

重複 なし。

平面形 調査区西壁に接するため、遺構の平面形は確認できなかった。

長軸方位 N-75°-E

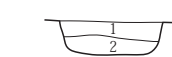
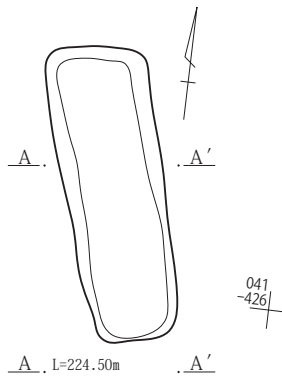
規模 長軸0.52m以上 短軸0.75m 深さ0.19m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

2区9号土坑



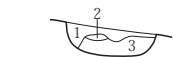
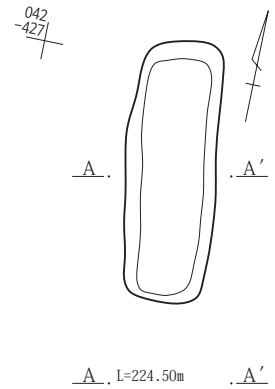
2区9号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。

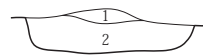
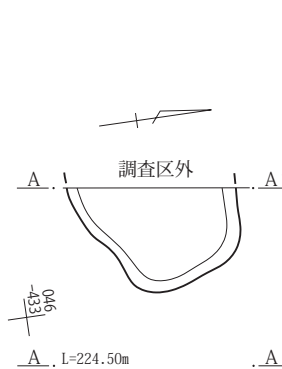
2区10号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 ロームブロック。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を僅かに含む。ローム土を少量含む。

2区10号土坑



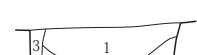
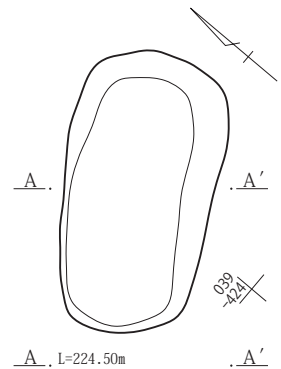
2区11号土坑



2区11号土坑

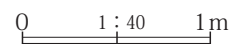
- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を僅かに含む。ローム土を少量含む。

2区13号土坑



2区13号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を少量含む。ローム土粒を僅かに含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を僅かに含む。ローム土粒を少量含む。
- 3 褐色土(10YR4/6)ローム土を少量含む。



第130図 2区9号土坑～11号土坑、13号土坑

12号土坑(第72・131図 PL.67)

位置 X=33,042・33,043 Y=-84,432・-84,433

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-65°-E

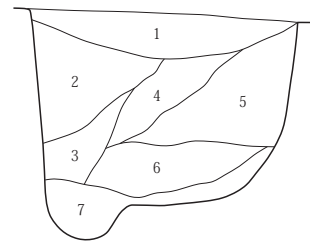
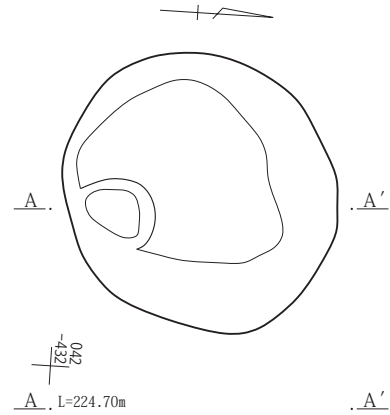
規模 長軸1.54m 短軸1.39m 深さ1.21m

検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む褐色土を主体で1層にはAs-Aが含まれている。断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 2層以下にはAs-Aは確認できないため、近世以前と考えられる。

2区12号土坑



2区12号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土(10YR3/4)ロームを含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)黒色土・ローム土を僅かに含む。
- 6 褐色土(10YR4/4)ローム土を僅かに含む。
- 7 褐色土(10YR4/6)ローム土を少量含む。

13号土坑(第72・130図 PL.67・68)

位置 X=33,039・33,040 Y=-84,423・-84,424

重複 なし。

平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-61°-E

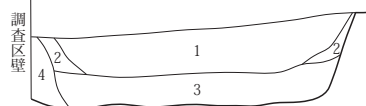
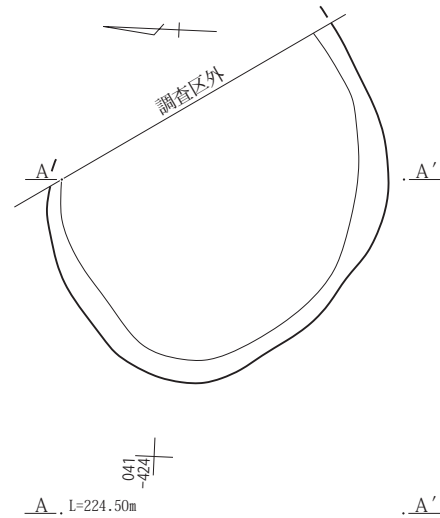
規模 長軸1.51m 短軸0.79m 深さ0.49m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

2区14号土坑



2区14号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。褐色土を少量含む。
- 3 褐色土(10YR4/4)ローム粒を少量含む。
- 4 褐色土(10YR4/6)ローム土粒を少量含む。(壁の崩れ)

14号土坑(第72・131図 PL.68)

位置 X=33,039~33,041 Y=-84,421~-84,423

重複 なし。

平面形 隅丸長方形か

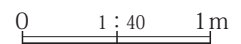
長軸方位 N-44°-W

規模 長軸1.93m 短軸1.33m以上 深さ0.54m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。



第131図 2区12号土坑、14号土坑

15号土坑(第72・132図 PL.68)

位置 X=33,031 Y=-84,426・-84,427

重複 2号ピットに先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-82°-E

規模 長軸0.88m 短軸0.67m 深さ0.15m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形と考えられる。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

16号土坑(第72・133図 PL.68)

位置 X=33,042~33,046 Y=-84,429~-84,432

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-6°-W

規模 長軸3.90m 短軸3.32m 深さ1.41m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし最下層はローム主体の黄褐色土である。断面形は袋状を呈する。

出土遺物 埋土中より古瀬戸陶器と考えられる瓶類の体部片(第133図1)が出土した。

調査所見 形状から地下式坑である。出土遺物は中世までさかのぼるが、埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

17号土坑(第72・132図 PL.68・69)

位置 X=33,042~33,044 Y=-84,423~-84,425

重複 なし。

平面形 不整形

長軸方位 N-57°-E

規模 長軸1.60m以上 短軸1.59m 深さ0.71m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

18号土坑(第134図 PL.69)

位置 X=33,037・33,038 Y=-84,426・-84,427

重複 21号土坑より後出する。

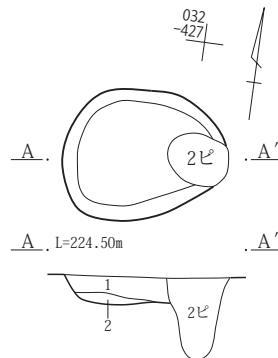
平面形 隅丸長方形

長軸方位 N-10°-W

規模 長軸1.40m 短軸0.89m 深さ0.48m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

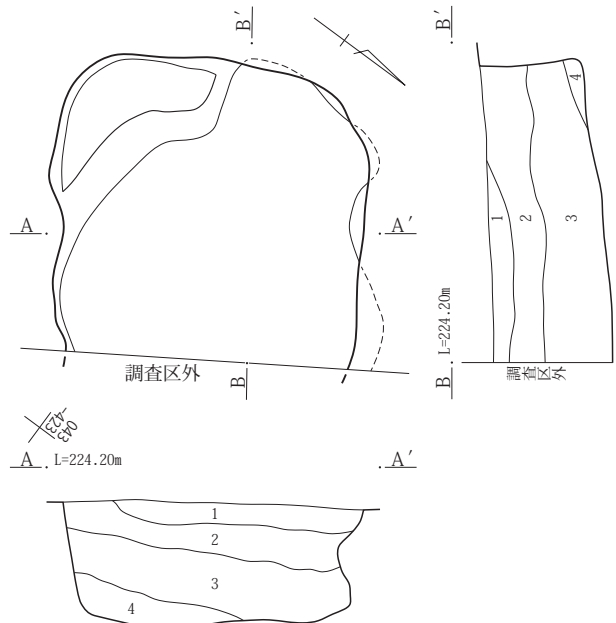
2区15号土坑



2区15号土坑

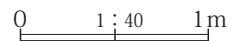
- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒・ローム土粒を少量含む。

2区17号土坑



2区17号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を少量含む。ローム土粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)ローム土を少量含む。

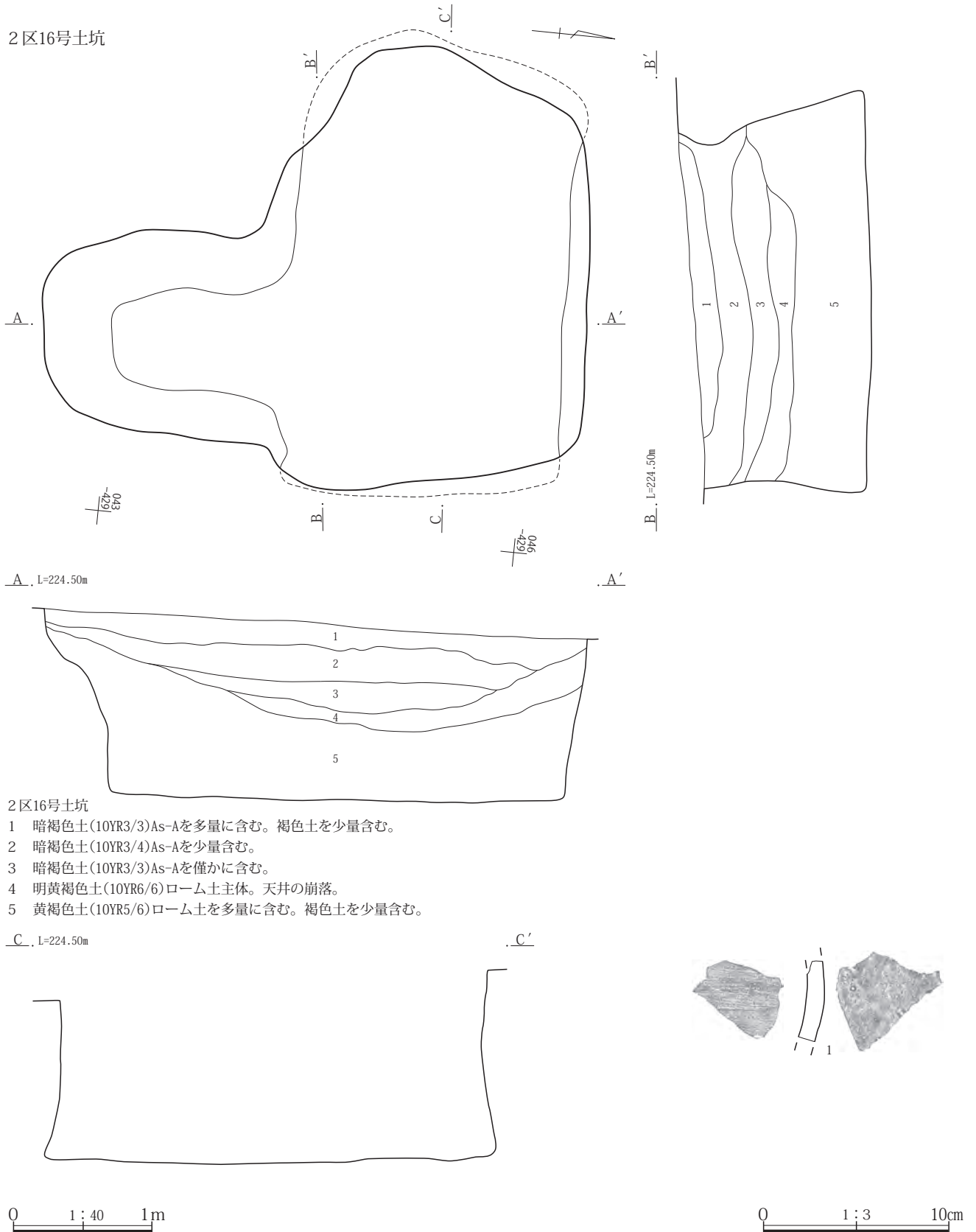


第132図 2区15号土坑、17号土坑

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

2区16号土坑



2区16号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Aを多量に含む。褐色土を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)As-Aを少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)As-Aを僅かに含む。
- 4 明黄褐色土(10YR6/6)ローム土主体。天井の崩落。
- 5 黄褐色土(10YR5/6)ローム土を多量に含む。褐色土を少量含む。

C, L=224.50m

第133図 2区16号土坑と出土遺物

19号土坑(第72・134図 PL.69)

位置 X=33,038・33,039 Y=-84,430・-84,431

重複 なし。

平面形 隅丸方形

長軸方位 N-10°-W

規模 長軸0.73m 短軸0.71m 深さ0.31m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

20号土坑(第72・134図 PL.69)

位置 X=33,038・33,039 Y=-84,431・-84,432

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-15°-E

規模 長軸1.11m 短軸0.95m 深さ0.38m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

21号土坑(第72・135図 PL.69)

位置 X=33,037・33,038 Y=-84,425・-84,426

重複 18号土坑に先行する。

平面形 隅丸長方形か

長軸方位 N-11°-W

規模 長軸1.47m 短軸0.94m 深さ0.33m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は不整形である。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

22号土坑(第72・135図 PL.70)

位置 X=33,039・33,040 Y=-84,427・-84,428

重複 23号土坑に後出する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-83°-W

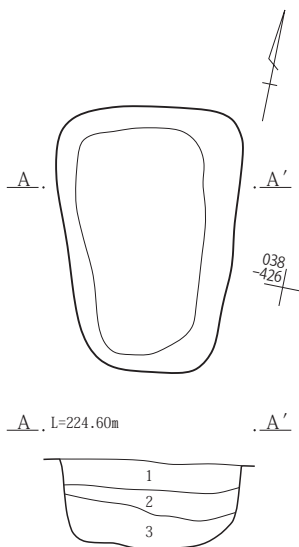
規模 長軸1.02m 短軸1.01m 深さ0.74m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

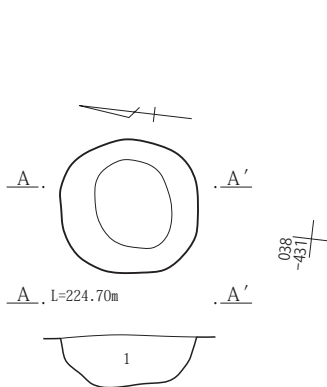
出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

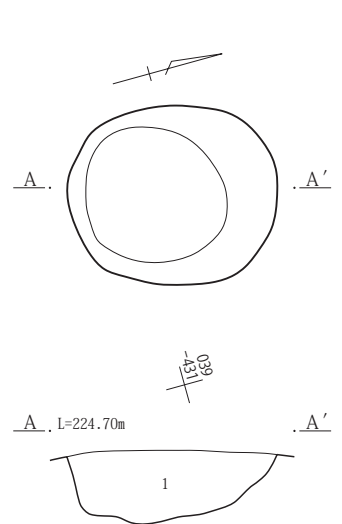
2区18号土坑



2区19号土坑

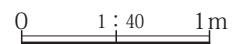


2区20号土坑



2区18号土坑～2区20号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を僅かに含む。
- 3 褐色土(10YR4/4)As-A粒を僅かに含む。褐色土粒を少量含む。



第134図 2区18号土坑～20号土坑

23号土坑(第72・135図 PL.70)

位置 X=33,039・33,040 Y=-84,427・-84,428

重複 22号土坑に先行する。

平面形 楕円形

長軸方位 N-4°-W

規模 長軸0.81m 短軸(0.58)m 深さ0.51m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

24号土坑(第72・135図 PL.70)

位置 X=33,038・33,039 Y=-84,427

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-19°-E

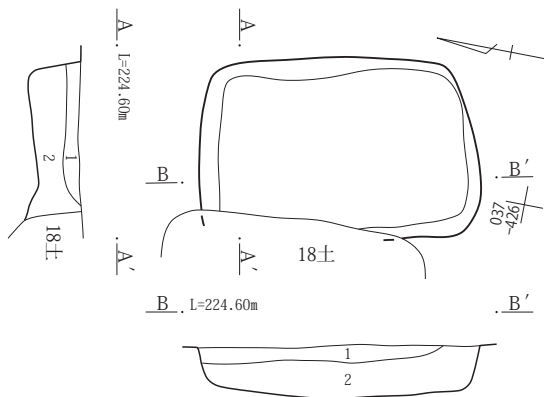
規模 長軸0.80m 短軸0.54m 深さ0.36m

検出・埋没状況 埋土は、As-A・ロームを含む暗褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Aを含むことから、天明3(1783)年以降であると考えられる。

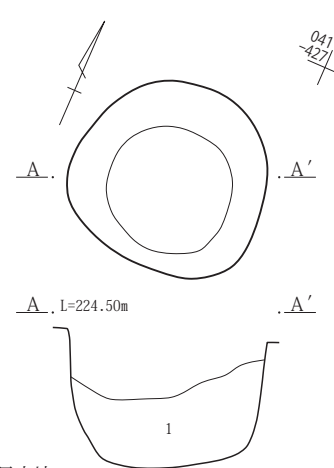
2区21号土坑



2区21号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を僅かに含む。

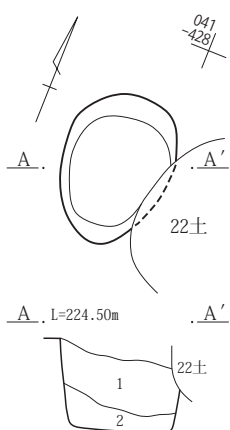
2区22号土坑



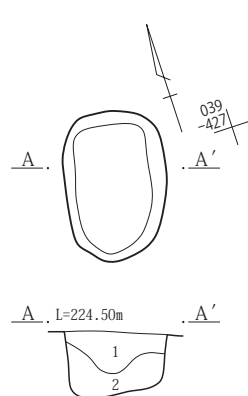
2区22号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒・ローム土粒を僅かに含む。

2区23号土坑

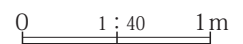


2区24号土坑



2区23号土坑・2区24号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)As-A粒を少量含む。ローム土粒を僅かに含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Aを僅かに含む。



第135図 2区21号土坑～24号土坑

③ 4区の土坑

1号土坑(第75・136図 PL.70)

位置 X=33,168・33,169 Y=-84,423・-84,424

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-4°-E

規模 長軸1.20m 短軸0.71m 深さ0.10m

検出・埋没状況 埋土は、黒色土主体のシルト質土でAs-Bを含んでいない。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Bを含まないことから、天仁元年(1108)年以前であると考えられる。

2号土坑(第75・136図 PL.71)

位置 X=33,169・33,170 Y=-84,423・-84,424

重複 なし。

平面形 楕円形

長軸方位 N-62°-E

規模 長軸1.36m 短軸0.60m 深さ0.22m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む褐灰色土を主体とする砂質土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Bを含むことから、天仁元(1108)年以降であると考えられる。

3号土坑(第75・136図 PL.71)

位置 X=33,175・33,176 Y=-84,430・-84,431

重複 なし。

平面形 調査区西壁に接するため不明。

長軸方位 N-14°-W

規模 長軸1.16m 短軸0.58m以上 深さ0.12m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む黒褐色土を主体とする砂質土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Bを含むことから、天仁元(1108)年以降であると考えられる。

4号土坑(第75・136図 PL.71)

位置 X=33,181 Y=-84,421

重複 なし。

平面形 調査区北壁に接するため不明。

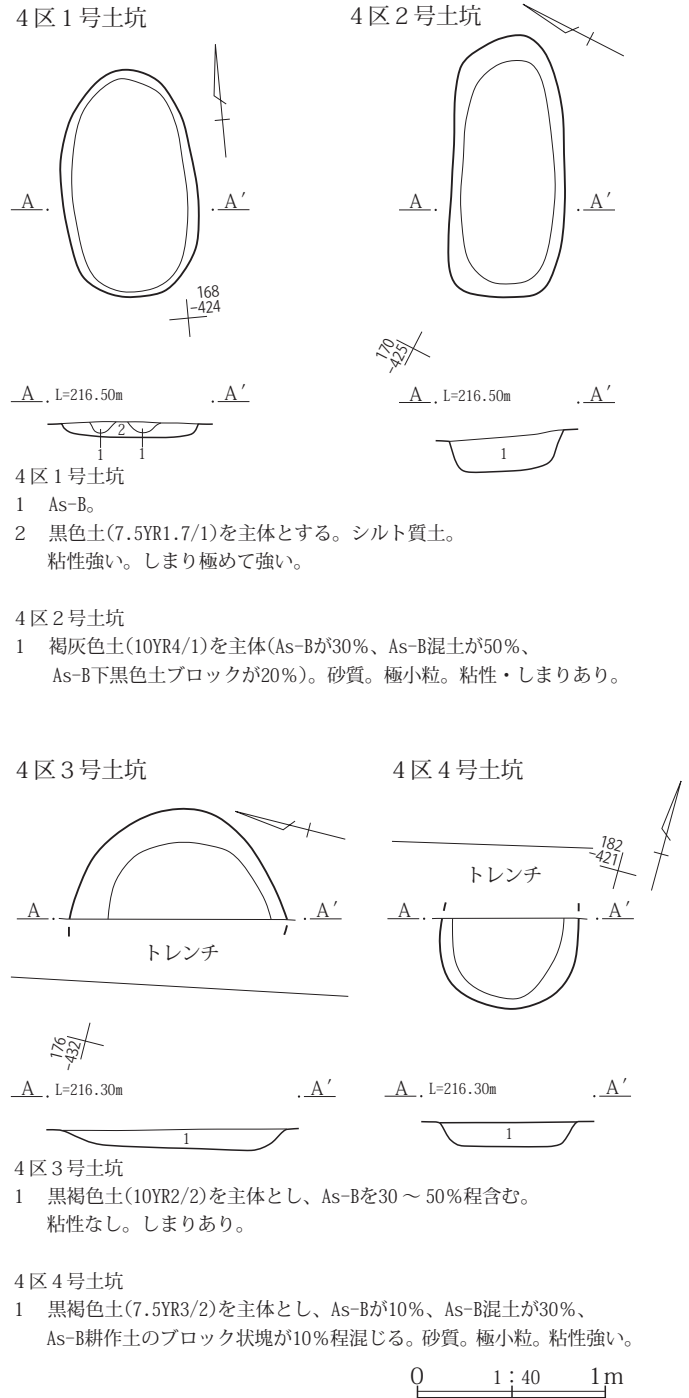
長軸方位 N-14°-W

規模 長軸0.48m以上 短軸0.71m 深さ0.14m

検出・埋没状況 埋土は、As-Bを含む黒褐色土を主体とする砂質土である。断面形は台形を呈する。

出土遺物 なし。

調査所見 埋土にAs-Bを含むことから、天仁元(1108)年以降であると考えられる。



第136図 4区1号土坑～4号土坑

(8)ピット(第70・72・137~143図 PL.68・71~75)
 本遺跡で調査した1区でピットは74基、2区では4基である。1区のピットは、土坑と同様に方形周溝墓より北の調査区に集中している。これらのうち、柱痕を確認したピットは、1号・16号~18号・21号~26号・34号・35号・46号・57号・69号~71号ピットの17基である。

また、埋没土により「①類:白色粒子を含む」「②類:As-YPを含む」「③類:ローム(As-YPを除く)を含む」「④類:その他」の4種類に分類を試みた。しかし、規則性などは認められなかったが、46号・57号・63号・66号ピットはほぼ一定の間隔で直線上に並んでいた。これらのピットの詳細については下記のとおりである。

2区で確認した4基のピットは調査区全体に散布している。埋没土はすべて白色粒子を含む黒色土である。各ピットの位置・規模・埋土の特徴等については、第4表にまとめた。

1区46号ピット(第70・137・138図 PL.74)

位置 X=32,982・32,983 Y=-84,429
 重複 なし。
 平面形 楕円形
 長軸方位 N-2°-E
 規模 長軸0.42m 短軸0.38m 深さ0.77m
 検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む暗褐色土を主体とし、柱痕を確認した。断面形は台形を呈する。
 出土遺物 なし。

1区57号ピット(第70・137・138図 PL.74)

位置 X=32,984 Y=-84,423
 重複 なし。
 平面形 楕円形
 長軸方位 N-48°-E

規模 長軸0.36m 短軸0.32m 深さ0.46m
 検出・埋没状況 埋土は、ロームを含む黒褐色土を主体とし、柱痕を確認した。断面形は台形を呈する。
 出土遺物 なし。

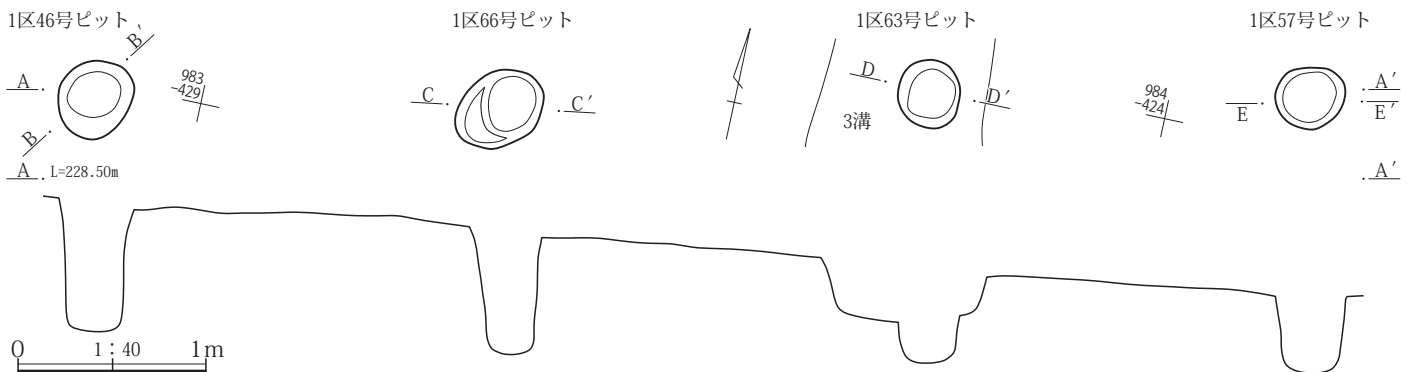
1区63号ピット(第70・137・138図 PL.74)

位置 X=32,983・32,984 Y=-84,425
 重複 3号溝に先行する。
 平面形 楕円形
 長軸方位 N-3°-E
 規模 長軸0.35m 短軸0.33m 深さ0.28m
 検出・埋没状況 埋土は、白色粒を含む黒褐色土を主体とし、断面形は台形を呈する。
 出土遺物 なし。

1区66号ピット(第70・137・138図 PL.75)

位置 X=32,983 Y=-84,427
 重複 なし。
 平面形 楕円形
 長軸方位 N-48°-E
 規模 長軸0.49m 短軸0.38m 深さ0.69m
 検出・埋没状況 埋土は、As-YPを含む暗褐色土を主体とし、断面形は不整形である。
 出土遺物 なし。

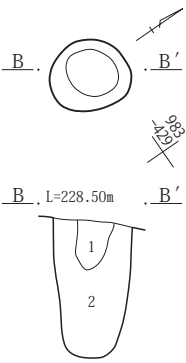
46号・66号ピットの間隔は2.22m、66号・63号ピット間は2.20m、63号・57号ピット間は2.04mでほぼ等間隔で一直前上に並び、46号・57号ピット間は6.46mであった。これらのピットは柵などの施設であったと考えられる。時期は、As-Aを含む3号溝に先行すること、各ピットの埋土にはAs-Aが含まれていないことから近世以前であると考えられる。



第137図 1区46、66、63、57号ピット(1)

第4章 中遺跡の遺構と遺物

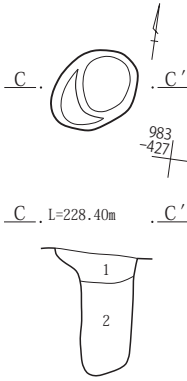
1区46号ピット



1区46号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。

1区66号ピット

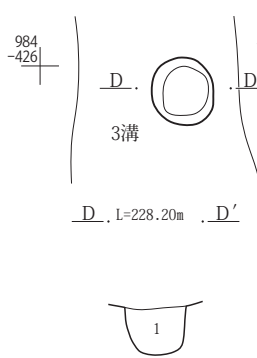


1区66号ピット

1区66号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YPを僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-YP・ローム土を少量含む。

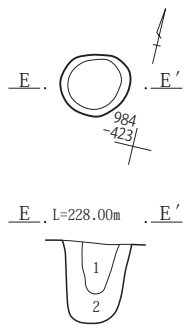
1区63号ピット



1区63号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/2)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。

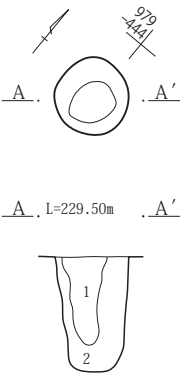
1区57号ピット



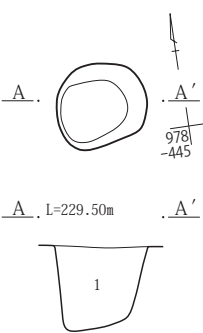
1区57号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。

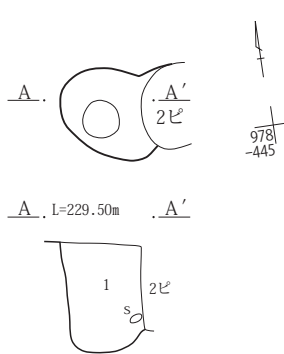
1区1号ピット



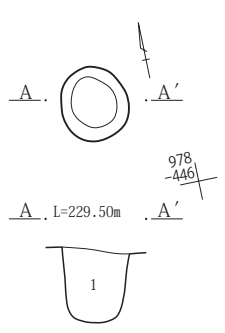
1区2号ピット



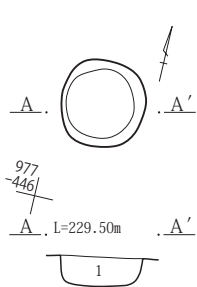
1区3号ピット



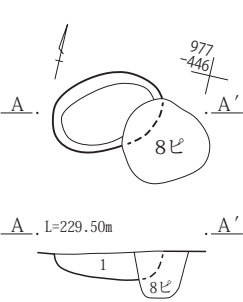
1区4号ピット



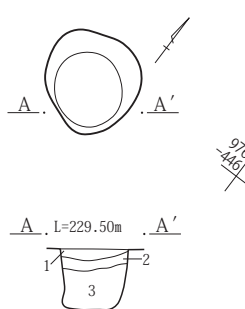
1区5号ピット



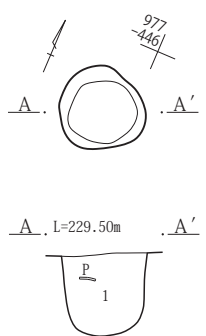
1区6号ピット



1区7号ピット



1区8号ピット



1区1号ピット

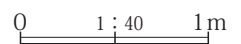
- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を少量含む。

1区3号ピット、1区6号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を少量含む。

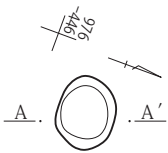
1区2、4、5、7、8号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)褐色土粒を少量含む。ローム土粒を僅かに含む。

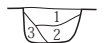


第138図 1区46、66、63、57号ピット(2)、1区1～8号ピット

1区9号ピット



A. L=229.50m .A'



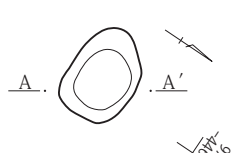
1区9号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)褐色土粒・ローム土粒を僅かに含む。

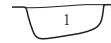
1区10号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

1区10号ピット



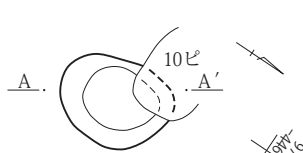
A. L=229.50m .A'



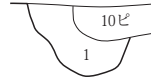
1区10号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

1区11号ピット



A. L=229.50m .A'



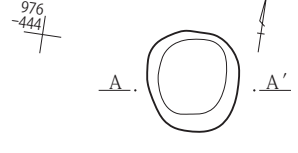
1区11号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。

1区12号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)褐色粒を少量含む。

1区12号ピット



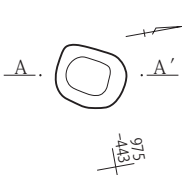
A. L=229.50m .A'



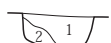
1区12号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)褐色粒を少量含む。

1区13号ピット



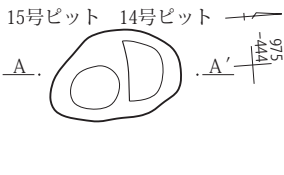
A. L=229.50m .A'



1区13号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)白色粒子を少量含む。

1区14・15号ピット



A. L=229.50m .A'



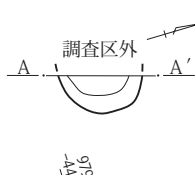
1区14号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

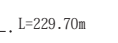
1区15号ピット

- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を少量含む。

1区16号ピット



A. L=229.70m .A'



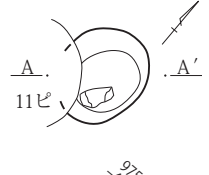
1区16号ピット、1区17号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を少量含む。

1区16号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を少量含む。

1区17号ピット



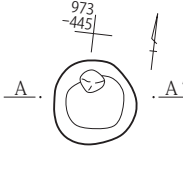
A. L=229.50m .A'



1区17号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)褐色土粒を少量含む。

1区18号ピット



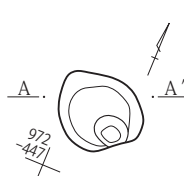
A. L=229.50m .A'



1区18号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 2 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)白色粒子・褐色土を僅かに含む。

1区19号ピット



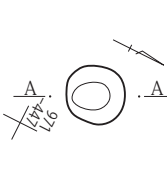
A. L=229.50m .A'



1区19号ピット、1区20号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/2)軽石粒を僅かに含む。やや粘性あり。

1区20号ピット



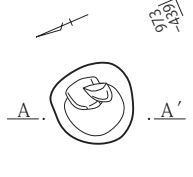
A. L=229.60m .A'



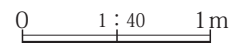
1区21号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YPを僅かに含む。柱痕。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)As-YPを僅かに含む。ローム土粒を少量含む。

1区21号ピット

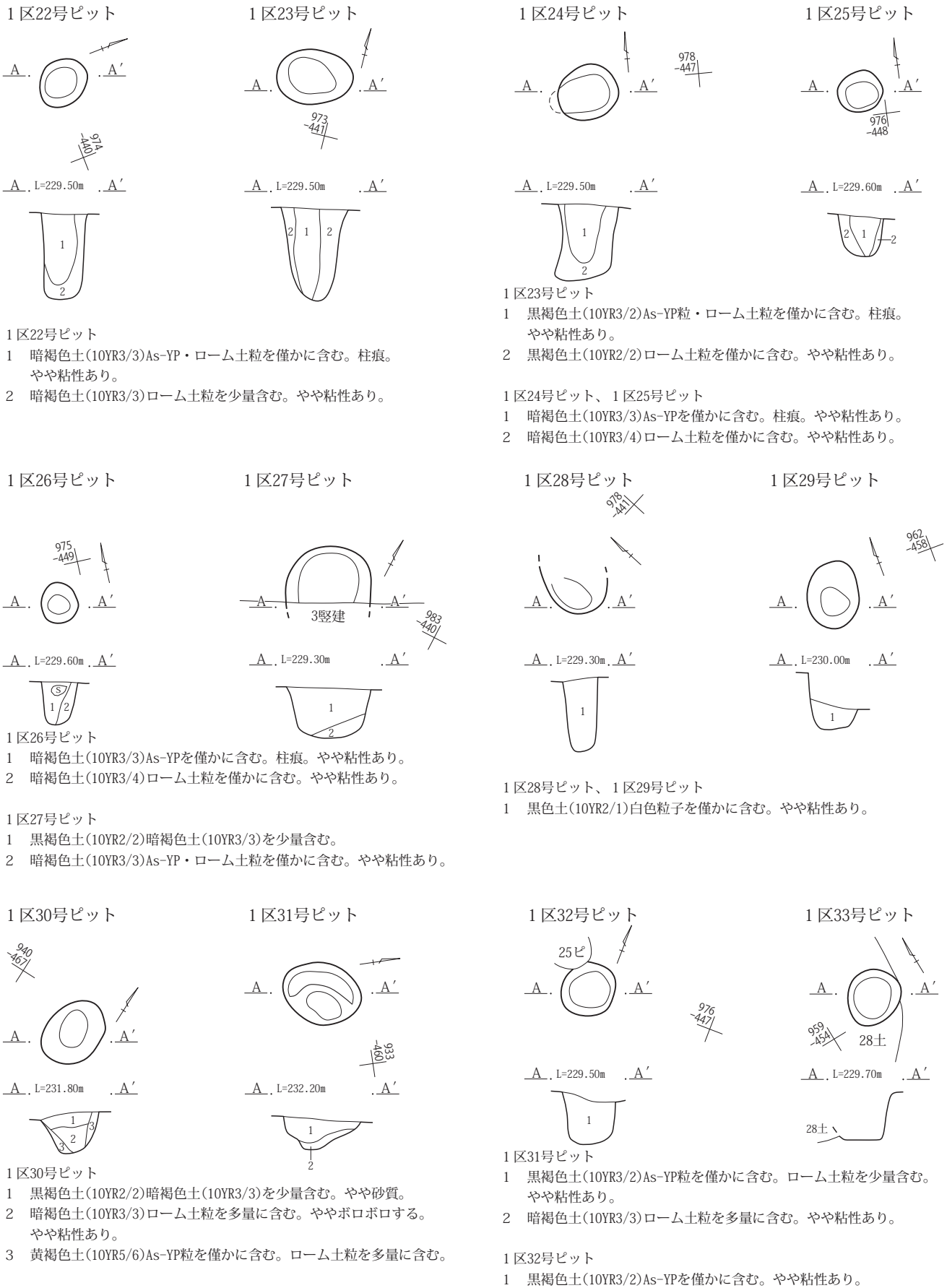


A. L=229.50m .A'



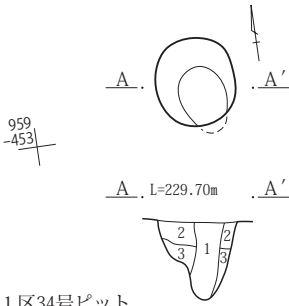
第139図 1区9号ピット～21号ピット

第4章 中遺跡の遺構と遺物



第140図 1区22号ピット～33号ピット

1区34号ピット



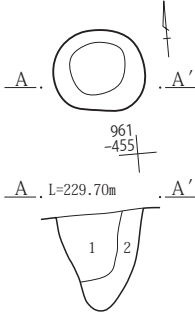
1区34号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土を少量含む。柱痕。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)As-YPを少量含む。ローム土を多量に含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)As-YPを僅かに含む。ローム土粒を少量含む。

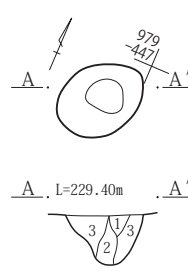
1区35号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/4)ローム土粒を少量含む。柱痕。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。

1区35号ピット



1区36号ピット



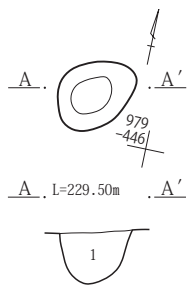
1区36号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)暗褐色土(10YR3/3)を少量含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-YP・ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)As-YP粒を僅かに含む。ローム土粒を少量含む。

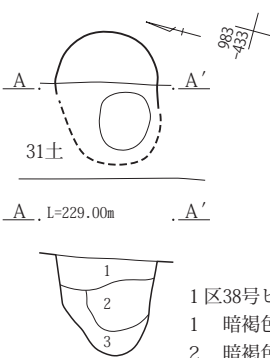
1区37号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YP・ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。

1区37号ピット



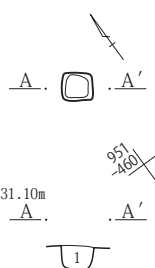
1区38号ピット



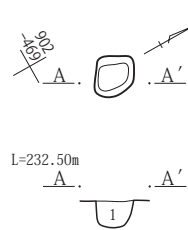
1区38号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)暗褐色土(10YR3/3)を少量含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-YP・ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)As-YP粒を僅かに含む。ローム土粒を少量含む。

1区39号ピット



1区40号ピット



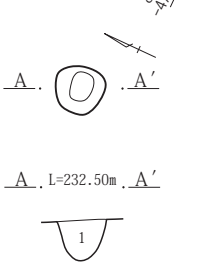
1区39号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を多量に含む。

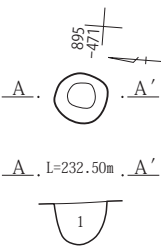
1区40号ピット、1区41号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土を僅かに含む。

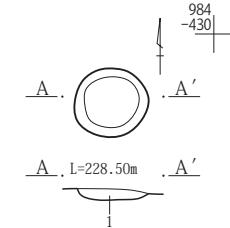
1区41号ピット



1区42号ピット



1区43号ピット



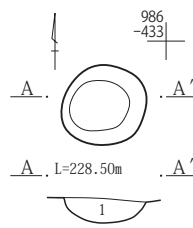
1区42号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

1区43号ピット、1区44号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黒色土(10YR2/1)粒を僅かに含む。やや粘性あり。

1区44号ピット



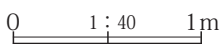
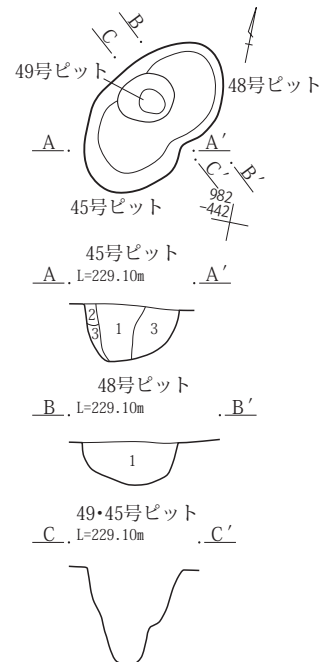
1区45号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)やや砂質。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-YP・ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)As-YP粒を僅かに含む。ローム土粒を少量含む。

1区48号ピット

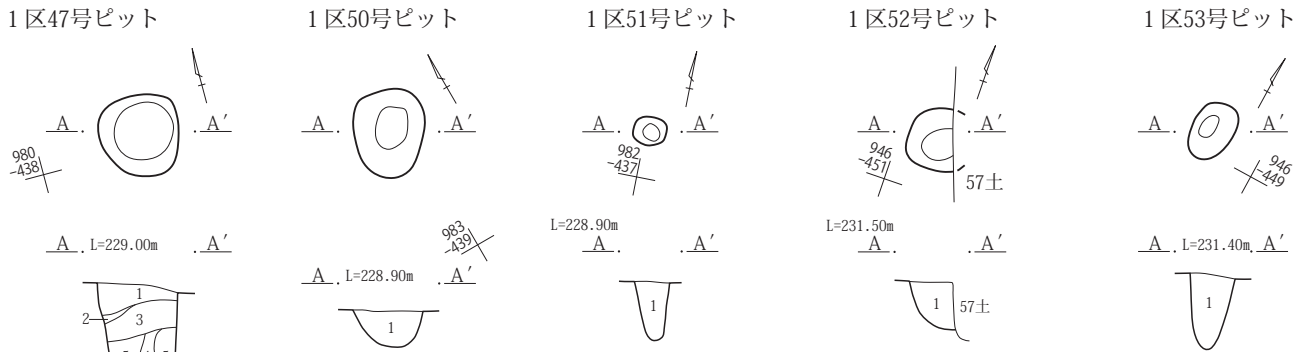
- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。

1区45・48・49号ピット



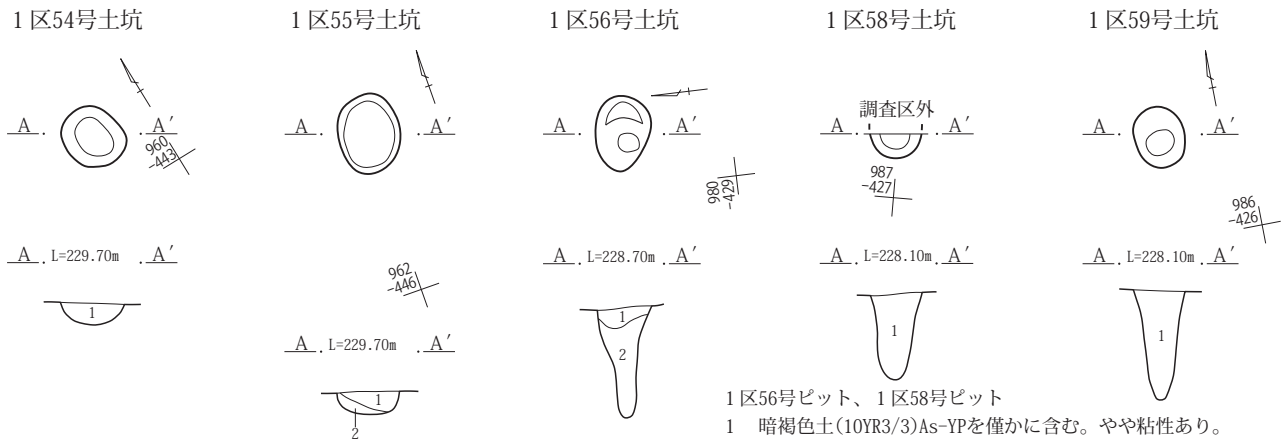
第141図 1区34号ピット～44号ピット、45・48・49号ピット

第4章 中遺跡の遺構と遺物



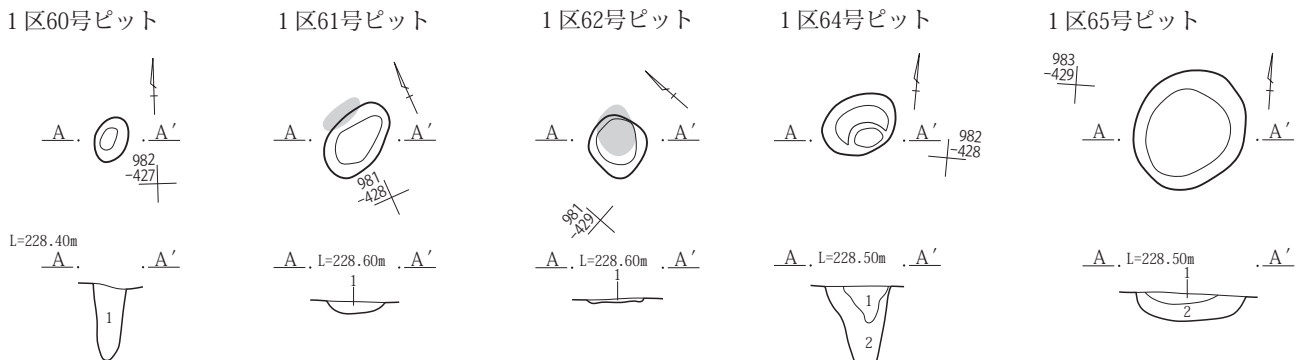
- 1区47号ピット
- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
 - 2 ロームブロック。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム土粒を僅かに含む。
 - 4 As-YP
 - 5 黒色土(10YR2/1)

- 1区50号ピット、1区51号ピット
- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土粒を僅かに含む。やや粘性あり。
- 1区52号ピット
- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム土細粒を僅かに含む。



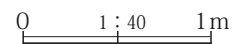
- 1区53号ピット～1区55号ピット
- 1 暗褐色土(10YR3/3)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
 - 2 黄褐色土(10YR5/6)As-YP粒・ローム土を少量含む。

- 1区56号ピット、1区58号ピット
- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YPを僅かに含む。やや粘性あり。
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4)
- 1区59号ピット
- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-A粒を僅かに含む。やや砂質。

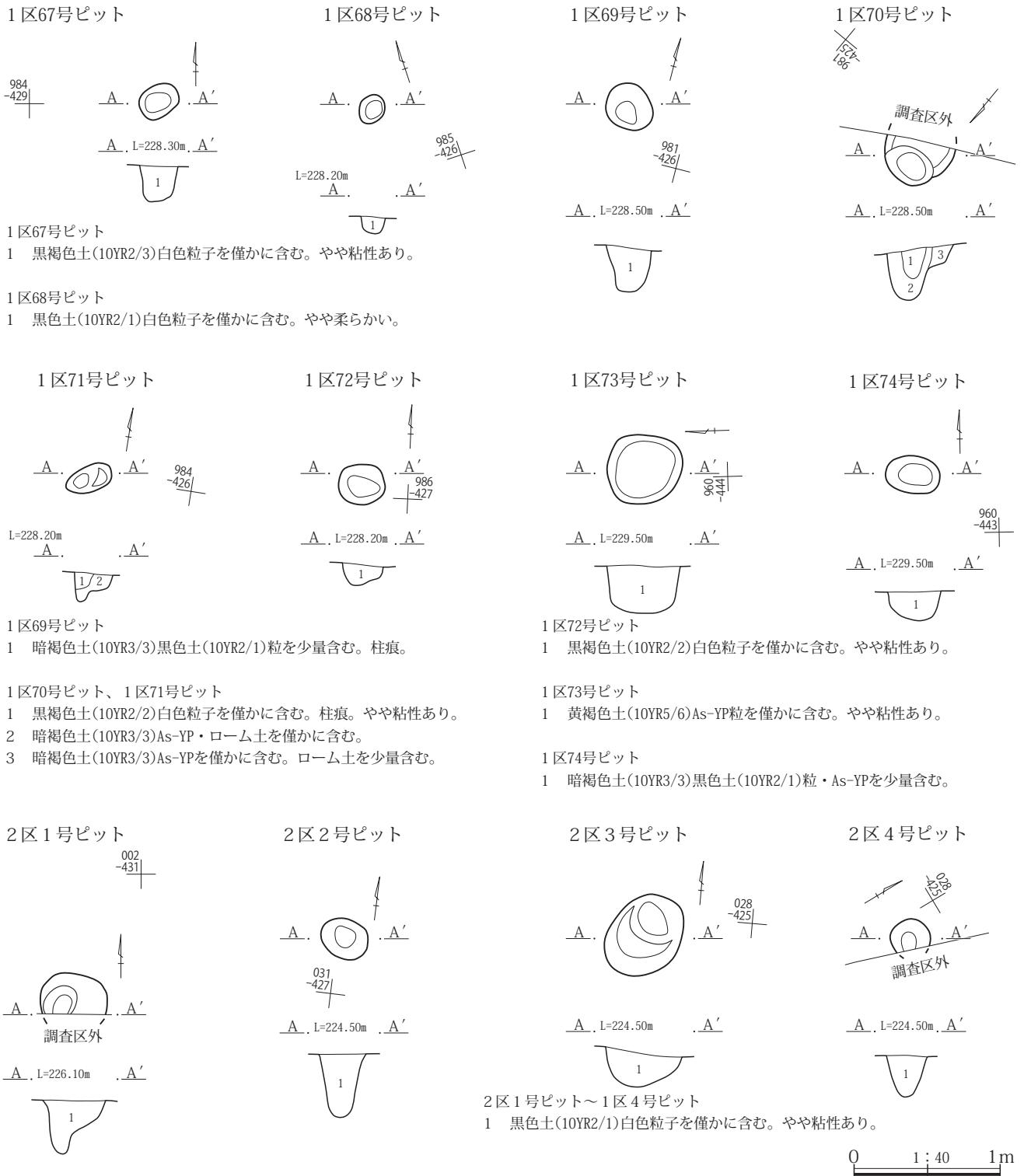


- 1区60号ピット
- 1 黒褐色土(10YR2/2)白色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 1区61号ピット
- 1 黄褐色土(10YR5/6)As-YP粒を僅かに含む。ローム土粒を少量含む。やや粘性あり。
- 1区62号ピット
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黒褐色土粒・As-YP粒・ローム土粒を僅かに含む。

- 1区64号ピット
- 1 黒褐色土(10YR3/2)褐色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
 - 1 黒褐色土(10YR3/1)褐色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
- 1区65号ピット
- 1 黒褐色土(10YR3/2)褐色粒子を僅かに含む。やや粘性あり。
 - 1 暗褐色土(10YR3/3)As-YP・ローム土を僅かに含む。



第142図 1区47、50～56、58～62、64、65号ピット



第143図 1区67号ピット～74号ピット、2区1号ピット～4号ピット

第12表 中遺跡 ピット一覧表

区	遺構名称	X座標	Y座標	主軸方位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋土	PL.番号
1区	1号ピット	32,978	-84,443・-84,444	N-45°-W	41	39	63	楕円形	台形	ローム土粒含む暗褐色土主体	PL.71-7・8
1区	2号ピット	32,977・32,978	-84,445	N-83°-E	50	43	51	楕円形	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	3号ピット	32,977・32,978	-84,445・-84,446	N-58°-W	43+	44	60	不整形	不明	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	4号ピット	32,978	-84,446	N-14°-W	38	36	43	楕円形	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	5号ピット	32,977	-84,445	N-2°-W	46	44	19	隅丸方形	長方形	白色粒子含む黒色土	
1区	6号ピット	32,976	-84,446	N-59°-E	60	39	15	(楕円形)	(台形)	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	7号ピット	32,975・32,976	-84,446・-84,447	N-48°-W	55	50	33	不整形	長方形	褐色土粒、ローム粒含む暗褐色土主体	

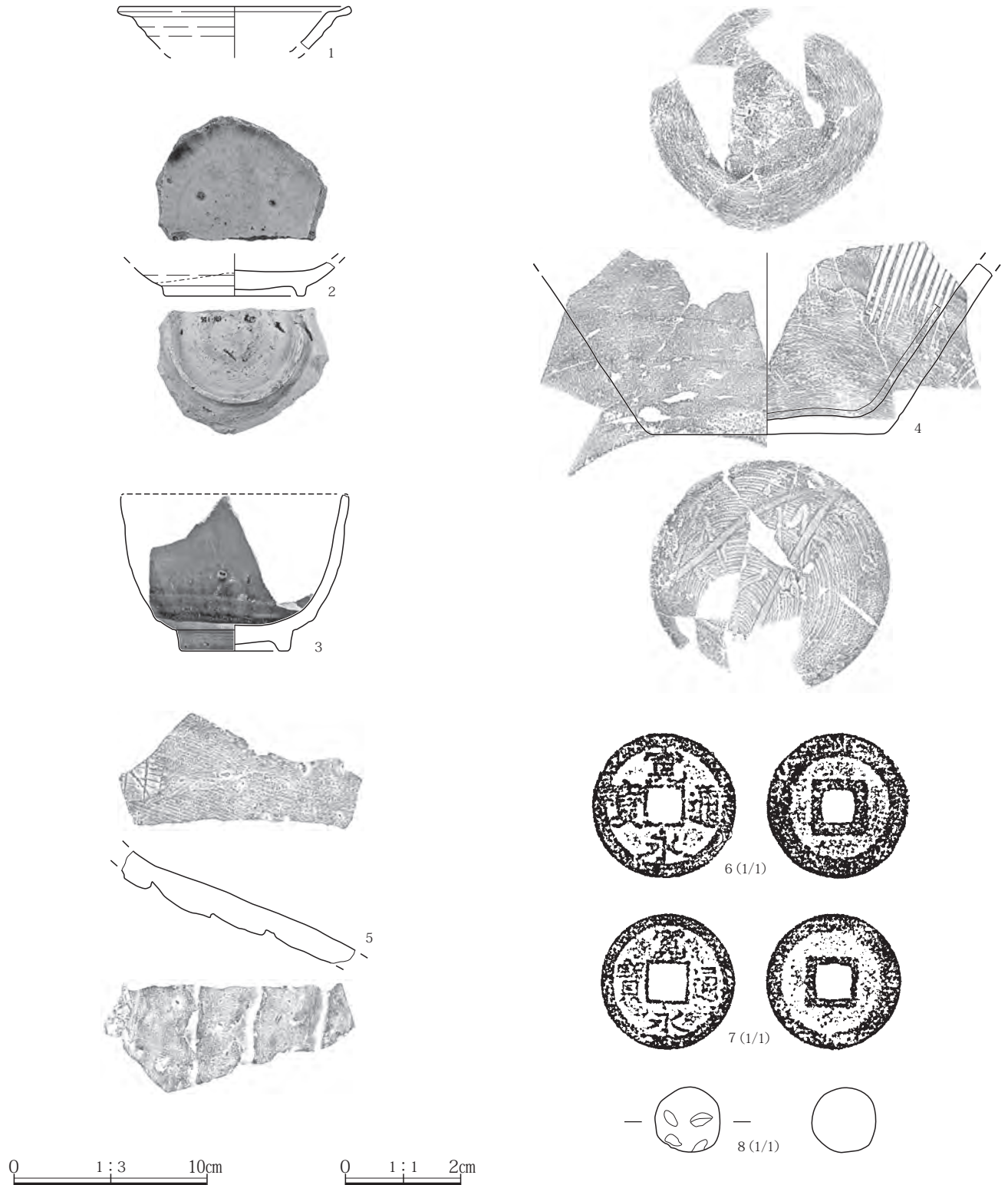
第4章 中遺跡の遺構と遺物

区	遺構名称	X座標	Y座標	主軸方位	長軸 (cm)	短軸 (cm)	高さ (cm)	平面形	断面形	埋土	PL.番号
1区	8号ピット	32,976	-84,445-84,446	N-33°-W	44	43	47	楕円形	長方形	白色粒子含む黒色土	
1区	9号ピット	32,976	-84,445	N-64°-E	38	32	19	楕円形	台形	褐色土粒含む暗褐色土主体	
1区	10号ピット	32,975	-84,445-84,446	N-80°-E	50	36	16	隅丸方形	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	11号ピット	32,974・32,975	-84,445	N-32°-W	(60)	46	36	(楕円形)	(台形)	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	12号ピット	32,975・32,976	-84,442-84,443	N-12°-W	53	48	23	隅丸長方形	長方形	白色粒子含む黒色土主体	
1区	13号ピット	32,974・32,975	-84,443	N-30°-E	37	31	20	隅丸長方形	長方形	白色粒子黒色土主体	
1区	14号ピット	32,974	-84,443-84,444	N-69°-E	43	42	24	不明	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	15号ピット	32,973・32,974	-84,443-84,444	N-21°-W	38+	48	49	不明	(台形)	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	16号ピット	32,979	-84,448	N-17°-E	44	20+	50	不明	台形	白色粒子含む黒色土主体	
1区	17号ピット	32,975	-84,445	N-2°-W	53	46	61	(楕円形)	(台形)	白色粒子含む黒色土主体	PL.72-1
1区	18号ピット	32,972	-84,444-84,445	N-15°-W	44	43	51	楕円形	台形	白色粒子、褐色土含む黒褐色土主体	PL.72-2・3
1区	19号ピット	32,972	-84,446-84,447	N-56°-W	45	40	61	不整形	台形	軽石粒含む黒褐色土	
1区	20号ピット	32,971	-84,447	N-31°-W	31	30	23	楕円形	台形	軽石粒含む黒褐色土	
1区	21号ピット	32,973	-84,439	N-11°-E	42	42	59	隅丸方形	台形	As-YP粒、ローム土粒含む黄褐色土主体	PL.72-4・5
1区	22号ピット	32,973・32,974	-84,440	N-31°-W	38	32	67	楕円形	長方形	ローム土粒含む暗褐色土主体	PL.72-6・7
1区	23号ピット	32,973	-84,440-84,441	N-76°-E	56	41	70	楕円形	逆三角形	ローム土粒含む黒褐色土主体	PL.72-8・73-1
1区	24号ピット	32,977・32,978	-84,447-84,448	N-75°-E	50	39	56	不整形	不整形	ローム土粒含む暗褐色土主体	PL.73-2・3
1区	25号ピット	32,976	-84,448	N-72°-E	31	28	33	隅丸長方形	台形	ローム土粒含む暗褐色土主体	PL.73-4・5
1区	26号ピット	32,974	-84,449	N-2°-W	30	27	36	楕円形	台形	As-YP含む暗褐色土主体	PL.73-6・7
1区	27号ピット	32,982・32,983	-84,440-84,441	N-33°-W	45+	62	47	不明	台形	暗褐色土含む黒褐色土主体	
1区	28号ピット	32,977・32,978	-84,441	N-47°-E	23+	47	56	不明	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	29号ピット	32,961・32,962	-84,458	N-29°-E	49	38	47	楕円形	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	30号ピット	32,939・32,940	-84,466	N-3°-E	50	39	34	楕円形	逆三角形	ローム土粒含む暗褐色土主体	
1区	31号ピット	32,932	-84,460	N-30°-E	58	55	26	楕円形	不整形	As-YP粒、ローム土粒含む黒褐色土主体	
1区	32号ピット	32,975・32,976	-84,447-84,448	N-56°-E	40	(38)	43	隅丸方形	台形	As-YP含む黒褐色土	
1区	33号ピット	32,958・32,959	-84,453	N-54°-E	42	38	41	楕円形	(台形)	不明	
1区	34号ピット	32,958・32,959	-84,451-84,452	N-19°-W	52	42	47	不整形	不整形	黄褐色土含む黒褐色土主体	PL.73-8
1区	35号ピット	32,961	-84,454-84,455	N-75°-W	48	43	55	楕円形	逆三角形	ローム土粒含む暗褐色土主体	PL.74-1・2
1区	36号ピット	32,978	-84,446-84,447	N-42°-E	48	36	30	楕円形	逆三角形	As-YP粒、ローム土粒含む黄褐色土主体	
1区	37号ピット	32,979	-84,446	N-56°-E	44	34	28	楕円形	逆三角形	As-YP、ローム土粒含む暗褐色土	
1区	38号ピット	32,983	-84,433	N-63°-E	(72)	(51)	54	(楕円形)	逆三角形	As-YP粒、ローム土粒含む暗褐色土主体	
1区	39号ピット	32,951	-84,459-84,460	N-53°-W	16	15	15	隅丸長方形	長方形	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	40号ピット	32,902	-84,468	N-67°-W	21	20	15	隅丸方形	台形	黒褐色土含む暗褐色土	
1区	41号ピット	32,896	-84,471	N-76°-E	25	25	22	隅丸方形	逆三角形	黒褐色土含む暗褐色土	
1区	42号ピット	32,894・32,895	-84,471	N-18°-E	26	25	24	隅丸方形	逆三角形	白色粒子含む黒色土	
1区	43号ピット	32,893	-84,430	N-33°-E	38	36	9	楕円形	台形	黒色土粒含む黒褐色土	
1区	44号ピット	32,985	-84,433	N-77°-W	43	42	15	隅丸方形	台形	黒色土粒含む黒褐色土	
1区	45号ピット	32,982	-84,442	N-10°-W	38+	50	32	不明	台形	ローム含む暗褐色土主体	
1区	46号ピット	32,982・32,983	-84,429	N-2°-E	42	38	77	楕円形	台形	ローム含む暗褐色土主体	PL.74-3・4
1区	47号ピット	32,979・32,980	-84,437	N-6°-E	43	41	53	楕円形	台形	黒色土主体	
1区	48号ピット	32,982	-84,442	N-50°-E	29+	50	24	不明	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	49号ピット	32,982	-84,442	N-90°-E	28	25	51	楕円形	不明	不明	
1区	50号ピット	32,983	-84,438-84,439	N-30°-E	47	37	23	楕円形	台形	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	51号ピット	32,982	-84,436-84,437	N-86°-E	17	15	34	隅丸長方形	逆三角形	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	52号ピット	32,946	-84,450	N-4°-E	33	22+	39	(隅丸方形)	不明	ローム土粒含む暗褐色土	
1区	53号ピット	32,945・32,946	-84,449	N-4°-E	32	21+	43	楕円形	逆三角形	白色粒子含む暗褐色土	
1区	54号ピット	32,960	-84,443	N-7°-W	34	29	12	隅丸長方形	台形	白色粒子含む暗褐色土	
1区	55号ピット	32,962・32,963	-84,445-84,446	N-0°	40	32	13	隅丸長方形	台形	白色粒子含む暗褐色土主体	
1区	56号ピット	32,980	-84,428	N-76°-W	40	28	61	楕円形	逆三角形	にぶい黄褐色土主体	
1区	57号ピット	32,984	-84,423	N-48°-E	36	32	46	楕円形	台形	ローム含む黒褐色土主体	PL.74-5・6
1区	58号ピット	32,987	-84,426-84,427	N-5°-W	13+	28	49	不明	逆三角形	As-YP含む暗褐色土	
1区	59号ピット	32,986	-84,426	N-13°-W	32	26	63	楕円形	逆三角形	As-A粒含む暗褐色土	
1区	60号ピット	32,982	-84,427	N-24°-E	24	16	42	楕円形	逆三角形	白色粒子含む黒褐色土	
1区	61号ピット	32,981	-84,427-84,428	N-60°-E	43	27	6	楕円形	台形	As-YP粒、ローム土粒含む黄褐色土	
1区	62号ピット	32,981	-84,428	N-76°-E	29	29	3	隅丸方形	台形	黒褐色土粒、As-YP粒、ローム土粒含む暗褐色土	
1区	63号ピット	32,983・32,984	-84,425	N-3°-W	35	33	28	楕円形	台形	白色粒子含む黒褐色土	PL.74-7・8
1区	64号ピット	32,981・32,982	-84,428	N-54°-E	40	31	47	楕円形	逆三角形	褐色粒子含む黒褐色土	
1区	65号ピット	32,982・32,983	-84,428	N-44°-E	63	57	17	楕円形	台形	As-YP、ローム土含む暗褐色土主体	
1区	66号ピット	32,983	-84,427	N-48°-E	49	38	69	楕円形	不整形	As-YP含む暗褐色土主体	PL.75-1・2
1区	67号ピット	32,983・32,984	-84,427-84,428	N-67°-E	28	21	26	隅丸長方形	台形	白色粒子含む黒褐色土	
1区	68号ピット	32,985	-84,426	N-77°-E	18	17	15	楕円形	台形	白色粒子含む黒色土	
1区	69号ピット	32,981	-84,426	N-46°-W	34	29	41	楕円形	台形	黒色土粒含む暗褐色土	PL.75-3・4
1区	70号ピット	32,981	-84,425-84,426	N-25°-W	31+	47	40	不明	不整形	As-YP、ローム土含む暗褐色土主体	PL.75-5・6
1区	71号ピット	32,983・32,984	-84,426	N-59°-E	32	17	25	楕円形	不整形	As-YP、ローム土含む暗褐色土主体	PL.75-7・8
1区	72号ピット	32,985・32,986	-84,427	N-86°-E	31	27	26	隅丸長方形	台形	白色粒子含む黒褐色土	
1区	73号ピット	32,960	-84,443-84,444	N-13°-E	50	48	33	隅丸方形	台形	As-YP粒含む黄褐色土	
1区	74号ピット	32,960	-84,443	N-81°-W	38	26	23	楕円形	台形	黒色土粒、As-YP含む暗褐色土	
2区	1号ピット	33,001	-84,431	N-63°-W	46	28+	29	不明	不整形	白色粒子含む黒色土	
2区	2号ピット	33,031	-84,426-84,427	N-69°-W	34	27	43	楕円形	逆三角形	白色粒子含む黒色土	
2区	3号ピット	33,027・33,028	-84,425	N-39°-E	60	47	43	楕円形	逆三角形	白色粒子含む黒色土	PL.68-3・4
2区	4号ピット	33,027	-84,424	N-60°-W	20+	27	32	(楕円形)	逆三角形	白色粒子含む黒色土	

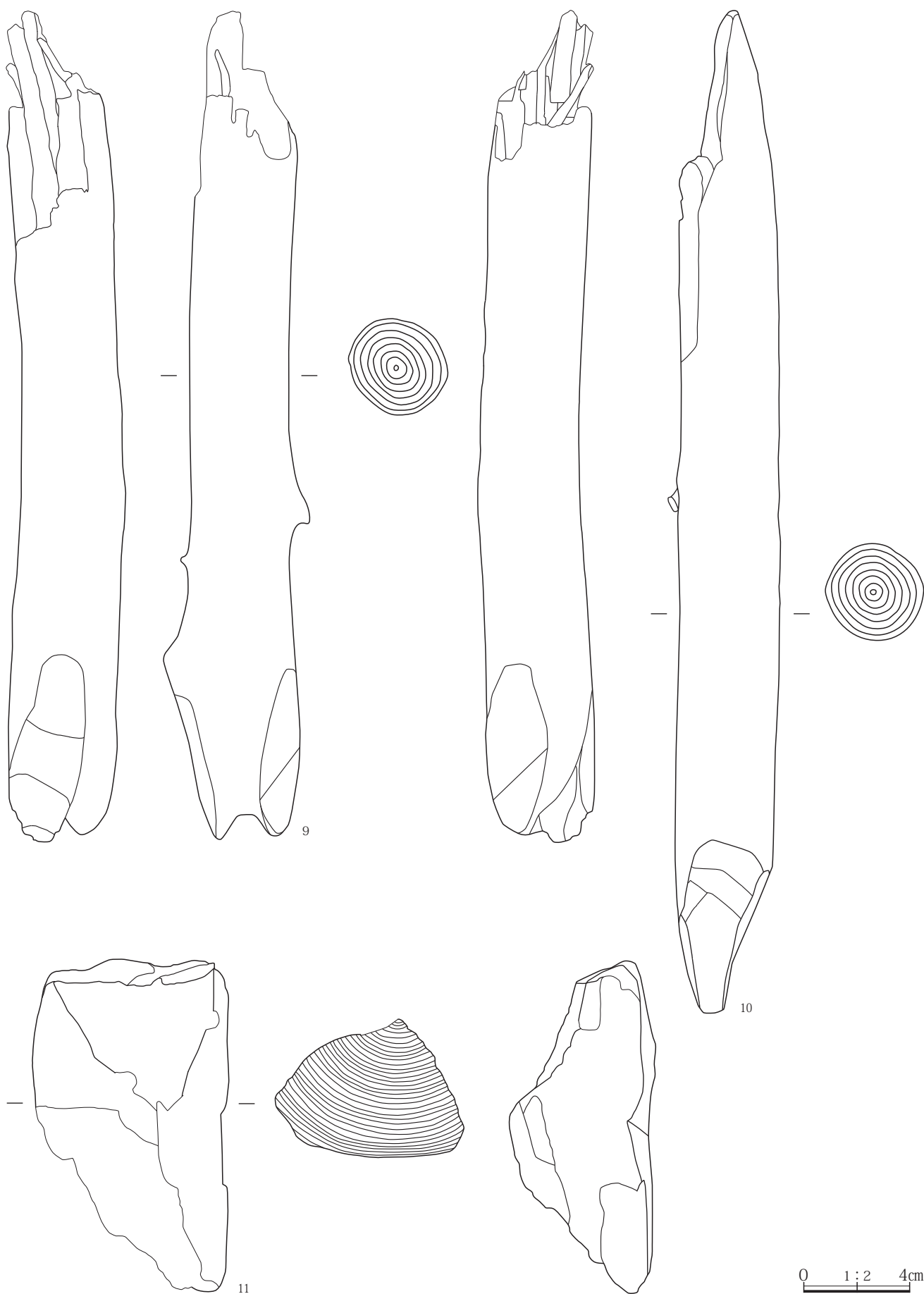
(9) 遺構外出土遺物(第144~148図 PL.83~85)

図示した遺物は、中近世の陶器4点(瀬戸・美濃陶器3点、常滑陶器1点)、縄文土器45点(有尾式・諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式・下島式または十三菩提式・晴ヶ峯式・

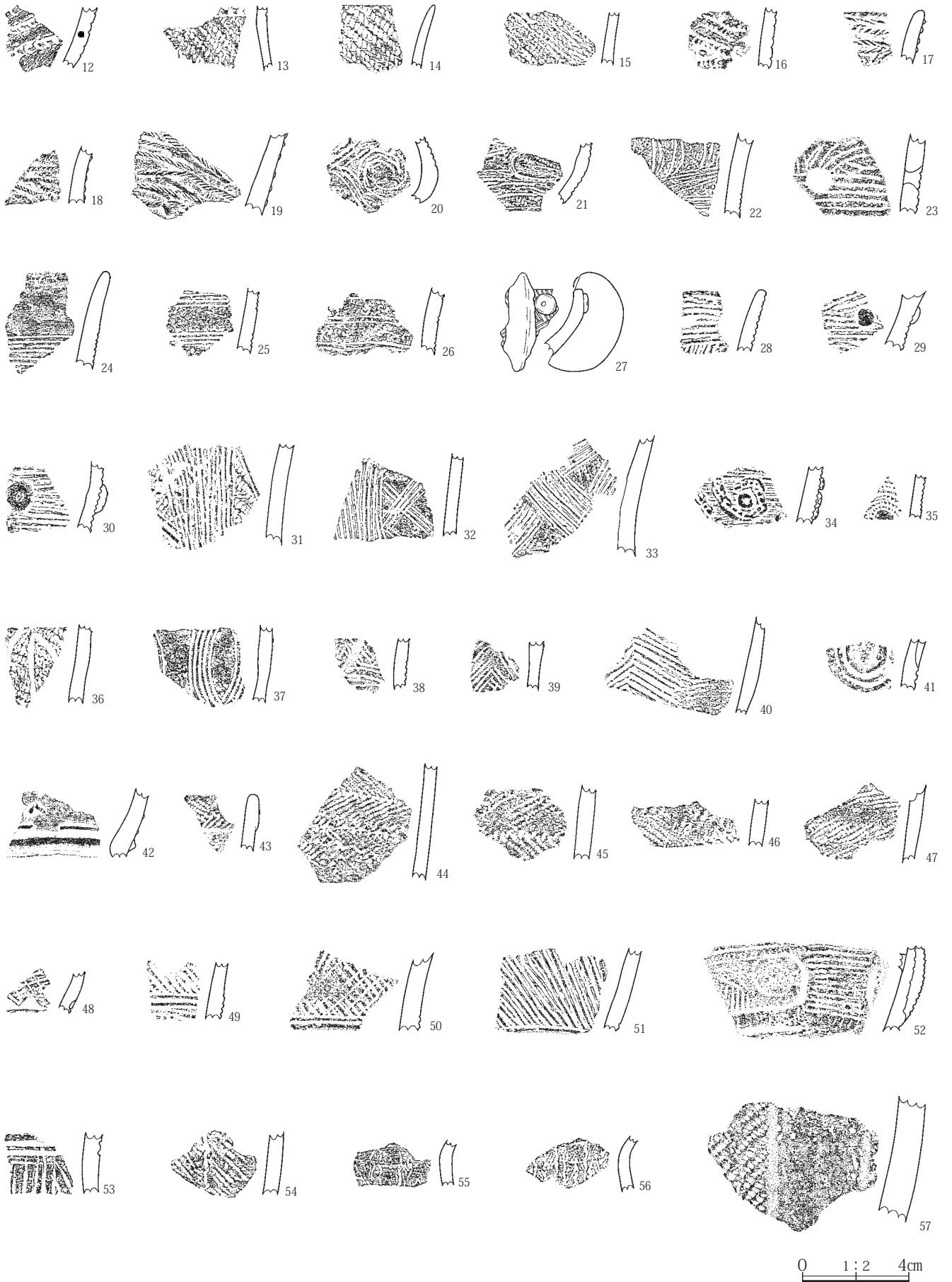
松原土器・五領ヶ台式器・加曾利E3式など)、石器14点(尖頭器・打製石斧・楔形石器・石核・磨製石斧など)である。



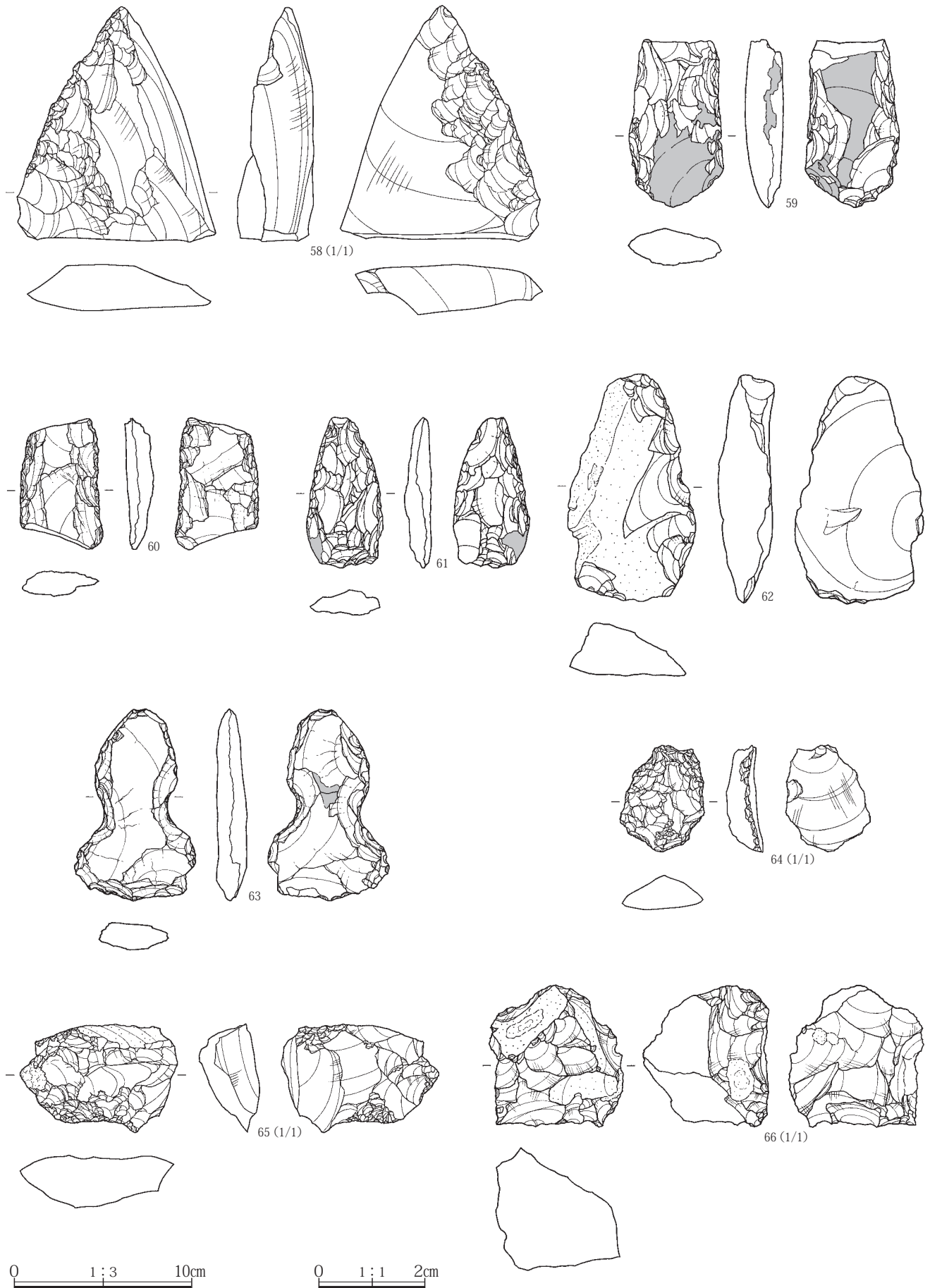
第144図 遺構外出土遺物(1)



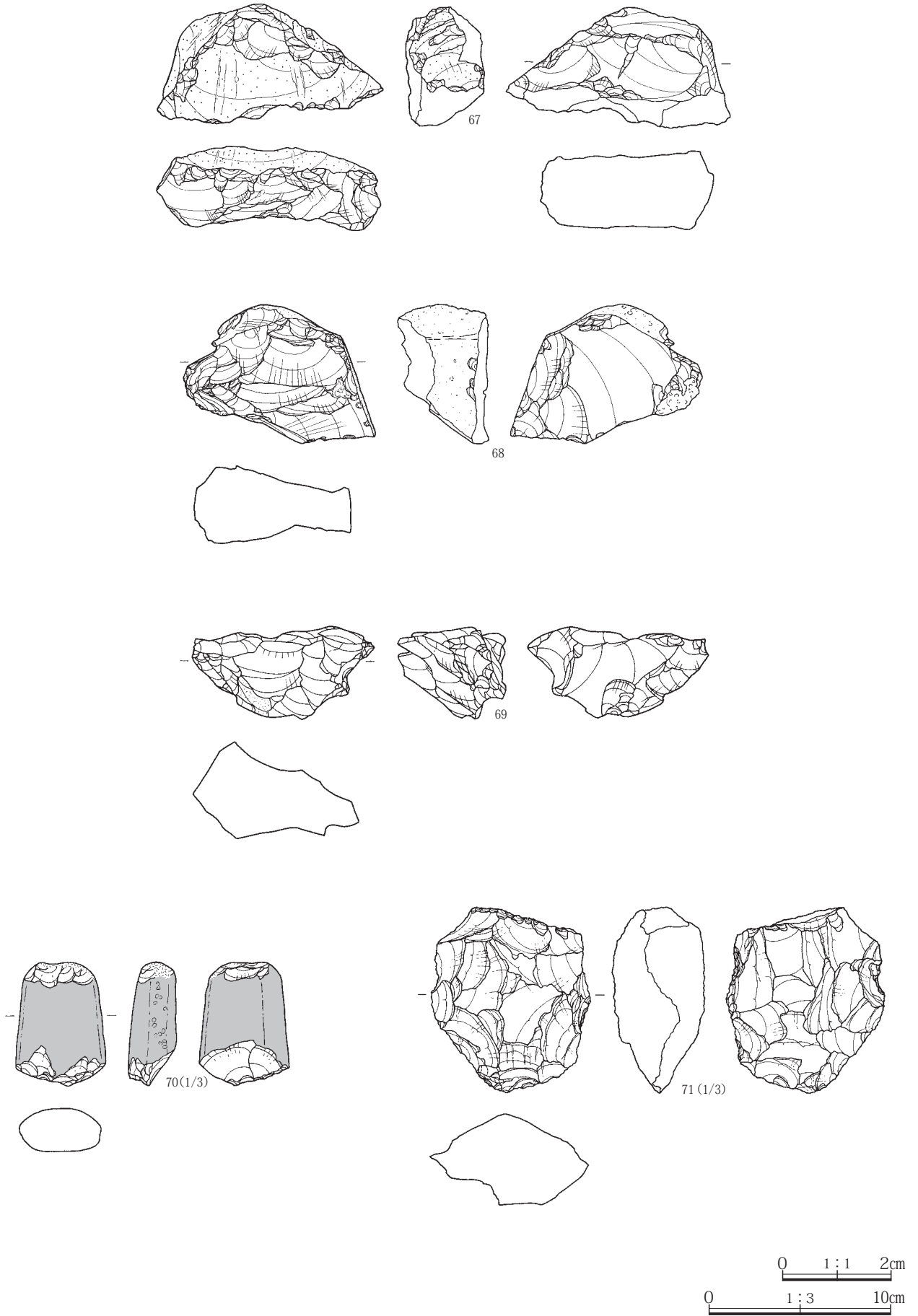
第145図 遺構外出土遺物(2)



第146図 遺構外出土遺物(3)



第147図 遺構外出土遺物(4)



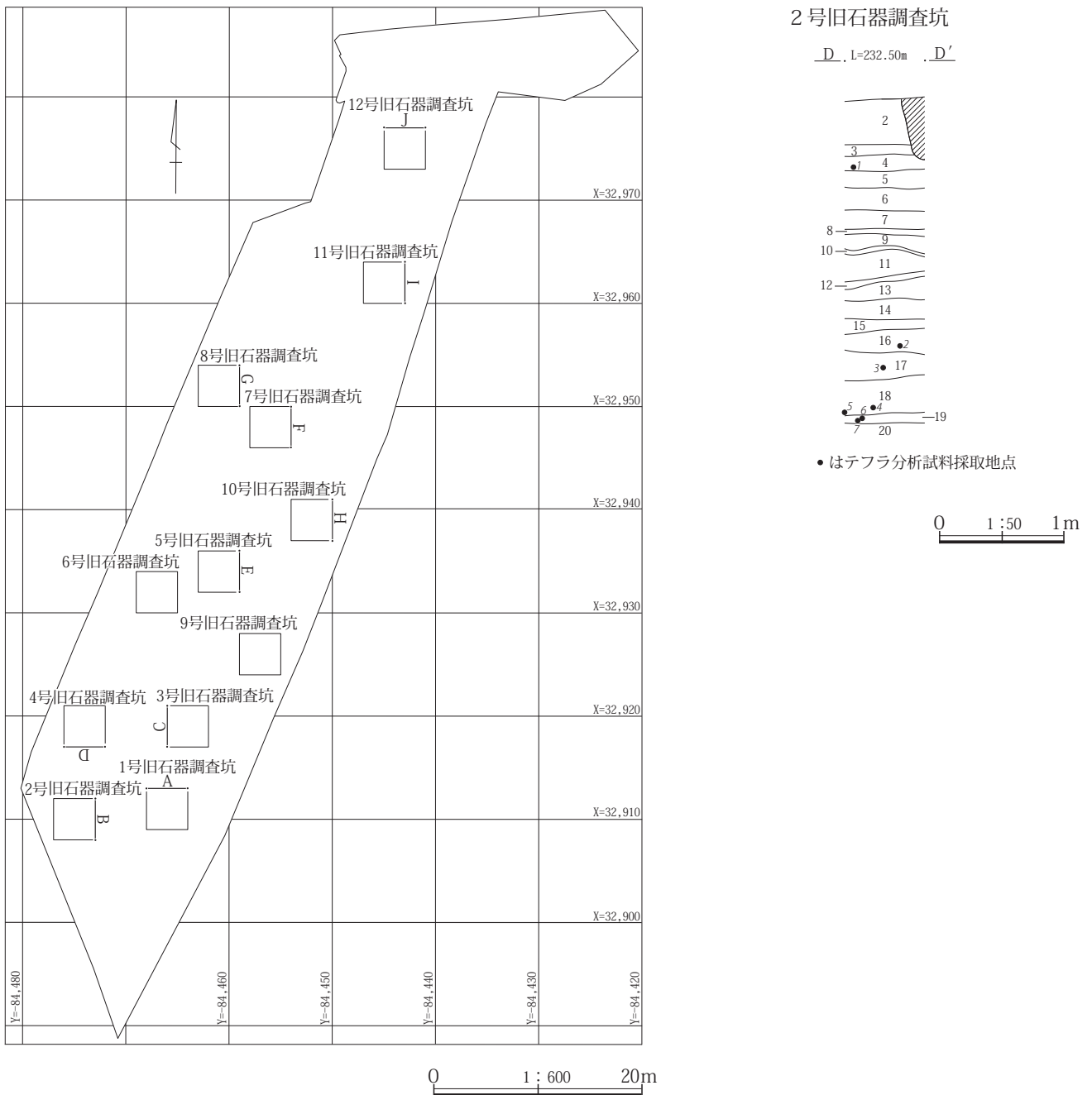
第148図 遺構外出土遺物(5)

(10)旧石器確認調査

1区のほぼ全域にロームの堆積が認められた。そのため、遺構調査が終了後に旧石器の確認調査を行った。4m×4mの調査坑を12か所設置して暗色帯層まで掘削した。調査坑の設定位置と断面確認地点は第149図のとおりである。なお、断面図はテフラの分析をした2号調査坑を第149図に、その他の調査坑は巻末に写真を掲載した。(PL.76・77)

最終面から暗色帯までの掘削深度は、1号調査坑2.49m、2号調査坑2.72m、3号調査坑2.65m、4号調査坑2.63m、5号調査坑2.89m、6号調査坑2.85m、7号調査坑2.96m、8号調査坑3.10m、9号調査坑3.08m、10号調査坑2.92m、11号調査坑2.29m、12号調査坑2.76mである。

いずれの調査坑からも旧石器は確認されなかった。



第149図 旧石器調査坑位置図と2号旧石器調査坑土層断面図

第13表 中遺跡 出土遺物観察表

1区1号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 稜	高				
第78図 PL.78	1	土師器 杯	埋没土 2/3	口 稜	11.2 11.1	高	4.7	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄褐	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第78図 PL.78	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	12.8 11.2	高	4.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、口縁外傾。
第78図 PL.78	3	土師器 杯	床直 1/4	口 稜	11.8 9.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、口縁外傾。
第78図 PL.78	4	土師器 高杯	埋没土 口縁部～脚部中 位	口 稜	16.9 10.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、稜上強い横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、 脚部ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。
第78図 PL.78	5	土師器 高杯	カマド、埋没土 杯部1/3	口 稜	18.4 11.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第78図 PL.78	6	土師器 高杯	カマド、埋没土 杯部1/4	口 稜	18.0 10.1			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第78図	7	土師器 高杯	床直 底部～脚部上位					細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	杯部底面放射状にヘラミガキ、脚部外面ヘラケズリ後にヘ ラミガキ、脚部内面ナデ。
第78図 PL.78	8	土師器 鉢か	埋没土 1/4					細砂粒・粗砂粒/ やや不良/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、底部ナデ、内面輪積痕。
第78図 PL.78	9	土師器 小型甕	床直 1/3	口 底	11.2 6.1	高	11.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ後にヘラミガキか、胴部 下位ヘラケズリ。
第78図	10	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上 位	口	14.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。
第78図 PL.78	11	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下 位	底	7.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶ い褐	胴部下位ヘラケズリ。
第78図 PL.78	12	土師器 甕	床直 2/3	口 底	26.2 8.8	高	27.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、下位ヘラケズリ、内面 ヘラミガキ、内面下部ヘラナデ。

1区2号竪穴建物出土遺物

第80図 PL.78	1	土師器 杯	床直 1/5	口 稜	13.9 14.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶ い褐	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第80図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部	口 稜	11.8 12.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶ い黄橙	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面燻し。
第80図	3	土師器 高杯	床直 脚部下位	底	14.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	横ナデ、のちにヘラミガキ。
第80図 PL.78	4	土師器 小壺	床直 1/2	口 稜	10.4 11.2	高	9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面ナデ。
第80図	5	土師器 小壺	床直 口縁部～胴部 1/3	口 稜	9.0 11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面ナデ。
第81図	6	土師器 短頸壺	床直 口縁部～胴部	口	12.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラナデ、内面ナデ。
第81図 PL.78	7	土師器 壺	床直、貯蔵穴 底部～胴部下 位	底	6.4			細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。

1区3号竪穴建物出土遺物

第84図 PL.79	1	土師器 杯	埋没土 完形	口 稜	12.2 14.1	高	4.6	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/明赤褐	身模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面口縁 部から体部横ナデ。
第84図 PL.79	2	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	12.0 12.9	高	3.9	細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	身模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面口縁 部から体部横ナデ、内外面燻し。
第84図 PL.79	3	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	12.4 13.5	高	4.6	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/黒褐	身模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面口縁 部～体部横ナデ、内外面燻し。
第84図 PL.79	4	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 稜	12.7 14.1	高	4.8	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/黒褐	身模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第84図	5	土師器 杯	床直 口縁部～体部	口 稜	12.8 12.2			細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/明赤褐	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜部沈線一条、稜下～底部ヘラケ ズリ。
第84図 PL.79	6	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	口 稜	11.2 11.5	高	4.8	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/橙	蓋模倣。口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、内面ヘラ ミガキ、内面黒色処理。
第84図 PL.79	7	土師器 高杯	埋没土 口縁部～脚部上 位	口 稜	17.2 10.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ、脚部ヘラナデ。
第84図 PL.79	8	土師器 高杯	床直 杯部片	口 稜	18.2 11.5			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第84図 PL.79	9	土師器 高杯	埋没土 杯部1/2	口 稜	17.4 10.6			細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/橙	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第84図	10	土師器 高杯	埋没土 杯部1/4	口 稜	18.4 9.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。
第84図	11	土師器 高杯	埋没土 脚部片					細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/橙	外面ヘラケズリ、内面粘土紐痕。
第84図 PL.79	12	土師器 鉢	埋没土 3/4	口 底	12.2 7.8	高	7.4	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/明黄褐	調整甘い、外面体部に輪積痕残る。口縁部横ナデ、体部は ナデ、一部に指頭痕、底部ヘラケズリ、内面底部～体部に 強いヘラナデ。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第84図 PL.79	13	土師器 小型甕	貯蔵穴底直 2/3	口 底	13.6 6.0	高	13.3	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/にぶい 褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、内面横ナデ。	
第85図 PL.79	14	土師器 長胴甕	埋没土 3/4	口 底	18.8 6.1	高	31.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/赤褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、内面横ナデ。	
第85図 PL.79	15	土師器 長胴甕	床直 口縁部～胴部上 位	口	18.8			細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、内面ナデ。	
第85図 PL.80	16	土師器 甕	埋没土 口縁部一部欠損	口 底	23.2 8.9	高	28.8	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/にぶい 黄橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。	
第85図 PL.80	17	土師器 甕	床直、埋没土 4/5	口 底	16.8 4.0	穴 高	2.3 15.9	細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/にぶい 橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、内面ヘラミガキか。	
第85図	18	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位	口	19.4	0		細砂粒・粗砂粒・ 小礫/良好/赤褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、内面ヘラミガキ。	

1区5号竪穴建物遺物出土遺物

第88図 PL.80	1	弥生土器 高杯	床直 杯部	口	13.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/明黄褐	内外面ヘラミガキ。	
第88図 PL.80	2	弥生土器 高杯	床直 一部欠	口 底	11.7 10.1	高	10.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面ヘラミガキ、赤彩。	
第88図	3	土師器 埴	埋没土 口縁部片	口 稜	17.4 10.6			細砂粒・粗砂粒・ 小礫/やや不良/橙	外面調整不明、内面ヘラミガキ。	
第88図 PL.81	4	弥生土器 甕	床直 ほぼ完形	口 底	14.0 5.6	高	15.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ。口縁部に輪積痕。内面口縁部ヘラミガキ。	
第88図 PL.81	5	弥生土器 甕	埋没土 ほぼ完形	口 底	13.4 6.5	高	17.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、胴部中位～下位ヘラミガキ、底部ヘラケズリ。口縁部～胴部上位輪積痕。内面ヘラミガキ。	
第88図 PL.80	6	弥生土器 壺	床直 口縁～肩部	口	17.2			細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁に櫛描波状文をめぐらす。頸部に3連止め廉状文、肩部に2帯の櫛描波状文をめぐらし、3連止め廉状文で画す。施文具は9歯、13mm。口頸部疎らな縦ミガキ、胴部、内面横ミガキ。	樽式
第88図 PL.80	7	弥生土器 甕	床直 完形	口 底	15.2 6.7	高	27.0	細砂/良好	口縁から胴上位にかけてRL縄文を横位施文する。口縁部に輪積痕を4段残すが、縄文施文により部分的につぶれている。胴中位横ナデ、下半横ミガキ。内面口頸部ケズリ後、口縁部横ミガキ、胴部横ミガキ。	吉ヶ谷式

1区1号方形周溝墓出土遺物

第91図 PL.81	1	土師器 高杯	1/2	口 底	16.4 11.6	高	15.9	細砂粒/良好/橙	口縁部～体部横ナデのちヘラミガキ、杯底部ヘラケズリのち底部に放射状、口縁部に斜放射にヘラミガキ、内面ナデのちヘラミガキ。脚部ヘラミガキ、内面ナデ。	
第91図	2	土師器 高杯	脚部上位					細砂粒・粗砂粒/ 良好/明褐	内面に粘土紐巻上げによる輪積痕が残る。外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	
第91図	3	土師器 埴	口縁部片	口	13.2			細砂粒/良好/橙	横ナデのちヘラミガキ、内面横ナデ。	
第91図 PL.81	4	土師器 小壺	口縁部～胴部 1/3	口	10.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデのちヘラナデ、胴部ヘラナデ、内面横ナデ。	
第91図 PL.81	5	土師器 小壺	口縁部～胴部上 位1/3	口	10.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/黒褐	口縁部上位横ナデ、下位ヘラナデ、胴部ヘラナデ、内面ナデ。	
第91図 PL.81	6	ミニチュア 高杯	杯底部～脚部					細砂粒・粗砂粒/ やや不良/にぶい 橙	内外面ヘラナデ。	

3区1号溝出土遺物

第103図	1	須恵器 杯	口縁部片	口	16.0			細砂粒/良好/灰白	ロク調整。	
第103図	2	土師器 壺	底部～胴部下 位	底	7.0			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面ヘラケズリ、内面ナデ。	
第103図 PL.81	3	木片 板材	一部	長 幅	18.0 9.0	厚	1.6	-	板状の木材。中心部に斜めに穴をあけている。全体が欠けているので不明な部分が多いが、未製品等の可能性がある。	
第103図 PL.81	4	木片 板材	一部	長 幅	7.4 7.4	厚	1.8	-	板材の雰囲気を持つが詳細不明。人為的な加工を持つとみられる。	

3区4号溝出土遺物

第103図	5	常滑陶器 甕	体部片	口 底	-	高	-	灰	内面の一部に薄い自然釉。外面に叩き目。外面に自然釉なく体部中位以下片と推定される。	12世紀中葉～ 13世紀初頭か
-------	---	-----------	-----	--------	---	---	---	---	---	--------------------

1区1号石列出土遺物

第106図 PL.82	1	瀬戸・美濃 陶器 徳利か	体部一部、底部 3/4	口 底	- 8.0	高	-	淡黄	内面の轆轤目顕著。内面は鉄化粧風にごく薄く釉がかかる。外面は胎釉施後後に体部下端以下を拭う。	江戸時代
第106図	2	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	口縁部から体部 片1/8	口 底	(12.0) -	高	-	淡黄	外面に多条の横線。外面体部下端面取り。口縁部から体部下端面付近に胎釉。	17世紀～18世紀
第106図 PL.82	3	製作地不詳 磁器 釉下彩碗	口縁部1/2欠	口 底	7.7 3.5	高	4.4	白	正面に菊、裏面に蝶を描く。菊の茎と葉は酸化コバルトによる手描き。菊花と蝶は黒色絵具による吹き墨。	近現代

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第106図 PL.82	4	瀬戸・美濃 陶器か 皿	口縁部一部、底 部1/2	口 底	-	高	灰白	貼付け脚2カ所残存。脚は3カ所か。残存部から楕円皿と推測される。脚端部を除いて灰釉施釉。底部外面の一部は釉を拭う。細かい貫入入る。白濁した部分の釉は剥がれる。釉調は御深井陶器に似る。	江戸時代	
第106図 PL.82	5	在地系土器 焙烙	破片	口 底	-	高	鈹物多く含む/褐 灰	胎土は砂っぽい感を受ける。内耳下部は体部内面に貼り付ける。内耳上部は吊り紐によると推定される摩滅で切断寸前の状態。	江戸時代	
第106図 PL.82	6	肥前陶器 碗	口縁部一部、底 部1/2	口 底	(8.0) (4.5)	高	5.7 赤灰	内外面白土刷毛塗り後に施釉。高台端部のみ無釉。	江戸時代	
第106図 PL.82	7	瀬戸・美濃 陶器 碗	底部	口 底	-	高	-	淡黄	内面に鉛釉。体部を人為的に割っている可能性がある。	江戸時代
第106図 PL.82	8	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	口縁部から体部 片	口 底	-	高	-	淡黄	内面すり目。口縁部は屈曲して内湾し、端部は外方に折り返す。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第106図 PL.82	9	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	口縁部から体部 片	口 底	-	高	-	灰白	内外面に鉛釉施釉後、口縁部に藁灰釉を施釉。口縁部の釉は明瞭で範囲は広い。	17世紀～18世 紀前葉
第106図 PL.82	10	肥前陶器 呉器手碗	口縁部一部、底 部完	口 底	(11.0) 4.7	高	7.5 灰白	高台内の挟りはやや浅く、器高もやや低い。高台端部付近を除き透明釉を施釉。釉に貫入入る。	17世紀後葉～ 18世紀前葉	
第106図 PL.82	11	瀬戸・美濃 陶器 碗	体部一部、底部 完	口 底	-	高	-	淡黄	内面から高台脇に鉛釉。高台脇以下にごく薄い鉄化粧。高台端部に糸切痕残り、削り出し高台。	17世紀～18世 紀前葉
第106図 PL.82	12	銅製品 煙管(雁首)	完形	長 幅	6.0 1.9	厚 重	0.8 7.9		側面につなぎ目が見られる。肩、補強帯は見られない。	
3区1号石列出土遺物										
第108図 PL.82	1	在地系土器 片口鉢	口縁部～体部 1/4	口 底	-	高	-	白色鈹物含む/に ぶい橙	器表付近から器表灰色。口縁部内面と口縁端部内面に擦れ。口縁部の器壁はやや薄い。	14世紀後半～ 15世紀前半
1区15号土坑出土遺物										
第114図	1	須恵器 杯蓋	口縁部片	口	15.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ調整。	
1区21号土坑出土遺物										
第115図 PL.82	1	ガラス製品 菓子容器	ほぼ完形	口 底	3.8 1.7	高	1.3	透明	型による成型。口縁端部内面と高台端部外面にバリ残る。	近現代
1区36号土坑出土遺物										
第120図 PL.82	1	瀬戸・美濃 陶器 德利	底部	口 底	-	高	-	淡黄	体部外面下端以下は回転篋削り。外面に錫釉施釉後、体部下端以下の釉を拭う。	江戸時代
1区52号土坑出土遺物										
第124図 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底直 胴部破片					細砂、輝石/良好	RL縄文を横位、斜位施文する。	諸磯a式
2区16号土坑出土遺物										
第133図	1	古瀬戸陶器 か 瓶類	体部片	口 底	-	高	-	灰白	内面は無釉。外面は灰釉で細かい貫入入る。	13世紀～15世 紀か
遺構外出土遺物										
第144図 PL.83	1	瀬戸・美濃 陶器 反皿	口縁部1/6	口 底	(11.8) -	高	-	灰白	口縁部外反し、内面は窪む。内外面灰釉。大窯Ⅲ期後半か。	16世紀後半か
第144図 PL.83	2	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	底部1/2	口 底	-	高	-	灰白	内面は型により花卉を表現。外面の残存部は無文。内面から高台脇に灰釉。内面周縁に銅緑釉。底部内面に目痕2箇所残存。	江戸時代
第144図 PL.83	3	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	口縁部一部、底 部完	口 底	-	高	-	灰白	内面から高台脇に鉛釉。口縁部に藁灰釉。口縁部の藁灰釉範囲は広い。高台脇以下は鉄化粧。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第144図 PL.83	4	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	体部一部、底部 完	口 底	-	高	-	淡黄	内面にためのすり目。右回転糸切無調整。錫釉施釉後に体部外面下位以下を拭う。体部内面から底部内面は使用による摩滅が著しい。	江戸時代
第144図	5	常滑陶器 甕	頸部片	口 底	-	高	-	灰	内面器表は褐灰色、外面器表は暗赤褐色。内面の接合痕明瞭。外面の下位に叩き目。外面の上半に自然釉。	中世。
第144図 PL.83	6	銭貨 古寛永	完形	外 内	2.498 2.004	厚 重	0.143 3.9		面の彫は明瞭だが文字は見えづらい。背の郭がやや太い。彫は明瞭。	
第144図 PL.83	7	銭貨 新寛永	完形	外 内	2.352 1.910	厚 重	0.139 3.0		面、背ともに彫はやや浅いが明瞭。	
第144図	8	金属製品 鉛玉	ほぼ完形	-	1.1 -	- 重	- 8.5		ほぼ球状。全体が劣化により白色化する。一部へこみが見られる。	
第145図 PL.83	9	木片 杭	一部欠損	長	31.2 3.7	- -	- -		枝を利用した杭。節が残る材を利用したもの。先端部を両側から落とした様子が見られる。	
第145図 PL.83	10	木片 杭	一部欠損	長	37.5 3.7	- -	- -		先端部を4面カットする。枝を利用した杭。加工痕が確認できる。	
第145図 PL.83	11	木片 杭か	一部	長 幅	12.5 7.4	厚 -	5.5		劣化した杭とみられる。欠損と劣化で詳細不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第146図 PL.84	12	縄文土器 深鉢	1号竪穴 胴部破片		細砂、繊維/ふつ う	斜行する爪形文を複数条施す。	有尾式
第146図 PL.84	13	縄文土器 深鉢	1号方形周溝墓 胴部破片		細砂、輝石/良好	RL縄文を横位施文し、横位爪形文を施す。	諸磯a式
第146図 PL.84	14	縄文土器 深鉢	1号方形周溝墓 口縁部破片		細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第146図 PL.84	15	縄文土器 深鉢	2号竪穴 胴部破片		細砂/良好	RL縄文を横位施文する。	諸磯a式
第146図 PL.84	16	縄文土器 深鉢	16号土坑 胴部破片		粗砂/良好	横位、斜位の連続爪形文を施す。	諸磯b式
第146図 PL.84	17	縄文土器 深鉢	1号竪穴 口縁部破片		粗砂、チャート細 礫/ふつう	横位、弧状の浮線を施す。	諸磯b式
第146図 PL.84	18	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		細砂/良好	横位、弧状の浮線を施す。	諸磯b式
第146図 PL.84	19	縄文土器 深鉢	4号竪穴 口頸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	斜位、弧状の浮線を施す。	諸磯b式
第146図 PL.84	20	縄文土器 深鉢	3号竪穴 口頸部破片		粗砂、輝石/良好	口縁部が内湾する。波状口縁で集合沈線により菱形状の区 画を施すと思われ、内部にワラビ手文を配す。	諸磯b式
第146図 PL.84	21	縄文土器 深鉢	埋土 口頸部破片		粗砂/良好	横位集合沈線をめぐらし、沈線帯間に三角区画を施文、内 部にワラビ手文を配す。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第146図 PL.84	22	縄文土器 深鉢	12号土坑 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位集合沈線をめぐらし、斜位、弧状の集合沈線を施す。 地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第146図 PL.84	23	縄文土器 深鉢	3号竪穴 胴部破片		粗砂/ふつう	横位、弧状の集合沈線を施す。補修孔あり。	諸磯b式
第146図 PL.84	24	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、細礫、輝石 /良好	口縁部が緩く外反する。口縁部を無文帯とし、横位集合沈 線をめぐらす。	諸磯b式
第146図 PL.84	25	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		細砂/良好	横位集合沈線を多段にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第146図 PL.84	26	縄文土器 深鉢	16号土坑 胴部破片		粗砂、細礫、輝石 /良好	横位平行沈線を多段にめぐらす。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯b式
第146図 PL.84	27	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁部が緩く内湾する。縦位鋸歯状の集合沈線を施し、耳 状貼付文、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第146図 PL.84	28	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片		細砂、赤色粒/良 好	口縁部に横位集合沈線帯をめぐらし、以下、斜位の集合沈 線を施す。	諸磯c式
第146図 PL.84	29	縄文土器 深鉢	16号土坑 口頸部破片		粗砂/ふつう	横位、斜位の集合沈線を施し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第146図 PL.84	30	縄文土器 深鉢	17号土坑 胴部破片		粗砂、輝石/良好	横位、斜位の集合沈線を施し、ボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
第146図 PL.84	31	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		粗砂、輝石/良好	集合沈線により縦位区画し、区画内にレンズ状文を施す。 レンズ状文内はX字状か。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯c式
第146図 PL.84	32	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		粗砂/良好	集合沈線により縦位区画し、区画内にレンズ状文を施文、 内部に斜格子目文を充填施文する。	諸磯c式
第146図 PL.84	33	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		粗砂/良好	集合沈線によるレンズ状文を施し、集合沈線を充填施文す る。地文にRL縄文を横位施文。	諸磯c式
第146図 PL.84	34	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		粗砂、輝石/良好	横位集合沈線を地文とし、結節浮線によるワラビ手文など のモチーフ、ボタン状貼付文を施す。結節浮線は太いため、 浮線上に連続刺突を施す様相を呈している。	下島式
第146図 PL.84	35	縄文土器 深鉢	16号土坑 胴部破片		粗砂/良好	結節沈線により渦巻状のモチーフを施す。	下島式
第146図 PL.84	36	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		細砂/ふつう	RL縄文を地文とし、レンズ状に角ばった横S字状沈線を施 す。	大木5式か
第146図 PL.84	37	縄文土器 深鉢	17号土坑 胴部破片		粗砂、輝石/良好	レンズ状の集合沈線を施す。	下島式か十三 菩提式
第146図 PL.84	38	縄文土器 深鉢	1号石列 胴部破片		細砂、輝石/良好	横位集合沈線をめぐらして文様帯を区画、横位鋸歯状の集 合沈線を施す。	下島式か十三 菩提式
第146図 PL.84	39	縄文土器 深鉢	1号石列 胴部破片			No.38と同一個体。	下島式か十三 菩提式
第146図 PL.84	40	縄文土器 深鉢	1号竪穴状 胴部破片		粗砂、輝石/良好	横位鋸歯状の集合沈線を施す。	下島式か十三 菩提式
第146図 PL.84	41	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		粗砂/良好	楕円状の集合沈線を施し、内部に印刻を施す。	十三菩提式
第146図 PL.84	42	縄文土器 深鉢	5号竪穴 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	くの字状に緩く外屈する。屈曲部に隆線をめぐらし、上位 の文様帯内に横位、鋸歯状のソーマン状浮線をめぐらす。	晴ヶ峯式
第146図 PL.84	43	縄文土器 深鉢	1号竪穴状 口縁部破片		細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。RL、LRの結束羽状縄文を横位施文 する。	前期末葉
第146図 PL.84	44	縄文土器 深鉢	1号石列 胴部破片		粗砂/ふつう	RL、LRの結束羽状縄文を横位施文する。	前期末葉
第146図 PL.84	45	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		粗砂、チャート細 礫/良好	RL、LRの結束羽状縄文を横位施文する。	前期末葉
第146図 PL.84	46	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片		細砂/ふつう	RL、LRの結束羽状縄文を横位施文する。	前期末葉
第146図 PL.84	47	縄文土器 深鉢	2号竪穴状遺構 胴部破片		粗砂、片岩、チャ ート/良好	LR縄文を横位施文する。	前期末葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第146図 PL.84	48	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片				粗砂、チャート/ ふつう	半隆起線状の横位沈線をめぐらして文様帯を区画、平行沈線と単沈線による斜格子目文を充填施文し、文様帯下端に三角印刻を施す。	松原土器	
第146図 PL.84	49	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片				粗砂/良好	半隆起線状の横位沈線をめぐらして文様帯を区画、平行沈線と単沈線による斜格子目文を充填施文する。	松原土器	
第146図 PL.84	50	縄文土器 深鉢	2号竪穴状遺構 胴部破片				細砂、輝石/良好	半隆起線状の横位沈線をめぐらして文様帯を区画、平行沈線と単沈線による斜格子目文を充填施文し、平行沈線による意匠を配す。	松原土器	
第146図 PL.84	51	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片				粗砂、細礫、輝石/ 良好	半隆起線状の横位沈線をめぐらして文様帯を区画、斜位の平行沈線を充填施文する。	松原土器	
第146図 PL.84	52	縄文土器 深鉢	埋土 口辺部破片				粗砂、チャート細 礫、輝石/良好	縦位沈線を伴う横位隆帯をめぐらして口縁部文様帯を区画、橋状把手状の隆帯を貼付して内部をさらに横長楕円状に区画し、渦巻文、三角文を配し、縦位沈線を充填施文する。把手状隆帯の上にも横位沈線を充填施文。口縁内面に横位隆帯をめぐらす。	五領ヶ台式	
第146図 PL.84	53	縄文土器 深鉢	保護課試掘10ト 胴部破片				粗砂、チャート細 礫/良好	横位平行沈線をめぐらして文様帯を区画、以下、縦位、斜位の集合沈線を施す。	五領ヶ台式	
第146図 PL.84	54	縄文土器 深鉢	3号竪穴 胴部破片				粗砂、チャート/ 良好	結節LR縄文を縦位施文する。	五領ヶ台式	
第146図 PL.84	55	縄文土器 深鉢	3号竪穴 胴部破片				細砂、輝石/良好	結節LR縄文を縦位施文する。	五領ヶ台式	
第146図 PL.84	56	縄文土器 深鉢	1号竪穴状 胴部破片				細砂、輝石/良好	結節RL、LRの結束羽状縄文を縦位施文する。	五領ヶ台式	
第146図 PL.84	57	縄文土器 深鉢	4号溝 胴部破片				粗砂、輝石/ふつ う	2条沈線による懸垂文を施し、RL縄文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第147図 PL.85	58	旧石器 尖頭器	3区一括 欠損	長幅	43 37	厚重	9 13.1	黒曜石	半両面調整の尖頭器の未成品と推定。右側断面は調整加工に切れ、左側縁は直線状の刃部が作出される。旧石器の可能性はある。	産地分析
第147図 PL.85	59	縄文石器 打製石斧	1区一括 欠損	長幅	93 52	厚重	21 137.1	硬質泥岩	短冊形で上端部を欠損。	
第147図 PL.85	60	縄文石器 打製石斧	1区3号竪穴建 物 欠損	長幅	73 46	厚重	15 53.6	硬質泥岩	短冊形の打製石斧、上下両端部を欠損。	
第147図 PL.85	61	縄文石器 打製石斧	1区3号竪穴建 物 完形	長幅	84 43	厚重	15 52.6	硬質泥岩	撥形の小型の打製石斧。	
第147図 PL.85	62	縄文石器 打製石斧	1区一括 完形	長幅	126 72	厚重	30 263.6	細粒輝石安山岩	撥形で厚みがある。横長剥片を素材、刃部の作出は弱い。	
第147図 PL.85	63	縄文石器 打製石斧	1区一括 完形	長幅	107 67	厚重	16 121.9	珪質頁岩	分銅形で摩耗が著しい。器体中央やや下側で両側縁が挟入する。	
第147図 PL.85	64	旧石器 エンドスク レイパー	1区1号石列 完形	長幅	20 15	厚重	6 1.8	黒曜石	小型で全周を加工し端部にスクレイパーエッジが作出される。旧石器の可能性はある。	産地分析
第147図 PL.85	65	縄文石器 楔形石器	1区1号竪穴建 物 完形	長幅	20 27	厚重	10 5.5	黒曜石	横長の楔形石器で右半部を欠損する。	産地分析
第147図 PL.85	66	縄文石器 石核	1区一括 完形	長幅	26 25	厚重	23 13	黒曜石	賽子状を呈する石核で、打面転移しながら小型剥片を剥離している。	産地分析
第148図 PL.85	67	縄文石器 石核	1区一括 完形	長幅	22 41	厚重	14 12.8	黒曜石	平坦な自然を打面として小型剥片を剥離している。	産地分析
第148図 PL.85	68	縄文石器 石核	3区一括 完形	長幅	26 36	厚重	17 12.1	黒曜石	小型原石(ズリ)を素材、表裏面で剥離が行われている。	産地分析
第148図 PL.85	69	縄文石器 石核	1区3号竪穴建 物 完形	長幅	17 34	厚重	20 7.6	黒曜石	楔形を呈する石核で、表裏面・上面の3面に小型剥片を剥離した剥離面が残る。	産地分析
第148図 PL.85	70	縄文石器 磨製石斧	1区一括 完形	長幅	67 49	厚重	25 139.7	変輝緑岩	乳棒状磨製石器の破片、上下両端部に敲打痕、下端刃部は潰れている。刃部再生により小型化し最後は敲石に転用されている。	
第148図 PL.85	71	縄文石器 両面調整石 器	1区1号竪穴建 物 完形	長幅	99 88	厚重	50 426.7	硬質泥岩	分厚い素材の両面に加工を施す。左右両側縁は細かい加工を施して刃部を作出している。	

第14表 石器集計表(掲載点数)

時代	掲載区分	尖頭器	両面調 整石器	楔形石 器	石鏃	エンド スクレ イパー	打製石 斧	磨製石 斧	石核	原石	二次加 工剥片	剥片	敲石	総計
旧石器	掲載	1				1								2
縄文	掲載		1	1			5	1	4					12
	未掲載				1		7		1	1	7	32	1	50
総計		1	1	1	1	1	12	1	5	1	7	32	1	64

第15表 石器集計表(遺構別点数)*時代は石器の帰属時代を示す

時代	出土位置	尖頭器	両面調整石器	楔形石器	石鏃	エンドスクレイパー	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	敲石	総計
旧石器	1区1号石列					1								1
	3区一括	1												1
縄文	1区1号竪穴建物		1	1							1	6		9
	1区3号竪穴建物						2		2		1	3		8
	1区2号竪穴状遺構											1		1
	1区1号方形周溝墓											2		2
	1区21号土坑											1		1
	1区31号土坑											1		1
	1区30号ピット											2		2
	1区1号石列						1			1		1		3
	1区5号旧石器調査坑											1		1
	1区一括				1		3	1	2		4	9		20
	2区2号土坑						1							1
	2区16号土坑						1			1				2
	2区20号土坑						1							1
	2区一括						1					1		2
	3区1号溝												1	1
	3区2号溝						1							1
	3区3号溝						1							1
	3区一括								1			4		5
	総計	1	1	1	1	1	12	1	5	1	7	32	1	64

第16表 器種別・石材別集計表(点数)

石材	尖頭器	両面調整石器	楔形石器	石鏃	エンドスクレイパー	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	敲石	総計
黒曜石	1		1		1			5	1	2	13		24
硬質泥岩		1		1		7				3	12		24
珪質頁岩						1				1	3		5
黒色頁岩										1	1		2
チャート											1		1
凝灰岩											1		1
結晶片岩						1							1
細粒輝石安山岩						2					1		3
粗粒輝石安山岩												1	1
変輝緑岩							1						1
変玄武岩						1							1
総計	1	1	1	1	1	12	1	5	1	7	32	1	64

第17表 器種別・石材別集計表(重量 g)

時代	尖頭器	両面調整石器	楔形石器	石鏃	エンドスクレイパー	打製石斧	磨製石斧	石核	原石	二次加工剥片	剥片	敲石	総計
黒曜石	13.1		5.5		1.8			49.8	6.3	11.9	13.2		101.6
硬質泥岩		426.7		103.9		511.2				147.3	431.2		1,620.3
珪質頁岩						121.9				124.5	137.4		383.8
黒色頁岩										49.1	7.4		56.5
チャート											10.9		10.9
凝灰岩											19.2		19.2
結晶片岩						443.8							443.8
細粒輝石安山岩						380.9					15.9		396.8
粗粒輝石安山岩												641.4	641.4
変輝緑岩							139.7						139.7
変玄武岩						76.2							76.2
総計	13.1	426.7	5.5	103.9	1.8	1,534.0	139.7	49.8	6.3	332.8	635.2	641.4	3,890.2

第18表 黒曜石産地分析結果(1)

時代	産地分析	尖頭器	楔形石器	エンドスクレイパー	石核	原石	二次加工剥片	剥片	総計
旧石器	分析	1		1					2
縄文	分析		1		4				5
	未分析				1	1	2	13	17
黒曜石出土総点数		1	1	1	5	1	2	13	24

第19表 黒曜石産地分析結果(2)

時代	産地分析結果判別群	尖頭器	楔形石器	エンドスクレイパー	石核	原石	二次加工剥片	剥片	総計
旧石器	星ヶ台	1		1					2
縄文	星ヶ台		1		3				4
	鷹山				1				1
		1	1	1	4				7

第5章 自然科学分析

第1節 分析の目的

宮久保遺跡G区東壁セクションでは、As-Bの上層に年代不明のテフラが検出された。また、中遺跡では旧石器確認調査を実施し、テフラの堆積状況と年代を確認することになった。そこで、株式会社火山灰考古学研究所に委託し、テフラ分析を実施した。

また、宮久保遺跡から142点、中遺跡からは24点の黒曜石が出土した。出土黒曜石の産地分析は、縄文時代の地域間の交流を検討する上での貴重な資料となり得ると考えた。このことから、黒曜石産地推定業務を株式会社パレオ・ラボに委託することとなった。

以下、分析によって得られた成果を掲載する。

第2節 自然科学分析

1. はじめに

北関東地方西部の安中市域には、浅間山や榛名山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方など遠方の火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く分布している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的特徴などがテフラ・カタログ(たとえば町田・新井,2011)に収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行って、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、遺物包含層や遺構の層位や年代などに関する情報が得られるようになっている。

宮久保・中遺跡における発掘調査の際にも層位や年代が不明な土層やテフラ層が検出されたことから、野外調査(地質調査)を実施して土層やテフラ層の層序記載を行うとともに、高純度での分析試料採取と実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、指標テフラの検出同定を実施することになった。調査分析の対象地点は、宮久保遺跡のG区1号トレンチと、中遺跡のローム層深掘2号トレンチの2地点である。

2. 調査分析地点の土層層序

(1)宮久保遺跡・G区1号トレンチ

谷地形内に位置する本地点では、下位より黄色軽石を含む黄色土や黄灰色土のブロック堆積物(層厚37cm以上、軽石の最大径17mm)、黒灰褐色泥層(層厚13cm)、黒泥層(層厚4cm)、成層したテフラ層(層厚15.2cm)、砂混じり灰褐色泥層(層厚0.5cm)、成層したテフラ層(層厚1.3cm)、黒泥層(層厚0.4cm)、黄褐色軽石質粗粒火山灰層(層厚6cm)、黒泥層(層厚2cm)、灰色細粒火山灰層(層厚0.1cm)、黒泥層(層厚0.7cm)、青灰色細粒火山灰層や桃色細粒火山灰層混じり黄褐色質砂層(層厚5cm)、黒泥層(層厚1cm)、褐色凝灰質砂層(層厚4cm)、黒泥層(層厚1cm)、黄色がかった褐色粗粒火山灰層(層厚2cm)、やや灰色がかった白色砂質細粒火山灰層(層厚0.1cm)、灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.6cm)、黒灰色泥層(層厚2cm)、褐色軽石混じり暗灰褐色土(層厚41cm、軽石の最大径11mm)、砂を多く含むやや暗い灰色土(層厚23cm)、わずかに灰色がかった白色の軽石を多く含む褐色がかった灰色土(層厚21cm、軽石の最大径5mm)、わずかに灰色がかった白色軽石を含むやや暗い灰褐色土(層厚24cm、軽石の最大径5mm)が認められた(第150図)。

これらのうち、最下位の成層したテフラ層は、下位より灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.4cm)、褐色粗粒軽石層(層厚2cm、軽石の最大径21mm、石質岩片の最大径8mm)、粒径がそろった黄色細粒軽石層(層厚2cm、軽石の最大径2mm、石質岩片の最大径1mm)、褐色細粒軽石層(層厚2cm、軽石の最大径3mm、石質岩片の最大径1mm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚1cm)、黄褐色粗粒火山灰層(層厚1cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)、黄褐色粗粒火山灰層(層厚0.7cm)、桃褐色粗粒火山灰層(層厚2.4cm)、桃色細粒火山灰層(層厚1cm)、灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.4cm)からなる。

また、その上位の成層したテフラ層は、黄灰色粗粒火山灰層(層厚0.8cm)と、それを覆う青灰色細粒火山灰層(層厚0.5cm)からなる。

(2)中遺跡・ローム層深掘2号トレンチ

台地上に作成された本トレンチでは、下位より灰褐色粘質土(層厚1cm以上)、桃白色細粒火山灰層(層厚3cm)、灰褐色粘質土(層厚3cm)、成層したテフラ層(層厚63cm, テフラ層aと仮称)、桃色軽石まじりで炭化物を多く含む灰褐色土(層厚9cm, 軽石の最大径11mm)、黄色軽石や炭化物を含む灰褐色土(層厚8cm, 軽石の最大径11mm)、炭化物混じり褐色土(層厚6cm)、黄色細粒軽石混じり灰色粗粒火山灰層(層厚8cm, テフラ層b)、褐色土(層厚0.3cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚2cm, テフラ層c)、褐色がかった灰色砂質土(層厚3cm)、成層したテフラ層(層厚17cm, テフラ層d)、褐色がかった灰色砂質土(層厚4cm)、比較的粒径が揃っていかすかに成層した橙色軽石層(層厚24cm, 軽石の最大径13mm, 石質岩片の最大径2mm, テフラ層f)が認められた(第151図)。なお、隣接した1号トレンチでは、最上位の橙色軽石層の直下に暗灰色粗粒火山灰層があり、これをテフラ層eと仮称する。

これらのうち、テフラ層aは、下位より黄色軽石層(層厚8cm, 軽石の最大径8mm, 石質岩片の最大径2mm)、褐色風化火山灰層(層厚1cm)、白色軽石層(層厚10cm, 軽石の最大径9mm, 石質岩片の最大径2mm)、下部20cmが白っぽく風化した橙色粗粒軽石層(層厚39cm, 軽石の最大径18mm, 石質岩片の最大径7mm)、桃色軽石混じり灰色粗粒火山灰層(層厚5cm, 軽石の最大径4mm, 石質岩片の最大径2mm)から構成されている。また、その上位のテフラ層dは、下位より橙色細粒軽石層(層厚7cm, 軽石の最大径7mm, 石質岩片の最大径2mm)、橙色細粒軽石混じり暗灰色粗粒火山灰層(層厚6cm, 軽石の最大径5mm, 石質岩片の最大径2mm)、橙色細粒軽石層(層厚4cm, 軽石の最大径5mm, 石質岩片の最大径3mm)からなる。

ローム層深掘2号トレンチでは、テフラ層fの上位に、さらに褐色砂質土(層厚2cm)、正の級化構造をもつ橙色軽石層(層厚12cm, 軽石の最大径6mm, 石質の最大径2mm, テフラ層g)、橙褐色砂質土(層厚4cm)、橙色細粒軽石混じり暗灰色粗粒火山灰層(レンズ状, 最大層厚3cm, 軽石の最大径2mm, テフラ層h)、上部1cmが粘土化を受けた橙色粗粒軽石層(層厚7cm, 軽石の最大径18mm, 石質岩片の最大径4mm, テフラ層i)、成層したテフラ(層厚2.3cm, テフラ層j)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚5cm, テ

フラ層k)、黄褐色砂質土(層厚3cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚9cm, テフラ層l)、褐色土(層厚17cm)、黄白色粗粒軽石混じりで白色粗粒火山灰を多く含む黄褐色土(層厚9cm, 軽石の最大径5mm)、白色粗粒火山灰混じり黄褐色土(層厚5cm)、褐色粘質土(層厚8cm)、成層したテフラ層(層厚27cm)が認められた。

これらのうち、下位の成層したテフラ層jは、下部の暗灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)と上部の橙色細粒軽石層(層厚2cm, 軽石の最大径2mm)からなる。また、最上位のテフラ層は、下部の黄色粗粒軽石層(層厚20cm, 軽石の最大径43mm, 石質岩片の最大径21mm)と、上部の比較的細粒の黄色軽石層(層厚7cm, 軽石の最大径17mm, 石質岩片の最大径3mm)から構成されている。このテフラ層は、その層相から約1.65~1.5万年前の間に噴火をした浅間板鼻黄色軽石層(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2011)に同定される。

3. テフラ検出分析

(1)分析試料と分析方法

テフラ層の特徴や、テフラ粒子の濃集層準を明らかにするために、上述2地点で採取された21試料を対象として、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 砂分の含有程度に応じて試料3~8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察
- 5) テフラ検出分析の結果を第20表に示す。

(2)分析結果

1) 宮久保遺跡・G区1号トレンチ

ほとんどの試料に、軽石や火山ガラスのほかに黒灰色や黒褐色の緻密な石質岩片が含まれている。最下位の成層したテフラ層の試料14~9には、淡灰色、淡褐色、褐色の軽石やその細粒物であるスポンジ状軽石型ガラスが認められる。試料によっては、淡灰色部と灰白色部が共存する縞状軽石状や、灰~灰白色の火山ガラスも含まれている。また、試料10では、ほかに黒色のスコリア型ガラスもわずかに認められる。これらのうち、軽石は試料13に多く、粗粒である(最大径10.1mm)。さらに、磁鉄鉱

など不透明鉱物を除く重鉱物(以降、重鉱物)には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

その上位のテフラ層(試料8~7)には、淡灰色や暗褐色の軽石(最大径3.0mm)がわずかに、また淡灰色、淡褐色、褐色、暗褐色、灰白色、白色のスポンジ状軽石型ガラス、さらに黒褐色のスコリア型ガラスなど、とくに多様なテフラ粒子が認められる。試料に含まれる重鉱物は斜方輝石や単斜輝石である。

それより上位の試料においても、含有量に多少の多寡があるものの、上記のような特徴をもつテフラ粒子がほとんどを占めている。また、含まれる重鉱物も、やはり斜方輝石や単斜輝石である。

それらの中で、後述するように一次堆積層の可能性のある堆積物(試料6)では、淡灰色軽石(最大径4.6mm)が比較的多く、淡灰色や淡褐色のスポンジ状軽石型ガラスが多く認められる。全体として、試料8の軽石層より色調が若干明るい。また、薄層のために試料の純度はやや低いが、試料4には淡灰色軽石(最大径2.2mm)がごくわずかに、さらに淡灰色、淡褐色、褐色、暗褐色、白色のスポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。

最上位の試料1の軽石(最大径3.6mm)のなかには、淡褐色のほかに、光沢をもつやや灰色がかった白色の軽石が少量認められる。なお、この試料で認められた細粒物は軽石の付着物や洗浄処理中に生じた軽石などの破片である。

1) 中遺跡・ローム層深掘2号トレンチ

最下位の試料7には、無色透明のバブル型や繊維束状軽石型の火山ガラスがとくに多く含まれている。その上位のテフラ層には、白色の軽石(最大径4.3mm)やその細粒物である白色のスポンジ状あるいは繊維束状の軽石型ガラスが、少量あるいは比較的多く含まれている。この成層したテフラ層にはβ石英が含まれており、試料5や試料1で目立つ傾向にある。また、テフラ層に挟在される褐色風化火山灰層(試料6)には、ごくわずかながら無色透明のバブル型ガラスが認められ、風成塵が混在している可能性がある。上位の試料1には、淡灰色や無色透明の分厚い中間型や、白色のスポンジ状軽石型ガラスが多く含まれている。

4. 考察—指標テフラとの同定

1) 宮久保遺跡・G区1号トレンチ

最下位とその上位の成層したテフラ層は、層相や含まれるテフラ粒子の特徴から、順に1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ層(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)と、1128(大治3)年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ(As-Kk, 早田, 1991, 2004など)に同定される。

それより、上位の凝灰質堆積物の中では、層相や土層断面における堆積物の純度から、試料6と試料4が採取された2層がテフラ層の可能性が高い。ここでは、これらの堆積物を、下位より宮久保テフラ1層(Mk-1)と宮久保テフラ2層(Mk-2)と仮称する。Mk-1については、層位や層相から、安中市西部の西横野西部地区遺跡群のうちの行田大道南横道東遺跡で検出されたAs-Kkより上位の褐色細粒軽石層(層厚2cm, 軽石の最大径3mm程度)に相当する可能性が指摘されよう。このテフラ層に関しては、1281(弘安4)年の浅間火山噴火に由来する可能性が指摘されている(火山灰考古学研究所, 2020)。一方、Mk-2に関しては未詳のテフラ層と思われる。

さほど知られていないが、前橋市石関西田遺跡Ⅲ(18D15)の発掘調査の際には、As-BとAs-Kkの間にテフラ層が検出されており(古環境研究所, 2007)、完新世における浅間火山最大規模の噴火に由来するAs-Bの上位には、As-Kkのほかに噴火記録との対応づけがなされていないテフラ層がある。それらの多くは噴火規模が小さいために降灰量が少なく、侵食を受ける場となることが多い給源火山とその周辺では見つかりにくい。これらは、比較的遠方の泥炭地などで発見され、異なるテフラ間の時間間隙を示す堆積物が確認されることも多い。したがって、今回の調査分析地点のように、腐植質堆積物の状況が良い場所では、詳細なテフラの観察と分析が実施されると良い。

また、最上位の試料1の軽石の多くはAs-Bに由来するが、光沢をもつわずかに灰色がかった白色の軽石やスポンジ状軽石型ガラスに関しては、岩相からAs-A由来と推定される。ただ、その量は少なく、このタイプの軽石が肉眼で多く認められる、より上位に本来のAs-Aの堆積層準があったと思われる。

なお、この地点では、As-Bより下位に、黄色軽石を含む黄色土や黄灰色土のブロック堆積物が認められる。層位や、周辺における発掘調査の成果(井上,2018など)を考慮すると、818(弘仁9)年に発生した弘仁地震(能登ほか,1990,早田ほか,2018など)に関係した地すべり堆積物の可能性が高い。

2)中遺跡・ローム層深掘2号トレンチ

最下位の試料7が採取されたガラス質細粒火山灰層は、層位や層相、さらに含まれるテフラ粒子の特徴から、南九州地方の始良カルデラの約3万年前の噴火に由来する始良Tn火山灰層(AT,町田・新井,1976,2011など)に同定される。一方、最上位のAs-YPのすぐ下位に層位があるテフラ(試料1)は、層位や岩相、さらに含まれるテフラ粒子の特徴から、約2万年前に浅間火山から噴出した浅間大窪沢軽石群(As-0k Group,中沢ほか,1984,町田・新井,1992,2011,早田,2019など)と考えられる。

これらの間に層位があるテフラ群は、層相も合わせると、約2.9~2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-0k Group,新井,1962,町田・新井,1992,2011,早田,2019など)と考えられる。本遺跡で認められた構成層の特徴を次に下位より順に整理しておく。

テフラ層 a : 下位より黄色軽石層、褐色風化火山灰層、白色軽石層、下部が白っぽく風化した橙色粗粒軽石層、桃色軽石混じり灰色粗粒火山灰層からなる厚いテフラ層で、層相からMPに同定される。ただし、下部に認められる褐色風化火山灰層が風成堆積物の可能性があることから、この堆積物を境に今後細分される可能性がある。

テフラ層 b : 黄色細粒軽石混じり灰色粗粒火山灰層。

テフラ層 c : 灰色粗粒火山灰層。

テフラ層 d : 下位より橙色細粒軽石層、橙色細粒軽石混じり暗灰色粗粒火山灰層)、橙色細粒軽石層からなり、暗灰色の岩片を比較的多く含む。

テフラ層 e : 側方への連続が悪くローム層深掘1号トレンチで部分的に認められた暗灰色粗粒火山灰層。

テフラ層 f : 比較的粒径が揃っていてかすかに成層した橙色軽石層。

テフラ層 g : 正の級化構造をもつ橙色軽石層。

テフラ層 h : 側方への連続が悪い橙色細粒軽石混じり暗

灰色粗粒火山灰層。

テフラ層 i : 上部1cmが粘土化を受けた橙色粗粒軽石層。

テフラ層 j : 下部の暗灰色粗粒火山灰層と上部の橙色細粒軽石層からなるテフラ層。

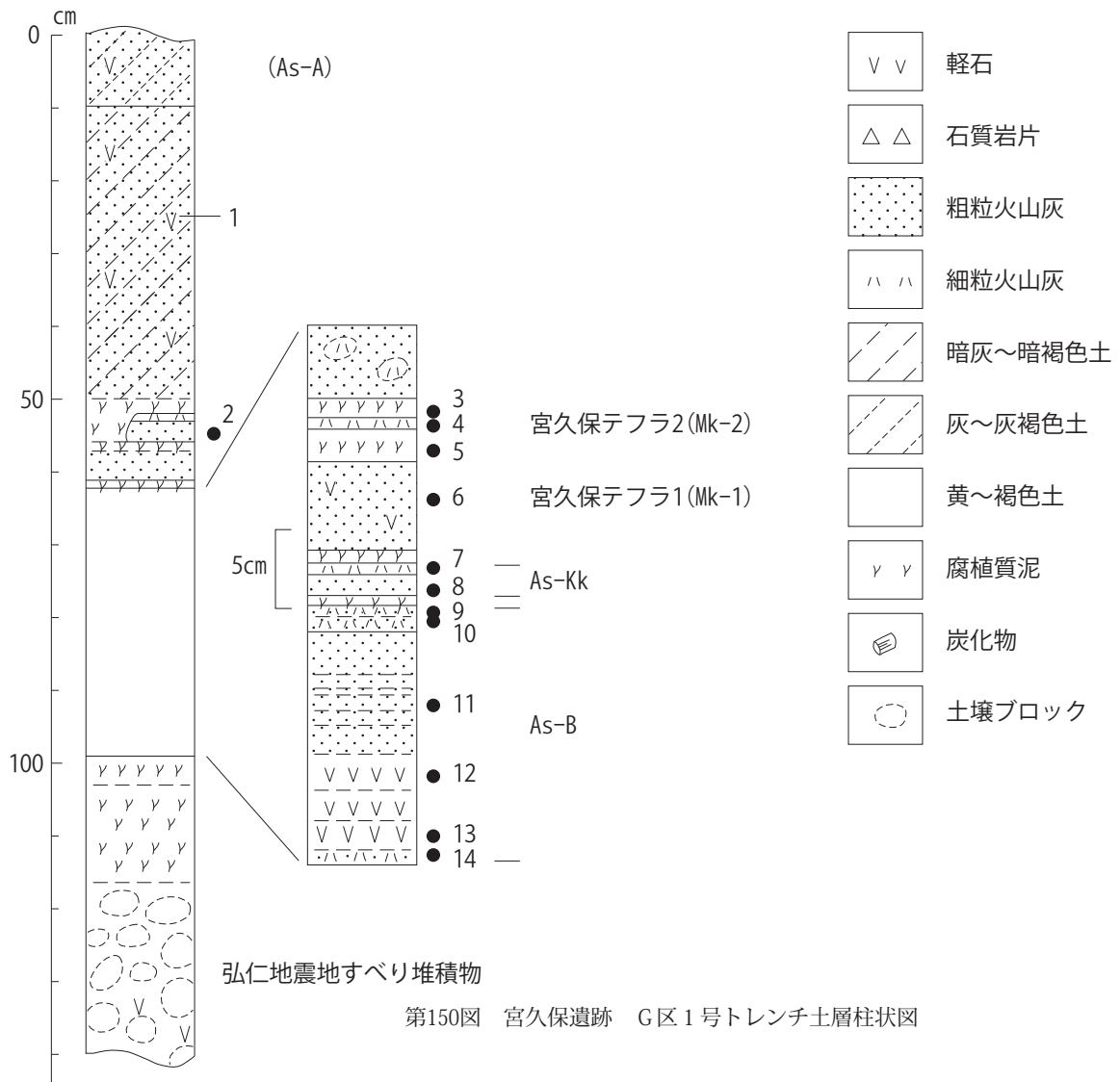
テフラ層 k : 黄灰色粗粒火山灰層。

テフラ層 l : 黄灰色粗粒火山灰層。

As-BP Groupについては、とくに良好な断面が認められた安中市松井田町横川で出現した露頭において、室田軽石層(MP,森山,1971)とそれより上位の松井田1~11テフラ層(Mt1~11)に区分されている(早田,2016,早田ほか,2016,下岡ほか,2019)。今回認められたテフラ層のうち、テフラ層 a は層相からMPに対比されることは明らかなもの、テフラ層 b~L と Mt1~11 の対応関係については、ひき続き遺跡周辺で調査を継続していく必要がある。ただ、テフラ層 b とテフラ層 c は Mt-1 と Mt-2 に、またテフラ層 k とテフラ層 l は Mt-10 と Mt-11 (As-BP 上部,町田・新井,1992,2011など)に対応しているように思われる。

5. まとめ

安中市の宮久保・中遺跡において、野外調査(地質調査)とテフラ分析(テフラ検出分析)を実施した。その結果、すでに指標テフラとして各種の編年研究に利用されている始良Tn火山灰(AT,約3万年前)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group,約2.9~2.4万年前)、浅間大窪沢軽石群(As-0k Group,約2万年前)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP,約1.65~1.5万年前)、浅間Bテフラ(As-B,1108年)、浅間粕川テフラ(As-Kk,1128年)、浅間A軽石(As-A,1783年)を認めることができた。さらに、As-KkとAs-Aの間で認められた凝灰質堆積物のうちの2層についても、浅間系テフラの可能性を指摘して、下位より宮久保テフラ層1(Mk-1)と宮久保テフラ層2(Mk-2)と仮称した。今後、その層厚分布や年代資料との層位関係の把握、さらに噴火活動史に関する文献調査による噴火年代の検討などが必要となる。



第150図 宮久保遺跡 G区1号トレンチ土層柱状図

第20表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			火山ガラス			重鉱物	備考	
		量	色調	最大径	量	形態	色調			
宮久保遺跡	1	*	淡灰,(灰)白	3.6mm	**	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐,(灰)白	opx,cpx	As-B・As-A	
G区1号トレンチ	2	*	淡灰	4.7mm	***	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐,暗褐,白	opx,cpx	二次堆積物	
	3	*	淡灰	3.3mm	**	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐	opx,cpx	二次堆積物	
	4	(*)	淡灰	2.2mm	**	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐,暗褐,白	opx,cpx	Mk-2	
	5	**	淡灰,灰白	3.4mm	***	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐,暗褐,白	opx,cpx	二次堆積物	
	6	**	淡灰	4.6mm	***	pm(sp)	淡灰,淡褐	opx,cpx	Mk-1	
	7	(*)	暗褐	2.1mm	**	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐,灰白	opx,cpx	As-Kk	
	8	(*)	淡灰	3.0mm	**	pm(sp)>sc	淡灰,淡褐,褐,暗褐,白,黒褐	opx,cpx	As-Kk	
	9				*	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐	opx,cpx	As-B	
	10	**	淡灰,灰白	2.8mm	**	pm(sp)>sc	淡灰,淡褐,褐,灰白,黒	opx,cpx	As-B	
	11	**	淡灰	3.7mm	***	pm(sp)	淡灰*,灰白*,淡褐,褐	opx,cpx	As-B	
	12	(*)	淡灰	9.1mm	***	pm(sp), md	淡灰,灰,淡褐,褐	opx,cpx	As-B	
	13	***	淡灰,淡褐,褐	10.1mm	**	pm(sp)	淡灰,淡褐,褐	opx,cpx	As-B	
	14	*	灰白,淡褐	6.2mm	*	pm(sp)	灰白,淡褐	opx,cpx	As-B	
	中遺跡	1				***	md, pm(sp)	淡灰,無色透明,白	opx,cpx	As-0k Group
ローム層深掘2号トレンチ	2	(*)	白	4.3mm	**	pm(sp)	白	opx,cpx	MP	
	3				(*)	pm(sp)	白	opx,cpx	MP	
	4	*	白	3.2mm	**	pm(sp)	白	opx,cpx	MP	
	5				*	pm(sp,fb)>bw	白,無色透明	opx,cpx	風化火山灰層?	
	6	*	白	3.2mm	**	pm(sp)	白	opx,cpx	MP	
	7					****	bw, pm(fb)	無色透明	(opx)	AT

****:とくに多い,***:多い,**:中程度,*:少ない,重鉱物は不透明鉱物以外.

bw:バブル型,md:中間型,pm:軽石型,sp:スポンジ状,fb:繊維束状,sc:スコリア型,ol:カンラン石,opx:斜方輝石,cpx:単斜輝石,am:

bw:バブル型,md:中間型,pm:軽石型,sp:スポンジ状,fb:繊維束状,sc:スコリア型,ol:カンラン石,opx:斜方輝石,cpx:単斜輝石,am:

文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編,10,p. 1-79.

荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報,no.14,p. 1-45.

井上慎也(2018)安中市横野台地における遺跡発掘調査で検出された地震の痕跡. 早田 勉ほか編「シンポジウム弘仁地震の実像に迫る—平安の関東地方北西部の大震災」, p. 33-34.

火山灰考古学研究所(2020)安中市教育委員会編「西横野西部地区遺跡群」, p.277-279.

古環境研究所(2007)石関西田遺跡Ⅲの土層とテフラ. 技研測量編「石関西田遺跡Ⅲ(18D15)」.

町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義. 科学,46,p.339-347.

町田 洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス—日本列島とその周辺」. 東京大学出版会,276p.

町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺(第2刷)」. 東京大学出版会,336p.

町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究に関するテフラのカタログ. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」,p.865-928.

森山昭雄(1971)榛名火山東・南山麓の地形—とくに軽石流の地形について—. 地理学報告,no.36・37,p.107-116.

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山,黒班—前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集,no.14,p.69-70.

能登 健・内田憲治・早田 勉(1990)赤城山南麓の歴史地震—弘仁九年の地震に伴う地形変化の調査と分析—. 信濃,42,p.755-772.

下岡順直・早田 勉・青木かおり・若井明彦(2020)浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)の岩石記載と放射性炭素年代. 地球環境研究,22,p.57-65.

早田 勉(1991)浅間火山の生い立ち. 佐久考古通信,no.53,p. 2-7.

早田 勉(1996)関東地方—東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書,no. 7 ,p.256-267.

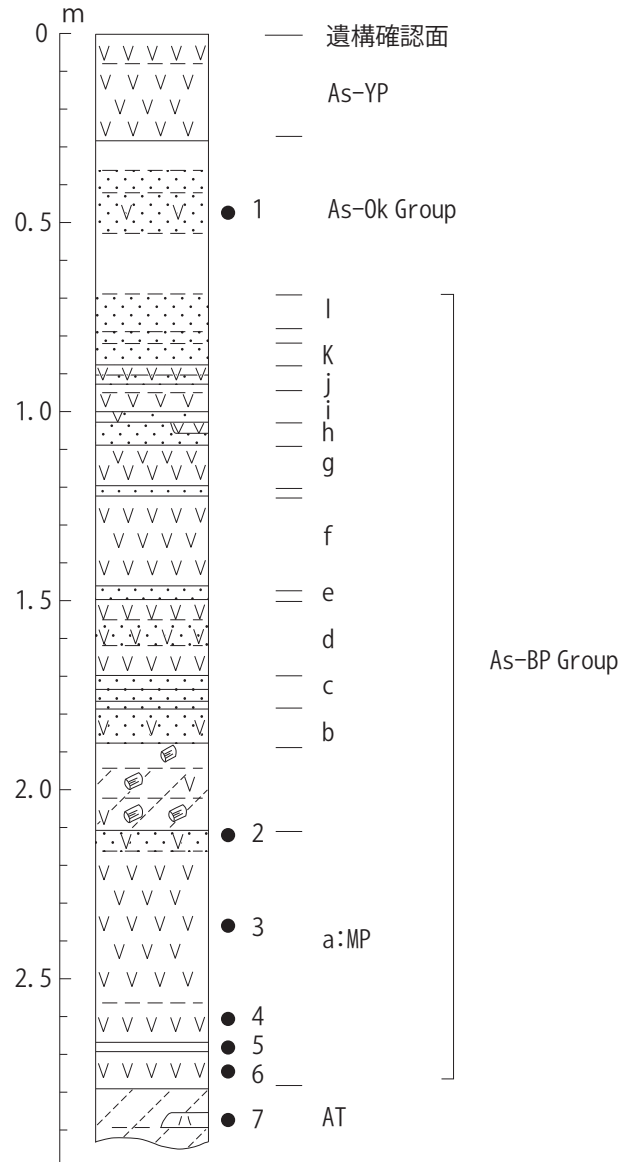
早田 勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について. かみつけの里博物館編「1108—浅間山噴火—中世への胎動」,p.45-56.

早田 勉(2016)浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)の層序と前橋泥流堆積物の層位,岩宿フォーラム2016 /シンポジウム予稿集,p. 6-14.

早田 勉・熊原康博・若井明彦(編)(2018)シンポジウム「弘仁地震の実像に迫る—平安の関東地方北西部の大震災」. 群馬大学地盤工学研究室,52p.

早田 勉(2019)北関東地方西部における旧石器時代の火山噴火と環境変化. 令和元年度岩宿フォーラム講演要旨集. p.19-25.

早田 勉・下岡順直・若井明彦(2016)浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)に含まれる火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性に関する新資料. 岩宿フォーラム2016 /シンポジウム予稿集,p.15-19.



第151図 中遺跡 ローム層深掘2号トレンチ土層柱状図



写真1 宮久保遺跡 試料4 (Mk-1:純度不良)



写真2 宮久保遺跡 試料6 (Mk-2)

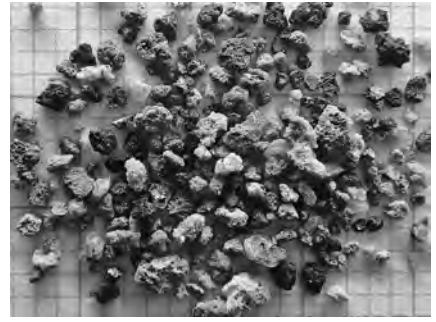


写真3 宮久保遺跡 試料8 (As-Kk下部)



写真4 中遺跡 資料1 (As-0k Group)

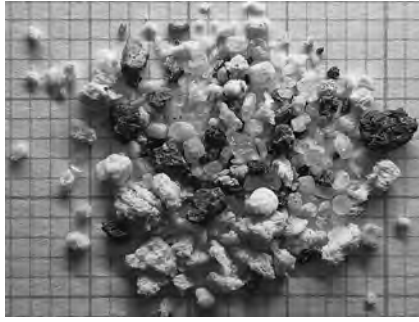


写真5 中遺跡 資料6 (MP最下部)

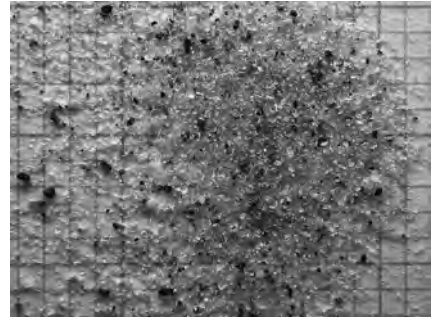


写真6 中遺跡 資料7 (AT)



写真7 作業前風景



写真8 As-Bの層相



写真9 As-B、As-Kk、Mk-1の層相(下位より)



写真10 Mk-2の層相(刃先の左方)



写真11 試料採取前の状況



写真12 試料採取後の状況

第3節 宮久保遺跡・中遺跡 出土黒曜石製石器の原産地推定

1. はじめに

安中市上間仁田地内に所在する宮久保遺跡・中遺跡から出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、宮久保遺跡より出土した黒曜石製石器20点と中遺跡より出土した黒曜石製石器7点の計27点である(第21表)。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、管電圧50kV、管電流1000μA、試料室内雰囲気は真空中に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月,1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マ

第22表 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43),八号沢露頭(15)	
		白滝2	7の沢川支流(2),1K露頭(10),十勝石沢露頭直下河床(11),アジサイの滝露頭(10)	
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)	
	上士幌	上士幌	十勝三股(4),タウシュベツ川右岸(42),タウシュベツ川左岸(10),十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山(5)	
		所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	近文台(8),雨紛台(2)	
	名寄	名寄	忠烈布川(19)	
	秩父別	秩父別1	中山(65)	
		秩父別2		
		秩父別3		
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
留辺蔭	留辺蔭1	ケシヨマップ川河床(9)		
	留辺蔭2			
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9),阿寒川右岸(2),阿寒川左岸(6)		
青森	木造	出来島	出来島海岸(15),鶴ヶ坂(10)	
	深浦	八森山	岡崎浜(7),八森山公園(8)	
	青森	青森	天田内川(6)	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
		脇本	脇本海岸(24)	
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9),真城(33)	
		北上折居2		
		北上折居3		
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保1	土蔵(18)	
		秋保2		
塩竈	塩竈	塩竈(10)		
山形	羽黒	月山	月山荘前(24),大越沢(10)	
		櫛引	たらのき代(19)	
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)	
	新津	金津	金津(7)	
	佐渡	真光寺	追分(4)	
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)	
		七尋沢	七尋沢(3),宮川(3),枝持沢(3)	
長野	和田	西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)	
		鷹山	鷹山(14),東餅屋(54)	
		小深沢	小深沢(42)	
		土屋橋1	土屋橋西(10)	
		土屋橋2	新和田トンネル北(20),土屋橋北西(58),土屋橋西(1)	
		古峠	和田峠トンネル上(28),古峠(38),和田峠スキー場(28)	
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)	
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)	
		高松沢	高松沢(19)	
		諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35),星ヶ塔(20)
		蓼科	冷山	冷山(20),麦草峠(20),麦草峠東(20)
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)	
		畑宿	畑宿(51)	
静岡	天城	鍛冶屋	鍛冶屋(20)	
		上多賀	上多賀(20)	
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)	
		砂糠崎	砂糠崎(20)	
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6),久見採掘現場(5)	
		箕浦	箕浦海岸(3),加茂(4),岸浜(3)	

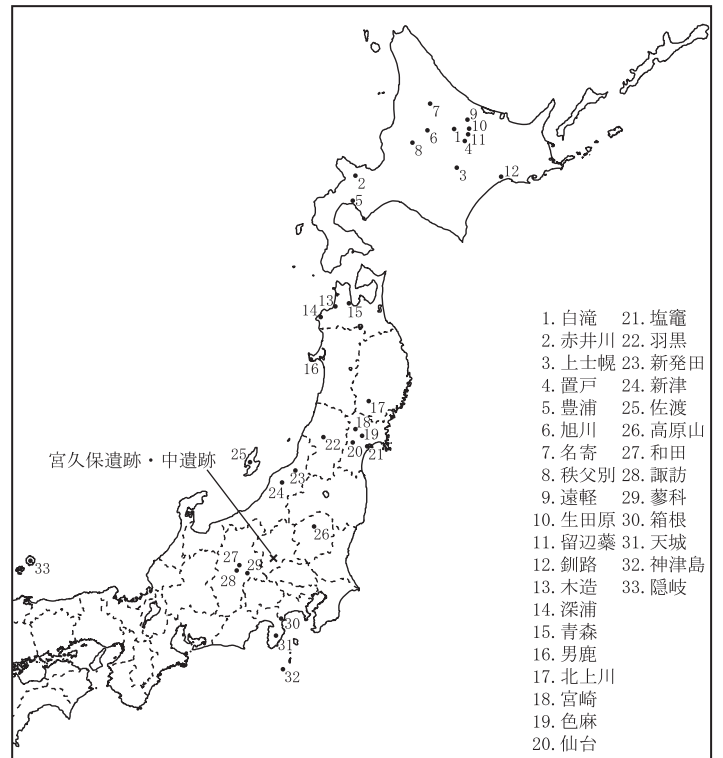
第21表 分析対象となる黒曜石

分析No.	挿図PLNo.	出土位置	器種	残存	法量(mm,g)				遺跡	
					長さ	幅	厚さ	重量		
1	第62図209	F区2号遺物集中	石核	完形	15	32	12	5.1	宮久保遺跡	
2	第57図161	F区2号遺物集中	石鏃	欠損	20	15	4	1.0		
3	第58図171	F区2号遺物集中	楔形石器	完形	25	23	10	5.1		
4	第60図194	F区2号遺物集中	石核	完形	17	18	9	2.2		
5	第61図197	F区2号遺物集中	石核	完形	22	16	13	2.9		
6	第62図207	F区2号遺物集中	石核	完形	19	33	10	4.2		
7	第61図201	F区2号遺物集中	石核	完形	42	19	12	8.5		
8	第62図204	F区	石核	完形	17	17	14	3.5		
9	第61図198	F区	石核	完形	31	19	13	4.7		
10	PL.31-188	F区	剥片	完形	28	19	6	2.6		
11	PL.31-187	F区	剥片	完形	32	17	5	2.6		
12	第62図208	F区	石核	完形	16	29	18	6.3		
13	第57図160	F区	石鏃	完形	26	19	7	2.2		
14	第61図200	F区	石核	完形	39	22	14	6.8		
15	第61図199	F区	石核	完形	36	26	16	12.2		
16	第60図184	F区	剥片	完形	20	32	11	3.8		
17	第60図190	F区	二次加工剥片	完形	21	35	16	7.8		
18	第62図206	F区	石核	完形	12	24	10	2.4		
19	第61図202	F区	石核	完形	57	22	11	11.2		
20	PL.32-189	F区	剥片	完形	42	18	8	5.2		
21	第147図65	1区1号竪穴建物	楔形石器	完形	20	27	10	5.5		中遺跡
22	第148図69	1区3号竪穴建物	石核	完形	17	34	20	7.6		
23	第147図64	1区1号石列	エンドスクリュー	完形	20	15	6	1.8		
24	第148図67	1区一括	石核	完形	22	41	14	12.8		
25	第147図66	1区一括	石核	完形	26	25	23	13.0		
26	第147図58	3区一括	尖頭器	欠損	43	37	9	13.1		
27	第148図68	3区一括	石核	完形	26	36	17	12.1		

ンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb分率=Rb強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
- 2) Sr分率=Sr強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
- 3) Mn強度×100/Fe強度
- 4) log(Fe強度/K強度)

次に、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率—縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率—縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせる指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe強度/K強度)の値が減少する点に注意が必要である(望月, 1999)。試料の測定面にはなるべく平滑な面を選んだ。



第152図 黒曜石産地分布図(東日本)

判別図のバックデータとなる原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第22表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第152図に各原石の採取地の分布図を示す。

第23表 測定値および産地推定結果

分析No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100	Sr分率	log Fe/K	判別群	エリア	分析No.
									Fe					
1	295.9	113.9	1265.8	1225.4	227.7	519.0	975.3	41.58	9.00	7.72	0.63	土屋橋1	和田	1
2	287.0	111.2	1046.8	835.8	324.9	441.0	871.3	33.80	10.62	13.14	0.56	星ヶ台	諏訪	2
3	302.9	114.4	1074.3	806.6	305.2	418.1	814.3	34.41	10.65	13.02	0.55	星ヶ台	諏訪	3
4	312.0	122.0	1128.3	880.5	338.0	453.4	923.5	33.93	10.82	13.02	0.56	星ヶ台	諏訪	4
5	261.7	99.5	925.5	721.8	281.8	375.0	751.5	33.89	10.75	13.23	0.55	星ヶ台	諏訪	5
6	215.4	81.8	776.0	563.9	212.4	285.2	561.7	34.74	10.54	13.09	0.56	星ヶ台	諏訪	6
7	300.5	110.5	1013.7	798.0	308.3	417.4	825.1	33.97	10.90	13.13	0.53	星ヶ台	諏訪	7
8	324.2	125.3	1455.4	1228.2	299.6	527.0	1087.3	39.09	8.61	9.54	0.65	土屋橋1	和田	8
9	322.1	124.6	1157.3	874.1	336.4	447.1	893.8	34.26	10.77	13.19	0.56	星ヶ台	諏訪	9
10	195.6	78.6	706.2	535.8	208.3	283.4	559.2	33.77	11.13	13.13	0.56	星ヶ台	諏訪	10
11	269.2	106.1	954.2	767.2	297.1	401.8	803.6	33.80	11.12	13.09	0.55	星ヶ台	諏訪	11
12	391.0	126.3	1164.9	920.6	348.8	467.5	923.0	34.61	10.84	13.11	0.47	星ヶ台?	諏訪?	12
13	316.5	116.8	1057.1	850.0	327.5	446.6	888.7	33.83	11.05	13.03	0.52	星ヶ台	諏訪	13
14	126.4	53.1	491.5	360.1	140.5	190.1	374.6	33.80	10.79	13.19	0.59	星ヶ台	諏訪	14
15	312.2	120.2	1072.2	873.8	333.7	452.4	898.9	34.15	11.21	13.04	0.54	星ヶ台	諏訪	15
16	264.2	100.8	924.2	745.6	281.2	385.6	762.0	34.29	10.91	12.93	0.54	星ヶ台	諏訪	16
17	277.7	107.7	994.0	790.5	311.7	413.1	822.1	33.82	10.84	13.33	0.55	星ヶ台	諏訪	17
18	280.2	107.1	1000.5	795.7	307.1	416.9	823.7	33.96	10.70	13.10	0.55	星ヶ台	諏訪	18
19	109.0	40.4	373.9	274.3	100.4	134.9	268.0	35.28	10.82	12.91	0.54	星ヶ台	諏訪	19
20	205.1	78.6	725.2	553.4	210.0	284.4	578.8	34.02	10.84	12.91	0.55	星ヶ台	諏訪	20
21	304.5	115.8	1063.3	851.5	329.6	447.0	890.1	33.82	10.89	13.09	0.54	星ヶ台	諏訪	21
22	305.8	111.7	1067.3	784.2	297.6	397.5	779.1	34.72	10.46	13.18	0.54	星ヶ台	諏訪	22
23	326.3	119.1	1105.1	859.0	329.5	443.0	875.2	34.27	10.77	13.15	0.53	星ヶ台	諏訪	23
24	355.3	130.0	1215.8	902.9	343.3	460.0	901.6	34.62	10.69	13.17	0.53	星ヶ台	諏訪	24
25	303.3	116.3	1034.8	818.2	312.1	426.5	844.9	34.07	11.24	13.00	0.53	星ヶ台	諏訪	25
26	274.1	107.4	974.8	787.4	308.5	414.5	816.5	33.84	11.02	13.26	0.55	星ヶ台	諏訪	26
27	286.1	138.6	1093.4	1493.0	97.9	647.8	847.7	48.37	12.68	3.17	0.58	鷹山	和田	27

3. 分析結果

第23表に石器の測定値および算出した指標値を、第153・154図に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、1点が鷹山群(長野県、和田エリア)、2点が土屋橋1群(長野県、和田エリア)、23点が星ヶ台群(長野県、諏訪エリア)の範囲にプロットされた。また、分析No.12は、第153図では星ヶ台群の範囲にプロットされたが、第154図では星ヶ台群の範囲の下方にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月,1999)、星ヶ台群に属する可能性が高い。

第23表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。また、第24表に遺跡、器種別の産地を示す。今回分析した27点の範囲内において、すべてが信州産であり、うち9割近くが諏訪産であった。

第24表 遺跡、器種別の産地

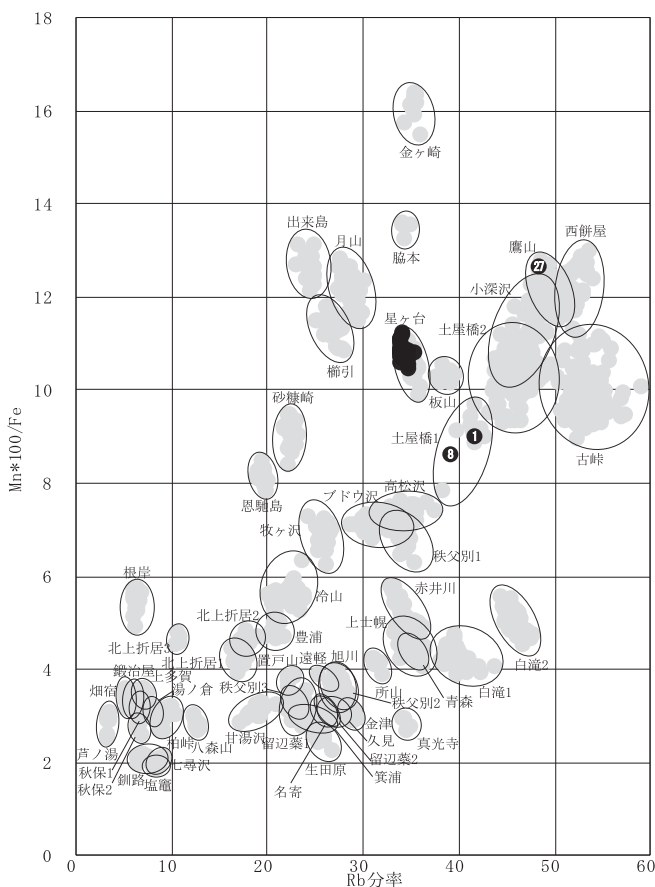
遺跡	器種	和田			諏訪	合計
		鷹山	土屋橋1	小計		
宮久保	石鏃				2	2
	楔形石器				1	1
	二次加工剥片				1	1
	剥片				4	4
	石核		2	2	10	12
	小計		2	2	18	20
中	尖頭器				1	1
	楔形石器				1	1
	エトスレバ-				1	1
	石核	1		1	3	4
	小計	1		1	6	7
	合計	1	2	3	24	27

4. おわりに

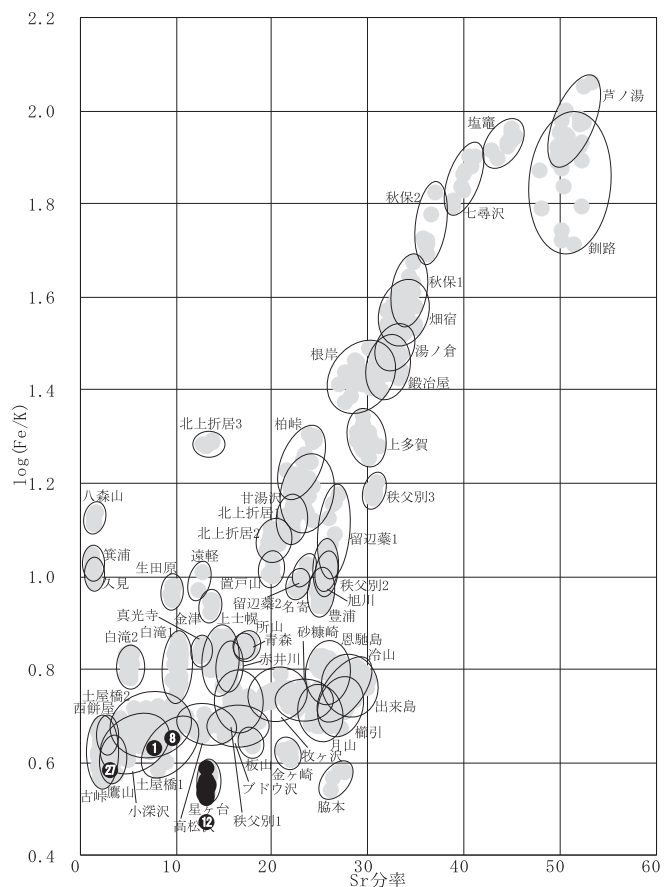
宮久保遺跡・中遺跡より出土した黒曜石製石器27点について、蛍光X線分析による産地推定を行った。その結果、3点が和田、24点が諏訪エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦(1999)上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」: 172-179,大和市教育委員会.



第153図 黒曜石製石器の産地推定判別図(1)



第154図 黒曜石製石器の産地推定判別図(2)

第6章 調査のまとめ

第1節 古墳時代の遺構の時期

○ 古墳時代の遺構の時期

宮久保遺跡・中遺跡では古墳時代の遺構として、宮久保遺跡F区1号竪穴建物・F区2号遺物集中、中遺跡1・2・3・5号竪穴建物・方形周溝墓が検出されている。これらの遺構はおおよそ古墳時代前期から中期と、古墳時代後期の遺構に分けられる。本項では出土遺物からこれらの遺構の時期を詳細に検討する。

1. 周辺地域の編年研究

遺跡周辺の土器編年研究には、富岡市上丹生屋敷山遺跡の編年を行った永井尚寿氏の研究⁽¹⁾や中居一丁目遺跡で古墳時代前期の土器の編年を行った大木紳一郎氏の研究⁽²⁾があげられる。これらの研究を参照して検討を行う。

2. 古墳時代前期から中期の遺構の時期

古墳時代前期から中期の遺構は、すべての遺構で共通して出土する器種が存在せず、一器種を取り上げ、その型式変化から各遺構の時期や構築順序を検討することが難しい。そのため、各遺構の遺物を先行研究の編年に照らして時期を検討する。

宮久保遺跡F区1号竪穴建物

第22図2～5の鉢は、口縁部の器形から、永井編年7期(5世紀第2四半期)に位置づけられる。また、6は内斜口縁になっている点や丸底である点から、内斜口縁杯につながる様相が窺え、やや新しい8段階(5世紀第3四半期)と見ることも可能である。

第22図1の高杯は脚部下位で大きく屈曲して開く形態から、永井編年7期以降に位置づけられる。大木編年では脚部の屈曲の度合いがやや緩い点から4段階に位置づけられる⁽³⁾。

以上の点から、宮久保遺跡F区1号竪穴建物は永井編年7～8段階(5世紀第2～3四半期)頃の遺構と考えられる。

宮久保遺跡F区2号遺物集中

遺構を伴わないため、正確な時期は判別できない。

時期を新しく想定できる要素は第52図2の高杯や第52図14の有孔鉢があげられる。2は、長脚の高杯でF区1号竪穴建物から出土した高杯と脚部の形状が類似し、同様の時期(永井編年7段階)が考えられる。14は器形の点では永井編年7期の小型甕Bに類似する⁽⁴⁾。

時期を古く想定できる要素は、まず、ミニチュア土器(第52図15～19)、手捏ね(第52図20～23)が出土する点があげられる。永井編年はミニチュア土器を3～6期(3世紀後半から4世紀後半)に位置付ける。また、第52図11のS字状口縁台付甕や第52図9の複合口縁壺が出土している点もあげられる。S字状口縁台付甕は、永井編年では4期(3世紀終末)～6期(4世紀後半)に位置づけられる。複合口縁壺は6期の壺Dに類似した器形が見られる。第52図3～7の鉢は、永井編年5・6期(4世紀代)に器形が類似する。

これらのことから、遺物集中はかなりの長期間にわたり行為が行われたと考えられる。時期は4世紀全般と考えられる。

中遺跡1区5号竪穴建物

第88図2の高杯は、杯部が浅めで、湾曲して立ち上がり、脚は緩く湾曲し三角形に開く。調整は、杯部内外面に横方向のミガキ、脚部外面にも斜め方向のミガキが施され、さらに外面と杯部内面は赤彩される。赤彩された高杯は、永井編年1～2段階(3世紀前半～中葉)に見られる。また、杯部が浅めの器形は永井編年では2期以降に見られる。

第88図5の甕は口縁部に輪積み痕が残存し、胴部は無文でミガキ調整が施される。このような甕は永井編年の甕Bに相当し、2～3期に見られる。このことから、5号竪穴建物は永井編年2～3期(3世紀中葉～後半)と考えられる。

中遺跡1区方形周溝墓

高杯は、第91図1が長脚で急激に屈曲して立ち上がる。この器形は永井編年では7期(5世紀第2四半期)から登

場する。しかし、方形周溝墓からの出土であること、第91図2・6は三角形に開く脚部であり、古めの傾向である。大木編年ではこの器形の高杯を3段階(4世紀後半)に位置づけることから、より古い年代が想定される。

第91図3の直口壺は口縁部の形状から永井編年6期(4世紀後半)と考えられる。

これらのことから方形周溝墓の年代は4世紀後半頃と考えられる。

3. 古墳時代後期の遺構の時期

出土遺物の器種や器形に類似点が多く、近接した時期の遺構であることが考えられる。また、竪穴建物からの出土で、共伴関係が明確である。

しかし、遺構は個々で存在するため、切り合い等から構築順序を想定できない。そのため、出土遺物に対して編年作業を行い、遺構の構築順序及び年代を推定する。

また、年代の誤差を減らすために床面及び覆土下層で出土した遺物を用いて分析をおこなう。

(1) 器種の分類と形式組列

出土遺物には、杯、高杯、椀、壺、甌、甕が見られるが、中でも杯、高杯は全竪穴建物から出土し、形式変化が認識しやすい。本項では年代比定を目的とするため、杯、高杯の2器種について分析を行い、他の器種は必要に応じて取り上げる(第155図)。

杯は模倣杯で構成され、A、Bに二分する。

杯Aは蓋模倣杯である。本項で取り扱うすべての竪穴建物で出土している。口縁部立ち上がり方と稜の形状から3形態に分類する。

A1—口縁部が垂直に立ち上がる。やや明瞭な稜を持つ。
A2—口縁部が外反する。稜部は内傾するか、垂直に気味に立ち上がる。外反の程度によりa・bに分けられる。
A3—口縁部が逆ハの字に開く。稜は沈線で表現される。

型式組列は、口縁部の開き方と稜の形状からA1→A2 a→A3、またはA3→A2 a→A1が想定できる。

A2bはA2 a、A3と共伴し、型式変化は認められない。

杯Bは身模倣杯である。口縁部が内傾するものと垂直に立ち上がるものがある。3号竪穴建物のみで出土しており、組列を検討できない点から分類しなかった。

杯の組列はA3、A2bとBが共伴することからA1→A2

a・A2b→A2b・A3・B、または、A2b・A3・B→A2 a・A2b→A1が考えられる。杯Bは身模倣杯であり、蓋模倣杯である杯Aより後出することから、A1→A2→A3・Bの順と考えられる。

高杯は、本項で取り扱うすべての竪穴建物で出土しているが、1・3号竪穴建物では杯部から脚部上位、2号竪穴建物では脚部下位のみ出土しているため、本項では1・3号竪穴建物出土の高杯を取り扱う。

高杯は口縁部の特徴から2形態に分類される。

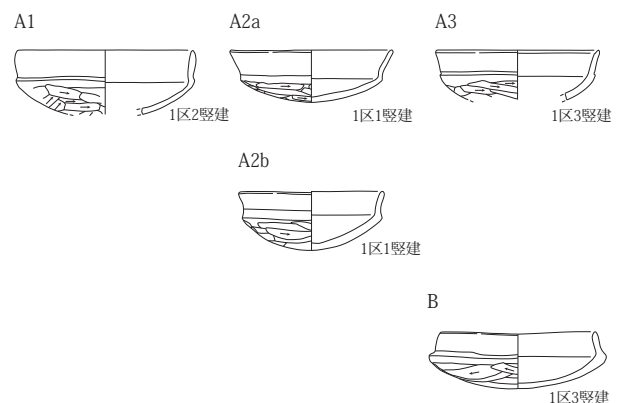
A1—口縁部が外反する。

A2—口縁部が外反し、端部で反り上がる。

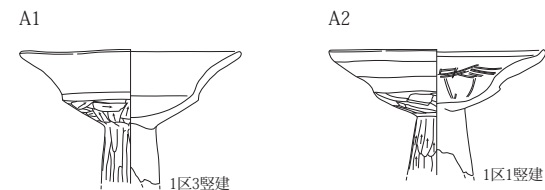
組列はA1→A2または、A2→A1が考えられる。A1は杯Bと共伴することからA2→A1の組列が考えられる。以上杯と高杯の組列を検討した。

(2) 編年的位置づけ

杯



高杯



第155図 杯・高杯の分類

次に、周辺地域の編年を基に、年代の推定を行う。

杯A1 はっきりした稜や口縁部が垂直に立ち上がる形態を持ち、永井編年の13段階(6世紀第3四半期)の杯Fに相当すると考えられる。

杯A2 a 外反する口縁部の形状は、永井編年の14段階(6世紀第4四半期)の杯Eに相当すると考えられる⁽⁵⁾。

杯A3 逆ハの字に開く口縁部の形状や稜部に沈線が引かれる形態は、永井編年の15段階(7世紀第1四半期)の杯Jに相当すると考えられる。

高杯 本項で取り上げた高杯は口縁部が大きく外反する有稜高杯で、杯部が深い。また、長脚である。このような形態の高杯は永井編年には掲載されていない。類例は金井下新田遺跡5世紀第4四半期から6世紀初頭₍₆₎に認められ、古い形態を残す高杯と考えられる。

また、本項では高杯を口縁部端の形態からA1・A2に分類したが、先行研究では、このような分類は行われていない。共伴する杯は6世紀第3四半期から7世紀初頭という短期間にまとまることから、非常に短期間での型式差や同時期に併存し、口縁部の形態差は製作した工人の癖によるものである可能性もある。

(3)遺構の時期

前項で検討した杯やその他出土遺物から竪穴建物の年代を検討する。

遺構の構築順序は杯の年代から中遺跡2号竪穴建物→中遺跡1号竪穴建物→中遺跡3号竪穴建物である。

1号竪穴建物の時期は、杯A2aから6世紀第4四半期頃に位置づけられる。また、共伴する甗も永井編年14期の中型甗に相当し、同様の時期を示す。

2号竪穴建物の時期は杯A1から6世紀第3四半期頃に位置づけられる。また、口縁部が長く垂直に立ち上がる壺が共伴する。この壺は永井編年15段階に見られる小型短頸壺と口縁部の成形に類似点が見られ、やや新しい時期とも考えられる。

3号竪穴建物の杯A3・Bから7世紀第1四半期に位置づけられる。また、共伴する小型甗は永井編年の16段階に類似した器形がある。このことから7世紀前半頃と考えられる。

(4)宮久保遺跡・中遺跡の遺構の時期

以上、宮久保遺跡・中遺跡の古墳時代の遺構の時期について検討した。

その結果、4世紀を中心とした時期と6世紀後半を中心とした時期に集落が形成されたことが指摘できる。両時期の集落は時期の隔たりが大きく一度廃絶し、再度集落形成が行われたと考えられる。

古墳時代前期から中期の集落では、竪穴建物は3世紀中葉～後半頃の中遺跡1区5号竪穴建物と5世紀第2～第3四半期頃の宮久保遺跡F1区1号竪穴建物の2棟しか確認されていないが、宮久保遺跡F区2号遺物集中が両竪穴建物の時期を含む長期の遺構であるため、同一の集落の遺構と考えられる。

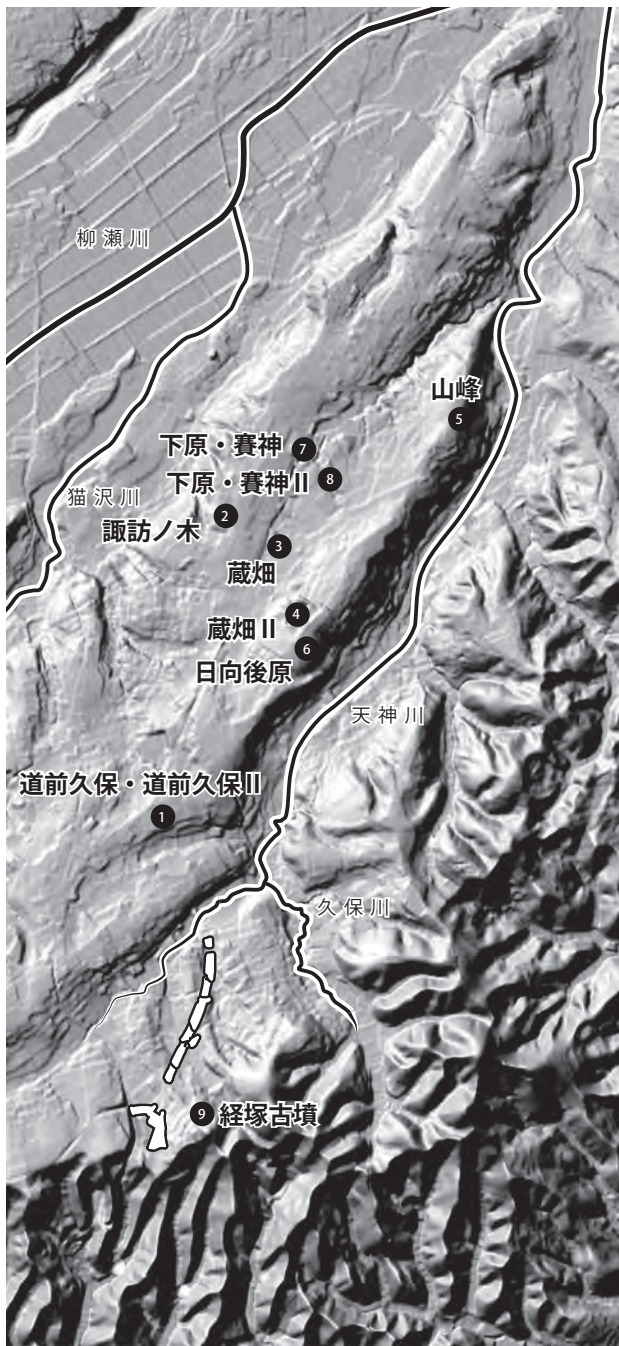
古墳時代後期の集落は6世紀後半頃から集落が形成され始め、7世紀前半には廃絶する。遺構は時期が近く、建て替えの可能性も考えられる。

註

- 1 永井尚寿 2009 「上丹生屋敷山遺跡における弥生時代環濠集落・古墳時代集落の検討」『丹生地区遺跡群(本文編)』富岡市教育委員会、以後永井編年と呼称
- 2 大木紳一郎 2007 「出土遺物による年代観の推定」『中居一丁目遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、以後大木編年と呼称
- 3 大木編年の4段階は年代を示していないが、3段階が4世紀後半としており、それ以降の時期が与えられる。
- 4 この土器には、被熱痕や焦げ等がなく、加熱を伴う用途への使用が認められないことから観察表では有孔鉢とした。
- 5 A2bは、A2a・A3と共伴することから、これらと同様の時期としておきたい。しかし、永井編年12段階(6世紀第2四半期)の杯Eに類似した器形のものが掲載されている。A2bは床面から15cm以上離れた覆土中から出土していることから、別の竪穴建物の遺物が埋没過程で流れ込んだ可能性も考えられる。
- 6 小島敦子 2021 「5. 囲い状遺構造営前の古墳時代集落」『金井下新田遺跡 分析・論考編』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

第2節 総括

遺跡が位置する間仁田地域における発掘調査は、猫沢川と天神川に挟まれた台地上に集中し、宮久保遺跡・中遺跡（以下、本遺跡群と略す）の位置する天神川右岸では地形的制約もあるため、遺跡の検出例は少ない。今回の調査では、主に縄文時代から古墳時代、中・近世の遺構・遺物が検出された。また、地すべり・断層が各調査区で確認され、自然災害の一端が明らかになった。本節では地すべり・断層と集落について周辺遺跡と関連づけ



第156図 周辺遺跡の地すべり・地割れ・断層

て述べることにする。

1. 地すべり・断層について

間仁田地域の地盤の特徴として、断層・地割れ・地すべり・流動化現象などがみられる。これらはローム層の堆積以降に地震活動があったことを示している。猫沢川と天神川間の台地上の遺跡では、縄文時代と古代の地震が確認されている。これまでの発掘調査によって明らかになっている災害の痕跡は次のとおりである。

- ①道前久保遺跡・道前久保Ⅱ遺跡：諸磯c式期の竪穴建物を壊している。
- ②諏訪ノ木遺跡：古墳時代中期末から後期初頭の竪穴建物に亀裂。
- ③蔵畑遺跡：他の遺構との重複なし。
- ④蔵畑Ⅱ遺跡：縄文時代と平安時代の地震跡
- ⑤山峰遺跡：地震の亀裂と考えられる溝。
- ⑤山峰遺跡（北調査区）：縄文前期中葉の土坑を壊している。
- ⑥日向後原遺跡：加曾利E4式期の土坑を壊している。
- ⑦下原・賽神遺跡：地震に起因するとV字状の断層。
- ⑧下原・賽神Ⅱ遺跡：亀裂形成後、10世紀前半の竪穴建物。

本遺跡群でも各調査区で地すべり・断層・山崩れが確認されている。検出状況は以下のとおりである。

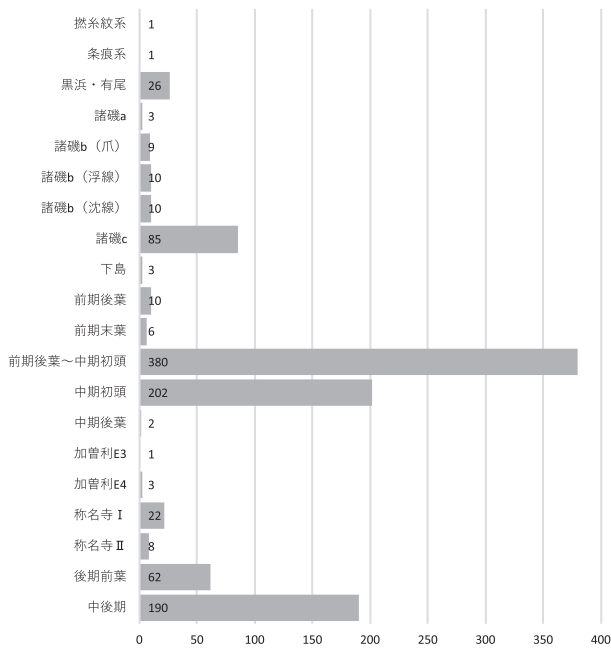
B区旧石器調査坑：As-YP層からAs-BP群にかけてV字状の亀裂を確認した。この亀裂は、As-MP層まで及んでいる。

D区深掘り：As-YPからAs-BPを含むローム層が斜めに堆積している。ローム下からはAs-Cを含む黒色土が検出されている。黒色土層以下の層位からは遺構や遺物は確認されていない。

E区1号旧石器調査坑：As-YP層が斜めに堆積した地割れを確認した。

F-1区X=32,790、Y=-84,530地点以北：ローム層の下位より黒色土を検出した。このロームは黒色土上に成層構造を保ったまま堆積しており、地すべりと推定される。地すべりの下位から、古墳時代5世紀前半の竪穴建物1棟、土坑2基、ピット24基、五領ケ台式期の埋甕1基を検出した。また、黒色土とその下位の暗褐色土層にかけての層位からは、縄文時代早期後半から後期前葉までの縄文土器と石器、古墳時代前期から中期にかけての土師器が出土している。弥生土器は含まれていない。

第6章 調査のまとめ



第157図 縄文土器の時期別出土状況



第158図 古墳時代土師器の時期別出土状況

縄文土器の時期別出土状況については第157図に、古墳時代出土遺物のうち時期が判別できた土師器の数は第158図に示した。

F-1区1号旧石器調査坑：地すべりのローム中上層のAs-YP層から最下層にかけての断層と地割れ痕を確認した。地割れ痕からはローム下の黒色土の噴砂も検出した。

F-1区3号旧石器調査坑：地すべりのローム中上層のAs-YP層から最下層にかけての断層を確認した。断層からはローム下の黒色土の噴砂を検出した。

F-1区4号旧石器調査坑：地割れ痕は確認できなかったが、下層で地割れを確認した。F-1区3号旧石器調査坑と同様にローム下の黒色土の噴砂を検出した。

2区1号竪穴建物東の地すべり痕：黒褐色土の上位に地すべりと推定されるロームを検出した。

2区西壁基本土層：V層の黒褐色土層下位にローム、その下位に暗褐色土を検出した。

本遺跡群の調査で確認された、地すべりや地割れは、竪穴建物や土坑など遺構との重複がないため、時期を明らかにすることはできなかった。しかし、D区の地すべりは、ローム下からAs-C混土が確認されていることから

4世紀中ごろ以降であると考えられる。また、F-1区の黒色土以下の層位で確認した遺構や遺物は、縄文早期後半の遺物が最古であり、1号竪穴建物が最も新しいことが確認できた。よってF-1区の地すべりは、古墳時代中期中頃以降に発生したと推定される。

2. 宮久保遺跡・中遺跡の集落

本遺跡群の集落から南に約300m離れた高台の頂上部に経塚古墳(第156図⑨)が存在し、5世紀前半の築造と考えられている。この古墳は安中市史によると、この地域に突然登場した古墳であり、周辺一帯にこれよりさかのぼる古墳はないとしている。F区1号竪穴建物は、経塚古墳の築造時期と比較的近い遺構であり、本遺跡群の集落との関連性が考えられる。

また、2号遺物集中からは4世紀後半の土師器と、F区1号竪穴建物と同時期の土師器が多数を占めている。特にX=34,831、Y=-84,505地点(第51図)からは、4世紀後半の小壺や手捏ね土器がまとめて出土しており、1区1号方形周溝墓から出土した土器と比較的近い時期の祭祀遺構の可能性もある。したがって、本遺跡の遺構の変遷は前節に述べられているように、1区5号竪穴建物(3世紀中～後半)→1区1号方形周溝墓(4世紀後半)→経塚古墳(5世紀前半)→F区1号竪穴建物(5世紀第2～第3四半期)→空白期間→1区2号竪穴建物(6世紀第3四半期)→1区1号竪穴建物(6世紀第4四半期)→1区3号竪穴建物(7世紀前半)となる。

これは、猫沢川と天神川に挟まれた台地上で営まれた諏訪ノ木遺跡や下原・賽神遺跡、蔵畑遺跡などの集落と同様の傾向で、ここでも弥生時代後期から7世紀代まで集落が展開していたことが明らかになっている。今回の調査は限られた範囲の中で、4世紀後半の方形周溝墓や5世紀中頃の竪穴建物が調査された。このことは、当該地域の集落と墓域を考えるうえで貴重な資料となろう。

参考文献

- 安中市市史刊行委員会 2001 『安中市史 第4巻』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団 1998 『日向後原遺跡・野毛原遺跡・山峰遺跡』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団 2005 『諏訪ノ木遺跡』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団 2005 『下原・賽神遺跡』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団 2006 『蔵畑Ⅱ遺跡』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『道前久保Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 安中市埋蔵文化財発掘調査団 2011 『下原・賽神Ⅱ遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『長谷津遺跡』

写真図版



1 宮久保遺跡 A区からD区全景①(東より)



2 宮久保遺跡 A区からD区全景②(西より)



1 F区1号竪穴建物全景(北西より)



2 F区1号竪穴建物土層断面A-A'(南より)



3 F区1号竪穴建物遺物出土状況(南西より)



4 F区1号竪穴建物掘方全景(南西より)



5 F区1号竪穴建物貯蔵穴全景(西より)



1 G区1号井戸土層断面(南東より)



2 G区1号井戸全景(南東より)



3 A区土坑群1 1号土坑土層断面A(南西より)



4 A区土坑群1 3号土坑土層断面B(南西より)



5 A区土坑群1 3号土坑全景(南西より)



6 A区土坑群1 10号土坑土層断面C(北東より)



7 A区土坑群1 13号土坑全景(南西より)



1 A区土坑群1 10号土坑全景(南西より)



2 A区土坑群1 2号土坑土層断面E(北東より)



3 A区土坑群1 2号土坑全景(北東より)



4 A区土坑群1 14号土坑土層断面F(南西より)



5 A区土坑群1 14号土坑全景(南西より)



6 A区土坑群1 12号土坑全景(南西より)



1 A区土坑群1 12号土坑土層断面G(南西より)



2 A区土坑群1 11号土坑土層断面H(南西より)



3 A区土坑群1 11号土坑全景(南西より)



4 A区土坑群1 15号土坑土層断面I(南西より)



5 A区土坑群1 15号土坑全景(南西より)



6 A区土坑群1 4号復旧坑全景(北東より)



7 A区土坑群1 1号復旧坑土層断面K(北東より)



1 A区土坑群1 1号復旧坑全景(北東より)



2 A区土坑群1 5号復旧坑全景(北東より)



3 A区土坑群1 6号復旧坑土層断面N(北東より)



4 A区土坑群1 6号復旧坑全景(北東より)



5 A区土坑群1 3号復旧坑全景(南西より)



6 A区土坑群1 2号復旧坑全景(南西より)



1 A区土坑群1 7号復旧坑土層断面P(北東より)



2 A区土坑群1 7号復旧坑全景(北東より)



3 A区土坑群2 10号復旧坑土層断面A(南西より)



4 A区土坑群2 11号復旧坑土層断面B(北東より)



5 A区土坑群2 10号復旧坑全景(北東より)



6 A区土坑群2 11号復旧坑全景(北東より)



1 A区土坑群2 4号土坑土層断面C(北東より)



2 A区土坑群2 5号土坑土層断面D(北東より)



3 A区土坑群2 4号土坑(奥)、5号土坑全景(南東より)



4 A区土坑群2 6号土坑土層断面E(北東より)



5 A区土坑群2 6号土坑全景(南東より)



6 A区土坑群2 7号土坑(左)・8号土坑土層断面F(南西より)



7 A区土坑群2 7号土坑(奥)・8号土坑全景(南東より)



8 A区土坑群2 9号土坑土層断面G(南西より)



1 A区土坑群2 9号土坑全景(北東より)



2 A区土坑群3 9号復旧坑土層断面A(北東より)



3 A区土坑群3 9号復旧坑全景(北東より)



5 A区土坑群3 16号土坑全景(北東より)



4 A区土坑群3 16号土坑土層断面B(北東より)



6 A区土坑群 8号復旧坑土層断面(北西より)



7 A区土坑群 8号復旧坑全景(北西より)



1 A区土坑群 14号復旧坑土層断面(西より)



2 A区土坑群 13号復旧坑土層断面(東より)



3 A区土坑群 14号復旧坑全景(西より)



4 A区土坑群 13号復旧坑全景(東より)



5 A区土坑群 12号復旧坑土層断面(北東より)



6 A区土坑群 12号復旧坑全景(北東より)



1 D区1号土坑土層断面(南より)



2 D区2号土坑土層断面(南東より)



3 D区2号土坑全景(北東より)



4 D区3号土坑土層断面(西より)



5 D区3号土坑全景(西より)



6 D区4号土坑土層断面(西より)



7 D区4号土坑全景(西より)



1 D区5号土坑土層断面(北より)



2 D区5号土坑全景(北より)



3 D区6号土坑土層断面(北西より)



4 D区6号土坑全景(北西より)



5 D区7号土坑土層断面(南東より)



6 D区7号土坑全景(北より)



7 D区8号土坑土層断面(西より)



8 D区8号土坑全景(西より)



1 D区9号土坑土層断面(西より)



2 D区9号土坑全景(西より)



3 D区10号土坑土層断面(西より)



4 D区10号土坑全景(西より)



5 D区11号土坑土層断面(東より)



6 D区11号土坑全景(西より)



7 D区12号土坑土層断面(北東より)



8 D区12号土坑全景(南西より)



1 D区13号土坑土層断面(北東より)



2 D区13号土坑全景(西より)



3 D区14号土坑土層断面(東より)



4 D区14号土坑全景(西より)



5 D区15号土坑土層断面(北西より)



6 D区15号土坑全景(北東より)



7 D区16号土坑土層断面(北より)



8 D区16号土坑全景(北より)



1 F区1号土坑土層断面(南西より)



2 F区1号土坑全景(西より)



3 F区2号土坑土層断面(南西より)



4 F区2号土坑全景(南東より)



5 E区1号ピット土層断面(南より)



6 E区1号ピット全景(南より)



7 E区2号ピット土層断面(南東より)



8 E区2号ピット全景(南東より)



1 E区3号ピット土層断面(南西より)



2 E区3号ピット全景(西より)



3 F区2号ピット土層断面(南西より)



4 F区10号ピット土層断面(南西より)



5 F区13号ピット土層断面(南西より)



6 F区17号ピット土層断面(南西より)



7 F区22号ピット全景(南より)



8 F区ピット群全景(北より)



1 A区1号溝全景(北東より)



2 A区1号溝土断面(南西より)



3 D区1号溝全景(北東より)



4 D区2号溝土層断面(南より)



5 D区2号溝全景(南より)



6 D区3号溝全景(東より)



1 D区4号溝全景(南東より)



2 D区5号溝土層断面(西より)



3 F区1号溝土層断面(南東より)



4 F区1号溝全景(南東より)



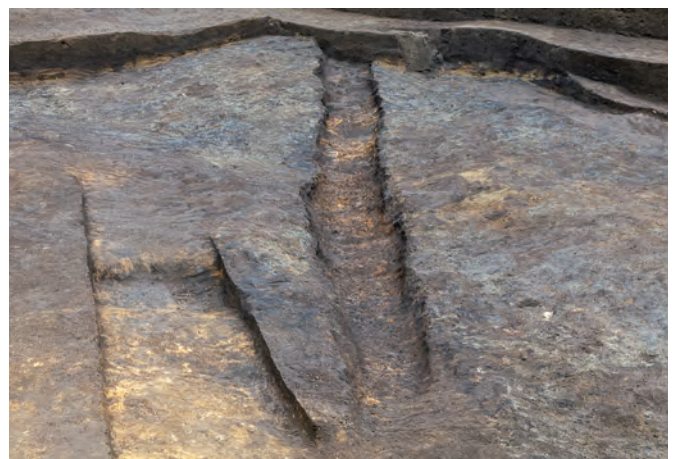
5 F区2号溝土層断面(南東より)



6 F区2号溝全景(北東より)



7 F区3号溝土層断面(北西より)



8 F区3号溝全景(西より)



1 F区4号溝全景(南西より)



2 G区1号溝全景(西より)



3 F区1号埋甕全景(西より)



4 F区1号焼土土層断面(南西より)



5 F区2号焼土検出状況(東より)



6 F区1号遺物集中全景(西より)



7 F区2号遺物集中全景①(東より)



8 F区2号遺物集中全景②(北より)



1 F区2号遺物集中全景③(南より)



2 F区2号遺物集中遺物出土状況①(西より)



3 F区2号遺物集中遺物出土状況②(西より)



4 F区2号遺物集中遺物出土状況③(南より)



5 F区2号遺物集中遺物出土状況④(北東より)



1 A区1号旧石器調査坑土層断面A-A' (南西より)



2 A区2号旧石器調査坑土層断面B-B' (南より)



3 A区3号旧石器調査坑土層断面C-C' (西より)



4 A区4号旧石器調査坑土層断面D-D' (南より)



5 B区旧石器調査坑土層断面A-A' (東より)



6 C区旧石器調査坑土層断面B-B' (西より)



7 E区1号旧石器調査坑土層断面B-B' (東より)



8 E区2号旧石器調査坑土層断面D-D' (西より)



1 E区3号旧石器調査坑土層断面E-E'(北より)



2 F区1号旧石器調査坑土層断面(北より)



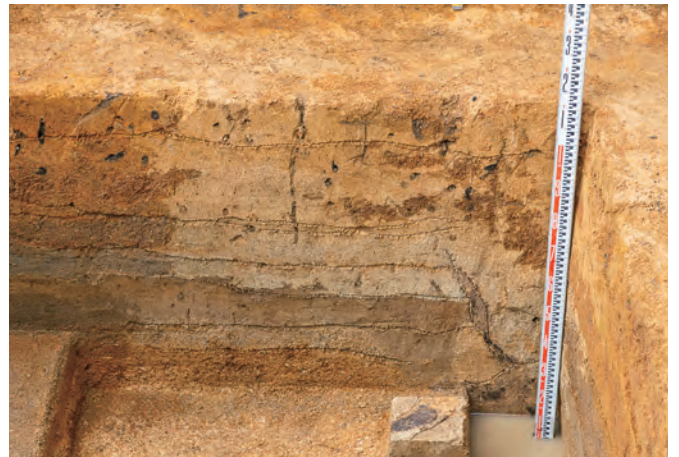
3 F区2号旧石器調査坑土層断面(北より)



4 F区3号旧石器調査坑土層断面(北より)



5 F区4号旧石器調査坑土層断面①(南より)



6 F区4号旧石器調査坑土層断面②(南より)



7 F区5号旧石器調査坑土層断面(北より)



8 F区6号旧石器調査坑土層断面と地すべり下の黒色土(北より)

宮久保遺跡

F区1号竖穴建物



A区3号土坑



F区1号埋甕



F区1号烧土



F区1号遺物集中



F区2号遺物集中



1



3



4



5



6



7



8



9



10



12



13



15



16



17



14



18



19



20



21



22



23



24



25



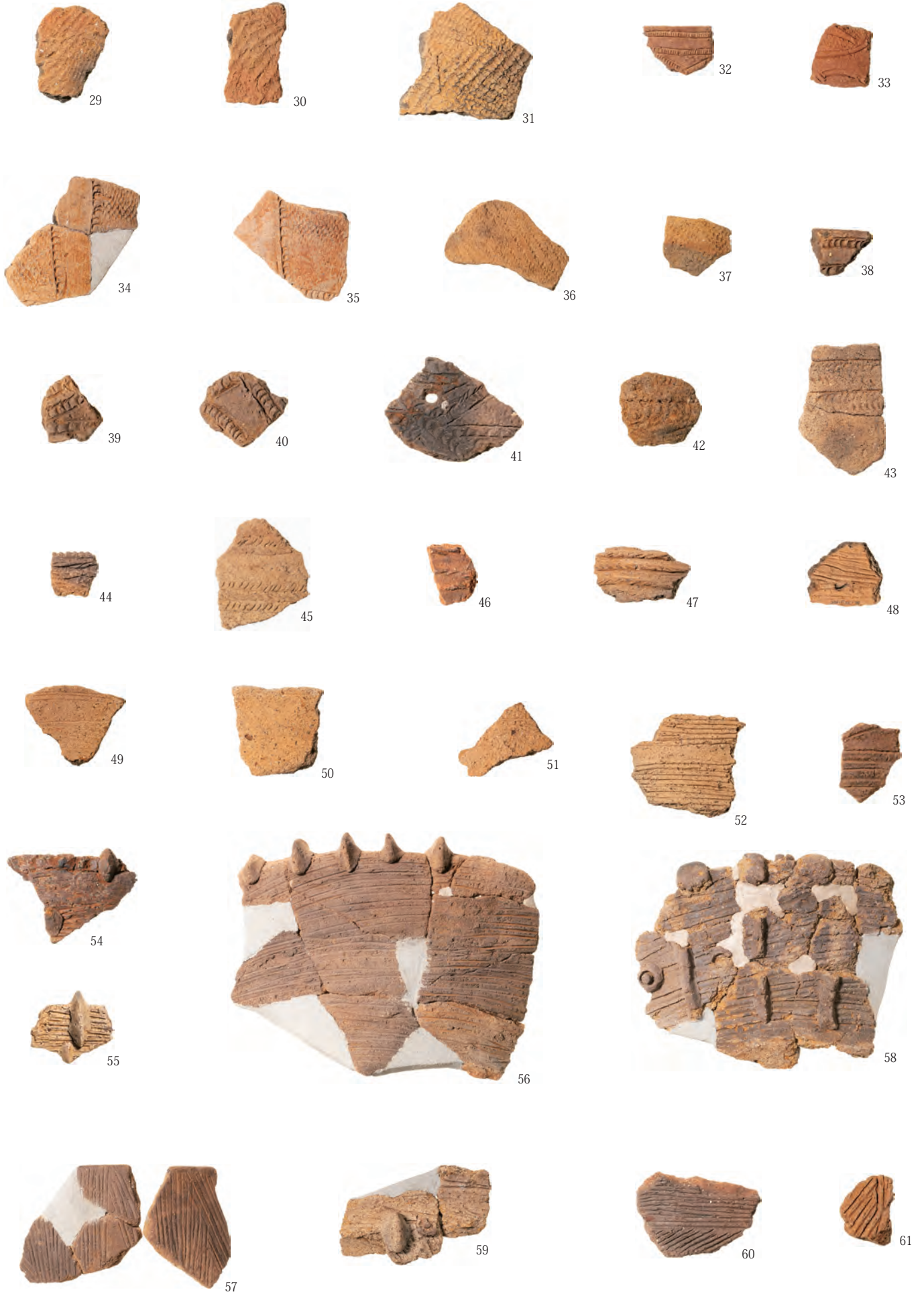
26



27



28









127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



147



149



146



148



150



151



152



153



154



157



156



155



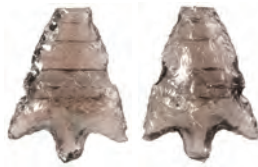
158



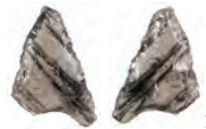
159



160



161



162



163



164



165



166



167



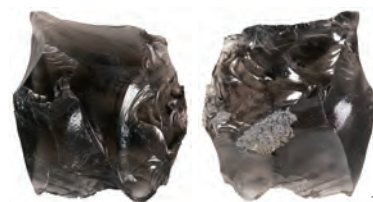
168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



182



185



183



184



186



187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



207



208



206



209



210



211



212



213

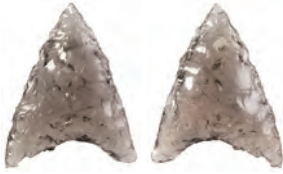


214

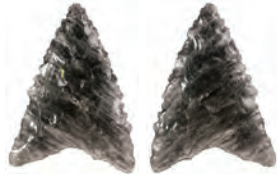
遺構外



1



2



3



4



5



6



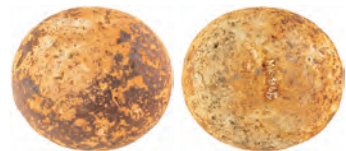
7



8



9



10



11



12



1 中遺跡 1区全景(東より)



2 中遺跡 1区全景(北より)奥に連なる宮久保遺跡



1 1区1号竪穴建物掘方全景(東より)



2 1区1号竪穴建物土層断面A-A'(南より)



3 1区1号竪穴建物土層断面B-B'(東より)



4 1区1号竪穴建物使用面全景(南より)



5 1区1号竪穴建物カマド全景(西より)



1 1区1号竪穴建物カマド土層断面C-C'(北より)



2 1区1号竪穴建物カマド土層断面D-D'(西より)



3 1区1号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(南より)



4 1区1号竪穴建物全景(調査範囲拡張前後)(東より)



5 1区1号竪穴建物掘方土層断面B-B'(調査範囲拡張前後)(東より)



6 1区1号竪穴建物P1土層断面F-F'(東より)



7 1区1号竪穴建物2号床下土坑全景(東より)



8 1区1号竪穴建物調査風景(東より)



1 1区2号竪穴建物使用面全景(西より)



2 1区2号竪穴建物土層断面A-A'(南より)



3 1区2号竪穴建物土層断面B-B'(西より)



4 1区2号竪穴建物P1土層断面G-G'(南より)



5 1区2号竪穴建物P1全景(西より)



1 1区2号竪穴建物P 2土層断面G-G'(南より)



2 1区2号竪穴建物P 2全景(西より)



3 1区2号竪穴建物P 3土層断面F-F'(南より)



4 1区2号竪穴建物P 3全景(西より)



5 1区2号竪穴建物P 4土層断面F-F'(南より)



6 1区2号竪穴建物P 4全景(西より)



7 1区2号竪穴建物カマド南炭化物確認状況(西より)



8 1区2号竪穴建物貯蔵穴全景(南より)



1 1区2号竪穴建物カマド土層断面D-D' (西より)



2 1区2号竪穴建物カマド全景(西より)



3 1区2号竪穴建物掘方土層断面A-A' (南より)



4 1区2号竪穴建物掘方全景(西より)



5 1区3号竪穴建物使用面全景(西より)



6 1区3号竪穴建物土層断面A-A'・B-B' (北西より)



7 1区3号竪穴建物P1土層断面G-G' (南より)



8 1区3号竪穴建物P2土層断面G-G' (南より)



1 1区3号竪穴建物P 3土層断面J-J' (南より)



2 1区3号竪穴建物P 4土層断面K-K' (北より)



3 1区3号竪穴建物貯蔵穴全景(西より)



4 1区3号竪穴建物掘方全景(西より)



5 1区4号竪穴建物使用面全景(南東より)



6 1区4号竪穴建物土層断面A-A' (南より)



7 1区4号竪穴建物土層断面B-B' (西より)



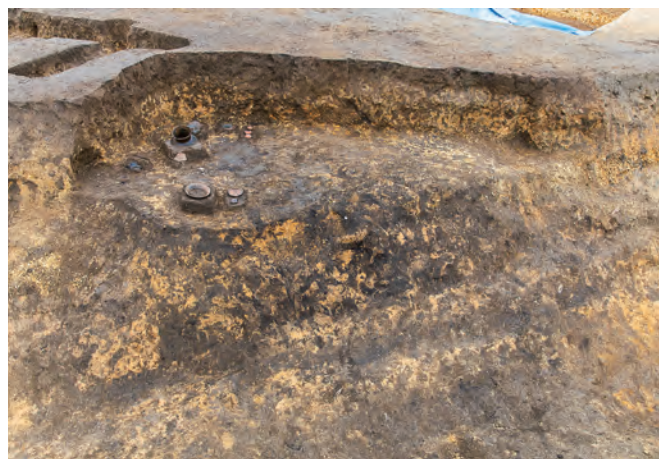
8 1区4号竪穴建物1号床下土坑全景(南より)



1 1区5号竪穴建物遺物出土状況(南西より)



2 1区5号竪穴建物土層断面A-A'(北西より)



3 1区5号竪穴建物使用面全景(北東より)



4 1区5号竪穴建物掘方全景(北東より)



5 1区5号竪穴建物P1全景(北東より)



1 2区1号竖穴建物使用面全景(南西より)



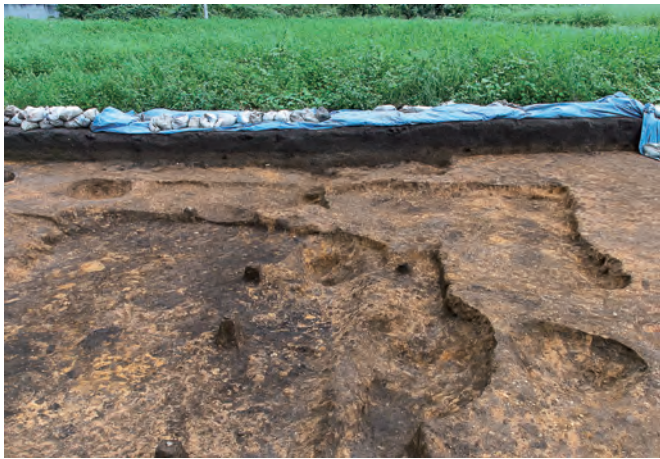
2 2区1号竖穴建物土層断面A-A'(南東より)



3 2区1号竖穴建物土層断面B-B'(南西より)



4 2区1号竖穴建物調査風景(南西より)



5 1区1号竖穴状遺構全景(西より)



6 1区1号竖穴状遺構・2号竖穴状遺構土層断面A-A'(西より)



7 1区2号竖穴状遺構全景(西より)



8 1区1号竖穴状遺構・2号竖穴状遺構調査風景(西より)



1 1区1号方形周溝墓全景(東より)



2 1区1号方形周溝墓土層断面A-A'(西より)



3 1区1号方形周溝墓土層断面B-B'(西より)



4 1区1号方形周溝墓土層断面C-C'(北より)



5 1区1号方形周溝墓遺物出土状況(南より)



1 3区調査区全景(北より)



2 3区調査区南側①(北より)



1 3区調査区南側②(北より)



2 3区東壁土層断面A-A'(北より)



3 3区東壁土層断面A-A'(西より)



4 1区1号溝土層断面(東より)



6 1区2号溝土層断面(南東より)



5 1区1号溝全景(東より)

中遺跡



1 1区3号溝土層断面(北より)



2 1区3号溝全景(南より)



3 1区1号石列土層断面C-C'(東より)



4 1区1号石列と1区2号溝全景(東より)



5 1区1号石列全景(北より)



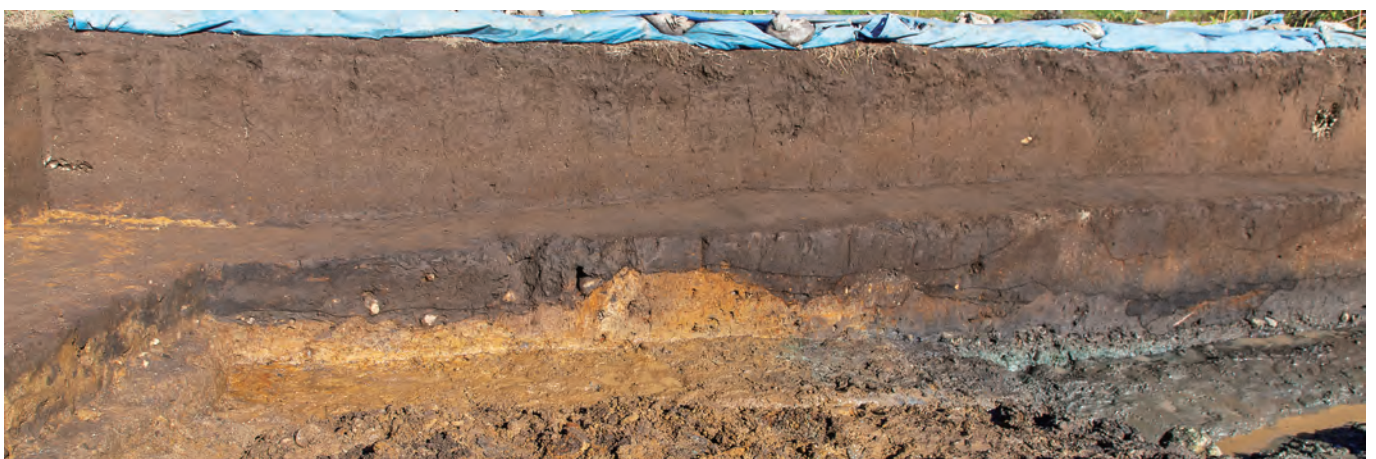
1 2区1号溝土層断面(東より)



2 2区1号溝全景(東より)



3 3区1号溝～5号溝全景(北より)



4 3区1号溝～4号溝土層断面E-E'(南より)



1 3区1号溝全景(南より)



2 3区1号溝流木出土状況(西より)



3 3区1号溝出土杭B-B'(北西より)



4 3区3号溝(右)、4号溝全景(南より)



5 3区1号溝石列南側全景(東より)



6 3区1号溝石列北側全景(南西より)



1 1区1号焼土確認状況(南より)



2 1区1号焼土土層断面(南西より)



3 4区全景(南西より)



1 1区1号土坑土層断面(北西より)



2 1区1号土坑全景(南より)



3 1区2号土坑土層断面(南東より)



4 1区2号土坑全景(南東より)



5 1区3号土坑土層断面(南より)



6 1区3号土坑(右)、4号土坑全景(北より)



7 1区4号土坑土層断面(北より)



8 1区4号土坑(右)、3号土坑全景(南より)



1 1区5号土坑土層断面(南より)



2 1区5号土坑全景(西より)



3 1区6号土坑土層断面(南東より)



4 1区6号土坑全景(南東より)



5 1区7号土坑土層断面(南より)



6 1区7号土坑全景(南より)



7 1区8号土坑土層断面(東より)



8 1区9号土坑土層断面(南東より)



1 1区9号土坑(手前)、10号土坑全景(南西より)



2 1区10号土坑土層断面(南東より)



3 1区10号土坑(右)、9号土坑全景(南東より)



4 1区11号土坑土層断面(東より)



5 1区11号土坑全景(北より)



6 1区13号土坑土層断面(南より)



7 1区13号土坑全景(南より)



8 1区14号土坑土層断面(西より)



1 1区14号土坑全景(西より)



2 1区15号土坑土層断面(西より)



3 1区15号土坑全景(西より)



4 1区16号土坑土層断面(南より)



5 1区16号土坑全景(東より)



6 1区17号土坑土層断面(北西より)



7 1区17号土坑全景(北東より)



8 1区19号土坑土層断面(南東より)



1 1区19号土坑全景(東より)



2 1区20号土坑土層断面(東より)



3 1区20号土坑全景(南より)



4 1区21号土坑全景(南より)



5 1区22号土坑土層断面(西より)



6 1区22号土坑全景(南より)



7 1区23号土坑土層断面(南西より)



8 1区23号土坑全景(東より)



1 1区25号土坑土層断面(北東より)



2 1区25号土坑全景(南より)



3 1区26号土坑土層断面(西より)



4 1区26号土坑全景(西より)



5 1区27号土坑土層断面(南西より)



6 1区26号土坑(手前)、27号土坑全景(南より)



7 1区28号土坑土層断面(北東より)



8 1区28号土坑全景(西より)

中遺跡



1 1区29号土坑土層断面(西より)



2 1区29号土坑全景(西より)



3 1区30号土坑土層断面(西より)



4 1区30号土坑全景(西より)



5 1区31号土坑土層断面(南より)



6 1区31号土坑全景(南より)



7 1区32号土坑土層断面(北西より)



8 1区32号土坑全景(北西より)



1 1区33号土坑土層断面(東より)



2 1区33号土坑全景(西より)



3 1区34号土坑土層断面(北より)



4 1区34号土坑全景(西より)



5 1区35号土坑土層断面(西より)



6 1区35号土坑全景(北より)



7 1区36号土坑土層断面(北西より)



8 1区36号土坑全景(西より)

中遺跡



1 1区37号土坑土層断面(南西より)



2 1区37号土坑全景(南西より)



3 1区39号土坑土層断面(東より)



4 1区39号土坑全景(南より)



5 1区40号土坑土層断面(南西より)



6 1区40号土坑全景(南西より)



7 1区41号土坑土層断面(南より)



8 1区41号土坑全景(南より)



1 1区42号土坑土層断面(南西より)



2 1区42号土坑全景(西より)



3 1区43号土坑土層断面(西より)



4 1区43号土坑全景(西より)



5 1区44号土坑土層断面(西より)



6 1区44号土坑全景(西より)



7 1区45号土坑土層断面(北西より)



8 1区45号土坑全景(西より)



1 1区46号土坑土層断面(南東より)



2 1区46号土坑全景(南西より)



3 1区47号土坑土層断面(北西より)



4 1区47号土坑全景(南西より)



5 1区48号土坑土層断面(南東より)



6 1区48号土坑全景(南西より)



7 1区49号土坑土層断面(南東より)



8 1区49号土坑全景(北より)



1 1区50号土坑土層断面(西より)



2 1区50号土坑全景(西より)



3 1区51号土坑土層断面(東より)



4 1区51号土坑全景(東より)



5 1区52号土坑土層断面(北東より)



6 1区52号土坑全景(東より)



7 1区52号土坑遺物出土状態①(東より)



8 1区52号土坑遺物出土状態②(北より)



1 1区53号土坑土層断面及び全景(西より)



2 1区54号土坑全景(南より)



3 1区55号土坑土層断面(北西より)



4 1区55号土坑全景(西より)



5 1区56号土坑土層断面(北西より)



6 1区56号土坑全景(西より)



7 1区57号土坑土層断面(南より)



8 1区57号土坑全景(南より)



1 1区58号土坑・60号土坑土層断面(西より)



2 1区58号土坑・60号土坑全景(西より)



3 1区59号土坑土層断面(西より)



4 1区59号土坑全景(西より)



5 1区61号土坑土層断面(南西より)



6 1区61号土坑全景(南西より)



7 1区62号土坑土層断面(東より)



8 1区62号土坑全景(東より)

中遺跡



1 1区63号土坑土層断面(西より)



2 1区63号土坑全景(西より)



3 1区65号土坑土層断面(北より)



4 1区65号土坑全景(北より)



5 1区66号土坑土層断面(西より)



6 1区66号土坑全景(西より)



7 2区1号土坑土層断面(東より)



8 2区1号土坑全景(東より)



1 2区2号土坑土層断面(北より)



2 2区3号土坑土層断面(北より)



3 2区4号土坑土層断面(東より)



4 2区5号土坑土層断面(南東より)



5 2区5号土坑全景(北西より)



6 2区6号土坑土層断面(北より)



7 2区7号土坑全景(西より)



8 2区8号土坑土層断面(西より)



1 2区8号土坑全景(北より)



2 2区9号土坑土層断面(北より)



3 2区9号土坑(奥)・10号土坑全景(東より)



4 2区10号土坑土層断面(南より)



5 2区11号土坑土層断面(東より)



6 2区12号土坑土層断面(東より)



7 2区12号土坑全景(東より)



8 2区13号土坑土層断面(南西より)



1 2区13号土坑全景(南より)



2 2区14号土坑全景(南より)



3 2区15号土坑・2号ピット土層断面(南より)



4 2区15号土坑・2号ピット全景(南より)



5 2区16号土坑土層断面A-A'(東より)



6 2区16号土坑土層断面A-A'・B-B'(北東より)



7 2区16号土坑全景(北より)



8 2区17号土坑土層断面B-B'(北より)



1 2区17号土坑全景(北より)



2 2区18号土坑・21号土坑土層断面A-A'(北より)



3 2区18号土坑(手前)・21号土坑全景(西より)



4 2区19号土坑土層断面(東より)



5 2区19号土坑全景(北より)



6 2区20号土坑土層断面(東より)



7 2区20号土坑全景(北より)



8 2区21号土坑土層断面B-B'(西より)



1 2区22号土坑土層断面(北西より)



2 2区22号土坑全景(東より)



3 2区23号土坑土層断面(北西より)



4 2区22号土坑(左)・23号土坑全景(北西より)



5 2区24号土坑土層断面(南西より)



6 2区24号土坑全景(南東より)



7 4区1号土坑土層断面(南より)



8 4区1号土坑全景(東より)



1 4区2号土坑土層断面(南西より)



2 4区2号土坑全景(東より)



3 4区3号土坑土層断面(東より)



4 4区3号土坑全景(西より)



5 4区4号土坑土層断面(南より)



6 4区4号土坑全景(東より)



7 1区1号ピット土層断面(南東より)



8 1区1号ピット全景(南より)



1 1区17号ピット土層断面(南東より)



2 1区18号ピット土層断面(南より)



3 1区18号ピット全景(北より)



4 1区21号ピット土層断面(西より)



5 1区21号ピット全景(西より)



6 1区22号ピット土層断面(東より)



7 1区22号ピット全景(東より)



8 1区23号ピット土層断面(南東より)



1 1区23号ピット全景(南より)



2 1区24号ピット土層断面(南より)



3 1区24号ピット全景(南より)



4 1区25号ピット土層断面(南より)



5 1区25号ピット全景(南より)



6 1区26号ピット土層断面(南より)



7 1区26号ピット全景(南より)



8 1区34号ピット土層断面(南より)



1 1区35号ピット土層断面(南より)



2 1区35号ピット全景(南より)



3 1区46号ピット土層断面(南東より)



4 1区46号ピット全景(南より)



5 1区57号ピット土層断面(南より)



6 1区57号ピット全景(北より)



7 1区63号ピット土層断面(南より)



8 1区63号ピット全景(北より)

中遺跡



1 1区66号ピット土層断面(南より)



2 1区66号ピット全景(北より)



3 1区69号ピット土層断面(南より)



4 1区69号ピット全景(北より)



5 1区70号ピット土層断面(北より)



6 1区70号ピット全景(北より)



7 1区71号ピット土層断面(南より)



8 1区71号ピット全景(北より)



1 1区1号旧石器調査坑土層断面A-A' (南より)



2 1区2号旧石器調査坑土層断面B-B' (西より)



3 1区3号旧石器調査坑土層断面C-C' (東より)



4 1区4号旧石器調査坑土層断面D-D' (北より)



5 1区5号旧石器調査坑土層断面E-E' (西より)



6 1区7号旧石器調査坑土層断面F-F' (西より)



7 1区8号旧石器調査坑土層断面G-G' (西より)



8 1区10号旧石器調査坑土層断面H-H' (西より)

中遺跡



1 1区11号旧石器調査坑土層断面 I-I' (西より)



2 1区12号旧石器調査坑土層断面 J-J' (南より)



3 1区7号旧石器調査坑調査風景(南西より)



4 1区11号旧石器調査坑調査風景(南より)



5 遺跡周辺にある経塚古墳(安中市)(南より)

1区1号竖穴建物



1区2号竖穴建物



中遺跡

1区3号竪穴建物



1



2



3



4



6



7



8



9



12



13



14



15



1区5号竖穴建物



1区3号竖穴建物出土遺物②・1区5号竖穴建物出土遺物①

中遺跡



4



5

1区1号方形周溝墓



1



4



5



6

3区1号溝



3



4

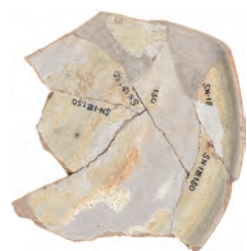
1区1号石列



3

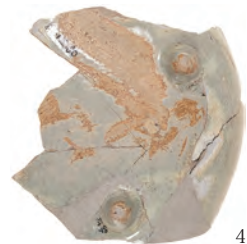


5



6

8



4



9



10



7



1



12

3区1号石列



1

1区21号土坑



1

1区36号土坑



1

1区52号土坑



1

中遺跡
遺構外



1



2



3



4



6



7



11



9



10



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



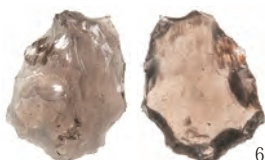
61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	みやくぼいせき・なかいせき
書名	宮久保遺跡・中遺跡
副書名	(一)安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	740
編著者名	齊田智彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240322
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	みやくぼいせき
遺跡名	宮久保遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあんなかしかみまにた
遺跡所在地	群馬県安中市上間仁田
市町村コード	10211
遺跡番号	456
北緯(世界測地系)	362916
東経(世界測地系)	1388922
調査期間	20200401-20200630/20220601-20230131
調査面積	8199.34
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/弥生/古墳/古代/近世
遺跡概要	集落-縄文-埋蔵1+遺物集中2-縄文土器+石器/古墳-竪穴建物1+土坑2+ピット24+焼土1-土師器/中近世-井戸1+溝11+焼土1+土坑46+ピット16-陶磁器
特記事項	地すべりしたローム下から、縄文時代早期から古墳時代中期の土器が出土した。
要約	本遺跡は、碓氷川と九十九川によって形成された河岸段丘の上位段丘に位置する。各調査区から地すべりや地割れなどが数多く確認された。特にF区の地すべりローム下からは縄文時代早期から後期および古墳時代中期の土器が大量に出土した。
遺跡名ふりがな	なかいせき
遺跡名	中遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあんなかしかみまにた
遺跡所在地	群馬県安中市上間仁田
市町村コード	10211
遺跡番号	438
北緯(世界測地系)	362938
東経(世界測地系)	1388933
調査機関	20220601-20230131
調査面積	4892.08
調査原因	道路建設
種別	集落/墳墓/生産
主な時代	縄文/弥生/古墳/古代/中世/近世
遺跡概要	集落-縄文-縄文土器+石器/集落-弥生-竪穴建物1-弥生土器/墳墓-古墳-方形周溝墓-土師器/集落-古墳-竪穴建物5-土師器/集落-古代-土坑4+溝5-須恵器+木製品/生産-古代-水田1/中近世-竪穴状遺構2+溝4+石列2+土坑90+ピット78-陶磁器+銭貨
特記事項	弥生時代から古墳時代前半と古墳時代後期の竪穴建物、古墳時代前期の方形周溝墓の調査。
要約	本遺跡は、碓氷川と九十九川によって形成された河岸段丘の上位段丘に位置する。古墳時代前期の方形周溝墓の調査例は市内でも数が少なく貴重である。また、弥生時代後期から古墳時代前半、古墳時代後期の竪穴建物が調査された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第740集

宮久保遺跡・中遺跡

(一) 安中富岡線(西毛広域幹線道路 安中富岡工区)
社会資本総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6(2024)年3月19日 印刷

令和6(2024)年3月22日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/第一印刷株式会社

